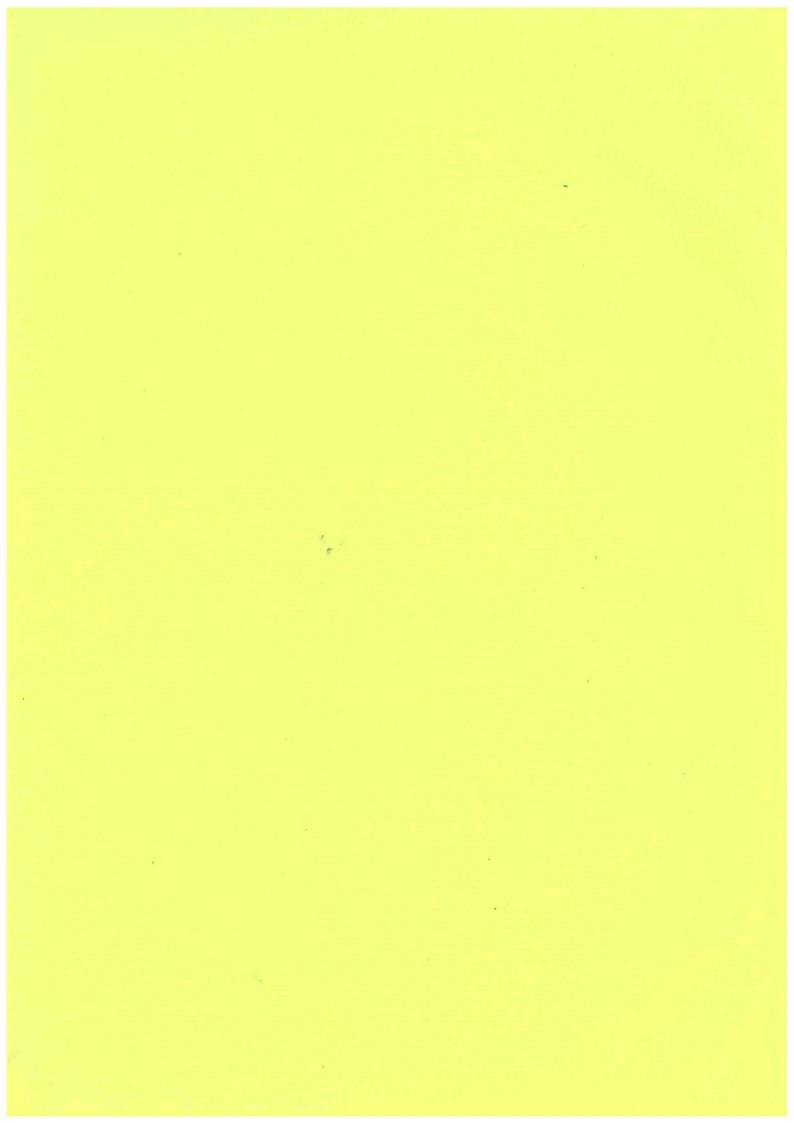
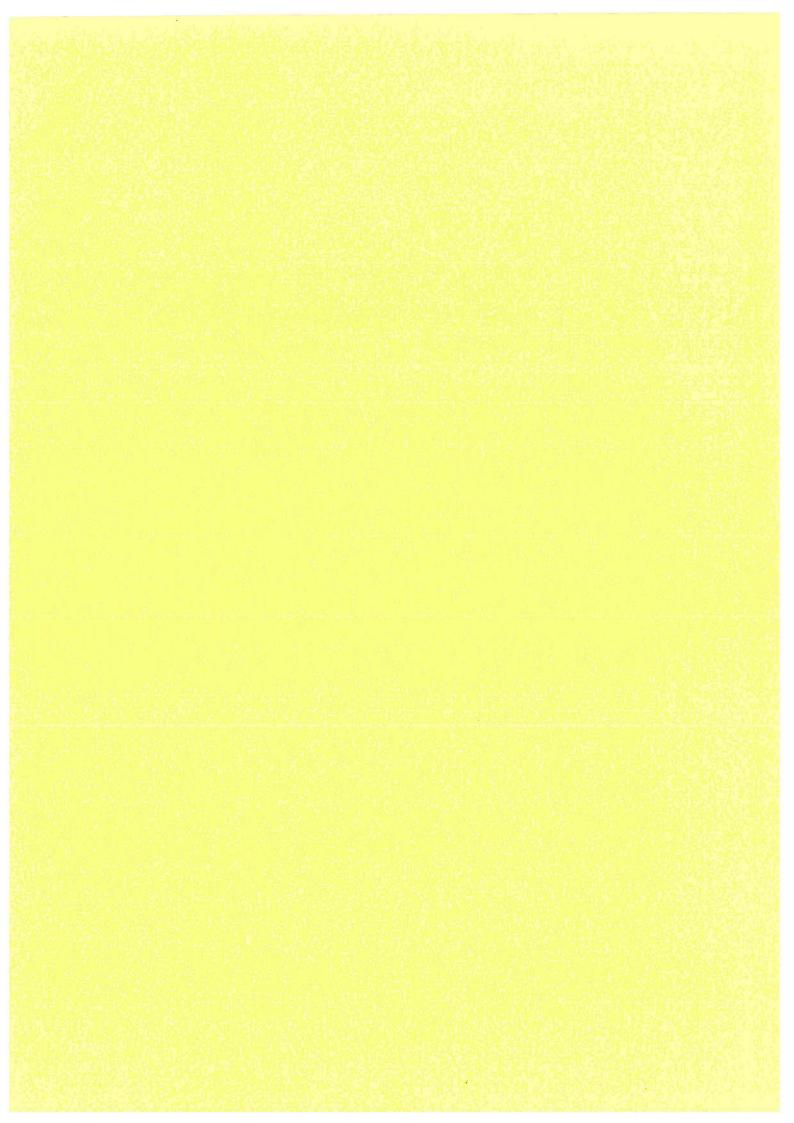
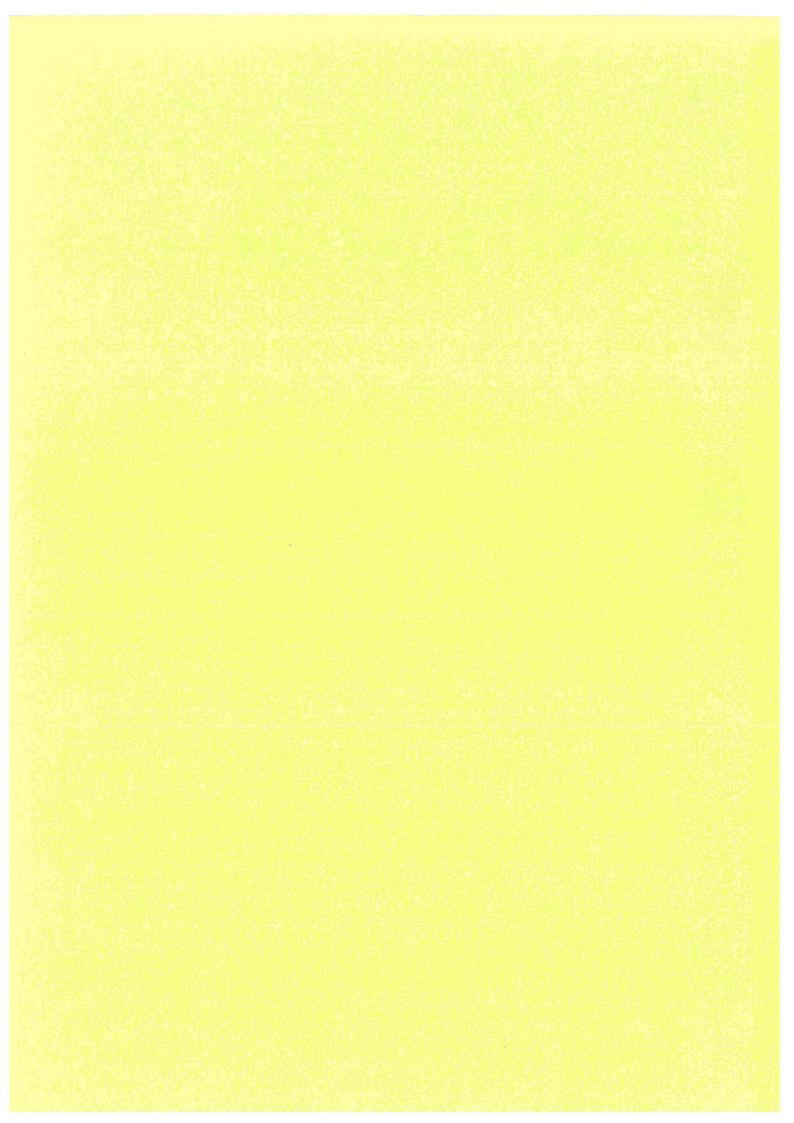
# 一陣長崎鼻遺跡

-平成19,21年度町内遺跡発掘調査等事業に伴う発掘調査報告書-

2011年3月 鹿児島県南種子町教育委員会







# 序文

一陣長崎鼻遺跡は、昭和31年に南種子町ではじめて本格的な発掘調査が行われた遺跡で、縄文時代晩期の貝塚です。発掘調査は、盛園尚孝先生(中種子町野間中学校教諭、当時)と地元の中学生・高校生によって行われました。調査中は、三友国五郎先生(鹿児島大学教授、当時)など著名な研究者が来跡されただけでなく、地元の多くの人々が関心をもち、遺跡を訪れています。

種子島の先史時代は、国重要文化財広田遺跡出土品などの多彩で豊富な貝製品が有名ですが、この一陣長崎鼻遺跡では、広田遺跡より1,000年近く古い貝製品が出土していて、種子島の貝文化を考える上でとても貴重な遺跡です。

また,この遺跡からは人骨が出土していて,広田人のルーツを探る上でも大変重要な遺跡です。

しかし、昭和31年の発掘調査以来、この遺跡が立地する砂丘の地形は激しく変化し、遺跡の正確な場所が分からなくなっていました。また、近年、種子島では温暖化に伴う海水面の上昇などによって、海岸砂丘が浸食される災害が多発していることから、遺跡が減失している可能性すらありました。

そこで、南種子町教育委員会ではこの遺跡の正確な場所と遺跡の範囲を把握することによって、この遺跡の保護を図ることを企て、平成19年度と平成21年度に発掘調査を行いました。

本報告書は、その発掘調査の記録をまとめたものです。南種子町教育委員会では、この成果を踏まえ、遺跡の保護と活用を図っていきたいと考えております。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたりご指導・ご協力をいただきました文化 庁、県文化財課、県埋蔵文化財センター、ご指導並びに玉稿を賜りました諸先生方、調査に ご協力いただきました地元の皆様をはじめとする関係各位に対しまして心よりお礼申し上げ ます。

平成23年3月

南種子町教育委員会教育長 岩屋 秀男

# 報告書抄録

ふりが:	ないち	じんな	こがさきば	ないせき					
書。	名  一陣士	一陣長崎鼻遺跡							
副書	名 平成	19, 2	1 年度町内	可遺跡発掘詞	周査等事業	<b>美に伴う発</b>	· 括調查報告	書	
巻 i	火 1								
シリーズ	名 南種	子町坦	<b>退蔵文化財</b>	発掘調査報	告書				
シリーズ番-	号 17								
編集者	名 石堂和	口博	松原信之						351-19
編集機	関 南種-	子町教	有委員会						
所 在 力	也 〒89	1-379	2 鹿児島	県熊毛郡南	f種子町中	之上 2793	3-1 Tel 09	97-26-1111	
発行年月	日 2011 3	年3月	31 日						
ふりがな	ふりが	な	コ	ード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	į	市町村	遺跡番号					
一陣長崎鼻遺跡	かごしまけんくま 鹿児島県県 南種子町 おおおき なかの 大字 はおりま 3784番地	ぜぐん 毛郡 た下	5020	81-5	130 度 55 分 54 秒	30 度 22 分 15 秒	20071205 ~ 20071219 20090714 ~ 20090812	266 m²	町内遺跡 発掘調査 等事業
所収遺跡名	種 別	主	な時代	主な注	貴構	主	な遺物	特記	事項
一陣長崎鼻遺跡	貝塚 墓地	縄文	時代晚期			黒川式土器,オオツ タノハ貝輪,イモガ イ珠,ノシガイ珠, ツノガイ珠,ハマグ リ製打製貝鏃,トド ロキガイ製垂飾品, サメ歯垂飾品,鹿骨 製かんざし,骨刀, 石器,骨角器,人骨, 獣骨,魚骨,貝類, 甲殻類		所在する貝 代晩期黒川 - , 貝製品, - 器が出土。 こ, 地元の - 切歯に水	
一陣長崎鼻遺跡は、種子島の南部、太平洋に面した砂丘上に所在する縄文時代晩期の 貝塚である。縄文時代晩期の遺跡で、黒川式の単純遺跡である。調査は、昭和31年度に 盛園尚孝が行い、平成19~21年度に南種子町教育委員会が行った。貝塚内からは、獣骨・ 魚骨・貝類などの自然遺物の他、貝製品や骨角器、石器が出土した。出土したオオツタ ノハ貝輪やサメ歯垂飾品、鹿骨製のかんざしなどの装身具からは、当時の装いのあり方									

要 約

一牌長崎鼻遺跡は、種子島の南部、太平洋に面した砂丘上に所任する縄又時代既期の 貝塚である。縄文時代晩期の遺跡で、黒川式の単純遺跡である。調査は、昭和31年度に 盛園尚孝が行い、平成19~21年度に南種子町教育委員会が行った。貝塚内からは、獣骨・ 魚骨・貝類などの自然遺物の他、貝製品や骨角器、石器が出土した。出土したオオツタ ノハ貝輪やサメ歯垂飾品、鹿骨製のかんざしなどの装身具からは、当時の装いのあり方 を知ることができる。また、類例が少ないハマグリ製の打製貝鏃が出土した。ほかにも、 昭和31年度の調査の際にであるが、黒川式期の壺の口縁部とみられる資料が出土してい る。なお、本遺跡における年代測定としては、出土した黒川式の深鉢の口縁部に付着し ていた土器付着炭化物と、包含層内の炭化物及び包含層内出土の貝類について、『C年代 測定を実施している。

また,この遺跡では、昭和31年に地元の方が、下顎中切歯に水平研磨が施された人骨を採集している。平成21年の調査でも、人の頭蓋骨片が出土した。種子島で、縄文期の人骨が出土したのは、この遺跡だけである。

# 例 言

- 1. 本報告書は, 南種子町教育委員会が国庫補助事業として平成19,21年度に実施した町 内遺跡発掘調査等事業(一陣長崎鼻遺跡)の成果をまとめたものである。
- 2. 発掘調査は、平成19,21年度に確認調査を実施した。また、平成20年度には、鹿児島 女子短期大学竹中正巳教授と南種子町との共同で試掘調査を実施した。
- 3. 本報告書に収録する発掘調査に関する遺物・発掘調査記録は、南種子町教育委員会で保管している。
- 4. 本書が用いる測量座標は平面直角座標Ⅱ系である。標高は海抜高である。
- 5. 挿図の縮尺は各図ごとに示してある。
- 6. 遺物番号は、本文及び挿図・図版番号と一致する。
- 7. 発掘調査における写真撮影は、石堂和博・小脇有希乃が行い、実測・測量は、主として石堂・小脇・山野ケン陽次郎(熊本大学大学院、当時)・有留秀樹(國学院大学3回生、当時)で行った。整理作業は、主として松原信之・石堂・小脇・峰山いづみ・山野・有留・西園六代・森真智子で行った。土器の実測・トレースは、松原・峰山・石堂・西園で行い、石器の実測・トレースは松原が行った。貝骨角牙製品の実測・トレースは、石堂・松原・峰山で行った。遺物撮影については、鹿児島県立埋蔵文化財センター内写場において、吉岡康弘(鹿児島県立埋蔵文化財センター)の指導のもと、松原が行った。
- 8. 本報告書の執筆分担については、以下のとおりである。

第 I 章 石堂和博

第Ⅱ章 松原信之

第Ⅲ章 第1節 石堂和博 第2節 石堂和博 第3節 土器・石器 松原信之 貝骨角 牙製品 石堂和博

第IV章 第1·2 節 (構加速器分析研究所 第3節 パリノ・サーヴェイ株式会社 第4節 九州大学教授 中橋孝博 第5節 鹿児島女子短期大学教授 竹中正巳 第6節 千葉県立中央博物館主任学芸員 黒住耐二 第7節 早稲田大学講師 樋泉岳二 第8節 千葉 県立中央博物館主任学芸員 加藤久佳

第V章 第1節 石堂和博 第2節 石堂和博·松原信之

9. 本報告書の編集は、石堂・松原が行った。

		目 次	第6節	一陣長崎鼻遺跡出土の貝類遺体
				黒住耐二61
表	紙		第7節	一陣長崎鼻遺跡から採集された脊椎
序	文			動物遺体 樋泉岳二74
報告	書抄	録	第8節	一陣長崎鼻遺跡出土の十脚甲殻類遺体
例	言			加藤久佳96
目	次			
			第Ⅴ章	総括99
第 I	章	調査の経過(石堂和博) 3	第1節	出土土器について(石堂) 99
第 1	節	調査の経緯3	第2節	総括(石堂・松原)100
第 2	節	調査の組織3	挿図目グ	ζ
第3	節	発掘・整理作業の経過 4	第1図	一陣長崎鼻遺跡位置図6
1.	発掘	調査の経過 4	第2図	一陣長崎鼻遺跡調査地点位置図10
2.	整理	作業の経過 4	第3図	昭和31年度調査トレンチ位置図10
			第4図	昭和 31 年度,平成 19,21 年度調査トレン
第Ⅱ	章	遺跡の位置と環境(松原信之) 5		チ位置図17
第1	節	自然環境 5	第5図	平成19年度調査トレンチ配置図17
第 2	節	歴史的環境 5	第6図	平成19年度6トレンチ土層断面図及び遺
				物出土状況図18
第Ⅲ	章	発掘調査の成果 8	第7図	平成21年度第1調査区トレンチ配置図及
第 1	節	昭和31年の調査成果(石堂) 8		び土層断面図19
1.	調査	の内容 8	第8図	平成21年度第1調査区自然遺物出土状況
2.	層位	····· 9		図20
3.	調査	日誌11	第9図	平成21年度第1調查区遺物出土状況図
第 2	節	平成19~21年度の調査成果 … (石堂) 14		21
1.	調査	の内容14	第10図	平成21年度第1調査区 h-1 区出土状況図
2.	層位	15		22
第3	節	出土遺物(松原・石堂)23	第11図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(1)26
			第12図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(2)27
第IV	章	自然科学分析	第13図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(3)28
第 1	節	炭化物の放射性炭素年代 (株)加速器分析	第14図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(4)29
		研究所45	第15図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(5)30
第 2	節	一陣長崎鼻遺跡から出土した炭化材の樹	第16図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(6)31
		種 (株)加速器分析研究所 … 47	第17図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(7)32
第3	節	一陣長崎鼻遺跡出土貝類の放射性炭素年	第18図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(8)33
		代 パリノ・サーヴェイ株式会社48	第19図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(9)34
第 4	節	鹿児島県種子島・一陣長崎鼻遺跡出土の	第20図	一陣長崎鼻遺跡出土土器(10)35
		縄文時代晩期人骨 中橋孝博50	第21図	一陣長崎鼻遺跡出土石器(1)36
第5	節	種子島一陣長崎鼻遺跡出土の人骨	第22図	一陣長崎鼻遺跡出土石器(2)37
		- 2009 年出土人骨- 竹中正巳60	第23図	一陣長崎鼻遺跡出土貝製品(1)38

第24図	一陣長崎鼻遺跡出土貝製品(2)39		6 竹中正巳教授と鐘ヶ江賢二氏
第25図	一陣長崎鼻遺跡出土骨角牙製品40		7 B地点のデューンロック
		PL. 11	平成21年度調査112
表目次			1 調査区全景(南西より撮影)
第1表	遺物観察表 ······41		2 イノシシ下顎骨出土状況
		PL. 12	平成21年度調査113
写真図	版目次		1 調査区近景
PL. 1	一陣長崎鼻遺跡出土貝骨角牙製品		2 i-2区自然遺物の出土状況
	102	PL. 13	平成21年度調査114
PL. 2	一陣長崎鼻遺跡出土土器103		1 g-1区~h-1区オオツタノハ貝輪等出
PL. 3	1 一陣長崎鼻遺跡出土装身具104		土状況
	2 一陣長崎鼻遺跡遠景		2 h-1 区黒川式(図番 11) 出土状況
PL. 4	1 平成21年度調査風景105	PL. 14	平成21年度調査115
	2 平成19年度調査6トレンチ土層断面		1 j区オオツタノハ貝輪出土状況
	3 平成21年度調査 j 区土層断面		2 黒川式(図番 13)出土状況
PL. 5	昭和31年度調査106		3 調査風景
	1 一陣長崎鼻遺跡遠景		4 人骨出土状況
	2 発掘風景		5 調査風景
PL. 6	昭和31年度調査107		6 北側壁面土層断面
	1 発掘調査風景 (海側より撮影)	PL. 15	調査参加者116
	2 発掘調査風景(北東より撮影)	PL. 16	普及啓発活動(講演等)117
	3 獣骨・魚骨出土状況	PL. 17	出土土器 (1)118
	4 露出した人骨(広田遺跡か)	PL. 18	出土土器 (2)119
PL. 7	平成19年度調査108	PL. 19	出土土器 (3)120
	1 発掘調査地点遠景	PL. 20	出土土器 (4)121
	2 6トレンチ全景(北より撮影)	PL. 21	出土土器 (5)122
PL. 8	平成19年度調査109	PL. 22	出土土器 (6)123
	1 6トレンチ土層断面及び遺物出土状況	PL. 23	出土土器 (7)124
	2 7トレンチ土層断面	PL. 24	出土土器 (8)125
	3 6トレンチ調査風景	PL. 25	出土土器 (9)・骨刀126
	4 6トレンチ獣骨・貝類出土状況	PL. 26	出土土器(10)127
PL. 9	平成19年度調査110	PL. 27	出土石器128
	1 5トレンチ土層断面	PL. 28	出土貝製品129
	2 3トレンチ土層断面	PL. 29	出土貝骨角牙製品(表)130
PL. 10	平成20年度調査111	PL. 30	出土貝骨角牙製品(裏)131
	1 A 地点遠景		
	2 A 地点包含層検出状況		
	3 A 地点測量状況		
	4 B 地点遠景		
	5 B 地点調査風景		

# 第1章 調査の経過

# 第1節 調査の経緯

一陣長崎鼻遺跡は,種子島の南部,太平洋に面した海岸砂丘にある貝塚で,昭和29年に発見され,昭和31年に盛園尚孝氏(中種子町野間中学校教諭,当時)によって発掘調査がなされた。

その調査では、獣骨・魚骨・貝類などの自然 遺物と黒川式土器や骨製品・貝製品及び人骨が 出土した。その後、この遺跡は本町の歴史を物 語る貴重な文化財として、町の選定文化財に選 定されている。

種子島では、近年、温暖化による海水面の上昇などによって海岸砂丘が浸食される事例が増えている。また、昭和31年以降の海岸砂丘地形の急変で遺跡の正確な位置が分からなくなっていた。そこで、南種子町教育委員会では、この遺跡の位置を確かめるために平成19年12月に試掘調査を行った。

調査の結果,6トレンチと7トレンチにおいて, 現地表面から1.3 mほど下位の混貝砂層から, 粗製の黒川式土器と獣骨・魚骨・貝類を検出し, 遺跡が現地に残存することがわかった。

平成20年度には、鹿児島女子短期大学教授竹

中正巳氏とともに、重機による試掘調査を行った。 調査地点は、平成19年度調査地点から、海側に約10m行ったA地点と、平成19年度調査地点から北東に約500m行った、過去に地元住民が人骨の露出を確認したとされるB地点の2地点である。

調査の結果、A 地点では貝塚層が確認されたが、B 地点では遺構・遺物ともに確認されなかった。

平成21年度には、遺跡の範囲・内容を確認するための調査を実施した。まず、平成20年度の調査で貝塚層が確認された地点より、更に海側に行った地点の発掘調査を実施し、遺跡の端をとらえるとともに、昭和30年代の調査成果を補完することで遺跡の内容を明らかにした。

平成22年度には、それまでの発掘調査の成果

の整理作業を行い, 本報告書にまとめた。

# 第2節 調査の組織

調査主体 南種子町教育委員会

調查責任者 南種子町教育委員会教育長

竹迫種俊 (2007-2008 年度)

岩屋秀男 (2009-2010 年度)

事務担当 南種子町教育委員会社会教育課

課長兼文化係長上山幸夫(2007年度)

同上 坂口浩一 (2008-2009年度)

課長補佐兼文化係長

濱田広文 (2010年度)

文化係主查·学芸員石堂和博

文化係主查·学芸員小脇有希乃

(旧姓徳田)

文化係 折田日出代

調查担当者 文化係主查·学芸員石堂和博

文化係主査・学芸員小脇有希乃

整理担当者 文化係主査・学芸員石堂和博

整理調查員 松原信之

協力機関 鹿児島県教育委員会

鹿児島県立埋蔵文化財センター

調查·整理指導

鹿児島県教育委員会文化財課

川口雅之

熊本大学教授 木下尚子

鹿児島女子短期大学教授

竹中正巳

千葉県立中央博物館主任学芸員

黒住耐二

早稲田大学非常勤講師

樋泉岳二

九州大学教授 中橋孝博

なお,発掘調査・整理作業において下記の方々 にご教示・ご助言をいただいた。記して謝意を 表します。(順不同・敬称略)

黒川忠広,鮫島安豊,橋口尚武,下野敏見,東和幸,佐古和枝,松田度,河森一浩,中村直子,新里貴之,上村俊雄,橋本達也,中山清美,鐘ヶ江賢二,忍澤成視,米田譲,西野雅人,土肥直

美,堂込秀人,中村耕治,青崎和憲,水ノ江和同, 松田順一郎,砂田光紀,片桐千亜紀,浜中邦弘, 池畑耕一

# 第3節 発掘・整理作業の経過

# 1. 発掘調査の経過

発掘調査に従事したものは以下である。なお、 調査の経過については、調査日誌抄で記したい。 平成19年度

発掘作業従事者:國学院大学学生有留秀樹,柳田弘,福島清,小川善男

平成 20 年度

南種子町と鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏 と共同で試掘調査を行った。

平成 21 年度

発掘作業従事者:熊本大学大学院生山野ケン陽 次郎,柳田弘,福島清,土屋覚,西園六代,佐々 木ふさ子,立石ときえ,行廣保成

# 調査日誌抄

平成 19 年度

12月5日~7日

調査区設定。重機を使った表土剥ぎ。

12月7日~19日

重機を使い排土処理をしながらの調査。貝塚層を確認し、遺跡が残存していることがわかる。

平成20年度

8月18日~19日

石堂と作業員で、国土地理院三等三角点(水溜, 竹崎,郡川)を用いて発掘調査用の基準点を設 定する。調査地点(A地点,B地点)を設定する。 8月25日~30日

竹中正巳氏, 鹿児島国際大学講師鐘ヶ江賢二氏 現場入り。重機による試掘調査実施。A 地点で は貝塚層を確認。B 地点では確認できず。30 日, 竹中・鐘ヶ江氏帰る。

平成 21 年度

7月14日(火)~17日(金)

測量基準点の設定。重機による表土剥ぎ及び排 土処理。発掘区の設定。

7月21日(火)~24日(金)

7月22日,南西諸島一帯は、皆既日食。あいに くの曇天のため、皆既日食は、ほとんど確認で きず。調査を行う。鮫島安豊氏等来跡。

7月27日(月)~31日(金)

25-26 日の週末に強い雨が降ったため、トレンチ内に砂が流入。その除去作業に時間がかかる。

28-31 日竹中正巳氏指導。

29-31 日千葉県立中央博物館主任学芸員黒住 耐二氏,早稲田大学非常勤講師樋泉岳二氏指導。 29-30 日鹿児島県文化財課川口雅之氏指導。 この間,地元在住寺内昭徳氏夫婦,長田睦朗氏, 小笠原氏など多数の町民の方々が来跡。

8月3(月)~12日(水)

10-11 日熊本大学教授木下尚子氏指導。 12 日, 重機による埋め戻し実施。

#### 2. 整理作業の経過

各調査年度にも整理作業は行ったが、報告書刊行に向けた本格的な整理作業は、平成22年度に行った。

整理作業従事者:松原信之,峰山いづみ,山野 ケン陽次郎,有留秀樹,西園六代,森真智子, 豊島ますみ

# 第Ⅱ章 遺跡の位置と環境

# 第1節 自然環境

一陣長崎鼻遺跡は,種子島の南部に位置する 南種子町の大字中之下字一陣に所在する。種子 島は大隅半島最南端の佐多岬から南東約 40km の 洋上にあり,面積 447.09km²,南北 52km,東西 12km の細長い島である。最高海抜は 282.3mで, 山地がなく,島全体に海岸段丘と海岸砂丘が発 達した比較的平坦な島である(南種子町郷土誌 編纂委員会 1987)。

島には、この島の南東を通る暖かい黒潮の本流の影響を受け、東海岸にメヒルギ群落のマングローブやサンゴ礁が点在する。メヒルギ群落のマングローブは種子島が自然植生の北限の分布と言われ(目崎 2003)、また、サンゴ礁についても北限とされる(中井 1990)。その他、ガジュマルやツキイゲなど、種子島を分布の北限とする植物が多いことから、亜熱帯性自然の北縁の島という見方もある。

地質構造は、東西方向に走る断層によって北部、中部、南部の三区域に大きく分けられ、それぞれの区域において太平洋側と東シナ海側では景観が異なる。本遺跡の所在する種子島南部では、東シナ海側では海岸段丘がよく発達し平坦な台地を形成している。しかしながら、太平洋側では海岸段丘は見られず、河川による開析を受けた沖積平野が広がる。

一陣長崎鼻遺跡は、種子島南部、太平洋側の海岸砂丘上に立地する。遺跡の周辺には、デューンロックやグンバイヒルガオ群落などの砂丘植物が繁茂し、宝満の池とよばれる海跡湖があり、聞語川が緩やかに海岸砂丘を回りこむ形で流れている。この聞語川が砂丘によって遮られているため、海岸と反対側の背後に後背湿地が形成されていて、広田遺跡の立地と似ている。よって、甲元が広田遺跡の立地に対して行った「凹字型に取り囲む丘陵、後背湿地、砂丘、小川、遠浅の沿岸の組み合わせが一つの生態環境を形成している(甲元 2003)」という理解は、一陣長崎

鼻遺跡の立地・自然環境を理解する上でも参考 となる。

#### 第2節 歷史的環境

種子島は、琉球列島の北端に位置する。琉球列島は、九州島と台湾のあいだ、おおよそ800kmに及ぶ洋上に連なる島々の総称である。琉球列島の気候は、南から流れてくる黒潮の影響などから、一年中高温多湿な亜熱帯性気候である。島々の周りにはサンゴ礁が発達し、形成された礁湖(イノー)には多くの魚や貝などが生息する。その気候と豊かな海により、琉球列島には本土とは色彩の異なる文化が生まれた。その文化は、考古学の視点から以下の3つに大きく分けられる。(国分1972)

- 1. 北部圏:大隅諸島(種子島・屋久島)・トカラ列島。
- 2. 中部圈: 奄美諸島·沖縄諸島。
- 3. 南部圏: 宮古・八重山諸島。

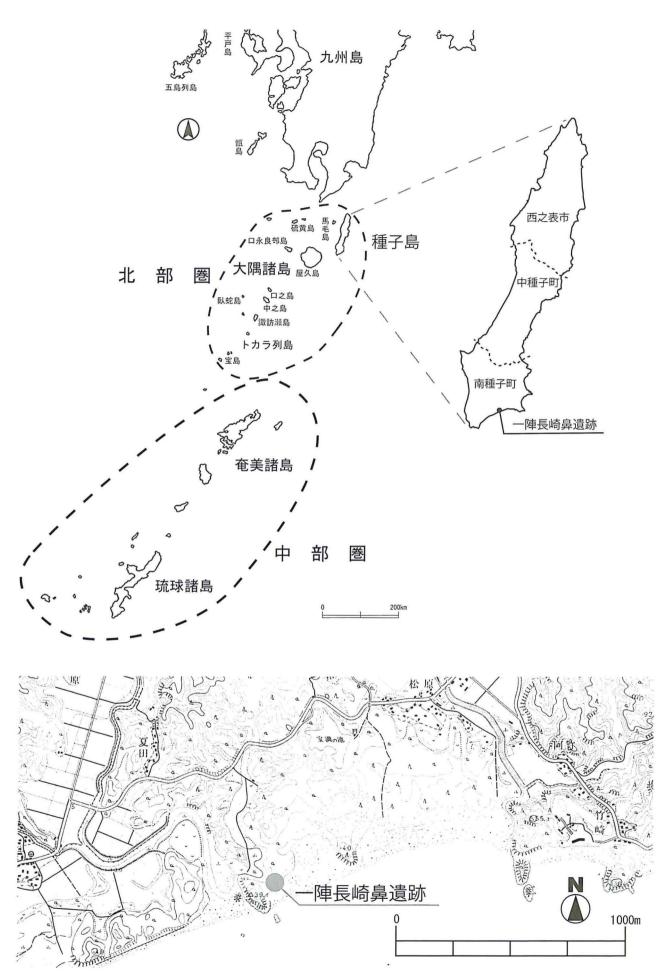
北部圏は九州島に一番近く,南九州の縄文・弥生の影響を強く受けている地域であり,中部 圏は,南九州の影響を受けつつも独自性の強い 文化が生まれた地域である。また,南部圏は, 九州島や中部圏の影響がほとんど及ばずに,台 湾・フィリピンなどの南方文化の影響が強い地 域である。

また、日本本土の文化を「中の文化」とみなし、中部圏に見られる独自性の強い文化を「南の文化」とみなして、その両文化の境界にある北部圏は「ボカシ」の地帯と理解することで、「中の文化」と「南の文化」の境界が揺れ動く地域、または、二つの異なる文化をつなぐ役割をしていた地域とする考えもある(藤本 2009)。

以下、その北部圏に属する種子島の遺跡を時 代ごとに記述したい。

# 旧石器時代

種子島で初めて旧石器時代の遺跡が確認されたのは、1992年の南種子町横峯 C 遺跡の発掘によってであり、AT 火山灰、種Ⅳ火山灰、種Ⅲ火山灰等の鍵となる火山灰に挟まれた文化層から



第1図 一陣長崎鼻遺跡位置図

後期旧石器時代初頭の礫群をはじめ、敲石などの石器が見つかっている。他に後期旧石器時代の初頭の遺跡としては、中種子町立切遺跡で局部磨製石斧が出土しているほか、中種子町大津保畑遺跡では、種IV火山灰(約30,000年前)層下位で落とし穴遺構が確認されている。

細石器文化の遺構は、1996年に鮫島安豊氏らにより細石核が西之表市湊遺跡で表採され、その存在が確認された。その後、西之表市大中峯遺跡・中種子町三角山 I 遺跡・南種子町銭亀遺跡などでも船野型とされる細石核が確認されている。また、横峯 G 遺跡では畑の土手より AT 火山灰層下位とみられる位置から礫群の一部が露出しているという。この礫群が、旧石器時代のものであるならば、横峯 G 遺跡は、横峯 C 遺跡の立地する台地の裾野にあることから、この台地に広く旧石器時代の遺跡が存在する可能性があるといえる。

#### 縄文時代

草創期の遺跡は隆帯文土器が表採された横峯 C 遺跡・横峯 D 遺跡がある。また,西之表市奥ノ仁田遺跡・鬼ヶ野遺跡・中種子町三角山遺跡などでも隆帯文土器が出土していて,中でも三角山遺跡では13個体以上のほぼ完形の隆帯文土器や草創期の住居址が確認されており,種子島における縄文時代草創期の様相を知る上で注目される遺跡である。

早期の遺跡としては、岩本式土器が出土した 上平遺跡や、吉田式土器が出土した長谷遺跡、 昭和62年に発掘調査を行い塞ノ神式土器の出土 した小牧遺跡、平成7年に発掘調査がなされ塞 ノ神式土器や磨製石鏃が出土した石ノ峯遺跡、 平成14年に苦浜式土器などが表採された枯木野 隅遺跡などが知られる。また、押型文土器は、 西之表市国上久保田遺跡でアカホヤ火山灰層の 下層とみられる位置から崖面採集されている。

前期の遺跡では、昭和62年に発掘調査をした 平六間伏遺跡、赤石牟田遺跡、轟式土器や西唐 津式土器の出土した上平遺跡などがある。

中期の遺跡は、西之表市下剥峯遺跡や中種子

町宮田遺跡がある。

後期の遺跡としては、茶木久保遺跡、田尾遺跡、市来式土器・丸尾式土器の出土した松原遺跡、大規模な配石遺構で知られる藤平小田遺跡などがある。また、西之表市大花里一ノ鳥居貝塚は、指宿式土器を主体とする後期の土器が表採され、磨消縄文土器が確認されており注目される。また、この時期の大隅諸島の特徴的な土器様式として、一湊式土器がある。南種子町には一湊式土器の単純遺跡である野大野 A 遺跡があり、一湊式土器を持つ集団の特徴を知るうえで重要である。

晩期の遺跡としては、黒川式土器や人骨、貝製品などが出土した一陣長崎鼻遺跡や松原遺跡などがある。中種子町大園遺跡は、縄文時代晩期の黒川式土器を主体とするが、丹塗りの研磨土器で大洞C2式土器の特徴を残すものが1点確認されており、注目される。

#### 弥生時代~古墳時代併行期

平山の広田海岸に面する砂丘に立地する埋葬 遺跡の国史跡広田遺跡が著名である。広田遺跡 には、150体以上の人骨が3層にわたり異なっ た風習で埋葬され、南海産の貝等を利用した夥 しい数の貝製装身具が出土している。その他の 遺跡としては、本村塚の峯遺跡、本村丸田遺跡、 浜田嵐遺跡がある。

#### 歴史時代

平安時代の掘立柱建物跡の検出された本村丸 田遺跡が知られている。中世の遺跡としては, 藤平小田遺跡や中世の山城とされる上妻城址が 知られている。

(引用文献)

甲元真之 2003 「考古学環境」『種子島 広田遺跡』広田遺跡学術調査研究会ほか

国分直-1972 『南島先史時代の研究』慶友社

中井達郎 1990 「北限地域のサンゴ礁」 『熱い自然 サンゴ 礁の環境誌』古今書院

目崎茂和 2003 「地理的環境」『種子島 広田遺跡』広田遺 跡学術調査研究会ほか

藤本強 1988 『もう二つの日本文化』 東京大学出版 南種子町郷土誌編纂委員会 1987 『南種子町郷土誌』

# 第Ⅲ章 発掘調査の成果

# 第1節 昭和31年の調査成果

# 1. 調査の内容

一陣長崎鼻遺跡は,南種子町大字中之下字一 陣に所在する縄文時代晩期の貝塚遺跡で,太平 洋に面した海岸砂丘に立地する。

この遺跡の本格的な発掘調査は、昭和31年に 盛園尚孝によって行われ、続いて平成19~21 年に南種子町教育委員会により行われている。 第Ⅲ章では、これら発掘調査の成果を報告する。

まず,第1節では,昭和31年の調査成果について,当時の調査日誌やこれまで盛園によって報告された論文等に依って,石堂が盛園の指導のもと,記述する。つづいて第2節で,平成19~21年度の調査成果をまとめ,第3節で,昭和31年と平成19~21年度の出土遺物についてまとめて報告したい。

さて、まずは、昭和31年に調査を行うに至った経緯について記述したい。

この遺跡は、地元の人々には古くから知られた遺跡であった。最初の考古学的な分布調査は、昭和29年1月19日に地元の茎永集落に住む川添憲枝氏が、自身が発掘した出土品を、当時茎永駐在所の花木警官に報告したことが契機となり、昭和29年2月に、盛園によって行われた。

昭和29年8月には,盛園・三友国五郎氏によって試掘調査がなされ,縄文時代晩期黒川式期の 貝塚であることが判明した。

その後,国史跡広田遺跡発見の契機にもなった,昭和30年9月の台風22号によって,この遺跡も波浪により一部が破壊され,昭和31年3月25日に,露出している人骨を,川添氏が採集した。

盛園は、昭和31年4月14日に川添氏の案内のもと現地に行き、人骨の出土地点が、概ね第3図に示した位置であることを確認している。また、出土状況については「(人骨は)、地表より1.5メートル位の深さのところから出土した

らしい。(注 1)」「手は前でくみ,あしを曲げて埋まっていたということから,恐らく屈葬であることは間違いないと思う。(注 2)」と報告している。また,成人男性で上顎左側中切歯に人為的抜歯が認められ,かつ下顎左側中切歯に,人為的な水平研磨が認められることが指摘された(注 3)。この人骨は,現在,九州大学に保管されているが,詳細については,第 $\mathbb{N}$ 章第4節を参照されたい。

本格的な発掘調査は、昭和31年7月26日から、 8月6日まで行われた。調査は、地元の南種子 高校1年の立石公氏、向井晃氏、崎田宏氏、2 年の岩坪澄人氏、野沢慎一氏、谷口隆利氏、野 間中学校生徒の山照幸氏、日高安夫氏、鎌田隆 信氏、鎌田直邦氏、南種子高校の榎本先生、そ して黒木先生、川崎先生、後迫一郎氏、岩坪香 氏などが参加している。また、調査中、三友国 五郎氏が来跡、指導されている。

調査区は、台風 22 号の波浪によってできた波 食崖にそって設定された(第 3 図)。まず、A、B, C 区を、 $3m \times 2m$  幅で設定し、続いて、海側(南側)に向かって区割を拡張し、D 区と命名したが、このD 区設定個所の海側半分は、波浪によるかく乱をうけていたことから、区割の幅を $3m \times 1.5m$  とした。つづいて、C 区に隣接してE 区( $3m \times 2m$ )を設定。その後、陸側に調査区を延長し、F 区( $3m \times 3m$ )、G 区( $3m \times 3m$ )を設定した。

F区、G区においては、表層に、デューンロック (調査日誌では、岩盤と呼称)が発達していたため、その除去作業も行っている。いずれの区においても、貝塚が確認されているので、貝塚の範囲は調査区外まで広がることがわかる。

また,人骨が採集された地点周辺の発掘調査 は行っていないので,墓域についての調査は行 われていない。

注1)盛園尚孝 1956「人骨を出土せる長崎鼻(南種子村中之下)遺跡について」『ちくら』第12号 ちくら編集部

注 2) 盛園尚孝 1968「種子島における古代の埋葬(その一)」『種子島民俗』第 18 号 種子島科学同好会

注3) 金関丈夫 1958 「種子島長崎鼻遺跡出土人骨に見られる下顎中切歯の水平研磨例」『九州考古学』 第3・4号 九州考古学会

# 2. 層位

昭和31年度の発掘調査における土層については、土層断面図がないため、調査日誌と写真及びこれまでに報告された内容をもとに報告する。ここでは、海側に設定されたA~E区と、より陸側に設定されたF、G区に分けて、層位の説明を行いたい。

なお、昭和 31 年度調査における土層は、砂丘表面から  $0.5m \sim 1.5m$  の厚さで表層があり、その下部に、 $0.4m \sim 0.7m$  の厚さでほぼ水平な混土貝層(包含層、 $1 \sim 4$  層)があり、その下位には無遺物層である新鮮砂層 (5 層)へと続く(注1)とされる。

#### A~E区における土層

 $1 \sim 4$  層が,縄文時代晩期の包含層で,貝層ないしは,混土貝層(黒色土層)である。1 層から 4 層までを合わせた層厚は,A 区で約 50 cm である。

表層:表層の砂層

1層:**縄文時代晩期の遺物包含層**。A 区では, 約 10cm である。

2層:縄文時代晩期の遺物包含層。A区では、 2層の下部より3層の中ほどまで土砂 が混ざった硬い層となり、その中には、 貝・獣骨・炭化物が特に多く含まれる。 B・C区で2層から3層にかけて混土層 で灰が集中する所が確認されている。

3層: 縄文時代晩期の遺物包含層。 焼かれた 獣骨が多い。

4層:縄文時代晩期の遺物包含層。

5層:無遺物層

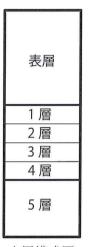
# F, G区における土層

表層:より陸側に設定されたF, G 区は,表土

としてデューンロックの岩盤で覆われていて、それを掘削・除去して発掘をはじめている。

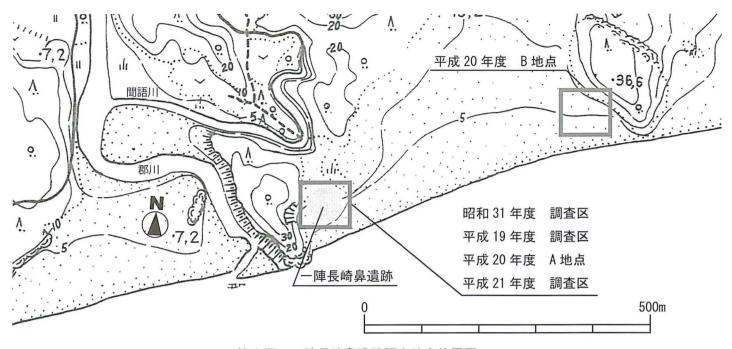
1~4層:**縄文時代晩期の包含層**。この区でも包含層より遺物が多く出土している。よって、この包含層は、より陸側まで広がることがわかる。

5層:無遺物層

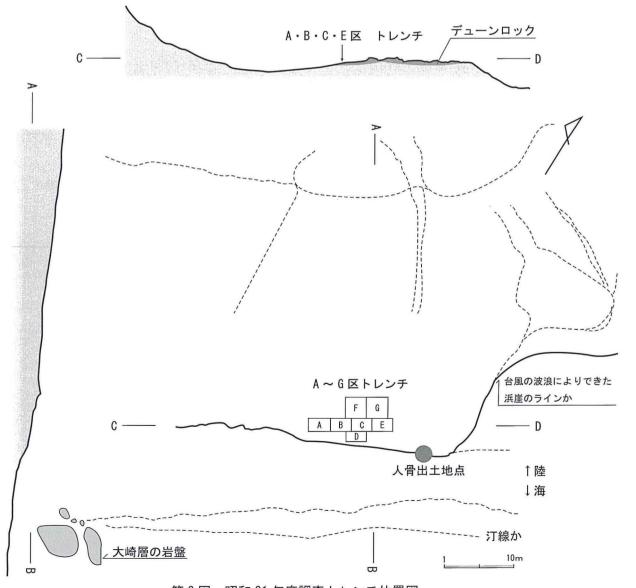


土層模式図

注 1) 盛園尚孝 1987 「南種子町の遺跡 中之下一 陣貝塚」『南種子町郷土誌』南種子町郷土誌編纂委員 会



第2図 一陣長崎鼻遺跡調査地点位置図



第3図 昭和31年度調査トレンチ位置図

#### 3. 調査日誌

昭和31年の調査の詳細については、当時の調査日誌を以下に引用することで、報告としたい。

#### 昭和 29 年 1 月 19 日

茎永集落在住の川添憲枝氏発見(花木氏に連絡),朝日新聞種子島通信局に連絡。

# 昭和 29 年 2 月 1 日

朝日新聞種子島通信局の依頼にて調査。種子 島高校の山城守也氏,駐在花木氏同伴。種子島 署田中氏。川添氏の発見した遺物は茎永駐在所 花木氏のところに保管されていた。

採集品は,甕形土器,土器口縁部破片(口縁部に炭素粒付着),土器底部(揚げ底),磨製石斧(石材:変成岩),獣骨,鹿の歯,猪の歯牙(イノシシの牙),雑骨,クジラの頚骨1他,海亀の上下顎骨,魚骨。

現地調査の同伴者は、山城、川添、花木、田中氏。砂丘地の遺跡で台風の為に遺物が表面散布。砂層中に貝層(0.4~0.7m)混土貝層(黒色土層)を含む。土器破片(甕形破片、刷毛状あり、厚手)、海亀上下顎、クジラ頚骨1、貝殻多数。

# 昭和31年4月14日

3月25日に川添氏が人骨発見。26日に(川添 氏が)花木氏へ連絡。22号台風にて遺跡が破壊 され,其の際,露出せる所の人骨を川添氏が保管。 場所は,中ノ下一陣3785。現在南種子村の雑種 地である。

この時の調査では、他に、松原の下松原「射馬」と呼ばれる場所の梶原友心氏の自宅の井戸掘りの時出土した皿型土器 1、石皿(梶原氏が保管していた)と、茎永平梨で採集された硬玉製玉1を確認。

#### 昭和 31 年 7 月 24 日

中種子町野間を 4 時 40 分に発つ。南種子村委 員会(以下,委員会)の岩坪香氏に連絡。南荘 にて 1 泊。

# 7月25日 快晴

朝9時に上中(南荘)を出発。宿舎を設定。 委員会よりの電話連絡。

#### 調查参加者

南種子高校 1年 立石公(西海出身)

1年 向井晃(平山出身) 28 日まで

1年 崎田宏(平山出身) 28 日まで

2年 岩坪澄人(上中出身)

2年 野沢慎一(長谷出身)

2年 谷口隆利(長谷出身)

野間中学校

山照幸

日高安夫

鎌田隆信

鎌田直邦

その他に、後迫一郎などが参加。

#### 7月26日 快晴

全員参加。岩坪香氏午前参加。宿舎を8時半 出発。現場で9時半にテント張り。A区(3×2mのトレンチ)を設定。A区の層位は以下である。 表層の砂層

#### 第1層

第2層 牙器 (イノシシ製) が-20 cmのレベル より出土。2層の下部より3層の中程 まで土砂が混じった硬い層がはいって いる。特にその中には貝, 獣骨片多い。 炭化物も多し。

第3層 3層の獣骨には焼いたもの多し。

+ 5		
± 0 —	ハマグリ, メンガイ類, ヒバリガイモドキ?, イ シダタミ 獣骨 (鹿の歯), 雑骨, 魚 骨 (椎骨)	破片数 67 個 口縁部 3 薄手 (細刻 の平行線紋あり)
1 層	ハマグリ, イボニシ, トコブシ, ヒバリガイモドキ, レイシ, イシダタミ, ムラサキインコ?, アカガイ?, クマノコガイ, アマオブネ, ヒメクボアナイ, アナゴウ (イボアナ	石 (Sandstone) 破片 2 口縁部 2, 骨器, 炭化
-20	ゴ中心), ノミギセル(ヤ コビギセル), ヤクシマダ カラ?, カサガイ?(ベッ コウガサ), フジツボ?, ウズイチモンジ?, 鹿の 角②, 歯, 猪歯, 魚骨	
2 層	アナゴウ, トコブシ, ハマグリ, テツレイシ?, レイシ, ヒバリガイモドキ, ムラサキインコ, インダタミ, イボニシ, カサガイ?, クマノコガイ,	口縁部 2, 胴部破片,
	魚骨, 頚骨破片	

0.0		
-30	レイシ,カサガイ?,ヒメクボガイ,イシダタミ,クマノコガイ,メンガリ,テツレイシ,ハマグリ,アマオブネ,ヒバリガイ?,カワニナ,フジガボ,ギセル?(ヤコクロツケガイ, 諸古,鹿苗, 歯の根?,牙2	口縁部 1,底部 1 炭化物多し
	ハマグリ, トコブシ (ナ ガラメ), ヒバリガイモド キ, クボガイ?, イシダ	炭化物
4 層	タミ,カサガイ,クマノ コガイ,ハマグリ (テウ セン) (ハマグリ大型個体) 獣骨片	

#### 7月27日 快晴

3時半頃一時驟雨あり。7時半出発。9時~12時,2時半~6時まで調査。6×2mのトレンチ設定。A区と並んでB区,C区と区割実施。第21図石器93は,C区2層の西側のB区2層に混土層で灰が集中する場所があり,そこから出土。

# B 区

1 層	ハマグリ,イシダタミ, ヒバリガイモドキ,カサガイ,クマノコガイ,ア マオブネ,ベンケイガイ (トドロキガイ),ノミギセル,マイマイ類?,ヒバリガイ,トコブシ?,ケマイマイ類?	を破壊して食用。ハマグリも破壊。焼ハ
	テウガノ、 アウガイ、 レイリカー、 アウガイ、 レイリガイ?、 ア・ボン・ ア・ボン・ ア・ボン・ ア・ボン・ ア・マ・ ア・ス・ 、・、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、、	破壊して食用。土器 破片 105, 口縁部 2, 沈線紋 1, 焼骨, 焼貝,

	度貝?  鹿歯, 鹿角, 雑骨, 魚歯,  魚骨	
C区		
1 層	テウセンハマグリ, イシ ダタミ, レイシ, アマオ ブネ, ヒメクボガイ, カ サガイ, ヒバリガイ, ノ ミギセル, ヒバリガイモ ドキ, マイマイ?, ワス レガイ (シマワスレ), ト コブシ 鹿歯, 雑骨, 魚骨	底部 1, 自然石(砂岩) 1, 炭化物多数, 焼骨
2 層	トコブシ, ヒバリガイ, カ サガイ, ノミガイ, クマノ コガイ, アマオブネ, ベン ケイガイ, イシダタミ, テ ウセンハマグリ, ウズイチ モンジ, ノシガイ?, テツ レイシ, ヒバリガイモドキ, カガミガイ?(ワカカガミ),	骨の焼いたもの。炭 化物多数。土器破片 17, 胴部で穴のあい たもの(-27cm出土), 刷毛目のあるもの1,

ノミギセル,マイマイ, ハマグリ,トコブシ,カ ワニナ?,魚骨,フジツ ボ? 鹿角歯,雑骨

# 7月28日

全員参加。黒木先生が朝から参加。岩坪先生 午後から参加。7時半出発。9時~12時,2時 ~6時。

B区の2層、C区の2層の続き、3層まで。

B区の3層の半分 もり-49 cm

骨器? - 55.5 cm

C区 かんざし

2層-27 cm

敍

2 層 - 30 cm

骨器?

3層-52 cm

自然石の配置

C区2層から3層にかけ、灰の集積所と思われるところあり。

B区の3層には礫多し。

C区2層 凹石1

#### B 区

3 層	トコブシ, カサガイ, ヒメクボガイ, ヒバリガマ モドキ, カワニナ, ハマ グリ, レイシ, マツガイ, イマ, クマノコガイ, イシダタミ, アナゴウ, マイマイ?, テウセンハ マグリ, ノミギセル 鹿角歯, 雑骨, 魚骨	炭化物 礫破片 5 土器破片 4
4 層	テウセンハマグリ, ハマ グリ, ザルガイ, イシダ タミ, マイマイ?, ヒバ リガイモドキ, カサガイ, アナゴウ, ノミギセル 雑骨	焼骨
5 層	テツレイシ 1 骨少量	
C区		
3 層	テツレイシ, クマノコガ	

3 層	テツレイシ, クマノコガクイ, イシダタミ, ヒメカイ ガイ, オキ?, テウン, サガイ, カキ?, コンダカサン アマオブネ, コンダカリガイ モドキ, レイノミギセル, マグリ, ヒバリガイ, マイマイ? 魚骨 (雑骨等)	自然石6個,炭化物
4 層	イシダタミ, ハマグリ, カサガイ, マイマイ 少量	炭化物少量 自然石 1, 土器なし

# 7月29日

朝一時少雨のち晴。立石,岩坪,野沢,谷口, 黒木参加。8時出発。平山からの参加の2人は 帰省。

午前 B区3層からC区4層まで午後 B区4層,5層の一部A区

C 区 5 層まで。遺物はほとんどなし。 ノミギセル、マイマイ、ハマグリ少量。WE 面の B,C 区のトレンチ製図

C区3層-60 cm 石斧出土

B区3層~4層 骨器(骨刀)出土。上端が -53 cm斜めにささる(NWの方に 70°位)

B区3層 -57 cm 骨器 (かんざし) 出土。 B区3層 凹石出土。自然礫多し。B区は4層 まで炭化物を狭在。-65 cm位まで。 C区は,西側-60 cm位,E区-40 cm位まで(炭 化物をはさむ) 土器は少量

#### 7月30日

朝少雨。晴れたり曇ったり。午後は時々雨風強し(台風近づく)。立石,岩坪,野沢,谷川,黒木,後迫11時頃参加,南高の松窪先生参加。 B区 5層まで。陸産貝(ノミギセル,マイマイ)のみ,遺物なし

D区 3m×1.5mのトレンチ (20 cmの層位) 2~3層に動物 (雑骨) 多し, 土器破片, 凹石出土。5層まで少量出土 (-100 cm) まで発掘。包含層は, D区の半分にて消滅→南側面にて表層が乱れている。D区 に2箇所焼跡がある。焼跡①は, 灰, 砂 の赤化した部分(40×70 cm)位の大きさ, 厚さ20 cm 位。焼跡②は, 53×60 cm。

# 7月31日

台風。雨,風強し。午前中,土器水洗い。 後迫一郎は午後帰宅。

# 8月1日

台風。曇時々雨,風強し。午前,現場に着く も風強く作業出来ず。宝満の池,川添氏宅訪問。 8月2日

曇り。午前風強し。午後2時出発。トレンチ 設定の為,表層の岩盤削除作業。岩坪,野沢, 谷川,立石参加。谷川3時半,上中へ連絡。 夜,野間中4人,黒木,榎本先生参加。 中種子町役場映画班慰問のため来訪。

#### 8月3日

快晴。榎本, 黑木, 岩坪, 谷川, 野沢, 立石, 山照幸, 日高安夫, 鎌田隆信, 鎌田直邦, 「大 木田 映画班」参加。

午前中 E 区設定 (3×2m 20cmの区割り), 岩盤削除作業。1層~3層まで,4層の一部。 土器口縁部破片1,自然石1,軽石包含,獣骨の雑骨多し,魚骨,貝,クジラの肋骨破片1, 1層~2層に遺物多し

# 8月4日

快晴。黒木、谷川、岩坪、野沢、立石、山、 鎌田(隆)、鎌田(直)、日高、榎本先生午後帰 宅。岩盤(表層)の削除作業行う。E区4層完 掘。遺物なし。

午前 F区設定 (3m×3m) 一部は岩盤削除 1層 40 cm 2層 20 cmの一部, 2層遺物多し。

# 8月5日

睛。風なし。黒木,谷川,岩坪,野沢,立石,山,鎌田(隆),鎌田(直)参加。日高帰宅。 F区 2層~4層まで,2層~3層遺物多し G区 3×3m設定,20cmまで掘り 1~3層まで,2層遺物多し,特に鹿歯 多し,口縁部

3 層土器破片, -45 ~ -50 cmより出土。 午前中 平板測量行う。

#### 8月6日

快晴。岩坪,立石,谷川,盛園参加。黒木, 野間中生徒帰宅。トレンチ断面を測量。

G区 4層 土器口縁部,獣骨多し,貝類 5層 遺物なし

11 時頃,三友国五郎先生来島。岩坪香氏,川崎 先生案内。午前中作業打切り。諸経費(現場での)食費のみ9,466円。県の文化財係に発掘報 告書提出。調査経過:7月24日~8月6日 土器1箱,自然遺物2箱,骨器2点,牙器1点, 石斧3点,たたき石1点,貝類(貝輪?)1点。

# 第2節 平成19~21年度の調査成果

#### 1. 調査の内容

平成19~21年度の調査は、昭和31年度の調査成果を含めた正式報告書を刊行するために必要な情報を補うことと、遺跡の内容・範囲を明らかにすることで遺跡の保護に資することを目的として行った。

調査は、昭和31年の発掘写真や図面、調査参加者の記憶などをもとに、当時の調査地点を予想し、その周辺にトレンチ・調査区を設定し行った(第4図)。

平成19年度の調査は、遺跡範囲の陸側(北西側)の端を捉えることを主たる目的とし行った。まず、重機により表土を剥ぎ、地表面下約1.3mで包含層が確認された6、7トレンチのみ人力による精査を行った(PL.8)。3、5トレンチについては、包含層下位の新鮮砂層まで重機による調査を行ったが包含層は確認されなかった(PL.9)。また、1、2、4トレンチについては、表土層が厚く、包含層の有無について確認ができなかった。出土した遺物の詳細については、第3節で述べるが、出土土器はいずれもいわゆる黒川式で、昭和31年の調査成果を追認できた。遺構としては、6トレンチIV層において受熱のため一部赤色した砂層が確認された。

この年度の調査によって、遺跡範囲の陸側の端をおさえることができ、南側を対象に行った平成21年度の発掘調査成果とあわせることで、遺跡の範囲を確認することができた(第4,5図)。

平成20年度の調査は、鹿児島女子短期大学教授の竹中正巳氏と合同で、竹中氏の研究費と町の単独経費を用いて調査を行った。調査個所は、第2図に示したA地点とB地点である。A地点の調査は、平成19年度の調査で表土層が厚いため確認ができなかった海側の遺跡の範囲と、昭和31年度に採集された人骨の周辺の状況について、明らかにすることを目的に行った。調査は重機を用いて行い、包含層が確認された時点で掘削をやめ、本格的な調査は次年度行うこととし埋め戻し

を行った (PL.10)。

A 地点における調査では、平成19年度4トレンチの南側の表土を充分に下げた所、まだ南側に遺跡が広がることを確認できた(PL.10)。この調査の成果を受けて、平成21年度に設定した調査区が、平成21年度第1調査区である(第4図)。

一方、昭和31年に人骨が採集されたとされる地 点の周辺にあたる平成19年度2トレンチの南側も 下げたが、こちらでは、かなり下位までかく乱層 が続いていたため結局包含層は確認できなかった。 よって、平成21年度には、平成19年度2トレン チの南側に平成21年度第2調査区を設定し、充分 な調査面積・廃土置き場を確保し調査を行った。

B地点は、地元集落の方からの聞き取り調査で、 以前、人骨が出土したとされる地点であるが、重 機による調査を行ったが、堆積状況が悪いうえに、 包含層らしき層も確認されなかった(PL.10)。

平成21年度は、前述した2つの調査区を設定し 調査を行った。第1調査区は、貝塚の南端をおさ えることで、遺跡の範囲を明らかにするとともに、 遺跡の内容を確認することを目的とし設定した。

調査は、まず、前年度確認した包含層直上まで 重機によって表土を除去し、その後、第7図に示 した 1m×1mのグリッドを設定し、人力による精 査を行い、貝塚の範囲を確認したのちに、遺跡の 内容を明らかにするためにグリッド単位で必要 な個所を掘り下げた。

今回の調査では、掘り上げた土について、かく 乱層のものは、主として5 mm、包含層のものは、 すべて2 mmの乾フルイにかけた。その結果、オオ ツタノハ貝輪、イモガイ珠、サメ歯垂飾品、ノシ ガイ珠などの装身具、ハマグリ製打製貝鏃、骨製 刺突具などの貝骨角牙製品を多数確認できた。出 土した土器の型式は、黒川式のみであり、この貝 塚が黒川式の単純遺跡であることを追認できた。 出土遺物の詳細については、第3節で述べる。

また、ハマグリ、ムラサキインコなどの特定の 貝や獣骨などが集中する地点があり、その単位毎 に取り上げを行った(第8図)。それらに伴い炭 化物が比較的多い地点などはあったが、明瞭な遺 構は今回の調査では検出されなかった。自然遺物 についての分類と分析の詳細については、第IV章 第6~8節を参照されたい。

出土した人骨片は, 貝・獣魚骨などの自然遺物 と混在していずれもⅡ層から出土した。いずれ も土坑などの明瞭な遺構に伴うものではないが、 j-1 区から出土した乳幼児の頭蓋片のうち最大の もの (第IV章第5節写真1及びPL.14の4、出土 地点は第9図参照)は、遺構に伴うものであった 可能性が残る。調査では、この乳幼児の頭蓋骨を 検出した段階で平面精査によるプランの確認と サブトレンチによる調査を行ったが、明瞭なプラ ンは確認されなかった。しかし、この頭蓋骨は、 j-1 区 II-5 層 (第9図) 中から出土していて、こ の層は、基本的にⅡ-6層を主体としながら、よ り下層のⅢ層が混ざるという点で、Ⅱ-6層と区 別された層であることから、Ⅲ層とⅡ-6層が混 在する遺構内埋土ではないか、という疑いが残る のである。

第2調査区は、昭和31年に人骨が採集された 地点周辺に墓域が広がる可能性があるため、設 定した調査区である。重機を用いて、深く調査を 行ったが、第1調査区の包含層の下端の高さであ る、海抜約7mよりさらに3m下げた、海抜4mほ どまで下げたが、以前かく乱層が続いていたた め、高波などで包含層が破壊されている可能性が 高いと判断した。

なお、これらの調査の成果について、鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏と南種子町教育委員会が中心となって、地元に対しての小講演会を平成19年12月10日と平成20年3月8日に行った(PL.16)。

また、調査中は現地を広く一般に公開し、多く の方に調査の様子をみていただいた (PL. 15)。

#### 2. 層位

ここでは、平成19年度と平成21年度の調査に おける層序について述べたい。

平成19年度6トレンチ(第6図)の層序 平成19年度の調査は、範囲確認を目的として いて、包含層の完掘は行っていないため、6トレンチにおいては昭和31年度の調査で新鮮砂層とされた地山層まで掘り下げていない。各層については、以下のとおりである。

# I 層:表土層

Ia層:灰白色砂層(新鮮砂層) 10YR8/1 層中にプラスチック類を含む

Ib 層: 黄褐色砂層 10YR5/8 砂鉄層と黄褐色砂層が互層となる。層中に少量のプラスチック類を含む

Ic 層: 明黄褐色砂層 10YR7/6 砂鉄層を含まず, 締りがやや悪い

#### Ⅱ 層:デューンロック化の進んだ砂層

Ⅱa層: 黒褐色砂層 10YR3/2 最もデューンロック化がすすんだ砂層。 調査地点より東側ではこの層が現地表 面に露出している場所もある。

Ⅱ b 層:にぶい黄橙色砂層 10YR6/3
Ⅱ a 層と I b 層に類似した色調・砂粒の層が互層となっている。なお、Ⅱ b 層と II c 層の境目は、デューンロック化が顕著である。

II c 層: 褐灰色砂層 10YR6/1 デューンロック化していて,砂が固結 しているが,色調がⅡa層と違い褐灰 色である。

#### Ⅲ層:にぶい黄褐色砂層 10YR5/4

層中に縞状に砂鉄層が確認される。本遺跡の包含層の主体とみられるIV層と同一の貝が出土する。まだらに、灰黄褐色の砂のブロック( $1 \sim 3 \, \mathrm{cm}$  程度)を含むことなどから、二次堆積した層の可能性がある。

IV層:灰黄褐色砂層 10YR5/2 縄文時代晩期の包含層

昭和 31 年度調査の  $1 \sim 4$  層に対応か。 IV層の細分が下記で、いずれも縄文時代晩期の包含層である。

IVa層: 灰黄褐色砂層 10YR5/2 縄文時代晩期の包含層で,均質な砂層 だが,貝片,獣骨片が少量まざる。また, 焼土・炭化物が集中する地点もある。 縄文晩期の黒川式土器が数点出土した。

IVb層: 褐色砂層 10YR4/2 獣骨・貝類・炭化物片などが集中し,

多数出土する。

IVc層:灰黄褐色砂層 10YR6/2 均質な砂層で、IVa層で確認されるものと同種の貝・獣骨などが本層でも密度は低いものの確認できる。この下層が昭和31年度調査時に5層とされた新鮮砂層になるとみられる。

#### 平成21年度第1調查区

平成21年度調査区の基本土層は、以下である。

#### I 層:表土層

プラスチック等が混ざる層で,近年堆積したかく乱層である。

#### Ⅱ層:暗褐色砂層

縄文時代晩期の包含層。貝塚の主たる層で、 昭和31年度調査の1~4層、平成19年度 調査のIV層に対応すると判断される。また、 調査ではⅡ層の細分を行っている。

# Ⅲ層:黄褐色極細砂層

新鮮砂層で、昭和31年度調査の5層に対 応すると判断される。

# 第7図 f~i区土層断面の層序

Ⅱ層が縄文時代晩期の包含層で、Ⅱ層については、色調や粒度等によって細分を行った。ただし、細分できた各層は局所的なものであるようで、第9図における層との対応関係は、Ⅱ-1、Ⅱ-2層以外では明らかにしえなかった。

I層 : 表土層

II-1 層:暗褐色細砂 10YR3/4 第9図 j-1~3区 土層断面における II-1 層に対応すると みられる。

II-2層: 明褐灰色粗砂 10YR7/2 第9図 j-1~3区 土層断面におけるII-2層に対応すると みられる。

Ⅱ-3 層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

Ⅱ-4層:にぶい黄褐色細砂 10YR4/3

Ⅱ-5層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/3

Ⅱ-6 層: 褐色砂層 10YR4/4

Ⅱ-7層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

Ⅱ-8層:暗褐色土混じり細砂 7.5YR3/4

炭化物が多く混ざる。

Ⅱ-9 層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

Ⅱ-10層:にぶい黄褐色細砂 10YR4/3

Ⅱ-11 層:褐色細砂 10YR4/4

Ⅱ-12 層:にぶい黄褐色細砂 10YR5/3

II-13 層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

Ⅲ層 : 褐色砂層 10YR4/6, 無遺物層

#### 第9図 i-1~3区土層断面の層序

Ⅱ層は、縄文時代晩期の包含層で、この断面に おいては、Ⅱ層の細分を行った。なお、遺物の取 り上げの際、平面で判断が難しいものは、大きく Ⅱ層として取り上げている。

Ⅱ-1 層:暗褐色細砂 10YR3/4

この層の特に上面には、打ち上げ貝が 認められる。このことは、この層の上 面が地表面に露出した時期があり、波 に洗われたことを物語る。

Ⅱ-2層: 明褐灰色粗砂 10YR7/2

図番 132 のオオツタノハ貝輪が出土。

II-3 層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

Ⅱ-4 層:明褐灰色粗砂 7.5YR7/1

局所的に堆積し, ラミナ構造がみられる。しまりが非常に悪い。

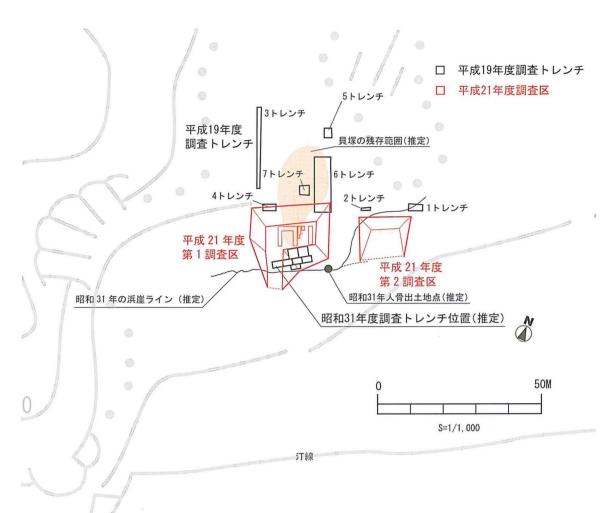
Ⅱ-5層: 黄褐色砂のブロック (10YR5/6) を含む

暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

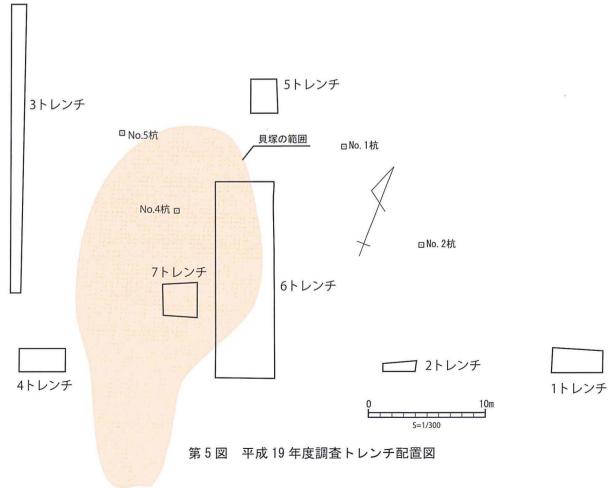
II-6層とⅢ層が混ざる層で,主体はⅡ -6層である。この層中より乳幼児の頭 蓋骨片(第IV章第5節写真1及びPL.14 の4,出土地点は第9図)が出土した。

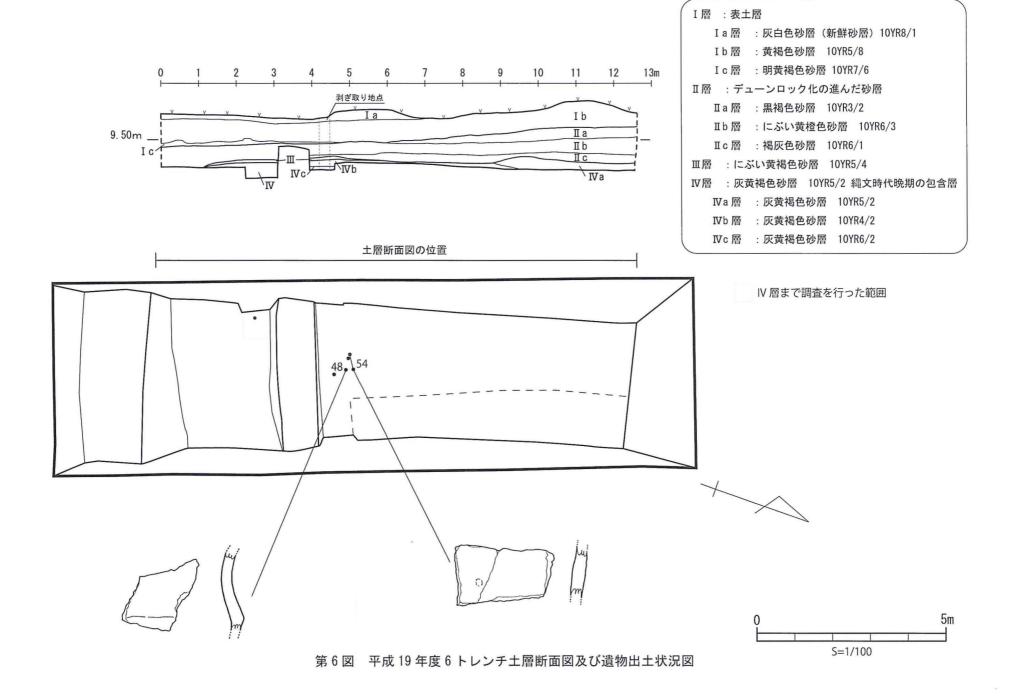
II-6 層:暗褐色土混じり細砂 10YR3/4

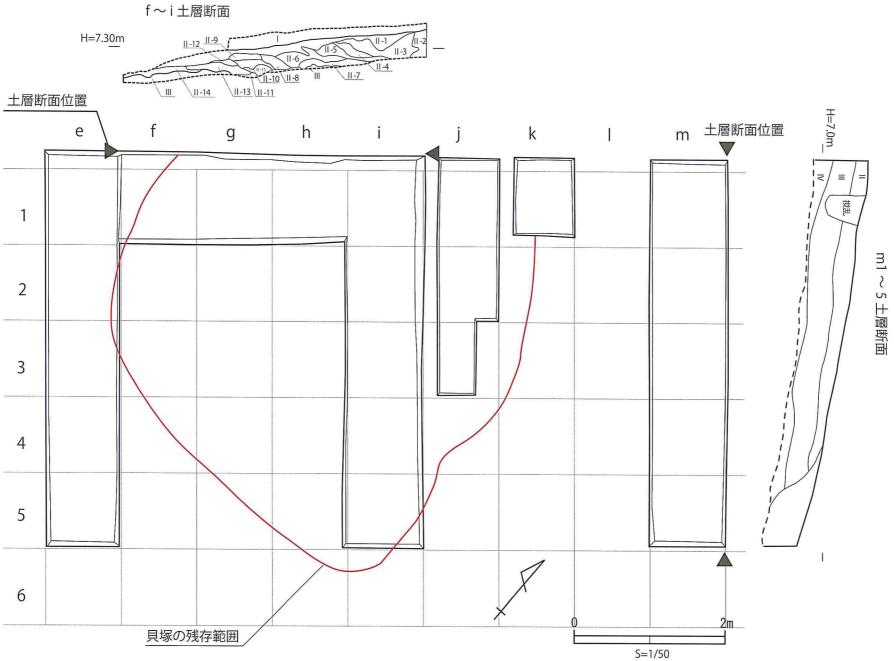
Ⅲ層: 黄褐色極細砂 10YR5/6 無遺物層



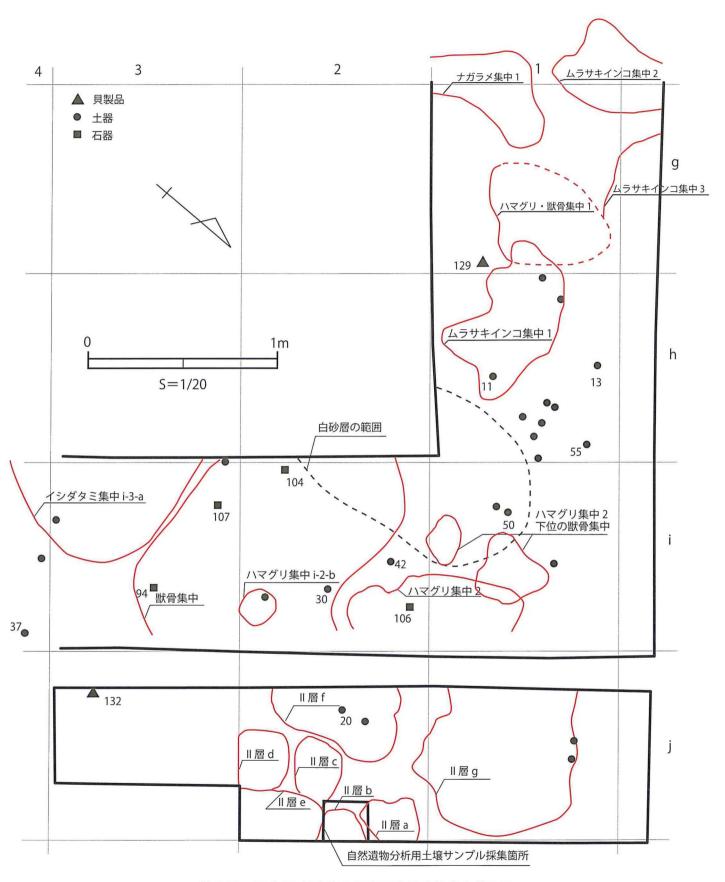
第4図 昭和31年度,平成19,21年度調査トレンチ位置図



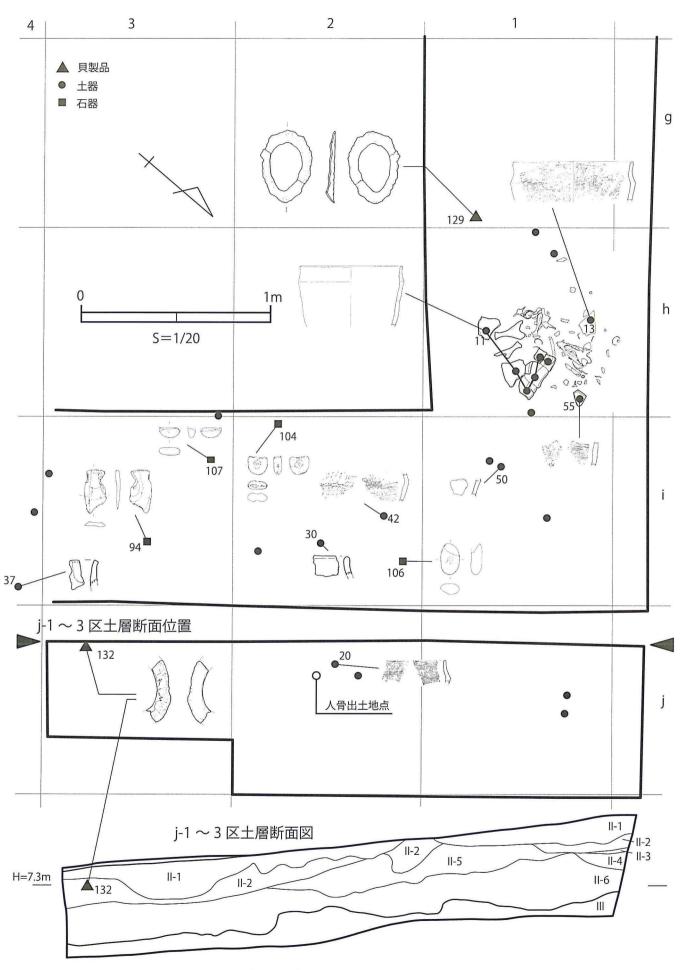




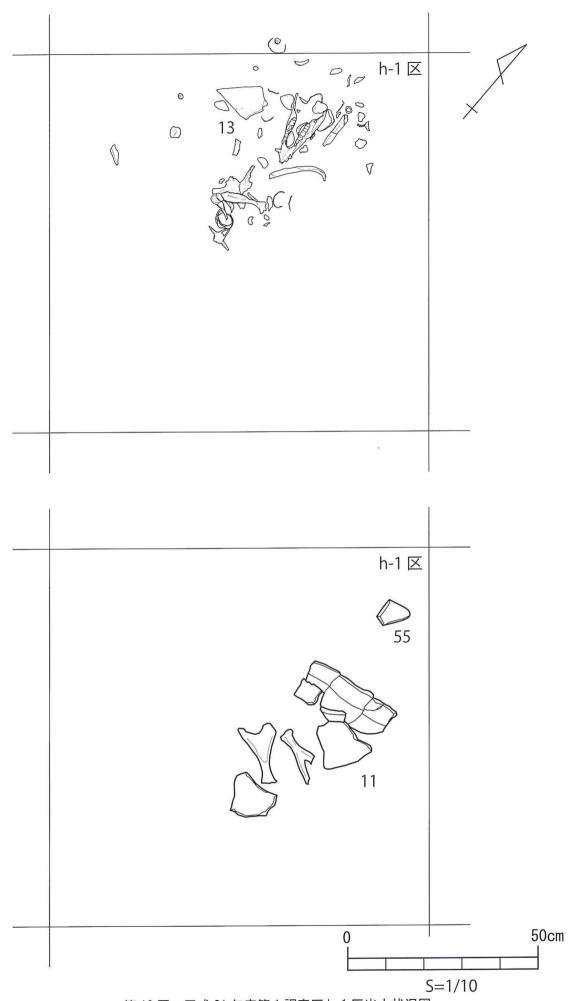
第7図 平成21年度第1調査区トレンチ配置図及び土層断面図



第8回 平成21年度第1調査区自然遺物出土状況図



第9回 平成21年度第1調査区遺物出土状況図



第 10 図 平成 21 年度第 1 調査区 h-1 区出土状況図

# 第3節 出土遺物

#### 土器

本遺跡出土の土器のうち,発掘調査で出土した 土器は,黒川式のみである。これらの資料の多く は,胴部上部が稜を成して「く」の字に屈曲し, 口縁部が外反気味に立ち上がる。

口縁形態はすべて平口縁であり、口径が屈曲部の径を上回らないものが多い。底部はすべて平底で、底部端が張り出すものが多い。ほとんどが無文であるが、細沈線文を有するものが8点出土している。また、補修孔が穿たれているものも出土している。色調・胎土・焼成については観察表を参考願うが、色調は赤褐色~黒褐色を呈するものが多く、胎土には石英・長石・礫がほとんどのものに含まれており、焼成は良好なものが多い。

なお, 1~5,85,87,89は、旭慶男氏によっ て報告済みの資料で(注1), 茎南小学校に保管 されていたとされる資料である。採集された時 期は不明である。15, 17, 19, 21, 24~27, 29,  $31 \sim 35$ , 39, 40, 44, 46, 47, 49, 51,  $57 \sim$ 59, 62, 66~68, 72, 73, 75, 80, 83 は昭和 31 年度調査で包含層より出土したもので、 $6 \sim 10$ 、 12, 14, 16, 18, 22, 23, 41, 52, 60, 61, 63 ~65,76~79,81,84,86,88は,未注記であ るが収蔵されていた保管箱の情報や当時の記録 から一陣長崎鼻遺跡出土資料であることが確実 なものである。69~71は注記がないうえに、同 一の保管箱内に屋久島一湊遺跡の出土品が混在 していたことから、屋久島一湊遺跡出土品とみら れるが、未報告であるため記載した。74と90は、 69~71と違い、他の遺跡の資料の混ざらない保 管箱内の資料であるが未注記であり注意が必要 である。

また,48,53,54 が平成19 年度調査で出土したもの,11,13,20,28,30,36~38,42,43,45,50,55,56,82 が平成21 年度調査で出土したものである。

以下, 部位毎に記述する。

口縁部 (第11図1~4, 第12図5~10, 第 13図11~14, 第14図15~24, 第15図25~ 40)

黒川式の深鉢形土器の口縁部である。1~3は 無文で、内外面の器面調整として貝殻条痕や条 痕,オサエ,ナデがみられるが,外面が内面より 入念な調整が施されている。4は補修孔が穿たれ ている。5は外面に細沈線文が施されている。6 ~18 は内外面に貝殻条痕や条痕,オサエ,ナデ による調整が施されている。19は外面に細沈線 文が施されている。20~23は内外面に貝殻条痕 による調整がみられるが, 外面は内面より入念な 調整が施されている。24は外面の器面調整に条 痕とミガキが, 内面にオサエと条痕が施されてい る。25~27は外面にオサエ、ナデ調整が、内面 には条痕やオサエ、ナデ調整が施されている。28 は口唇部に細沈線文が施されている。29~37は 外面に条痕やオサエ, ナデによる調整が施され, 内面に貝殻条痕や条痕, オサエ, ナデ調整がみら れる。38は器面調整として、内外面ともに条痕 とナデがみられ,外面口縁部に細沈線文がみられ る。39,40は器面調整として外面に条痕が、内 面に条痕やオサエ,ナデがみられる。

**胴部** (第 15 図 41 ~ 52, 第 16 図 53 ~ 60, 第 17 図 61 ~ 66)

黒川式の深鉢形土器の胴部である。41 は屈曲部であり、外面に細沈線文が施されている。42~51 は屈曲部である。多くのものは内外面に貝殻条痕や条痕、オサエ、ナデによる調整がみられる。52 は屈曲部であり、外面に細沈線文が施されている。53~57 は外面に条痕やナデによる調整が、内面には条痕による調整がみられる。58 は、外面に細沈線文が施されている。59~66 は内外面の器面調整に貝殻条痕や条痕、ナデが施されている。

底部 (第 18 図 75 ~ 83, 第 19 図 84 ~ 88, 第 20 図 89, 90)

90 以外は, 黒川式土器の深鉢形土器の底部と判断した。

75 は底部からの立ち上がりが直線的に開いており、底部接地面には条痕による調整がみられる。76,77 は器面調整に内外面とも貝殻条痕がみられる。78,79 は平底で、底部端が少し張り出している。80 は底部からの立ち上がりが直線的に外に開いており、内面は風化により調整の方

法を確認できない。81 は平底で、底部端が張り 出しており,底部接地面は条痕により調整がみ られる。82,83は、平底で、底部端が張り出し ている。84は外面にヘラ切りによる調整があり、 内面にナデ調整がみられる。また、底部接地面は 条痕により調整が施されている。 平底で, 底部端 が張り出している。85~87は底部接地面にも条 痕がみられ、底部端は張り出している。88 は平 底で、底部からの立ち上がりが直線的に外に開い ている。89は内外面ともに条痕とナデによる器 面調整がみられる。また,底部接地面には条痕が みられる。90は、底部からやや内傾気味に立ち 上がり、外反しながら胴部へ続く。底部接地面に は条痕による調整がみられる。また,外面はオサ エや条痕, ナデによる調整が, 内面はオサエによ る調整が施されている。未注記資料であるが、昭 和31年出土資料と同一の保管箱に収蔵され、調 査者が撮影した一陣長崎鼻遺跡出土品一括写真 に写っているが、後述する69~71のように別遺 跡の資料の混在の可能性は捨てきれない。

# その他の土器 (第18図67~74)

黒川式の深鉢形土器及び底部以外のものを一括して報告する。

67は、口縁部が内傾気味に立ち上がっており、 内外面ともに条痕とオサエによる調整がみられ るが、作りは粗く他の深鉢形土器とは器形が異な る。68は、壺形土器の口縁部である。内外面と もにミガキが施されているが、外面のほうが内面 より入念に施されている。色調は外面が黒褐色, 内面が橙色を呈する。胎土は石英, 長石, 礫を含 み精製されており、緻密である。昭和31年度の 出土品で、注記がされていて、G区2層からの出 土資料である。69~71は, 壺形土器の胴部である。 これらは、一陣長崎鼻遺跡資料と屋久島一湊遺跡 出土品が混在する保管箱内の資料で、屋久島一湊 遺跡出土品の可能性が高い。72 は浅鉢形土器の 胴部である。外面はミガキが施されているが,内 面は風化しており、調整の方法は確認できない。 色調は外面がにぶい黄褐色, 内面が褐灰色であ る。73は浅鉢形土器の胴部である。外面はミガ キが施され, 内面は風化により確認が困難だが, ナデによる調整がみられる。色調は外面がにぶい

黄褐色,内面が浅黄橙色である。74 は深鉢形土 器の胴部である。外面に沈線文と刺突文が施され ている。外面に条痕とナデ,内面に条痕による調 整がみられる。色調は外面が赤褐色,内面は褐色 を呈する。未注記で別遺跡出土資料の可能性も残 る。(松原)

注 1) 旭慶男 1988「中之下一陣貝塚」『鹿児島県考古学 会秋季大会資料集 鹿児島県下の縄文時代晩期遺跡』 鹿児島県考古学会

#### 石器 (第21, 22 図)

石器は、石鏃、石斧、磨石・敲石・凹石、石 錐、使用痕のある剥片、剥片に分類され、合計 18 点出土した。91 ~ 93、100 は昭和 31 年度調査 出土資料で、遺物の所在が不明のものである。こ こでは当時の実測図をトレースし、資料紹介を 図った。96、101 ~ 103、105、108 は昭和 31 年 度調査で出土したものである。94、95、97 ~ 99、 104、106、107 は平成 21 年度調査で出土したも のである。

91 は磨製石斧である。92 は局部磨製石斧であ る。93 は磨製石斧である。形状は薄いへら形を しており、石材は粘板岩質のものであると当時の 図面に記録されている。94,96は使用痕のある 剥片石器であり、石材は硬質砂岩である。95 は 石錐である。頭部の形状は角型であり、頭部腹 面は研磨されている。錐部は短く, 押圧剥離によ る加工が両面に認められる。石材は緑泥変岩で ある。97は剥片であり、石材は硬質砂岩である。 98~100は打製石鏃である。98,99の石材は黒 色の頁岩である。両面及び基部は研磨されてお り, 刃部は押圧剥離により加工されている。101, 103, 105, 106, 108 は磨石・敲石である。いず れも砂岩を石材とする。106は片面だけに平滑面 と敲打痕が見られるが、101は両面に平滑面があ り片面にのみ敲打痕が見られる。103, 105, 108 は両面に平滑面と敲打痕が見られる。102,104 は凹石である。石材は砂岩であり、いずれも両面 中央部に敲打による著しい凹みがある。107は磨 石である。石材は砂岩で、両面に平滑面がある。 (松原)

#### 貝骨角牙製品

#### 貝製品 (第23,24図)

貝製品は、40点を図示した。内訳は、ハマグリ製貝鏃21点、オオツタノハ貝輪7点、トドロキガイ製垂飾品2点、ハマグリ製貝刃1点、ノシガイ珠4点、イモガイ珠3点、細形ツノガイ珠2点である。このうち、昭和31年の発掘調査で出土したものは130、131、133、134、136で、これらのうち、130、131、136は、実測図は残されているものの、遺物は所在不明である。それらについては、当時の実測図を再トレースし、報告とした。その他のものについては、平成の調査の出土品である。

109~125は、ハマグリ製貝鏃である。類例が 極端に少なく, 今回の調査でも, 発掘調査中では なく、2mmメッシュで土壌を乾フルイにかけた後、 貝種毎に1点1点分類作業を行った過程で検出し た。押圧剥離によって刃部を加工してある。126 ~ 128, 138 は、ハマグリ製貝鏃の未製品である。 ハマグリは,本遺跡の貝塚内出土貝の中でも出土 比率が高く,未製品の出土から,それらのハマグ リを用いてこの地で貝鏃がつくられたと判断さ れる。129~135は、オオツタノハ製貝輪である。 129 は未製品で、製作途中で大きく2つに割れた 後遺棄されたとみられ、両者は別々のグリッドよ り出土していて,より小さな破片は,2mmメッシュ の乾フルイ作業の際に検出している。132は、入 念な研磨が施されていて, そのことによって, 貝 表面に赤みを帯びた縞状の模様がみられる。136, 137 はトドロキガイ製垂飾品である。137 は、殻 頂部を入念に研磨することで穿孔している。139 は、ハマグリ製貝刃である。チョウセンハマグ リの貝刃は, 南西諸島では平屋敷トウバル遺跡, 嘉門貝塚などで出土している。140~143は、ノ シガイ珠である。広田遺跡出土例とは異なり、螺 背を入念に研磨することで、穿孔を施している。 144~146は、イモガイ珠である。イモガイ珠は、 木下による分類(注1)に従い、

I類:海岸で採取されたままの,無加工の貝珠 II類:粗い加工による貝珠。螺頭部に穿孔を目 的とした研磨により平坦面が作りだされ ているもの に分類した。144, 146 は、Ⅱ類に分類され、わずかであるが、螺頭部に穿孔を目的とした研磨により平坦面が作りだされている。145 は I 類に分類され、無加工品である。147~148 は細形ツノガイ珠である。貝種は、サケツノガイか。

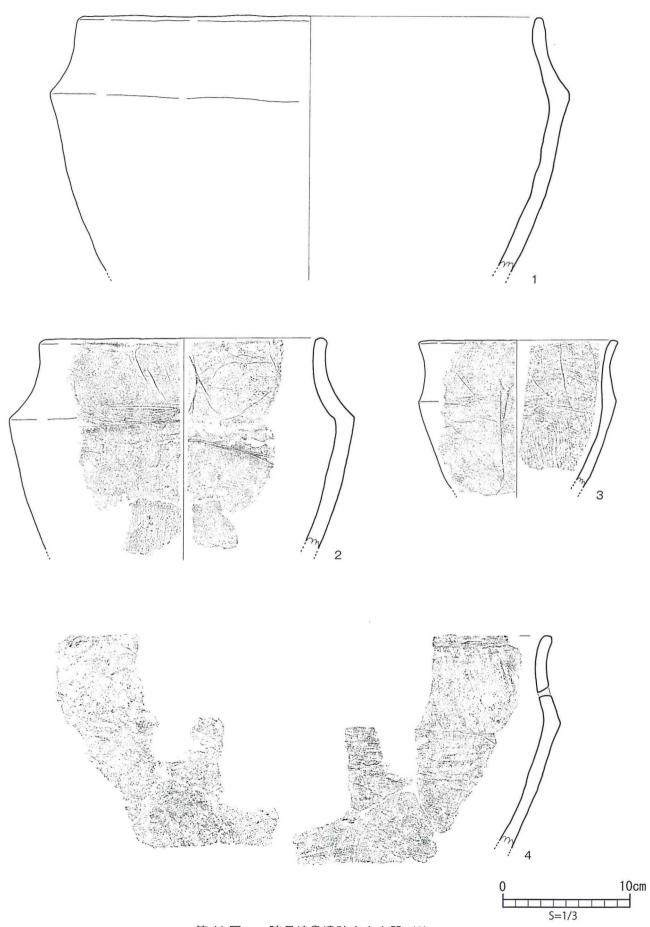
# 骨角牙製品 (第25図)

骨角牙製品は、23点を図示した。内訳は、骨刀1点、かんざし状製品2点、刺突具5点、加工痕のある骨製品6点、牙製品2点、鹿角製品1点、サメ歯垂飾品5点、サメ歯加工品1点である。このうち、昭和31年の発掘調査で出土したものは149~158で、これらのうち、152~158は、実測図は残されているものの、遺物は所在不明である。それらについては、当時の実測図を再トレースし、報告とした。その他のものについては、平成の調査の出土品である。

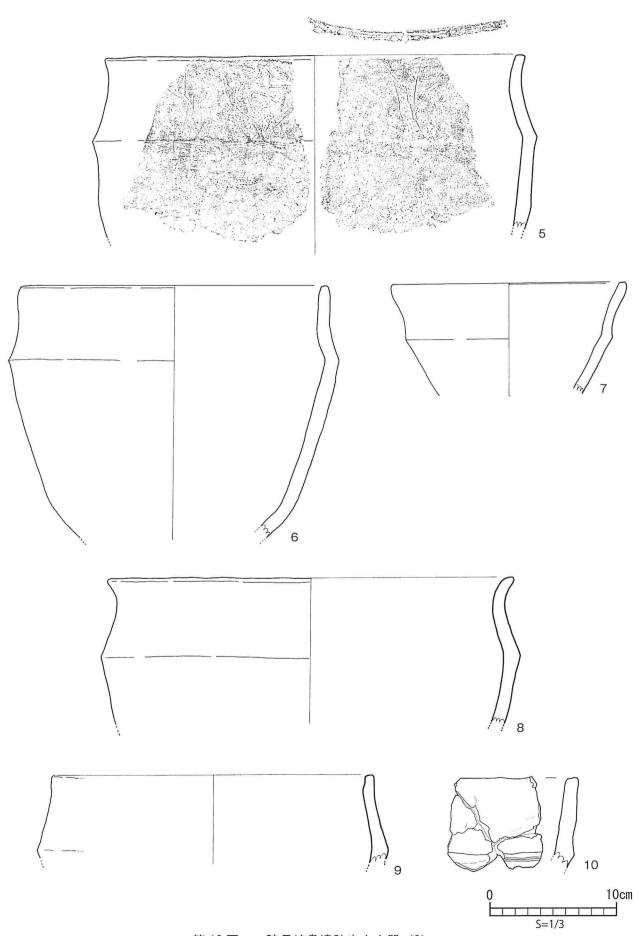
149は、大型のクジラの肋骨製の骨刀である。 150, 151 は、鹿の中手骨ないしは、中足骨製と みられる,かんざし状骨器である。150には二条 の沈線が施されていて, その二本の明瞭な沈線以 外は、出土後についた新しい傷である可能性が高 い。151は、基部に明瞭な磨り面と、えぐりが確 認される。また、先端部は尖り、刺突具である 可能性も残る。152~157は、加工痕のある骨製 品である。158,165はイノシシの牙製の牙器で, 165 は、イノシシ下顎骨の左第2切歯の先端部を 研磨し製作している。159~162,164は刺突具 である。163は、鹿角製品である。磨り切り痕が 認められる。166~170は、メジロザメ科のサメ 歯を用いたサメ歯垂飾品である。穿孔が施されて いる。171は、ミズワニ科のサメ歯を用いたサメ 歯研磨製品で、入念に研磨することで平坦面を 作りだしている。本資料については、第IV章第7 節でも紹介しているので参照されたい。(石堂)

#### 注 1)

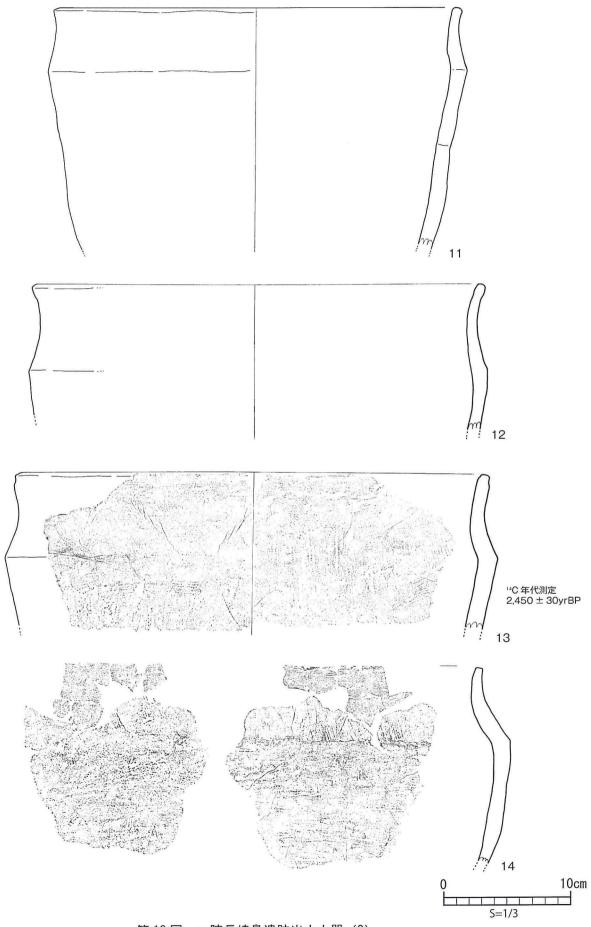
本下尚子 2003 「貝製装身具からみた広田遺跡」『種子島広田遺跡』広田遺跡学術調査研究会



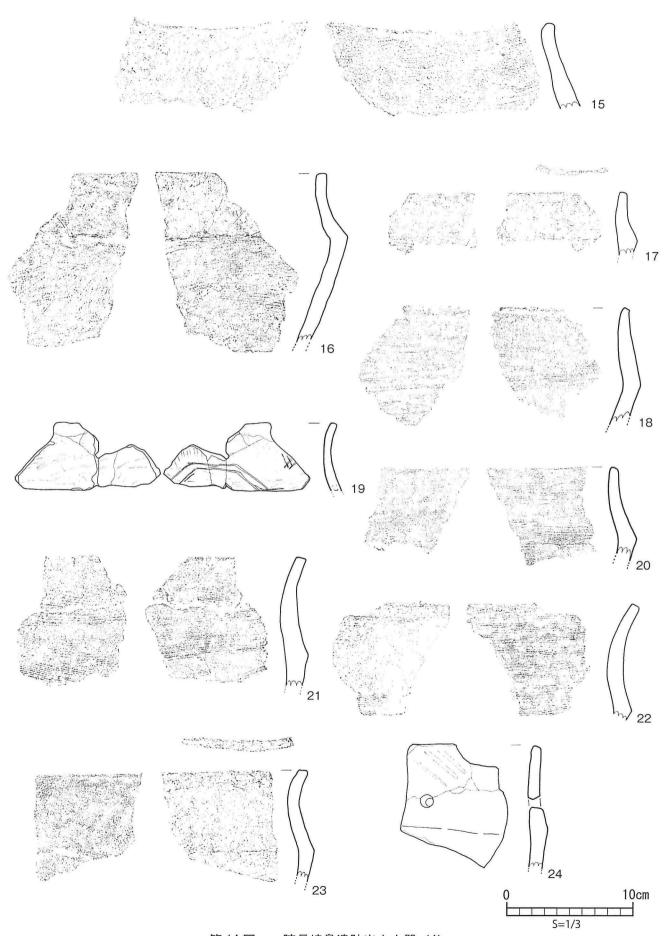
第11図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(1)



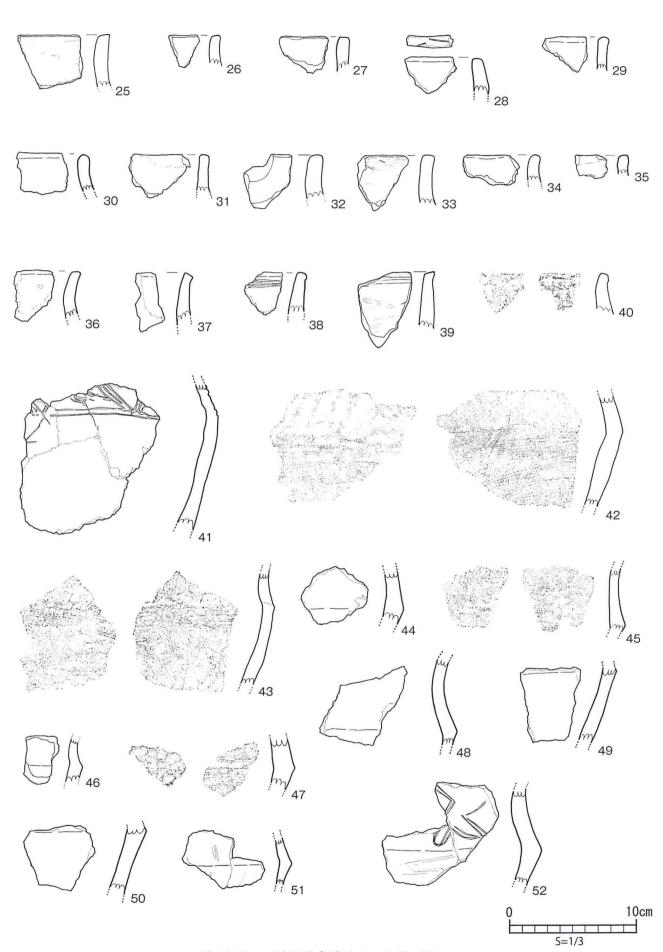
第12図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(2)



第13図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(3)



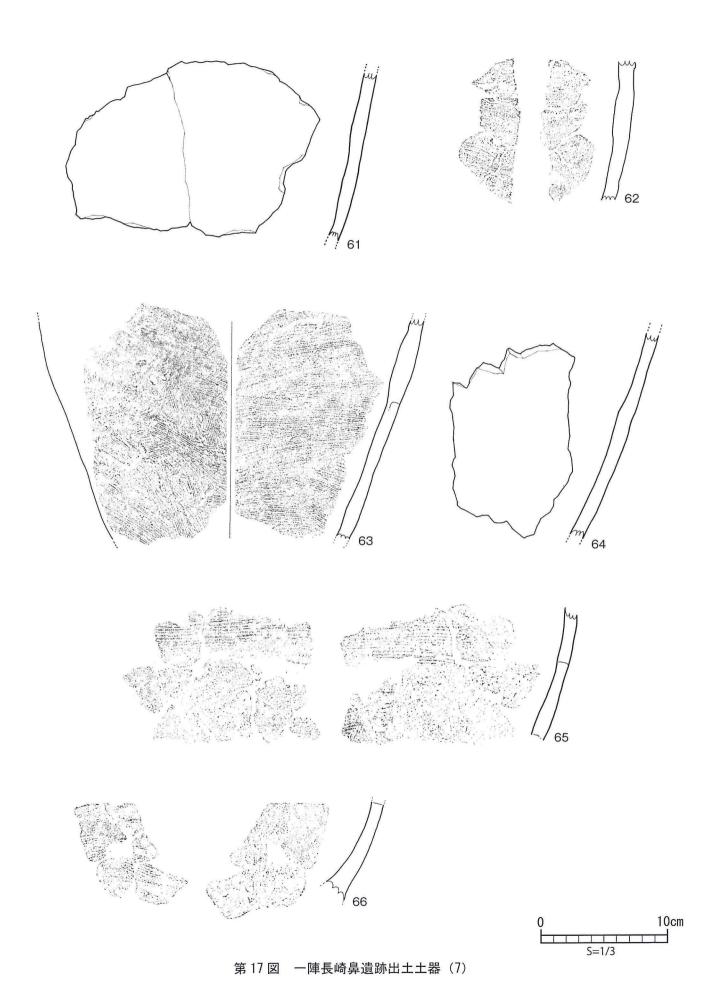
第14図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(4)



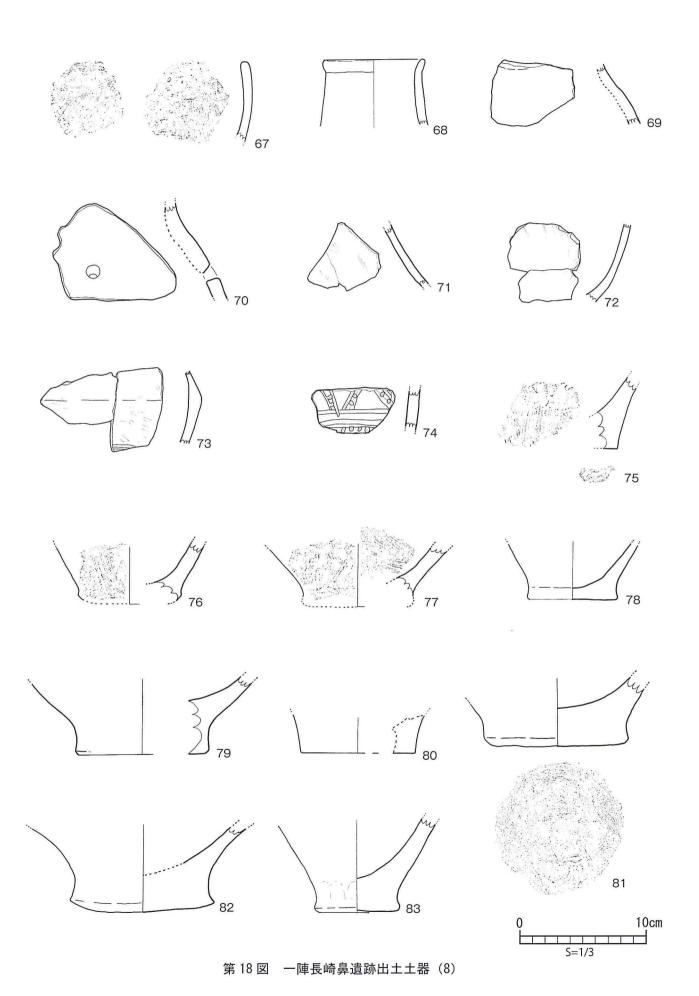
第15図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(5)



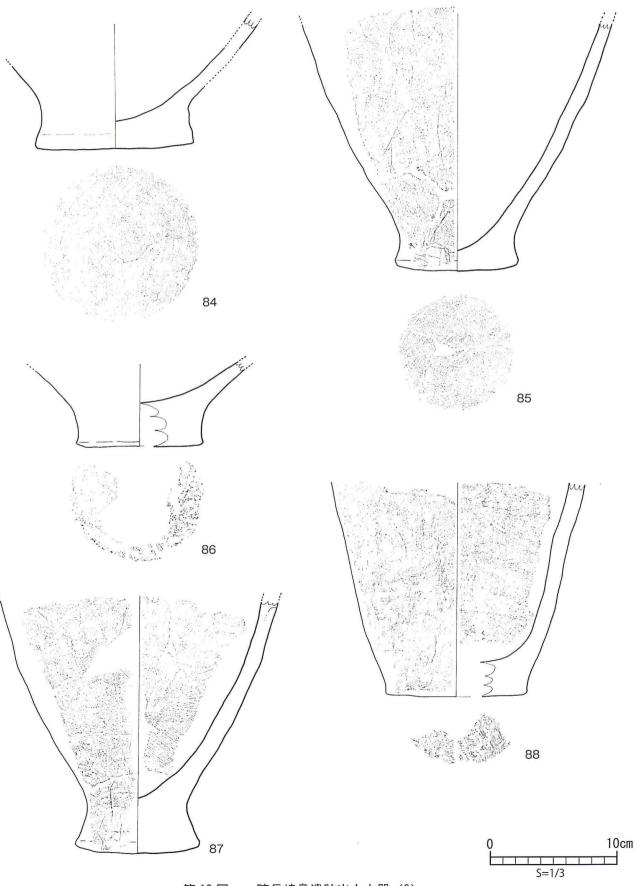
第16図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(6)



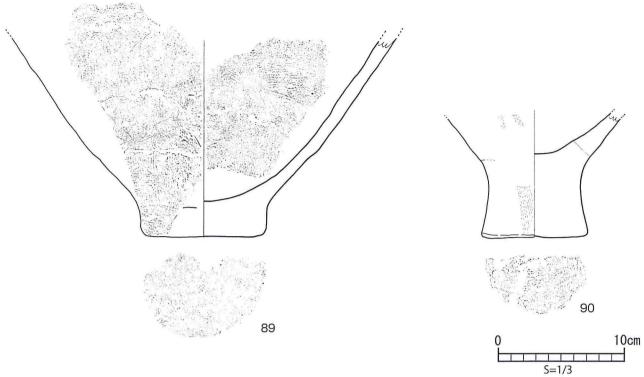
- 32 -



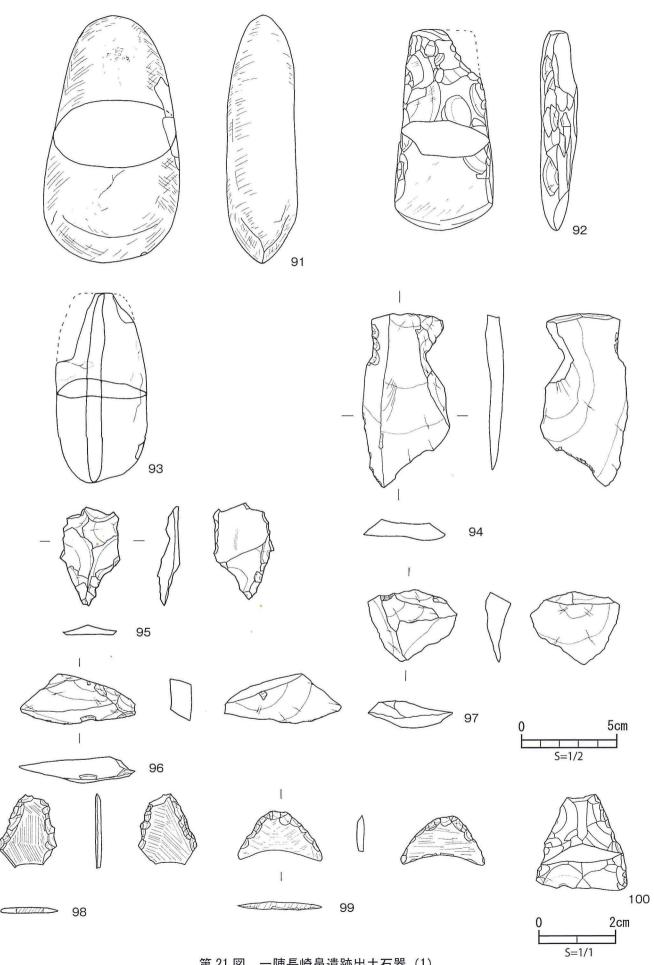
- 33 -



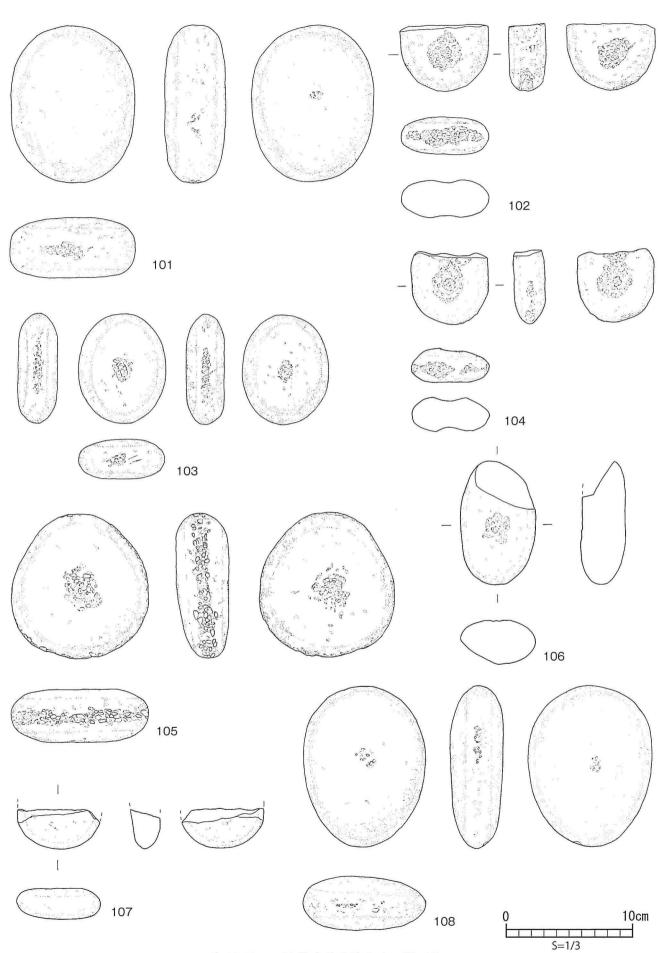
第19図 一陣長崎鼻遺跡出土土器(9)



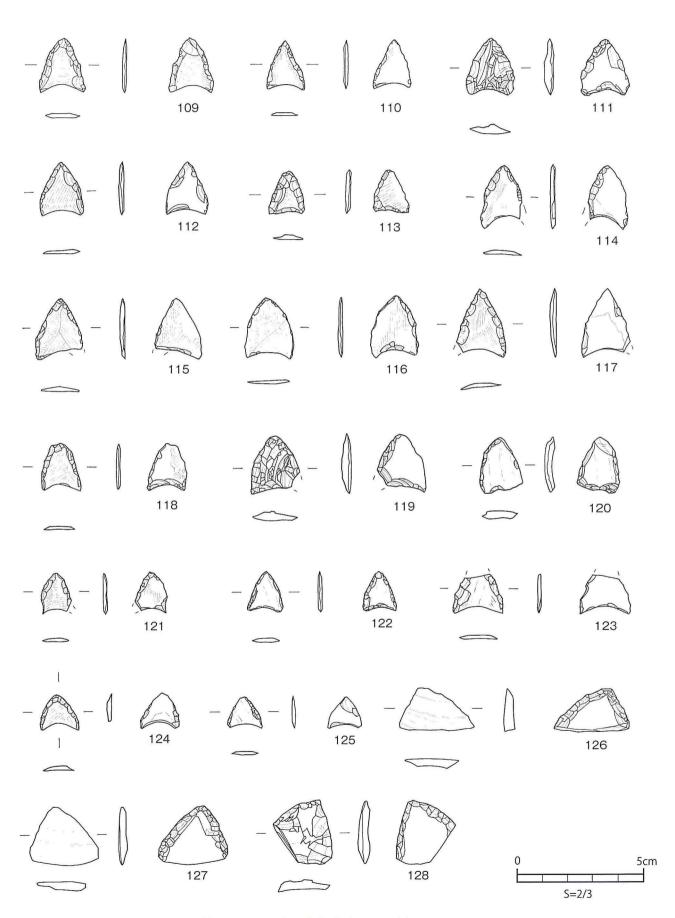
第20図 一陣長崎鼻遺跡出土土器 (10)



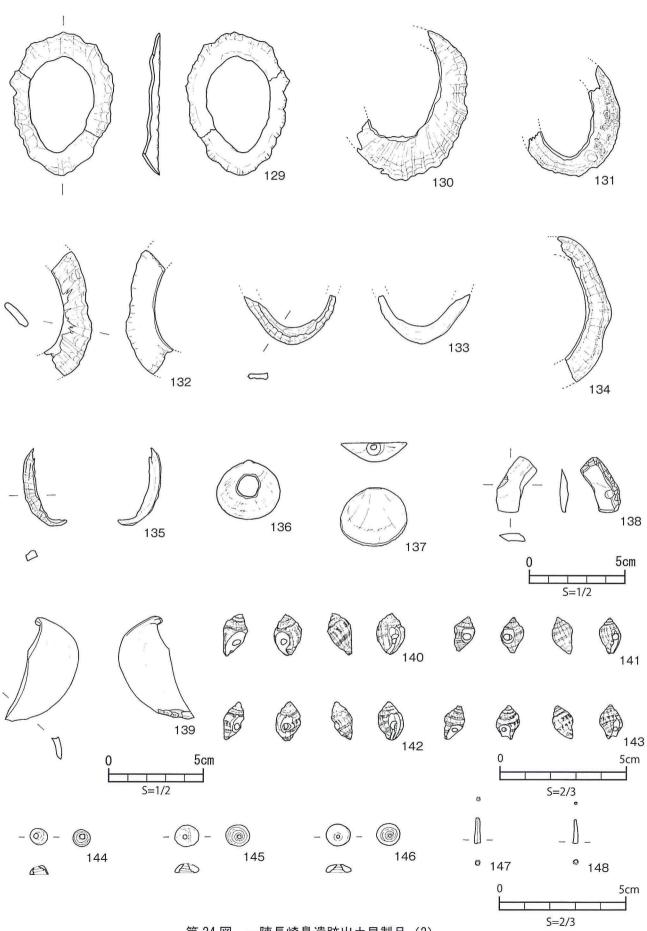
第21図 一陣長崎鼻遺跡出土石器(1)



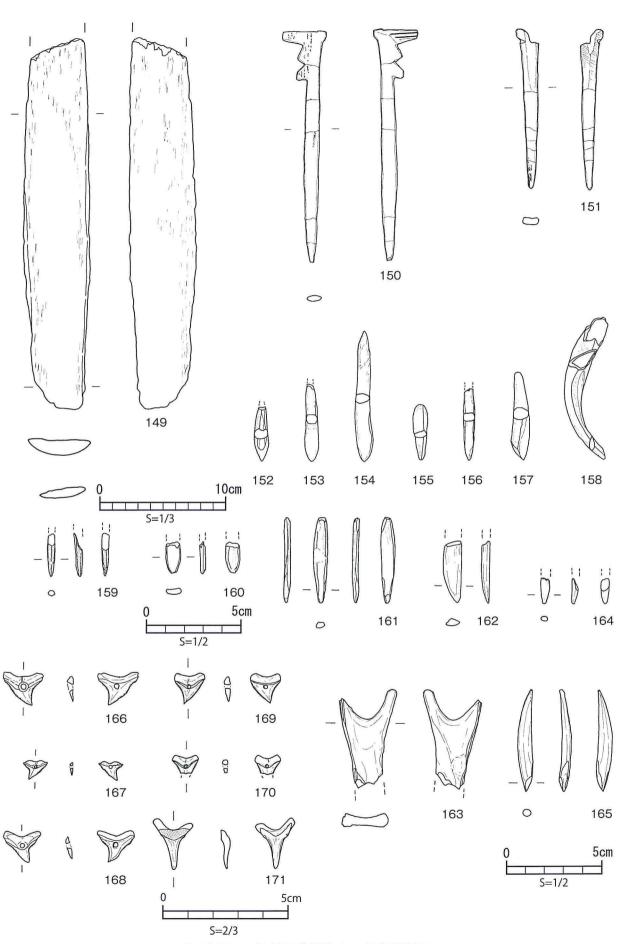
第22図 一陣長崎鼻遺跡出土石器(2)



第23図 一陣長崎鼻遺跡出土貝製品(1)



第24図 一陣長崎鼻遺跡出土貝製品(2)



第25図 一陣長崎鼻遺跡出土骨角牙製品

# 土器 観察表

Щ,	пп	<b>能几分</b> ?	10														
	2011-1-						胎	±:				É	訓問	illi	腔		
図番	調査 年度	出土区	層	器種	石英	長石	角閃 石	礫	ウンモ	その 他	焼成	外 面	内 面	外面	内 面	文様	備考
1	-	表採		深鉢	0	0		0			良	赤褐	栊	貝殻条痕, ナデ	貝 殻 条 痕, オサエ		茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
2	-	表採		深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	にぶい赤褐	条痕,ナデ	条痕、ナデ		茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
3	-	表採		深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	にぶい赤橙	貝殼条痕	貝殼条痕		小型, 茎永小学校保管 資料(旭氏報告)
4		表採		深鉢	0	0		0			良	灰赤	赤橙	条痕,ナデ	オサエ, 条 痕, ナデ		補修孔あり, 茎永小学 校保管資料(旭氏報告)
5	-	表採		深鉢	0	0		0		白白	良	灰赤	にぶい橙	条痕、ナデ	オサエ,条 痕,ナデ	沈線	茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
6	S31	表採		深鉢	0	0		0		白◎	良	赤黑	明赤褐	条痕,ナデ	条痕,ナデ		注記「茎永長瀬ハナ」
7	S31			深鉢	0	0		0			良	にぶい褐	祒	ナデ	ナデ		小型
8	S31			深鉢	0	0		0		白〇	良	黒	明赤褐	条痕、ナデ	オサエ,条 痕,ナデ		
9	S31			深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	明赤褐	条痕、ナデ	オサエ,条 痕,ナデ		
10	S31			深鉢	0	0		0			良	褐灰	揭灰	オサエ,条 痕,ナデ	オサエ,条 痕,ナデ		
11	H21	h-1		深鉢	0	0		0			良	赤褐	にぶい赤褐	オサエ,条 痕,ナデ	下方は条痕		
12	S31			深鉢	0	0		0		白〇	良	暗赤褐	赤褐	貝殻条痕,ナデ	ナデ		
13	H21	h-1		深鉢	0	0		0			良	暗赤灰	明赤褐	デ	オサエ,ナ		
14	S31			深鉢	0	0		0			良	暗赤褐	赤褐	条痕,ナデ			小型
15	S31	G 区	1	深鉢	0	0	0	0			良	明褐	橙	貝殼条痕	オサエ, 条 痕		
16	S31			深鉢	0	0		0			良	にぶい橙	赤灰	貝殼条痕	オサエ, ナ デ, 下方: 貝殻条痕		小型
17	S31	Α区	3	深鉢	0	0		0			良	赤褐	にぶい赤褐	条痕	条痕		
18	S31			深鉢	0	0		0			良	赤褐	灰褐	条痕,ナデ	条痕		
19	S31	A区	1, 2	深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	黒褐	条痕,ナデ	貝殼条痕	沈線	51 と同一か?
20	H21	j-2	II	深鉢	0	0		0			良	赤思	赤褐	貝殼条痕	オサエ, 貝 殻条痕		
21	S31	E区	3	深鉢	0	0		0			良	赤褐	赤褐	貝殼条痕	貝殼条痕		
22	S31			深鉢	0	0		0			良	赤褐	赤褐	貝殼条痕	貝殼条痕		
23	S31			深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	にぶい橙	条痕、ナデ	条痕,ナデ		
24	S31	G 🗵	3, 4	深鉢	0	0		0			良	黑褐	にぶい掲	条痕, ミガ キ?	オサエ,条 痕?		補修孔あり
25	S31	F区	3	深鉢	0	0		0			良	黒褐	黒褐	オサエ, ナ デ	オサエ, ナ デ		指紋?
26	S31	C区	3	深鉢	0	0					良	黒褐	揭灰	ナデ	ナデ		
27	S31	C 🗵	3	深鉢	0	0		0			良	黒褐	明褐	ナデ	条痕、ナデ		
28	H21	i-1	П	深鉢	0	0		0			良	暗赤灰	赤橙	ナデ	ナデ	口唇部 に沈線	
29	S31	G 区	3	深鉢	0	0		0			良	赤褐	暗褐	ナデ	オサエ, ナ デ		
30	H21	i-2	П	深鉢	0	0		0			良	暗赤灰	暗赤褐	条痕,ナデ	条痕		
31	S31	C区	1	深鉢	0	0		0			良	赤黒	赤褐	条痕,ナデ	条痕		
32	S31	A 区	1	深鉢	0	0					良	赤褐	にぶい掲		貝殻条痕 条 痕, ナ		
33	S31 S31	G 区 G 区	3	深鉢	0	0		0		-	良良	にぶい赤褐	黒 にぶい赤褐	痕,ナデ	デ? 条痕		
35	S31	B⊠	2	深鉢	0	0		0			良	黒褐	にぶい赤褐		条痕		
		h区先						526		1							
36	H21	行トレンチ i-4		深鉢	0	0		0			良良	赤黒 暗赤褐	にぶい赤褐 赤褐	ナデ 条痕, ナデ	ナデ 条痕, ナデ		
38	H21	i-3	II	深鉢	0	0	$\dashv$	0		-	良	暗赤褐	暗赤褐	条痕、ナデ	条痕、ナデ	沈線	
39	S31	B 区	3	深鉢	0	0	-	0		-	良	黒褐	にぶい赤褐		条痕	INC. TOTAL	
40	S31	A 区	2	深鉢	0	0		0			良	赤褐	にぶい赤褐		未根 オサエ,ナ		
41	S31			深鉢	0	0		0		+	良	赤灰	赤灰	条痕、ナデ	オサエ, ナ	沈線	小型
42	H21	i-2		深鉢	0	0		0			良	赤黒	赤褐	日想冬宿	フ オサエ, 貝 殻条痕		
43	H21	h-1		深鉢	0	0		0	-	-	良	赤褐	暗赤灰	条痕、ナデ	和 条痕		
_	S31	h-1 E区	11	深鉢	0	0	-	0	-	-	良良	褐	明赤褐	条痕, リア 条痕	条痕		
44	391	E IA	1	1水平	0	U		9		1	八	163	切亦怕	水沢	水水		

Same							胎	士:				色	. III	ep D	12		
図番	調査 年度	出土区	層	器種	石英	長石	角閃 石	礫	ウンモ	その 他	焼成	外面	内 面	外面	内 面	文様	備考
45	H21	i-1	II	深鉢	0	0		0			良	暗赤灰	暗赤褐	条痕	条痕?		内面風化
46	S31	G 🗵	3	深鉢	0	0		0			良	暗赤褐	暗褐	ナデ	条痕, ナ デ?		
47	S31	D区	2	深鉢	0	0		0			良	赤褐	赤褐	貝殼条痕	条 <sub>痕</sub> , ナ デ?		
48	H19	6 トレンチ	IV	深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	灰赤	条痕, ナ デ?	条痕, ナ デ?		
49	S31	G 区	1	深鉢	0	0					良	にぶい掲	にぶい黄褐	条痕	条痕?		
50	H21	i-1	白砂 下層	深鉢	0	0		0			良	赤	灰赤	条痕,ナデ	条痕		
51	S31	A区	1	深鉢	0	0		0			良	黒褐	暗赤褐	条痕	オサエ、条 痕		19 と同一か?
52	S31			深鉢	0	0		0			良	赤褐	赤褐	貝殼条痕	貝殼条痕	沈線	
53	H19	5 トレンチ		深鉢	0	0		0			良	にぶい赤	灰赤	条痕, ナ デ?	条痕		
54	1119	6 トレンチ	IV	深鉢	0	0		0			良	暗赤灰	赤灰	条痕, ナ デ?	条痕		圧痕調査 (461JN0002)
55	H21	h-1		深鉢	0	0		0			良	明赤褐	にぶい橙	条痕, ナ デ?	条痕, ナ デ?		
56	H21	j-1	II	深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	黒褐	条痕	条痕?		
57	S31	G区	2, 4	深鉢	0	0					良	にぶい黄橙	灰黄褐	貝殼条痕	貝殼条痕		
58	S31			深鉢	0	0		0			良	褐	黒褐	ナデ?	ナデ?	沈線	
59	S31	F区	2	深鉢	0	0		0			良	黒褐	にぶい赤褐	条痕	条痕? 貝殼条痕		
60	S31			深鉢	0	0		0			良良	赤灰赤褐	にぶい橙 褐灰	貝殻条痕 条痕,ナ	貝殼条痕		
62	S31	G 区	1, 2	深鉢	0	0		0	-		良	黒褐	褐灰	デ? 条痕?	条痕		
63	S31	G JA.	1, 2	深鉢	0	0		0			良	明赤褐	にぶい黄橙	果报: 貝殼条痕	貝殻条痕		
64	S31			深鉢	0	0		0			良	明赤褐	暗赤褐	条痕、ナデ?	条痕、ナデ?		
65	S31			深鉢	0	0		0			良	暗褐	明赤褐	条痕	条痕		
66	S31	B 🗷	4	深鉢	0	0		0			良	にぶい橙	黒褐	条痕	条痕		
67	S31	F区	2	深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	赤褐	条痕, オサ エ	条痕, オサ エ		
68	S31	G ⊠	2	壺	0	0		0			良	黒褐	橙	ミガキ	ミガキ		
69	-			壺	0	0		0			良	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ナデ?	?		内面風化
70	-			壺	0	0					良	明赤褐	橙	ミガキ?	?		補修孔あり, 内面風化
71	-			壺	0	0		0		赤〇	良	にぶい褐	明赤褐	ミガキ?	ミガキ?		da artist ().
72 73	S31	A区F区	2 2	浅鉢 浅鉢	0	0	0				良良	にぶい黄梠 にぶい黄橙	掲灰 浅黄橙	ミガキ?	ナデ?		内面風化 内面風化
		F [2.	-	Accessor de										条痕,ナ	-	沈線、	r IIII/AX E
74	S31			深鉢	0	0					良	赤褐	褐	デ?	条痕	刺突	
75 76	S31	Α区	3	深鉢	0	0		0		白〇	良良	明褐赤褐	灰黄褐 黒褐	条痕 貝殼条痕,	? 貝殼条痕,		内面風化,80と同一?
					_									ナデ	ナデ		
77	S31			深鉢	0	0	0	0			良良	赤褐 明赤褐	黒 にぶい赤褐	貝殻条痕 条痕	貝殼条痕 冬痘		小型
78 79	S31 S31			深鉢深鉢	0	0	U	0			良良	暗赤褐	暗赤褐	条痕	条痕 条痕		O SE
80	S31	Α区		深鉢	0	0		0		白〇白	良	明褐	にぶい黄橙	貝殼条痕	?		内面風化,75と同一?
81	S31			深鉢	0	0		0			不良	赤褐	灰褐	オサエ	ナデ?		
82	H21	j-5	かく 乱	深鉢	0	0		0			不良	にぶい赤褐	灰赤	オサエ, ナ デ	ナデ?		
83	S31	F区	3	深鉢	0	0		0			良	にぶい黄橙	にぶい褐	オサエ	?		
84	S31			深鉢	0	0		0			良	赤橙	灰赤	オサエ,へ ラ切り	ナデ?		
85	н	表採		深鉢	0	0		0			良	にぶい橙	赤灰	貝殻条痕, オサエ	貝殼条痕		茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
86	S31			深鉢	0	0		0			良	赤褐	黒	条痕, ナ デ?, オサ エ	条痕		
87	-	表採		深鉢	0	0		0			良	赤	にぶい橙	オサエ, 貝 殻条痕, ナ デ	オサエ, 貝 殻条痕, ナ デ		茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
88	S31			深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	灰赤	貝殼条痕	貝殼条痕		
89	-	表採	-	深鉢	0	0		0			良	にぶい赤褐	にぶい橙	条痕、ナデ	条痕、ナデ		茎永小学校保管資料 (旭氏報告)
90	S31			深鉢	0	0		0		白◎	良	赤褐	黑褐	オサエ,条 痕,ナデ	オサエ		

# 石器 観察表

図番	調査	出土区	層	器種	大きる	(cm)	最大厚	重さ	石材	元 日 位
凶位	年度	11176	眉	石匠作里	a	b	(cm)	(g)	1111	所見等
91	S31	C区	3	磨製石斧	13. 2	7.0	3. 7	-		図面のみ
92	S31	表採		磨製石斧	10.6	5, 25	1. 9	-		図面のみ
93	S31	B 🗷	2	ヘラ形石斧?	5. 0	2.4	0.4	-	粘板岩	図面のみ
94	H21	i-3 ⊠	II	剥片	9, 15	4.7	2. 2	42. 2	硬質砂岩	使用痕あり
95	H21		かく乱	石錐	2.6	1.6	0. 5	1.7	緑泥変岩	
96	S31			剥片	6. 15	2. 7	1. 35	18	硬質砂岩	使用痕あり
97	H21	表採		剥片	4.6	3.8	1.6	15. 6	硬質砂岩	
98	H21	i-2 区		磨製石鏃	現存 1.9	現存 1.55	0. 15	0.7	頁岩	
99	H21	f, g-1 区	ムラサキインコ,ナカ゛ラメ集中	磨製石鏃	1.3	2. 25	0. 2	0.7	頁岩	先端部欠損
100	S31	C区	2	打製石鏃	現存 2.55	2. 35	0.5	-		図面のみ
101	S31			磨石・敲石	12. 4	9.8	4.8	960	砂岩	
102	S31			敲石・凹石	5. 3	6. 9	3. 0	171. 2	砂岩	
103	S31			磨石・敲石	8. 7	6.8	3. 1	300	砂岩	
104	H21	i-2 ⊠	П	敲石・凹石	現存 5.5	6.05	2.7	135	砂岩	
105	S31			磨石・敲石	11.45	10.8	4.2	730	砂岩	
106	H21	i-2 ⊠		磨石・敵石	現存 9.7	5. 9	3, 45	240	砂岩	
107	H21	i-3 ⊠	II	磨石	現存 3.1	現存 6.5	2. 4	67.6	砂岩	
108	S31			磨石・敵石	12. 7	9.8	4. 2	745	砂岩	

# 貝鏃 観察表

> \ _11/\	-/0/	1 1							
図番	調査 年度	出土区	層	大きさ a	(cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	貝種	所見等
109	H21	h-1 ⊠	II	2. 15	1.8	0. 15	0.9	ハマグリ	
110	H21	j-2 区	II	1.95	1.5	0. 15	0.5	ハマグリ	
111	H21	j-1 ⊠	Ⅱ g 最下層	2. 25	1.9	0.4	1.5	ハマグリ	未製品
112	H21	j-1 区先行ト レンチ	II	2. 1	1.7	0. 2	1.0	ハマグリ	
113	H21	j-1 ⊠	Ⅱ f 層最下面	1. 7	現存 1.45	0. 2	0.6	ハマグリ	基部欠損
114	H21	i-1 ⊠	II	2. 55	現存 1.6	0.18	0.9	ハマグリ	基部欠損
115	H21	i-1 区	II	2. 4	現存 1.85	0. 2	1.2	ハマグリ	基部欠損
116	H21	j-2 ⊠	II	2. 4	1. 95	0. 2	1. 2	ハマグリ	
117	H21	h-1 区	П	2. 75	現存 1.95	0. 15	1. 2	ハマグリ	基部欠損
118	H21	i-2 区	ハマグリ集中下部	1.85	1.6	0. 15	0.7	ハマグリ	
119	H21	j-1 ⊠	II g 最下層	2. 3	現存 1.95	0.4	1.8	ハマグリ	未製品
120	H21	j-1 区	Ⅱ f 層最下面	2. 2	1. 75	0. 4	2.0	ハマグリ	未製品
121	H21	i-2 区 D	貝集中区 2-2	1. 7	現存 1.2	0. 15	0.4	ハマグリ	基部欠損
122	H21	h-1 ⊠	П	1.6	1.4	0.18	0.5	ハマグリ	
123	H21	h-1 区	II	現存 1.55	2.0	0. 15	0.7	ハマグリ	先端部欠損
124	H21	f-g ⊠	П	1.4	1. 55	0. 2	0. 4	ハマグリ	
125	H21	h-1 ⊠	П	1.2	1. 4	0.15	0.3	ハマグリ	
126	H21	i-6 ⊠	П	1. 7	2. 95	0.4	2. 2	ハマグリ	未製品
127	H21	j-1 ⊠	II g 上層	2.3	2.7	0.4	3.6	ハマグリ	未製品
128	H21	j-1 区	Ⅱ f 層最下面	2. 5	2. 15	0. 45	3. 1	ハマグリ	未製品
138	H21	i-6 区	II	2.95	1.55	0.45	2.8	ハマグリ	未製品

# 貝輪 観察表

図番	調査	出土区	層	貝種	大きさ	(cm)	重さ (g)	所見等
MIT	年度	ЩТР	眉	只包	A (L/S)	B (L/S)	里 ( ( g )	別兄等
129	H21	h-g区 j区	貝だまり a (I-a) 土層断面南壁	オオツタノハ	7, 55/5, 4	5. 1/3. 45	9. 2	
130	S31			オオツタノハ	(5. 3/4, 2)	(8.4/6.9)	-	図面のみ
131	S31			オオツタノハ	(4.4/2.8)	(6, 6/5, 4)		図面のみ
132	H21	g−1 区	II -1	オオツタノハ		-	7. 4	
133	S31			オオツタノハ	_	-	2. 9	
134	S31			オオツタノハ	-	=	8. 3	
135	H21		かく乱	オオツタノハ		-	1. 7	

# 有孔製品 観察表

図番	調査	出土区	553	大きる	₹ (cm)	最大厚	重さ	貝種	所見等
	年度	шть	層	a	b	(cm)	(g)	只俚	月 元 守
136	S31			3. 2	3, 35	-	-	トドロキガイ	中央に穿孔あり、図面のみ
137	H21	先行トレンチ H		3. 15	3. 55	0.3	6. 2	トドロキガイ	基部に穿孔あり

# 貝刃 観察表

図番	調査	出土区	層	大きる	5 (cm)	最大厚	重さ	貝種	所見等
DITH	年度	田工区	YES	a	b	(cm)	(g)	-PATIE	77元4
139	H21	i-6 区	II	5. 5	2. 7	0.45	11.7	ハマグリ	

# ノシガイ珠 観察表

ford are.	調査	00.1.52	57	大きる	≤ (cm)	重さ (g)	所見等
図番	調査 年度	出土区	層	長さ	最大厚	] 里e (g)	<b>州兄等</b>
140	H21	h-1 ⊠	II	1. 7	1	1.4	
141	H21	g−1 区	II	1. 45	0.8	0.6	
142	H21	j-3区 サブトレンチ		1.65	0.8	1.1	
143	H21	i-5 ⊠	かく乱	1.4	0.85	0.7	

# イモガイ珠 観察表

図番	調査 年度	出土区	層	最大径 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	種類	所見等
144	H21	h-1 区	獣骨集中	0.7/0.7	0. 55	0. 2	Ⅱ類	
145	H21	j-2 区	Пб	0.9/1.0	0.4	0.4	I類	
146	H21	h-1 ⊠	II	0.9/1.0	0.3	0.4	II類	

# 細形ツノガイ珠 観察表

図番	調査	出土区	層	大きさ	(cm)	重さ (g)	所見等
四部	年度	шль	763	а	b	重さ (g)	刀允守
147	H21	i-3 ⊠	II	1. 0	0. 2	0.1以下	
148	H21	j-1 ⊠	Ⅱ f 層最下面	0. 95	0. 2	0.1以下	

# 骨角牙器 観察表

図番	調査	出土区	層	器種	大きさ	(cm)	最大厚	重さ	種別	所見等
	年度	шлъ	/H	664E	а	b	(cm)	(g)	1,12,71,1	1919年
149	S31	B⊠	3~4	骨刀	現存 29.2	5. 2	1.2	146. 0	クジラ	
150	S31	C区	2	かんざし状製品	12. 2	2.35	0.3	3.4	鹿中足骨か中手骨	
151	S31	B区	3	かんざし状製品	8. 45	1.0	0.4	2. 3	鹿中足骨か中手骨	
152	S31	B区	3	加工痕のある骨器	現存 2.9	0.8	0.55	1		全面研磨, 図面のみ
153	S31	C⊠	2	加工痕のある骨器	現存 4.1	0.75	0.5	_		全面研磨, 図面のみ
154	S31	B 区	2	加工痕のある骨器	6. 95	0.9	0.5	-		全面研磨, 図面のみ
155	S31	F区	2	加工痕のある骨器	2. 95	0.8	0.35	-		全面研磨,図面のみ
156	S31	B⊠	3	加工痕のある骨器	現存 3.8	0.6	0.45	-		全面研磨,図面のみ
157	S31	C⊠	1	加工痕のある骨器	4.6	1.0	0.7	_		片面研磨,図面のみ
158	S31	Α区	1	加工痕のある牙器	7. 5	1.2	0.3	-	イノシシ	図面のみ
159	H21	j-1 区サフ゛トレンチ	1-2 層	刺突具	現存 2.3	0.4	0.4	0.3		全面研磨
160	H21	j-2 区サブ・トレンチ I		刺突具	現存 1.7	0.85	0.3	0. 4		片面研磨
161	H21		かく乱	刺突具	現存 4.6	0.8	0.35	1.0		
162	H21		かく乱	刺突具	現存 3.3	1.0	0.45	1.0	シカカヘイノシシの四肢骨	
163	H21		かく乱	鹿角製品	現存 5.25	3.05	0.8	5.8	鹿角	
164	H21	j-2 区サブ・トレンチ I		刺突具	現存 1.4	0. 5	0.4	0. 1		全面研磨
165	H21		かく乱	加工痕のある牙器	5. 45	0.8	0.4	1.8	イノシシ下顎左第2切 歯	
166	H21	j-2 区	II a 下層	サメ歯垂飾品	1. 35	1.6	0.3	0.3	メジロザメ科上顎歯	
167	H21	i-2 ⊠	Ⅱ層ハマグリ取上 後獣骨集中層面	サメ歯垂飾品	0.8	0.95	0. 13	0.1以下	炒"叻",科上顎苗	
168	H21	j-1 ⊠	Ⅱ f 下層最下面 より下	サメ歯垂飾品	1. 2	1. 5	0. 25	0. 2	炒"咁"从科	
169	H21	j-1 区 i トレンチ 側サブトレンチ		サメ歯垂飾品	1.2	1.2	0.2	0. 2	炒゚ロザメ科下顎歯	
170	H21	j-1~3区サブ トレンチ		サメ歯垂飾品	現存 0.7	1.1	0. 2	0. 1	タジロザメ科上顎苗	
171	H21	j-2 区	П	サメ歯研磨品	2	1.6	0.4	0.4	ミズワニ科	

# 第IV章 自然科学分析

### 第1節 炭化物の放射性炭素年代

㈱加速器分析研究所

#### 1. 測定対象試料

一陣長崎鼻遺跡の測定対象試料は、包含層 II 層上部出土木炭(C1:IAAA-92850)、包含層 II 層下部出土木炭(C2:IAAA-92851)、包含層 II 層下部出土土器(図番 I3)付着炭化物(C3:IAAA-92852)、合計 I4 点である。

#### 2. 測定の意義

本遺跡は黒川式期の単純遺跡であるため、本遺跡の形成年代と黒川式の年代を知るための参考とする。

#### 3. 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理,アルカリ処理,酸処理(AAA:Acid Alkali Acid)により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では 1N の塩酸(80°C)を用いて数時間処理する。その後,超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では 1N の水酸化ナトリウム水溶液(80°C)を用いて数時間処理する。なお,AAA 処理において,アルカリ濃度が 1N 未満の場合,表中に 1N AaA と記載する。その後,超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では 1N の塩酸(1N00~Cで乾燥する。希釈の際には,遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め,真空下で 封じ切り,500℃で30分,850℃で2時間加熱 する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度 差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO2) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素 のみを抽出(水素で還元)し、グラファイトを 作製する。
- (6) グラファイトを内径 1mm のカソードに詰め, それをホイールにはめ込み,加速器に装着する。

### 4. 測定方法

測定機器は、3MV タンデム加速器をベースとした  $^{14}$ C-AMS 専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。測定では、米国国立標準局(NIST)から提供されたシュウ酸(HOx II)を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

#### 5. 算出方法

- (1) 年代値の算出には, Libby の半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。
- (2) <sup>14</sup>C 年代 (Libby Age: yrBP) は,過去の大気中 <sup>14</sup>C 濃度が一定であったと仮定して測定され,1950 年を基準年(0yrBP)として遡る年代である。この値は,δ <sup>13</sup>C によって補正された値である。 <sup>14</sup>C 年代と誤差は,1 桁目を四捨五入して10 年単位で表示される。また, <sup>14</sup>C 年代の誤差(±1σ)は,試料の <sup>14</sup>C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3)  $\delta$  <sup>13</sup>C は、試料炭素の <sup>13</sup>C 濃度 ( $^{13}$ C/<sup>12</sup>C)を 測定し、基準試料からのずれを示した値である。 同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分 偏差 (‰)で表される。測定には質量分析計あ るいは加速器を用いる。加速器により  $^{13}$ C/ $^{12}$ C を測定した場合には表中に (AMS) と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon) は,標準現代 炭素に対する試料炭素の <sup>14</sup>C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の <sup>14</sup>C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ, 過去の <sup>14</sup>C 濃度変化などを補正し, 実年代に近 づけた値である。暦年較正年代は、14C年代に 対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標 準偏差 (1 σ = 68.2%) あるいは 2 標準偏差 (2 σ = 95.4%) で表示される。暦年較正プログ ラムに入力される値は, 下一桁を四捨五入しな い<sup>14</sup>C年代値である。なお、較正曲線および較 正プログラムは、データの蓄積によって更新さ れる。また、プログラムの種類によっても結果 が異なるため、年代の活用にあたってはその種 類とバージョンを確認する必要がある。ここで は,暦年較正年代の計算に,IntCalO4データベー ス (Reimer et al. 2004) を用い、OxCalv4.1 較正プログラム (Bronk Ramsey 1995; Bronk Ramsey 2001; Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

#### 6. 測定結果

 $^{14}$ C 年代は,包含層  $^{II}$ 層上部出土木炭  $^{C1}$  が 2470  $^{\pm}$  30yrBP,包含層  $^{II}$ 層下部出土木炭  $^{C2}$  が 2520  $^{\pm}$  30yrBP,包含層  $^{II}$ 層下部出土土器付着炭化物  $^{C3}$  が 2450  $^{\pm}$  30yrBP である。  $^{II}$  層上部の  $^{C1}$  と下部の  $^{C2}$  、 $^{C3}$  の間には,ハマグリ集中を介した層位の上下関係があるものの,年代値は相互に近接している。これらの暦年較正年代( $^{I}$   $^{\sigma}$  )は,上限が紀元前8世紀中葉頃,下限が紀元前6~5世紀頃の範囲で示され,較正曲線が平坦に推移する部分に当たっている。

炭素含有率はすべて 40%を超え, 化学処理, 測 定上の問題は認められない。

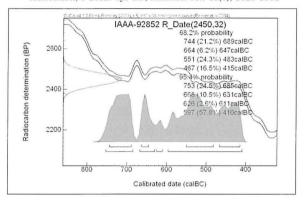
#### 参考文献

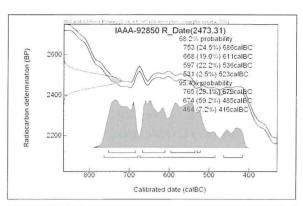
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of "C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

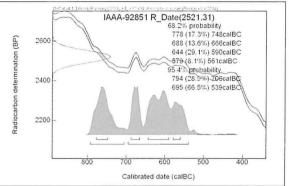
Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the radiocarbon calibration program,  $Radiocarbon\ 43(2A),\ 355-363$ 

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46(3), 1029-1058







[参考] 暦年較正年代グラフ

				試料	処理		δ13C 補	i正あり
測定番号	試料名	採取場所		形態	方法	$\delta^{13}$ C(‰) (AMS)	Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-92850	C1	遺構:包含層 層位	: Ⅱ層上部	木炭	AAA	$-27.21 \pm 0.65$	$2,470 \pm 30$	$73.50 \pm 0.29$
IAAA-92851	C2	遺構:包含層 層位	:Ⅱ層下部	木炭	AAA	$-26.16 \pm 0.40$	$2,520 \pm 30$	$73.06 \pm 0.28$
IAAA-92852	C3	遺構:包含層 層位	: Ⅱ層下部	炭化物	AaA	$-25.78 \pm 0.34$	$2,450 \pm 30$	$73.71 \pm 0.30$

測定番号	δ13C 補	正なし	唇年較正用 (yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
例是番号	Age(yrBP)	pMC (%)	音中蚁正角 (yrbr)	10治平八型团	20 佰平八吨团
IAAA-92850	$2,510 \pm 30$	73. $16 \pm 0.27$	$2,473 \pm 31$	753BC-686BC (24. 5%) 668BC-611BC (19. 0%) 597BC-536BC (22. 2%) 531BC-523BC ( 2. 5%)	765BC-679BC (29. 1%) 674BC-485BC (59. 2%) 464BC-416BC ( 7. 2%)
ТААА-92851	$2,540 \pm 30$	72. 89 $\pm$ 0. 28	$2,521 \pm 31$	778BC-748BC (17. 3%) 688BC-666BC (13. 6%) 644BC-590BC (29. 1%) 579BC-561BC (8. 1%)	794BC-706BC (28. 9%) 695BC-539BC (66. 5%)
IAAA-92852	$2,460 \pm 30$	73. 59 $\pm$ 0. 30	$2,450 \pm 32$	744BC-689BC (21. 2%) 664BC-647BC ( 6. 2%) 551BC-483BC (24. 3%) 467BC-415BC (16. 5%)	753BC-685BC (24.5%) 668BC-631BC (10.5%) 626BC-611BC (2.6%) 597BC-410BC (57.8%)

[参考値]

# 第2節 一陣長崎鼻遺跡から出土した炭化材 の樹種

㈱加速器分析研究所

#### はじめに

鹿児島県南種子町一陣長崎鼻遺跡は、縄文時 代晩期(黒川式)の単純遺跡とされる。今回の 分析調査では、獣骨集中箇所から出土した炭化 材の樹種を明らかにするために、樹種同定を実 施する。

## 1. 試料

試料は、i-3 区Ⅱ層下部の獣骨集中箇所から 出土した炭化材 1点(C2)である。

#### 2. 分析方法

試料を自然乾燥させた後,木口(横断面)・ 柾目(放射断面)・板目(接線断面)の3断面 の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電 子顕微鏡を用いて木材組織の種類や配列を観察 し, その特徴を現生標本および独立行政法人森 林総合研究所の日本産木材識別データベースと 比較して種類を同定する。

なお、木材組織の名称と特徴は、島地・伊東 (1982) および Richter 他 (2006) を参考にする。

## 3. 結果

炭化材は、針葉樹のマツ属複維管東亜属に同 定された。解剖学的特徴等を記す。

・マツ属複維管束亜属(Pinus subgen. Diploxylon) マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成され る。仮道管の早材部から晩材部への移行は急~ やや緩やかで, 晩材部の幅は広い。垂直樹脂道

は晩材部に認められる。放射組織は、仮道管、 柔細胞, 水平樹脂道, エピセリウム細胞で構成 されるが, 水平樹脂道とエピセリウム細胞はい ずれも破損し、痕跡として残るのみである。分 野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には鋸歯 状の突起が認められる。放射組織は単列、1-10 細胞高。

### 4. 考察

獣骨集中箇所から出土した炭化材は、炭化し ていることから、何らかの人間活動により火を 受けていることが推定される。複維管東亜属に は、アカマツ・クロマツと両種の雑種、リュウキュ ウマツが含まれる。複維管束亜属は、他の樹木 が生育し難い海岸の砂丘上, 岩場, 湿地等にも 生育可能であり、伐採後の陽地にいち早く侵入 する。木材は、比較的強度が高く、松脂を多く 含むために燃焼性も高い。現在の植生を考慮す れば、複維管束亜属は本遺跡周辺に生育してい たことが推定され、燃料などに利用されていた ことが推定される。

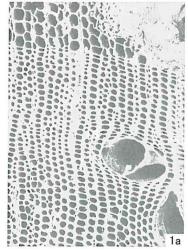
#### 引用文献

Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P. E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡的特徴リス ト. 伊東隆夫·藤井智之·佐野雄三·安部久·内海泰弘 (日本語版監修), 海青社, 70p. [Richter H. G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].

島地謙·伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.

※) 本分析は、当社協力会社・パリノ・サーヴェ イ株式会社にて実施した。

図版1 炭化材



1.マツ属複維管束亜属(C2) a:木口.b:柾目.c:板目







200 µ m:a 100 μ m:b,c

# 第3節 一陣長崎鼻遺跡出土貝類の放射性炭 素年代

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

一陣長崎鼻遺跡(鹿児島県熊毛郡南種子町中 之下に所在)は、海岸砂丘上に形成された縄文 時代晩期(黒川式)の貝塚遺跡で、これまでに も放射性炭素年代測定や樹種同定などが行われ ている。今回の分析調査では、調査区内から出 土した貝類について放射性炭素年代測定を実施 した。

### 1. 試料

試料は、調査区内から出土した貝類 2 点である。1 点は昭和 31 年の発掘調査で出土したダンドクメンガイで、出土位置など詳細不明だが I・Ⅱトレンチ揚土 (排土)からピックアップされた試料の可能性が高いとされている。もう 1 点は、平成 21 年の発掘調査で j-1 区 Ⅱg 層から出土したとされるハマグリである。

#### 2. 分析方法

メス,ピンセットを使い根・土等の付着物を 取り除き,超純水に浸し,越音波洗浄を行う。 試料の表面を 1mol/1(1M) の塩酸を用いて約 30% 溶かし,不純物を除去する(Edg)。その後,越 純水で中性になるまで希釈し,乾燥させる。試 料中の炭酸カルシウムを分解し,二酸化炭素を 発生させる。真空ラインで二酸化炭素を精製す る。精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素 で還元し,グラファイトを生成させる。グラファ イトを内径 1mm 孔のカソードにハンドプレス機 で詰め,それをホイールにはめ込み,測定装置 に装着する。

測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした <sup>14</sup>C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用し、<sup>14</sup>C の計数、<sup>13</sup>C 濃度 (<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C)、 <sup>14</sup>C 濃度 (<sup>14</sup>C/<sup>12</sup>C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX-II) を標準試料とする。この標準試料とバッ

クグラウンド試料の測定も同時に実施する。

放射性炭素の半減期は、LIBBYの半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点 とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。なお、暦 年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.00 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

なお、暦年較正とは大気中の HC 濃度が一定で半減期が 5,568年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の HC 濃度の変動、半減期の違い (HC の半減期 5,730 ± 40年)を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表している。

暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ ,  $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が 68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が 95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ ,  $2\sigma$ の範囲をそれぞれ 1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

#### 3. 結果

同位体効果による補正を行った年代測定結果を表 1, 暦年較正結果を表  $2 \cdot 図$  1 に示す。補正年代は,ダンドクメンガイが 3,  $280 \pm 30$ BP,ハマグリが 2,  $830 \pm 30$ BPを示す。また,測定誤差を  $\sigma$  として計算させた暦年較正結果は,ダンドクメンガイが ca1BC1,  $229 \sim 1$ , 119, ハマグリが ca1BC1,  $276 \sim 1$ , 057 である。

これによるとダンドクメンガイとハマグリはいずれも縄文時代後期に属すると推定されるが、約500年程度の年代幅があるとみられる。今後、 貝塚の上部および底部付近の貝類の年代測定を 実施し、貝塚の形成年代などに明らかにしていきたい。

#### 表 1. 放射性炭素年代測定結果

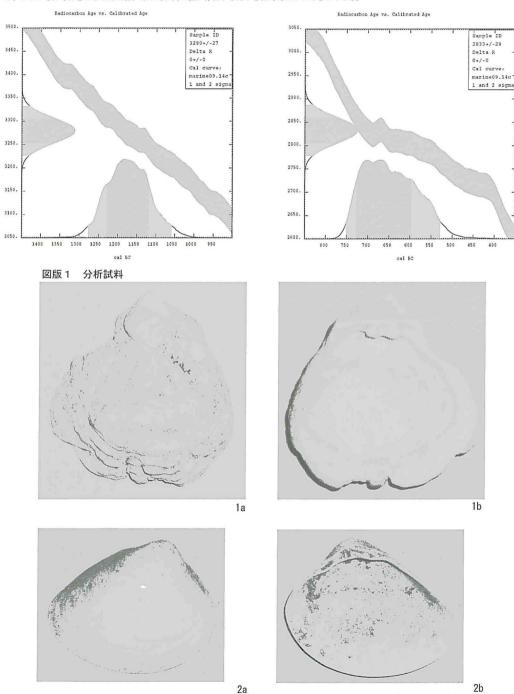
	種類	発捆年	採取地点等	処理 方法	補正年代 BP	δ 13 C (‰)	測定年代 BP	Code No.
二枚貝綱	ダンドクメンガイ	昭和31年	Ⅰ・Ⅱトレンチ揚土(排土)?	Edg	3,280 ± 30	-0.90 ± 0.45	2,890 ± 30	IAAA-101587
二枚貝綱	ハマグリ	平成 21 年	j-1区 Ⅱ g居	Edg	2,830 ± 30	-0.65 ± 0.61	2,440 ± 30	IAAA-101588

- 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
   BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
   付記した誤差は、測定誤差σ (測定値の 68.2%が入る範囲) を年代値に換算した値。

#### 表 2. 暦年較正結果

	種類	発掘年	採取地点等	補正年代 (BP)		7700 - 222				居年前	交正年	三代 (ca	I)					相対比	Code No.
- He F1 601	ダンドクメンガイ	DUTE OF AN	I・Ⅱトレンチ	3,280 ± 27	σ	cal	BC	1, 229	=	cal	BC	1, 119	cal	BP	3, 178	-	3,068	1.000	IAAA-101587
仪只初	クントクメンガイ	1014日31 4-	揚土(排土)?	3, 280 ± 21	2 σ	cal	BC	1,276	-	cal	BC	1,057	cal	BP	3, 225	-	3,006	1.000	1AAA-101587
二枚貝綱	12-7 H 11	77 ct: 91 45	j-1区 II g 層	0 000 + 00	σ	cal	BC	727	-	cal	BC	597	cal	BP	2,676	==	2,546	1.000	1AAA-101588
一权只裥	71499	十0人21 4	J-1 K H g/H	2,000 ± 20	2 σ	cal	BC	750	-	cal	BC	528	cal	BP	2,699	=	2,477	1.000	17/1/101900

- 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0 (Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer) を使用した。
   計算には表に示した丸める前の値を使用している。
   1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
   続計的に真の値が入る確率はσは68%、2σは95%である。
   相対比は、σ、2σのそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。



2cm

# 第4節 鹿児島県種子島・一陣長崎鼻遺跡出 土の縄文時代晩期人骨

中橋孝博

(九州大学大学院比較社会文化研究院)

## はじめに

鹿児島県種子島の先史住民については, 広田 遺跡(弥生~古墳時代)から出土した150体あ まりの人骨がよく知られ、その特異とも言える 形質についてこれまで多くの議論を呼んできた。 著しい短頭, 低顔, 低身長と言った, 他地域の 先史住民とは大きく隔たった特徴を持つ広田人 はどのような来歴を持つ集団なのか, その正確 な位置づけは日本人の形成史において南西諸島 先史住民が果たした役割を考える上で極めて重 要な意味を持つと考えられる。この懸案を解決 に導くには, 近隣集団との比較分析と同時に, 種子島住民の形質に見られる時代変化、とりわ けより古い縄文時代に遡る時期の状況を明らか にすることが不可欠の課題になろう。一陣長崎 鼻遺跡出土人骨は、わずか1体ながら縄文晩期 に遡る時期のものとされ、そうした問題を考究 する上で貴重な資料となるものである。

## 遺跡・資料・方法

一陣長崎鼻遺跡は、鹿児島県種子島南種子町中之下字一陣(俗称:長崎鼻)の海岸砂丘において、昭和29年に川添憲枝氏によって始めて調査された貝塚遺跡である。昭和30年の台風22号によってこの遺跡から人骨が露出したため、川添氏によって採り上げられ、その後、九州大学医学部解剖学教室の金関丈夫教授{当時}に託された。盛園尚孝氏の聞き取り調査(盛園、1968)によれば、地下1.5メートル位の深さに屈葬位で埋葬されていたもので、周辺からは獣骨や貝製品、黒川式土器片などが出土している。

平成19年,同21年に南種子町教育委員会によって,遺跡確認・記録保存を目的とした再調査が実施され,この遺跡が縄文晩期に遡る黒川式の単純遺跡であることが確認された。同調査

により,新たにオオツタノハ貝輪の出土も確認 されている。

人骨の遺存部位を図1に示した。頭蓋は眉間部,上顎骨,鼻骨,および頬骨弓等の一部を欠くが,他部の保存状態は概ね良好である。また,体部骨もほぼ全身各部位が遺存しており,四肢骨の多くは骨端を欠くが,体幹の脊椎,肋骨,骨盤も回収されている。なお,埋葬姿勢の詳細は不明だが,上記の盛園(1968)の聞き取り調査によれば,「手は前でくみ,あしを曲げて・・・」という状態で出土したとされ,一応,屈葬位の可能性が考えられる。ただ仰臥か側臥か,あるいは,屈葬でも股関節や膝関節をどの程度曲げていたのかは不明である。

計測は主に Martin-Saller (1956) に従った。 また,鼻根部の計測は鈴木 (1963),顔面平坦度 は Yamaguchi (1973),脛骨については一部,森 本 (1971) の方法に従った。

#### 結果

# 1. 性別·年齢

全体的に頑丈で乳様突起等の筋付着部の発達 がよく、特に恥骨、大坐骨切痕等の骨盤形態から男性と見なされる。また、頭蓋冠主要縫合の 癒合がかなり進行していること、歯の噛耗の程 度が強いことなどから、熟年、もしくは老年(60 歳以上)に達した高年齢個体と見なされる。

### 2. 形態的特徵

## (頭蓋骨)

計測結果を表1に比較群と共に示す。また, 広田集団(中橋,2003)を基準とした偏差折線 を図2に示した。

一陣長崎鼻人骨の頭蓋冠はかなり大きく,水平周は541mmに達する。特に頭蓋最大幅(154mm)の大きさが目立ち,表示した主要な比較群の平均値を大きく上回っている。その結果,頭長幅示数は85.3で,強い短頭型を示す。ただ,後世の広田集団にみられるような後頭部が強く圧迫を受けたような変形像は見られない。また,頭

高が低い(128mm)ことも当人骨の目立った特徴で、比較群の中では同じ種子島の広田に比較的近い。特に前頭骨後半から頭頂骨前半にかけての部分がかなり扁平で、前額が後退したような独特の風貌を形成している。

顔面部もかなりサイズが大きく, 横径, 特に 頬骨弓部の張り出しの強さが目立つ (頬骨弓幅: 150mm)。上顔高も 71mm で、縄文人としては比較 的高く, 広田 (上顔高: 62.2mm) との差は特に 著しい。ただ、示数値(例えば Kallmann 上顔示 数:47.3) によって高・横径のバランスを見る と, やや低顔傾向が見られ, 高顔性を主要な特 徴とする北部九州・山口弥生人の平均値(53.0) とは明らかな違いがある。眼窩高(31mm)も非常 に低く、眼窩示数 (72.1) は、強度の低眼窩を特 徴とする広田の平均値(74.2)を下回っている。 一方, 鼻高 (55mm) の高さは逆に広田はもとより, 北部九州弥生人の平均(52.8mm)よりもなお高く, 当人骨が示すやや特異な変異の一つとなってい る。ただ, 鼻幅もかなり広いため, 鼻示数 (52.7) での比較結果ではさほど偏った傾向は見られな V1

顔面部の立体性が非常に顕著で、鼻骨、前頭骨の彎曲の強さが目立つ。鼻骨彎曲示数 (75.5)、鼻骨平坦示数 (44.7) はともに広田や他の縄文人集団に類似し、北部九州弥生人等との差が著しい。前頭骨の平坦性も非常に弱く、全体的に彫りの深い顔貌を形成する主な要素となっている。突顎性は弱い。

下顎は比較的頑丈な傾向を示すが,下顎頭間幅, 下顎角幅は共にやや狭い。頤高も現代人(35.6mm) より低く,吉母浜中世人(32.1mm)に近い。下顎 体厚はやや大きく,筋突起の発達は良好で,下 顎枝幅もやや広いため,かなり大きな下顎枝示 数(60.7(左))を示す。

残存歯を以下に示す。

上顎左中切歯は生前に脱落して歯槽が閉鎖しているほか、右上顎犬歯、右下顎第一大臼歯が欠損している。咬耗がかなり進行し、象牙質の露出が全歯で見られる。上顎左右の第一大臼歯と第二小臼歯の歯頸部に齲蝕が見られる。また、上・下顎の切歯や特に犬歯に明瞭なエナメル質減形成が確認できる(写真1)。

## (四肢骨)

上肢骨の計測結果を表 2 に、下肢骨の計測結果を表 3 にそれぞれ比較群と共に示した。全体的に筋付着部の発達も良く、かなり頑丈な特徴が見られる。

上肢の上腕骨はかなり長く,近隣の広田集団を大きく上回っている。ただ,骨体はやや細く,長厚示数(21.7)も縄文人(津雲:23.0)より小さく,北部九州・山口弥生人(21.0)に近い。骨体に扁平傾向も見られない。前腕骨の特徴は不明確だが,骨体部に特に目立った変異は確認できない。

下肢の大腿骨では骨体の太さ,特に粗線の発達の良さと,それに因る中央断面示数 (111.5)の大きさが目立ち,本州の縄文晩期集団ほどではないが,広田 (108.2)や北部九州・山口弥生人の平均値 (106.8)を上回っている。脛骨はかなり長く,その最大長 (351mm)は,特に短い広田 (309mm)はもとより,北部九州・山口弥生人(352.3mm)に近い。骨体にはやや扁平傾向が認められる。また,腓骨が非常に太く,その骨体諸径は広田とも大きく隔たった傾向を見せている。

表 4 に、上肢・下肢の相対的な太さを比較した結果を示したが、同じような遺跡環境下にあった広田が強く上肢に偏った発達を見せるのに対し、当人骨の上肢は比較的細く、発達した下肢とはやや相違した傾向を見せている。

M3 M2 M1 P2 P1 / I2 ○ | × I2 C P1 P2 M1 M2 M3

M3 M2 / P2 P1 C I2 I1 I1 I2 C P1 P2 M1 M2 M3

(○: 歯槽解放, ×: 歯槽閉鎖, /: 欠損)

表5に推定身長を示した。脛骨最大長を用いているため、やや不正確な比較結果ではあるが、 当人骨がかなり高身長であったことが窺え、極 度の低身長を特徴とする広田とはこの点でも顕 著な違いを示している。

### 考察

#### 1. 一陣長崎鼻人骨と広田集団

前述のように、種子島における先史時代以降 の住人形質の時代変化を明らかにすることは当 地における主要な研究課題であるが、今回明ら かになった縄文晩期所属の男性人骨は、近隣の 時代的にも近い広田集団(弥生~古墳)とのあ いだに、共通する部分(短頭性、低頭性、低顔・ 低眼窩傾向、彫りの深い顔貌など)と大きな隔 たりを示す部分(大きな顔面サイズ、高鼻、高 身長、細い上肢、太い腓骨など)が同時に確認 できる結果となった。

まず、強い短頭性では一応共通するものの、 一陣長崎鼻人骨の後頭部には広田人のような扁 平傾向は見られず、その成因が異なる可能性も 考慮に入れておく必要があろう。広田人後頭部 の扁平化が意図的な人工変形の産物か否かはま だ議論を要する問題だが、一陣長崎鼻頭蓋には そうした人工変形を想起させる変形像は見られ ないことをここに注記しておきたい。

また、広田は極度の低顔性を主な特徴としているが、示数値ではさほどではないものの、上顔高値が大きく隔たっている点も目立った差異の一つとして指摘できる。鼻高値も非常に高く、広田とは好対照である。体部骨では高身長である点などさらに顕著な差が見られ、多くの共通点の存在は考慮してもなお、当人骨を後世の広田集団を生み出す母胎、先祖集団の一員として位置づけるにはまだ無理があろう。図3に、当人骨と他集団とのペンロースの形態距離(頭蓋9項目)を示したが、一応、縄文晩期人として本州の同時代人とは比較的類似傾向をもつことが確認できるが、広田との特に強い近縁性を窺わせる結果とはなっていない。種子島の縄文集

団と広田集団の間に連続性があるか否かは,広田集団が提示した形質,文化両面にわたる興味深い論点の解決にも必須の課題である。もちろん今回得られたのは僅か1体での結果であり,この点は今後,同時代,同地域の類例の充実を図って引き続き検討する必要がある。

#### 2. 歯牙

また, 一陣長崎鼻頭骨では, 上記のように, 上顎左の中切歯が生前に脱落し、その歯槽部が 閉鎖しているが (写真1), この点について, 金 関丈夫(1958)は風習的抜歯の可能性がある ことを指摘している。近隣の広田遺跡(中橋, 2003) でも、上顎の側切歯と犬歯を対象とした 偏側性の抜歯例が多く確認されている。しかし、 上顎の中切歯を対象とした片側抜歯例は、今の ところ, 東シナ海を挟んだ対岸の中国・圩墩遺 跡 (Kan & Nakahashi, 1990) の新石器時代人に 確認できるのみで, 近隣地域には類例が見いだ せない。言うまでもなく, 風習的抜歯の場合は, 少なくとも当該地域, 時代の人々に同形式の抜 去が普及していることが確認されねばならない が、金関の報告から50年あまりを経過した現在 も, そうした事例は報告されていない。 周知の ように、上・下顎の切歯部は事故など他の非意 図的な要因で脱落する可能性も高く, また, も ともと歯槽閉鎖部の観察所見のみでの確定診断 は困難であり, 本例が「風習的抜歯」の痕跡で あることの確認には今後の類例の出土が必要で あると考える。最後に、当人骨の歯については もう一つ,金関(1958)や盛園(1968)によって, 下顎左中切歯に人為的水平研歯の可能性が指摘 されていることを付記しておきたい(写真1)。 残念ながら今回の観察ではその明確な確認はで きなかったが、今後この地域の古人骨を調べて いく上での注意事項の一つになろう。

謝辞 本報告をまとめるにあたり、南種子町教 育委員会の諸先生から多くのご教示を得た。記 して謝意を表したい。

#### 文 献

- 阿部英世(1955):「現代九州人大腿骨の人類学的研究」, 人類学研究2
- 百々幸雄(1982):「東北地方縄文人男性の頭蓋計測」,人 類学雑誌、90:119-128.
- 原田忠昭(1954):「現代西南日本人頭骨の人類学的研究」, 人類学研究1
- Han Kangxin and T. Nakahashi (1996): 「A comparative study of ritual ablation in ancient China and Japan」,

  Anthropological Science, 104
- 平井隆・田幡丈夫(1928):「現代日本人骨の人類学的研究, 第4部 下肢骨の研究」、人類学雑誌 43
- 池田次郎 (1985):「海と山の縄文人-形態の地域差と時代 差」,日本史の黎明,六興出版
- 今道四方爾(1933):「太田貝塚人々骨の人類学的研究,第 一部,頭蓋骨の研究,人類学雑誌48
- 今道四方爾(1934):「太田貝塚人々骨の人類学的研究,第 二部,下肢骨の研究,人類学雑誌49
- 今道四方爾(1935):「太田貝塚人々骨の人類学的研究,第 三部,上肢骨の研究,人類学雑誌50
- 鑄鍋命達(1955):「九州人下腿骨の研究」, 人類学研究 2 石沢命達(1931):「吉胡貝塚人骨の人類学的研究, 第 3 部, 下肢骨の研究」, 人類学雑誌 46
- 城一郎 (1938):「古墳時代日本人人骨の人類学的研究」, 人類学輯報 1
- 金関丈夫(1958):「種子島長崎鼻遺跡出土人骨に見られた下顎中切歯の水平研歯例」、九州考古学3・4号
- 金高勘次(1928):「吉胡貝塚頭骨の人類学的研究」, 人類 学雑誌 43
- 清野謙次・平井隆(1928):「津雲貝塚人骨の人類学的研究, 第3部,上肢骨の研究;第4部,下肢骨の研究」,人類 学雑誌43
- 清野謙次・宮本博人(1926):「津雲貝塚人人骨の人類学的研究,第2部,頭蓋骨の研究」,人類学雑誌41
- Lovejoi, C. O. (1985) : Dental wear in the Libben population: Its functional pattern and role in the determination od adult skeletal age at death. American Journal od Physical Anthropology 68:47-56.
- Martin-Saller(1957): Lehrbuch der Anthropologie. Bd. I. Gustav Fischer Verlag. Stuttgart.

- 松下孝幸(1981):「佐賀県大友遺跡出土の弥生時代人骨」, 大友遺跡,佐賀県呼子町文化財調査報告書1
- 溝口静男(1957):「現代九州日本人前腕骨の人類学的研究」 人類学研究 4
- 宮本博人(1934):「現代日本人人骨の人類学的研究,第二 部上肢骨の研究」、人類学雑誌 40
- 盛園尚孝(1968)「種子島における古代の埋葬(その一)」, 種子島民俗,第18号
- 森本岩太郎(1971):「脛骨横断指数の算出をめぐってー Martin法への反省」, 人類誌 79
- 内藤芳篤(1971):「西北九州出土の弥生時代人骨」, 人類 学雑誌 79
- 中橋孝博(1996):「鹿児島県種子島・鳥ノ峯遺跡出土の弥 生時代人骨」,鳥ノ峯遺跡,中種子町教育委員会
- 中橋孝博(2003):「鹿児島県種子島広田遺跡出土人骨の形質人類学的所見」,種子島広田遺跡,広田遺跡学術調査研究会・鹿児島県立歴史資料センター黎明館
- 中橋孝博·永井昌文(1985):「山口県吉母浜遺跡出土人骨」, 吉母浜遺跡,下関市教育委員会
- 中橋孝博·永井昌文(1989):「弥生人の形質, 男女差, 寿命」, 弥生文化の研究 1, 雄山閣出版
- 中山英司(1952):「人骨」,吉胡貝塚,文化財保護委員会 大場秀夫(1935):「吉胡貝塚人骨の人類学的研究,第4部, 上肢骨の研究」,人類誌50
- 専頭時義(1957):「現代九州日本人上腕骨の人類学的研究」, 人類学研究 4
- 鈴木尚(1963):「日本人の骨」, 岩波新書 477
- Suzuki, H. (1969): Microevolutional changes in the Japanese population from the prehistoric age to the present-day. J. Fac. Sci. Univ. Tokyo, Ser. V, 3:279-309.
- 茂原信生(1993):「第6章 人骨の形質」, 北村遺跡, 中央 自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書11:259-402
- 専頭時義(1957):「現代九州日本人上腕骨の人類学的研究」, 人類学研究 4
- Yamaguchi, B. (1973) : Facial flatness measurements of the Ainu and Japanese crania. Bull. Natn. Sci. Mus. Series D, 6.

表 1. 頭蓋計測値の比較(男性)

表 1. 與盍訂測但0. 遺跡	一陣長崎鼻 一陣長崎鼻		広田		津雲		吉胡	関東	(鈴木)	<u>ال</u> ا	片資料	小	片資料	-	北川		東北	北部	九州・山口	西	南日本
	(縄・晩)	(弥	~古墳)		• 後晚)	(縄	• 後晚)	(縄・	1 11		· 早前)		中後晚)	(縄			中後晚)		弥生)		現代)
		N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	M	N	М	N	М	N	M	N	M
1 頭蓋最大長	184. 0	23	164. 4	37	185. 3	44	183. 2	82	181.9	5	183.6	40	182.8	7	179.1	28	183.0	179	183.4	108	181.4
8 頭蓋最大幅	157. 0	23	146.8	44	146.0	43	145. 0	82	144. 1	5	143. 4	40	145. 1	-	_	28	143.0	183	142.3	108	139. 3
9 最小前頭幅	93. 0	17	99.7	42	97. 1	41	98.0			5	101. 4	36	98.0	3	94.0			184	96.3	108	93.8
<sub>17</sub> バジオン・ブ レグマ高	128. 0	15	129. 9	33	133. 3	12	137.7	33	138. 5	_	Η	22	138. 4	1	163.0	20	140. 9	146	137. 0	108	139.3
8:1 頭蓋長幅示 数	85.3	23	89. 4	37	78.8	38	79. 2	82	79. 2	5	78. 3	40	79. 5	_	_	28	78. 2	163	77.7	108	76. 6
17:1 頭蓋長高示 数	69.6	15	79. 0	32	71. 7	11	75. 4	33	75. 6	-	-	22	75. 5	-	-	20	77. 0	134	75.0	108	76.9
17:8 頭蓋幅高示 数	81.5	15	88. 4	33	92. 2	12	95. 7	33	95. 4	=	=	22	95. 6	-	-	20	98. 7	136	96. 3	108	100. 1
40 顔長	99.0	9	96.6	27	102.0	7	102.3	-	-	-	-	17	102.0	-	; <del></del> 2	_	-	110	100.1	99	97.8
45 頬骨弓幅	150.0	7	137.7	21	143.8	9	140.1	40	144.6	4	142.5	31	140.4	=	-	15	143.1	147	139.8	106	134.5
46 中顔幅	108.0	8	89.9	28	103.6	22	104.1	46	104.8	4	102.3	29	102.2	6	95.8	18	104.3	160	104.6	107	99.9
47 顔高	120.0	9	109.3	26	115.5	13	116.1	35	115.5	_	_			6	109.0	-	-	107	123.2	66	122.2
48 上顔高	71.0	10	62.2	28	65.8	15	64.3	46	66.0	4	64.8	27	68.5	7	65.9	21	66. 1	152	74.3	92	71.8
47:45 Kollmann 顔 示数	80.0	7	79. 9	18	79. 9	5	81. 2	28	80. 2	=	=	=	=	_	=	-	H	95	88. 0	64	91.4
48:45 Kollmann 上 顔示数	47. 3	7	45. 6	19	45.9	4	45. 1	38	45. 4	4	45. 6	25	49. 4	-	-	14	46. 3	129	53. 0	90	53. 5
47:46 Virchow 顔 示数	111.1	7	111.6	20	113. 1	10	108.8	33	110. 2	1 <del></del>	-			4	118. 1			101	117. 6	65	122. 2
Virchow 上 額示数	65. 7	8	63. 4	21	64. 8	14	60.5	41	63. 2	4	71.8	28	67. 3	4	68. 9	17	63. 6	142	71.0	91	71.8
50: IA 鼻根彎曲示 数	75. 5	6	79. 3	-	-	-	-	34	74. 1	-	× <del>-</del>	-	-	-	-	-	-	150	88. 5	89	86. 2
51 眼窩幅(左)	43.0	8	43.1	30	43.5	20	43.1	36	43. 2	3	42.3	26	41.9	4	41.3	22	43.5	128	43.3	108	43
52 眼窩高 (左)	31.0	8	31.8	28	33.8	17	33.1	36	33.0	4	33.3	28	33.0	2	28. 2	21	33.4	134	34.5	108	34. 4
52:51 眼窩示数	72. 1	8	74.2	27	77.4	13	76.7	36	76.9	3	77.0	26	78.6	2	67.2	21	77. 1	124	79.7	108	80.2
54 鼻幅	29.0	10	26.1	30	26.9	21	26.6	47	27.1	4	33.3	28	33.0	3	25.0	17	27.8	160	27.1	108	25.9
55 鼻高	55.0	10	45. 2	30	49.8	15	48.0	45	49.6	3	45.0	25	48.8	1	35.7	19	50.0	158	52.8	108	52. 2
54:55 鼻示数	52.7	9	57.0	27	53.7	14	55.0	45	54.8	3	61.8	25	54.4	1	67.8	17	56.0	154	51.3	108	49.8
57 最小鼻骨幅	12.0	8	8.9	9	9. 2	18	10.2	35	10.6	-	-	-	-	6	8.7	10	9.8	155	8.2	108	7. 1
72 全側面角	91.0	7	84. 1	13	81.9	6	80.8	17	81.9	4	77.5	26	81.0	-	-	.—	-	116	84.8	92	83.8
74 歯槽側面角	=.	6	66	13	70.9	7	68.6	17	67.0	4	57.3	25	65.4	-	-	-	-	111	70.5	107	70.7
FS:FC 前頭骨平坦 示数	19. 4	12	17. 5	15	15. 1	22	14. 7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	145	14. 7	82	15. 7
SS:SC 鼻骨平坦示 数	44. 7	7	38. 3	8	34. 4	9	36.8	-	-	=	=	=	-	=	-			140	27. 9	71	34. 7
ZS:ZC 類上顎骨平 坦示数	23. 3	6	22. 0	9	22. 4	4	22. 2	-	_	-	_	_		-	-	:	_	40	26. 8	66	31.9

清野・宮本 (1926),金高 (1928),Suzuki (1969),小片 (1981),茂原 (1993),百々 (1982),中橋・永井 (1989),原田 (1954)

表 2. 上肢骨計測値の比較 (男, 左)

	一陣長崎鼻		広田		津雲		吉胡		片資料		片資料		栃原		太田		1州・山口	北部力	九州・山口		九州
	(縄・晩)	(引	5~古)		・後晩期)	(縄	後晩期)	(縄	・早前)		・中後晩)	(省	縄・早)	(組	・前中)	(	弥生)		古墳)	(	現代)
上腕骨		N	M	N	M	N	М	N	M	N	M	N	М	N	М	N	М	N	M	N	M
1. 最大長	290	4	263.8	15	283. 3	27	283. 1	3	289	26	291.1	1	298	14	296.3	51	304. 1	12	305	106	295.3
2. 全長	284	4	260.5	15	279	27	278.9	-	-	-	-	-	-	-	-	40	298.7	10	298.6	106	290.6
5. 中央最大径	22	5	22. 2	20	23. 7	25	24.7	6	20.8	52	24.4	2	20.5	23	25	137	23. 2	32	23. 3	106	21.9
6. 中央最小径	17	5	16.6	20	17.7	25	18.1	6	14.7	52	18. 1	2	15	23	18. 2	137	17. 5	32	18	106	16.9
7. 骨体最小周	63	20	62	21	64.7	42	66.6	-	-	-	· -	2	55	22	67.9	147	63.8	33	64.8	106	61.8
7a. 中央周	64	5	64. 2	-	68.8	25	72. 1	5	61.6	49	71	2	57	23	71.6	132	67.7	31	67.8	106	63.7
6:5. 骨体断面示数	19	5	74.9	20	74.6	25	73.4	6	70.6	52	74. 2	2	73.2	23	72.9	137	75.6	32	77.8	106	79.1
7:1. 長厚示数	21.7	4	22.9	15	23	27	23.8	-	_	-	-	1	18. 1	14	23	50	21	12	21.1	106	20. 9
撓骨																					
1. 最大長	-	5	222. 2	11	233.3	28	227. 1	4	237.5	21	230.9	1	235	16	243.6	64	236. 7	5	230. 2	64	219.9
2. 機能長	-	4	208.5	11	217.5	28	214.4	-	-	-	_	1	20	15	228. 2	52	221.1	3	215	64	208. 2
3. 最小周	-	11	42.6	17	43.6	44	48. 5	-	-	-	-	1	37	19	46. 1	129	42.9	19	43	63	40. 1
4. 骨体横径	16	13	16.5	17	16.9	43	19.4	7	14.1	45	16.5	1	15	20	16.9	130	17.3	21	17. 3	63	16
4a. 骨体中央横径	-	6	15.5	-	_	-	_	6	14	48	16	-	-	-	-	83	16	7	16.3	63	15. 2
5. 骨体矢状径	12	13	11.4	17	-	43	13	7	11.4	45	12.7	1	11	20	12.8	130	12.3	21	12.5	63	11.7
5a. 骨体中央矢状径	_	6	11.3	-	11.6	-	-	7	11	47	13.1	-	-	-	-	84	12.5	7	12.4	63	11.9
3:2. 長厚示数	-	3	19.3	11	20	28	22.6	-	-	-	-	1	16.8	15	20. 2	52	19.6	3	20.9	61	20.4
5:4. 骨体断面示数	75.0	13	69.2	17	68.8	43	67.8	7	80.8	45	76.2	1	73.3	20	76.1	130	71.4	21	72.4	60	71.4
5a:4a. 中央断面示数	_	6	73.5	-	-	-	_	-	-	_	-	-	-	-	-	83	78. 3	7	76. 7	22	80. 3
尺骨																					
1. 最大長	_	1	240. 8	7	247. 9	21	243. 5	2	250	15	255. 1	2	26. 5	9	259. 3	38	256. 8	3	247	62	236. 2
2. 機能長	_	1	213	12	219.5	19	216. 6	_	_	-	_	2	231	12	231. 2	36	225. 6	13	215. 7	64	209. 2
3. 最小周	_	11	36. 5	15	38. 9	35	39.9	_	_	_	_	2	31.5	15	40. 2	98	37.7	16	36. 5	65	35.8
11. 尺骨矢状径	13	16	12. 8	19	14. 2	51	15. 1	6	13. 7	52	14. 7	2	12. 5	23	14. 4	149	13. 2	16	13. 9	63	12. 8
	17	16	17. 9	19	16. 2	51	16. 6	6	13. 7	52	15. 9	2	14. 5	23	16. 5	149	17. 5	16	17. 2	64	16. 5
12. 尺骨横径	-	4	17. 9	12	17.8	19	18. 7	-	13. 9	52	15. 9	2	13. 7	11	17. 4	36	17. 5	3	16. 7	63	17
3:2. 長厚示数			71. 9		87.8	47	92. 2	6	99. 9	52	93. 4	2	92. 6	23	87. 4	149	76	6	81.4	63	74. 9
11:12. 骨体断面示数	76. 5	16	71.9 1935),池	19		_		957),		57)	93. 4		92. 0	23	07.4	149	70	U	01.4	03	14. 9

表3. 下肢骨計測値の比較(男,左)

20 . 自放自由原他	一陣長崎鼻		広田		津雲		吉胡	/]\	片資料	/]\	片資料		栃原		太田	北部:	九州・山口	北部	九州•山口		九州
	(縄·晩期)	()	弥~古)	(縄	• 後晩期)	(縄	・後晩期)	(組	・早前)	(縄	•中後晚)	(	縄・早)	(縄	• 前中)	(	弥生)	(	古墳)	(	(現代)
大腿骨		N	M	N	M	N	М	N	M	N	M	N	М	N	М	N	M	N	M	N	M
1. 最大長	-	2	393.0	11	415. 2	20	420. 2	6	405.5	33	416.9	1	428	18	431.8	97	432. 2	22	437. 6	59	406.5
2. 自然位長	-	-	-	11	411.1	19	417.8	_	_	_	_	1	425	16	427.4	44	430.7	13	436.9	59	403.2
6. 骨体中央矢状径	29	6	26.8	20	28.9	66	29.8	8	28.3	70	30.1	2	29	28	30.3	234	29.5	61	29.4	59	26.5
7. 骨体中央横径	26	6	24.8	20	25. 5	66	26	8	23.6	71	25.9	2	24	28	26.5	238	27.8	62	28.3	59	25.6
8. 骨体中央周	88	6	81.7	20	86.6	66	89. 2	8	83.4	66	89.2	2	82.5	28	91.5	233	90. 2	61	90.3	59	82.4
9. 骨体上横径	30	6	30.7	19	30.4	47	30. 2	7	28. 1	68	30.1	2	30.5	23	30.1	189	32.6	43	32.5	59	29.4
10. 骨体上矢状径	26	6	22.7	19	24.8	48	25	7	22.6	67	25. 1	2	21	23	27.9	189	26. 1	43	25.9	59	24. 3
8:2. 長厚示数	-	-	-	11	21.1	19	21.9	_	_	_	-	1	20. 2	16	21.4	44	20.9	12	20.4	59	20.4
6:7. 骨体中央断面示数	111.5	6	108. 2	20	113. 2	66	114.8	7	120.2	70	116.4	2	121.4	20	113	234	106.8	61	104.2	58	103.8
10:9. 上骨体断面示数	86. 7	6	74. 2	19	81.7	47	83. 5	7	80.3	67	83. 5	2	69. 2	23	93. 2	189	80.3	43	79.9	58	82.8
脛骨																					
1. 全長	346	1	311.5	10	337. 0	26	342. 7	_		_		_	_	_	_	46	347. 6	8	343. 6	65	320. 3
1a. 最大長	351	5	309.0	10	343. 0	25	346. 8	4	345.8	26	351.6	_	_	9	364.7	73	352. 3	14	347. 6	65	326. 9
8. 中央最大径	31	5	27. 6	21	31. 7	60	31	8	28. 7	46	31. 7	2	34.5	21	32. 1	110	31.5	17	30. 6	61	27. 8
8a. 栄養孔位最大径	34	14	31.9	19	34. 7	55	34. 2	6	31. 4	44	34. 3	_	-	22	34	213	36. 6	37	35	60	30.6
9. 中央横径	21	5	18.8	19	19. 7	61	21	8	19. 4	46	22	2	20	21	20. 8	111	22. 7	18	21. 4	61	21. 1
9a. 栄養孔位横径	22	14	21.5	19	21.5	54	23. 3	5	21.9	44	23. 6	_	-	21	22. 7	212	25. 3	38	24. 2	61	23. 7
10. 骨体周	83	5	74. 4	20	82. 5	61	84. 7	6	78. 2	44	84. 5	2	80.5	21	85. 6	110	85. 6	17	82. 4	62	78. 4
10a. 栄養孔位周	90	14	85. 3	19	90.7	54	93. 4	_	-	_	-	_	-		-	209	96. 5	37	92. 9	61	88. 9
10b. 最小周	80	15	69. 3	17	75. 6	54	77.8	-	-	_	_	2	68	22	77.6	185	77. 4	31	76	60	71. 3
9:8. 中央断面示数	67. 7	5	68. 4	21	62. 4	60	67.5	8	67.7	46	69.8	2	58. 1	19	65. 3	110	72. 5	17	70	61	76. 1
9a:8a. 栄養孔位断面示数	64. 7	4	67. 4	19	62.0	54	68	_	-	_	-	_	-	21	67. 3	211	69. 7	37	69. 2	60	77. 5
10b:1. 長厚示数	23. 1	4	21.3	10	22. 9	26	22.7	_	-	_	_	_	-	9	22.9	45	22. 2	12	22. 4	60	22. 4
,						_															
腓骨			040.6	_	000.0	- 17	004			4.4	000 6				0.40	00	0.45 .0		000		005
1. 最大長	-	1	313.0	8	333. 3	17	334	-	- 15.0	11	339. 9	_	- 10 5	1	349. 9	22	345. 2	10	338	58	335
2. 中央最大径	18	3	13. 3	19	17.5	52	18.8	4	15. 3	51	16. 9	2	16.5	15	16. 1	80	17	13	16. 9	60	14. 5
3. 中央最小周	12	3	10. 7	19	12. 1	52	11.8	4	11.8	51	11. 7	2	10	15	12. 1	80	11.5	13	11. 9	59	10
4. 中央周	51	3	41.0	19	50.7	52	52.8	4	46.8	48	49. 2	2	44. 5	13	48	81	47. 2	13	47. 4	59	41.5
4a. 最小周	42	1	33. 3	15	41.8	42	43. 3	-		-	-	_	-	13	39.5	49	39.9	6	37. 3	59	35. 6
3:2. 骨体中央断面示数	66. 7	3	80.0	19	69.3	52	63.6	4	77. 1	51	70	2	60.7	6	13.8	80	68. 1	13	70. 7	59	69.5
4a:1. 長厚示数		1	10. 9	8	11.8	17	13. 3	-	_	_	-	_		-	-	21	11.5	1	12. 1	58	11.1

阿部 (1955), 鑄鍋 (1955)

表 4. 上肢と下肢の比較(上腕骨最小周/大腿骨中央周(%))

X	9	見性	
遺跡	N	М	文献 文献
一陣長崎鼻(縄・晩)	1	71.6	本報告
広田(弥~古)	6	75. 9	本報告
北村 (縄・中後)	13	71.1	茂原 (1993)
太田貝塚 (縄・前中)	22	74. 2	今道 (1934, 1935)
津雲貝塚(縄・後晩)	20	74. 7	清野他 (1928)
吉胡貝塚(縄・後晩)	42	74. 7	石沢 (1931), 大場 (1935)
金隈(弥生)	17	70. 7	中橋他 (1985)
土井ヶ浜(弥生)	31	73.8	財津 (1956)
大友 (弥生)	33	73	松下 (1981)
西日本(古墳)	14	70. 1	城 (1938)
吉母 (中世)	19	71.2	中橋・永井 (1985)
九州 (現代)	59	75	専頭 (1957), 鑄鍋 (1955)
畿内(現代)	30	76. 9	平井・田幡 (1928), 宮本 (1934)

表 5. 推定身長(脛骨最大長より(cm))

	男	性
	Peason	藤井
一陣長崎鼻	162. 1	160. 4

表 6. 推定身長の比較

		男性
	N	M
一陣長崎鼻(縄・晩)*	1	162. 1
広田(弥~古)	14	154.0
津雲貝塚(縄・後晩)	13	159.9
吉胡貝塚 (縄・後晩)	22	158.9
北部九州(縄・後)	8	159. 2
北村 (縄・中後)	22	157.9
金隈 (弥生)	17	162.7
土井ヶ浜 (弥生)	18	162.8
大友 (弥生)	15	159.1
西日本(古墳)	3	161.5
吉母 (中世)	18	159.7
現代 (1970)	771	166.7

<sup>\*</sup>脛骨最大長より算出(他は大腿骨最大長より)

<sup>\*</sup> 左側値が無い場合は右側値で充当

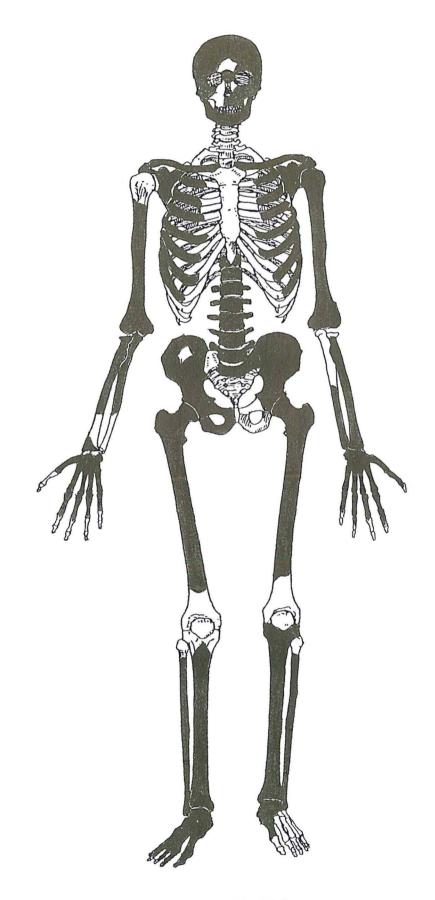


図1 人骨遺存部

図2 広田集団(弥生~古墳)を基準線とした偏差折線

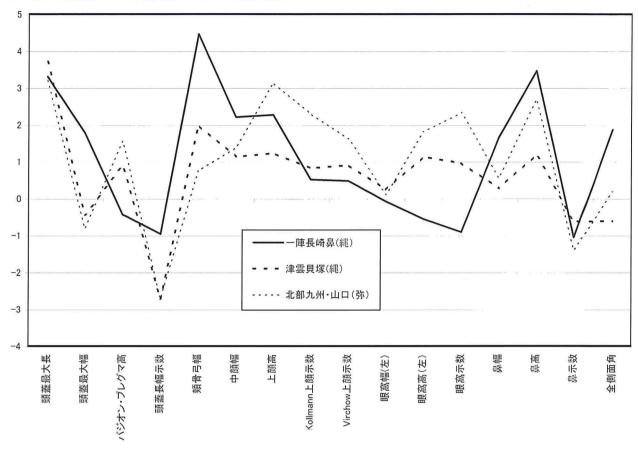


図3. 一陣長崎鼻人骨からのペンロース形態距離(頭蓋9項目)

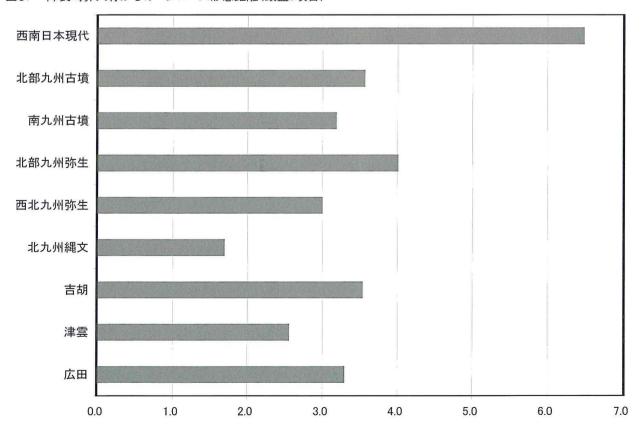
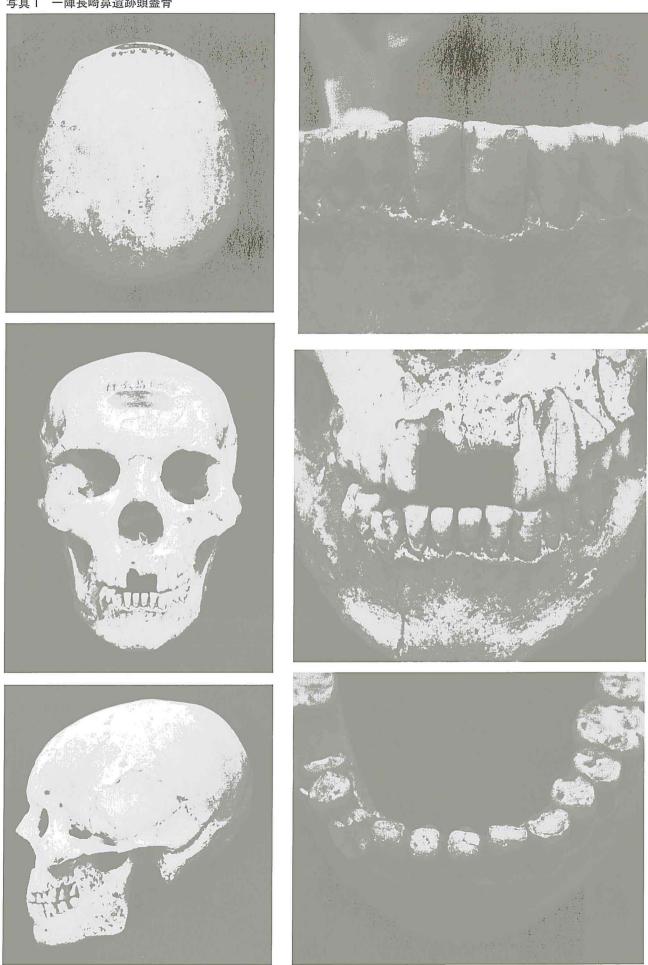


写真1 一陣長崎鼻遺跡頭蓋骨



# 第5節 種子島一陣長崎鼻遺跡出土の人骨 - 2009 年出土人骨-

竹中正巳 (鹿児島女子短期大学)

### はじめに

一陣長崎鼻遺跡は琉球列島の北端に位置する 種子島の南端に所在する。種子島は広田遺跡を はじめとする島内各地の埋葬遺跡から大量の弥 生・古墳時代相当期の古人骨が出土したことで 知られる。日本人の起源を考える上で欠かすこ とのできない古人骨資料が出土した島である。 広田遺跡をはじめとする種子島の弥生・古墳時 代相当期の古人骨の特徴は、過短頭・低顔・低 身長という特徴を持ち、九州以北の弥生・古墳 人のそれと異なる。

一方,一陣長崎鼻遺跡からは過去に縄文時代 人骨1体が出土しており,1956年に発掘調査が 行われている。わずか1体ではあるが,一陣長 崎鼻遺跡は種子島の中で唯一の縄文時代人骨が 出土した遺跡である。種子島の縄文時代人骨の 形質を明らかにすることは,種子島の弥生・古 墳時代相当期の人々の特徴の由来を探るために も,また日本人の起源を解明するためにも必要な作業となる。2009年6月,一陣長崎鼻遺跡の発掘調査が約50年ぶりに行われ,第1調査区から新たな縄文時代人骨が出土した。出土した縄文人骨は破片のみであったが,種子島の貴重な縄文時代人骨の新資料であり,本稿にて報告する。

#### 出土した人骨片

・乳幼児の頭蓋片(性別不明・乳幼児)・・・・第1調査区 j-1 グリッドおよび i-1 グリッドの Ⅱ層から頭蓋片が 5 片出土した。最も大きいものは 5cm 程度の破片である。5 つの破片は脳頭蓋の一部であり,同一個体のものである可能性が十分に考えられる。骨の厚さから乳幼児の脳頭蓋片であり,性別は判定できない。

・成人の頭蓋片(性別不明・成人)・・・・・第1 調査区 h-1 グリッドの II 層から頭蓋片が 1 片出 土した。この破片は約 2.5cm 程度の大きさであ る。脳頭蓋の一部で、縫合が含まれている。骨 の厚さから成人に達していたと考えられる。性 別は判定できない。

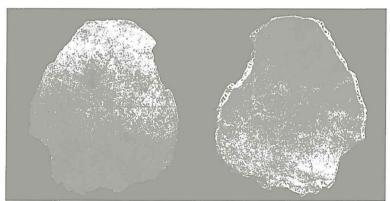


写真 1. 一陣長崎鼻遺跡から出土した脳頭蓋片(性別不明・乳幼児)(2009 年第1調査区 j-1 グリッド出土)(左:頭蓋外面 右:頭蓋内面)

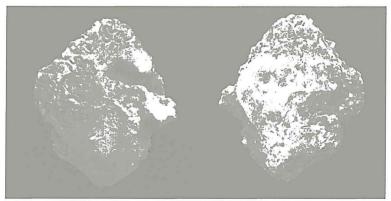


写真 2. 一陣長崎鼻遺跡から出土した脳頭蓋片(性別不明・成人)(2009 年第1調査区 h-1 グリッド出土)(左:頭蓋外面 右:頭蓋内面)

## 第6節 一陣長崎鼻遺跡出土の貝類遺体

黒住耐二 (千葉県立中央博物館)

#### はじめに

一陣長崎鼻遺跡は,種子島南部の南種子町の海岸砂丘(標高約10m)に立地した縄文時代晩期(黒川式土器期)の遺跡である。今回,南種子町教育委員会による発掘で出土した貝類遺体を検討する機会を与えて頂いたので,一部1956年に盛園尚孝氏によって発掘された資料も含めて,ここに報告したい。

#### 1. 対象サンプルと調査方法

今回検討対象としたサンプルは,2009年度に 南種子町教育委員会によって発掘されたものお よび盛園尚孝氏の採集品である。

南種子町教育委員会による調査の詳細は、本報告書を参照されたい。今回対象とした資料は、包含層土壌を現場および室内において 2mm メッシュで篩われた約 100 サンプルのうち、22 サンプルを対象とした。ただ、フジツボ類に関しては他のサンプルも対象とした。なお、時に貝類遺体として報告することもある十脚甲殻類(カニ類等)に関しては、本遺跡から多数出土したので、十脚甲殻類化石専門家の加藤久佳氏により分析されている(加藤、本報告書)。

盛園尚孝氏のサンプルは、南種子町教育委員会に移管されていた資料を同定・カウントした。 出土層位等が記されておらず、まとめられていたものに関しては、アからクまでの記号で便宜的に区別した。

#### 2. 結果および考察

上述した方法で確認された種は、全体で少なくとも海産腹足類27科52種,淡水産腹足類1種,陸産腹足類6科10種,海産二枚貝類16科34種,ヒザラガイ類1種,甲殻類(十脚類を除く)7種,カンザシゴカイ類1種であった。この中には、食用種、食用貝類に付随した非食用種,死殻を意図的に遺跡に持ち込んだもの、堆積層中の陸

産貝類等,様々な由来のものが含まれていた。

#### A) 食用貝類遺体

図1の最上段に全合計として,優占種の組成 を示した。その結果、イシダタミが50%以上を 占め、ムラサキインコが20%程度、ベッコウガ サ・アマオブネが5%程度となっていた。今回、 詳細に同定・計数したサンプルは全体の中から 代表的なものを抽出したものであり、 発掘資料 全体としての各種の割合は多少変化する可能性 は残る。しかし、細分された層序の明瞭な j-1 区の7サンプル (Nos. 60-69) において、Ib下 層でイシダタミが優占し、Ib 上層ではベッコウ ガサの割合が高い(出土個体数は少ないが)と いう変化は認められるものの、総体としては全 合計と類似していたことから,優占種の割合の 変化はかなり小さいものと考えられる。一方, 盛園サンプル(図1最下段)の組成は、今回の 結果と異なっていた。この要因として, 地点や 抽出方法(ピックアップ法のみ)による相違等 が考えられる。

今回,食用貝類遺体を,1)岩礁潮間帯中部に高密度で帯状に分布するムラサキインコ・カメノテのムラサキインコ型,2)岩礁潮間帯のベッコウガサを中心としたカサガイ類,3)岩礁・転石潮間帯のイシダタミ・クマノコガイ等の"磯物",4)岩礁潮間帯中・下部のテツボラ等のレイシ型,5)岩礁潮間帯下部~潮下帯のイボアナゴ等のながらめ型,6)岩礁潮下帯のウズイチモンジ等,7)潮間帯干潟のハマグリ等,8)淡水域のカワニナに区分して示した(表1)。

以下に、類型ごとの詳細を検討してみたい。

ムラサキインコ型:破損も多く,詳細な計測を行えなかったが,本遺跡のムラサキインコは大きく,Nos. 10,14では殻長4cm程度,No.57で3cm程度であった。このムラサキインコの優占する貝類遺体群は,主に津軽海峡周辺から東北地方太平洋岸の縄文貝塚で認められている。一方,ムラサキインコに類似した生息環境と様式(潮間帯に帯状に高密度で分布する)を持つリュ

ウキュウヒバリは沖縄諸島の先史時代遺跡で優占することが知られており、その利用は"ダシ"的(軟体=肉を食用とするかどうかはよりも、ダシとしての利用が主という意味合いである)なものではないかと考えている(黒住、2002)。沖縄での利用からの推測であるが、報告者は本遺跡のムラサキインコも、"ダシ"的に利用されたと想定している。

一方、カメノテもかなり多く出土しているが、必ずしもムラサキインコ集中部に多い訳ではない (表1)。具体的には、図1のムラサキインコ集中では、ムラサキインコが全体の77%に対してカメノテは62片(殻板数:カメノテでは部位を特定し、最少個体数を求めることが出来なかったので殻板数で示した)、同じく獣骨集中では249片、No.57では469片(ムラサキインコは両サンプルとも10%程度)となっていた。つまり、同じ類型とした両種であるが、ムラサキインコとカメノテの採集は同時に行われたものでないことを明らかにできた。両種は別の機会(日/季節)/意図のもとで採集された訳である。

カメノテと同じ蔓脚類に属するフジツボ類も 比較的多く出土しており、特にクロフジツボ類 では破損しているものも多かった(表 2)。この ことから、一部オオアカフジツボを含めクロフ ジツボ類は食用として利用されたものと考えら れる。また、本遺跡では、ウミガメ類の甲羅上 に付着するカメフジツボも比較的多かった(表 2)。この意義に関しては後述するが、カメフジ ツボの殻板は一個体分がまとまって出土してお らず、報告者は本種が食用/ダシ的に利用され た可能性(何らかのシンボリックな状況も含め) も否定できないものと考えている。

カメノテの多く出土する遺跡は、岩礁域に立地する遺跡で確認されており、伊豆諸島/三宅島のココマ遺跡(弥生時代)では詳細な出土量とともに、その意味づけや食用優占種のカメノテとベッコウガサが異なった時に得られた可能性等を議論した(黒住、2009)。

このムラサキインコ・カメノテと共に、これ

らの殻の上や足糸の間等に生息する非食用のイワフジツボ類・カキ類・ヒバリモドキ・コガモガイ類・チリハギ等も多く得られている (表 1)。ムラサキインコの幼貝やムラサキインコ足糸中にトラップされた巻貝類の死殻 (例えば福島県相子浜貝塚:黒住・山崎,1997) は、本遺跡ではほとんど確認できなかった。これは、ムラサキインコ等を、採集後に海岸部で"良く洗った"ことを示していよう。遺跡に持ち帰って洗った場合には、その残渣として、貝塚から巻貝類の死殻等が集中して出土すると想定される。些細なことかもしれないが、このような検討により、同じ種を利用している場合でも、その具体的な作業/食様式を詳細に示すことが必要と考える。

なお、この類型の非食用種としてトサレイシが得られた。本種は紀伊半島~九州に分布するとされるが(土屋、2000)、確認例のかなり少ない種であり、種子島からの記録は貴重である。

カサガイ類: そのほとんどを潮間帯上部に生息するベッコウガサが占めており、他にヒザラガイ類が多くのサンプルから少数認められるだけで、それ以外の種はかなり少ない。特に、潮間帯中・下部にすむヨメガカサはベッコウガサに類似するものの、2個体しか得られなかった。ヨメガカサの生息する環境は後述する磯物型と重複するにもかかわらず採集されていないということは、「食用対象種の選択性が極めて厳密であった」ということを示していよう。

磯物型:現在も各地で食用にされることの多いクボガイ類(磯物・磯玉と呼ばれる)に、イシダタミ・アマオブネ類を含めた。図1に示したように、本遺跡では、いくつも集中部が認められる程、特にイシダタミが多かった。この種では、破損している個体はかなり少なかった(表1:bやuが少ない)。クボガイ類では、ヒメクボガイとクマノコガイも優占種として図1に示した。クボガイ類で特徴的なこととして、ヒメクボガイではイシダタミと同様に割れているものの割合が小さく、逆にクマノコガイとヘソアキクボガイでは多くの個体が割られていた。こ

の類型のアマオブネも優占種であり,この種で は破損個体はほとんど認められなかった。

アマオブネの破損に関して、小形貝類のダシ的利用と肉の利用ということで議論している(黒住,1995; 黒住,2002も参照)。具体的には、奄美大島の先史時代遺跡(用見崎遺跡)で、同じ科に属し、サイズも類似した2種で、アマオブネの破損率は低く、ニシキアマオブネの破損率は高かった事例である。報告者は、一陣長崎鼻遺跡でもイシダタミ・ヒメクボガイ・アマオブネはダシ的利用(前述のように肉を利用しないという意味ではない)、クマノコガイ・ヘソアキクボガイは肉利用と考えている。

レイシ型: テツボラが多く, イボニシも比較 的普通に得られた。前述した殼の破損に関して, テツボラは殻口が大きく, 茹でると爪楊枝状の 木片等で簡単に肉を取り出すことができる。そ れにもかかわらず、大部分のテツボラはバラバ ラに割られていた。この破損の意味は、1) 茹で ず生で食用にするため、2) 茹でてから爪楊枝状 の利器を用いず殻を割って肉を取り出していた, ということが想定される。本遺跡ではイシダタ ミのように割られていない殻が大量に出土する 種が存在し、1)の殻を割って生で食用としたな らば、イシダタミ等も破損していてよいはずで ある。そのため、テツボラの場合、2)の割る という様式に関連した破損と考える。同様な殻 を割って食用にすることに関しては、人為的に 割った殼と遺跡出土破片との比較等を示した黒 住(1998)の例も参照されたい。

また、テツボラ等のレイシ類では苦い味を持つことがよく知られているが、それにもかかわらず、先史遺跡から現代まで、この仲間は食用として積極的に利用されている。この苦い味に関して、報告者は"苦い味に対する積極的な嗜好"と考えつつある(黒住、2009等)。内湾の縄文貝塚のように食用対象になる種が少ない環境ではなく、本遺跡のように多くの種が生息する南の外海岩礁域を利用している本遺跡においてもレイシ類を食用に選択していることは、この苦い

味に関する想定を補強するものと考えている。

ながらめ型:小形アワビ型では、イボアナゴ類(イボアナゴとヒラアナゴ:破片等で両種を分類できなかったものがほとんどであった)が多く、トコブシは多くはなかった。ただ、イボアナゴとトコブシが重なって出土した例も認められ、同時に採集されたこともあったと思われる。なお、「ながらめ」はトコブシの種子島の地方名である。これらの貝殻上に生息するキクスズメも少数ではあるが、比較的多くのサンプルから抽出されている。

潮下帯型:ウズイチモンジ等の少数のニシキウズ科貝類が確認され、ほとんどが破損していた。ツタノハが1個体のみ確認され、オオツタノハの完形殻は得られなかった。

干潟型:ハマグリが多く、オキシジミも少数得られていた。ハマグリの殻長組成では、30-70mmと幅広いサイズの個体が採集されていた(表3)。どのサンプルでも、特に集中するサイズは認められず、1年を通して採集されていた可能性も考えられる。ハマグリ等の採集場所は、発掘時の現地調査では二枚貝類の生息は確認できなかったが、遺跡の西側の河口干潟が想定される。

淡水型:カワニナが僅かに確認された。 食用貝類遺体から推測される事象

上述した食用貝類遺体の検討から、いくつかの点が指摘できよう。第一は、多数の種が生息する暖温帯南端の岩礁域の貝類を利用していながら、食用対象種に対する選択がかなり強いことである。二つ目には、ムラサキインコ・イシダタミ・アマオブネ等のダシ的に利用されたと想定した種が極めて優占していることが挙げられる。本遺跡の脊椎動物遺体では、サメ類の優占していることが報告されており(樋泉、本報告書)、もしかすると、ダシはこのサメ類という食様式に関係するのかもしれない。最後に、焼けた破片がかなり少ないこと(表1のB)も挙げられよう。焼けた食用種貝殻片の由来として、報告者は"炉の周囲の清掃ゴミ"を想定してい

る (黒住,2006)。またウミガメ類の甲羅に付着 するカメフジツボの確認から、この場所でウミ ガメが解体された可能性もあろう。ウミガメ類 の多かった前述の三宅島ココマ遺跡ではカメフ ジツボは確認されていない (黒住,2009)。ま た,報告者は以前に,クジラ類に埋没して生息 するオニフジツボを沖縄の先史時代遺跡から確 認し、その場所でのクジラ類の入手(ストラン ディングによるもの?)・解体を考えた(黒住、 2007a)。このように、他生物からの情報も重要 であろう。このように焼けた貝殻片が少ないこ とと、後述する本遺跡の波の到達する立地(少 なくとも下部の時期),カメフジツボから推測 されるウミガメ類の解体場所の可能性から、一 陣長崎鼻遺跡の貝層は、通常の集落からの廃棄 よりも, "作業空間的な"遺体が多い可能性も考 えられるのではないだろうか。もちろん, 獣骨 の集中的な出土等,通常の廃棄がなかったとは 思われない。集落に隣接した海浜部のサメ類・ ウミガメ類の捕獲/解体場所のような状況がイ メージされる。

また、遺跡は砂丘の形成される砂浜に面して 形成されていながら、外海に面した砂浜に生息 する貝類が少ないためか、この環境に生息する 種は食用として全く利用されていなかった。隣 接していたと考えられる岩礁域が貝類採集の主 な空間であった訳である。

### B) 非食用海産貝類遺体

本遺跡では、非食用の貝類遺体も多く得られている。ここでは陸産貝類以外のものについて述べる。ただ、表1でいくつかの類型に区分したが、食用貝類遺体に関連するものに関しては、そちらで記述した。

貝製品関係:明らかなものは極めて少なかった。撹乱層から得られたオオツタノハ貝輪片を表1に記録したが、発掘調査で未製品を含む本種の貝輪が複数得られている。サケツノガイ?は、非意図的打上貝の可能性もあるが、広田遺跡のツノガイ珠との関連もあり、この類型に入

れた。ツノガイに研磨等は認められなかった。

**意図的持ち込み**:中・大形の打上げられた貝 殻で, 人為的に貝層に持ち込まれたと考えた種 である。撹乱層からの出土が多いものの, 包含 層サンプルの No. 34 からはヒメツメタ・ウミギ ク類等が得られている。これらの貝殻に研磨・ 穿孔等の人為的加工は認められず, 現時点では "趣味的な拾い集め"としか言いようがない。た だ, 奄美・沖縄の遺跡 (例えば島袋, 2004) や 錦江湾の縄文後期貝塚 (鵜飼・羽生,1999) で 貝製品として利用されているウミウサギ・タカ ラガイ類・ホラガイ・タイコガイ等が多く含ま れているので, 貝製品素材の可能性は残る。食 用貝類遺体から本遺跡を"作業空間的な"場に 形成された可能性を想定したが、 同様にこれら の貝殻は"製品素材選別後の廃棄"と考えられ るのではないだろうか。製品自体は, 集落や墓 域で利用されたと考える訳である。

この意図的に持ち込まれた貝殻が撹乱層に多 いことから, 今回調査された縄文晩期よりも後 の弥生時代に"製品素材選別"を行ったことも 否定できないと考えた。この想定では、遺跡は 完全に選別のための作業空間であり、 土器等の 人工遺物は出土しなくともよい訳である。この ことを検証するために、盛園先生のサンプルか ら,製品となる可能性のある色彩の残ったダン ドクメンガイの打上個体を,報告者自ら選択し て, 年代測定を行って頂いた。その結果は, 第 3節に報告されているように、ダンドクメンガ イはⅡg層のハマグリより450年も古いという ` 結果であった。完全に弥生時代の製品選別説は 否定された。ただ,色彩の残った個体でも(一見, 現生のようにも見えた), また包含層からその上 部に存在したと考えられる個体でも, 包含層の 遺体より450年も古いという例であり、貝殻に よる年代測定時にはやはり死殻を用いない方が 良いということを示していよう。

非意図的打上貝: これは、波によって砂丘に 打上げられたと考えた種である。砂底潮下帯に 生息するシマワスレ・ワカカガミ・トドロキガ イ(幼貝)等の二枚貝が多く,完形巻貝は極めて少ない。巻貝類でも,アワブネ等の傘型をした種が目立ち,二枚貝片殻や傘型巻貝の貝殻は波に"浮いた状態"で運ばれたと思われる。そして,ほとんどの殻には磨滅が認められている(表1)。

これらの打上貝は、j-1区で細分された層序において、ほぼ II g 層からのみ出土している(表 1)。つまり、これらの下部の部分では時に大波の影響の存在したことがわかる。逆に上部の層では、波による撹乱は小さかったと推定される。前述したハマグリのサイズ組成(表 3)が広範囲にわたっていることは、通年を通した採集と言う想定以外にも、季節ごとの採集品が波で混合された結果という可能性もあろう。

#### C) 陸産貝類の組成と古環境の推定

都合により、陸産貝類の詳細なデータの提示や検討は別の機会に譲るが、今回のサンプルでは10種が、報告者の処理した土壌サンプルからは20種が抽出されている。

その種組成では林内生息種のタネガシマゴマガイ・ケシガイ、林縁生息種のヤコビギセル・オカチョウジガイ、開放地生息種のオオスミウスカワマイマイ・ホソオカチョウジガイ等が優占していた。ただ、堆積層の下部から上部に割合を増加させていたホソオカチョウジガイを除き、全体として下部から上部への種組成の変化は明瞭ではなかった。生息場所類型組成では、林内と林縁を合わせたものが半数以上を占めており、本遺跡は海岸林の中か、そのすぐ前面に位置していたことが推測される。

つまり、遺跡周辺の景観は、現在のような砂丘の疎らな草本群落ではなく、現在では江線からかなり後方に位置している海岸林が江線に近い位置にまで存在していた訳である。そして、上部に向かって波の営力が及ばなくなり、安定すると共に、ホソオカチョウジガイ等の開放地生息種の割合が増加し、開けた環境となっていく。これは、人間活動自体が活発になったため

と考えられる。

今回の一陣長崎鼻遺跡の陸産貝類では、教委サンプルを含めても、広田遺跡で認められたヤマタニシ・ヒメヤマクルマ・フナトウアズキ・タカチホマイマイ等(黒住,2007b)が欠落していた。欠落していた種は、いずれも林縁生息種であり、今回抽出された種よりも殼サイズが大きいものである。その欠落は、林の状況(鬱閉/開放)よりも、波による林への塩分増加が要因なのかもしれない。

本遺跡を含め南種子町の2つの先史遺跡で多 種類の陸産貝類を確認することができたので, 現在の種子島の陸産貝類相(黒住・大須賀, 2009) と簡単ではあるが、比較しておきたい。 大隅諸島を中心とした固有種であるハラブトギ セル・タネガシママイマイは遺跡から確認でき ず、逆にキバサナギガイ・マルナタネガイ類は 現生では得られなかった。また、ケシガイ・ツ クシナタネ (広田遺跡ではクルマナタネ?とし た) は遺跡では多いものの、現生はほとんど見 られない状況である。 両遺跡とも、砂丘上に立 地しているので, 山地性の種が欠落しているの は当然である。海岸林における塩分の影響等も 考慮せねばならないが、今後、より多くの遺跡 データを集めることにより、比較の精度を上げ ることができよう。

謝辞:報告に先立ち,種々御世話になった南種子町教育委員会の石堂和博・小脇有希乃両氏と資料整理でお世話になった方々および発掘現場等でご教示いただいた早稲田大学の樋泉岳二氏にお礼申し上げる。本報告の一部には、文部科学省科学研究費(課題番号:21101005)を用いた。

# 引用文献

黒住耐二. 1995. 貝類遺存体. 用見崎遺跡,笠利町 文化財調査報告,(20): 34-43.

黒住耐二. 1998. 1997年の用見崎遺跡調査で得られた貝類遺存体(予報). 用見崎遺跡 IV, 考古学研究室活動報告,(33): 38-45.

黒住耐二. 2002. 貝類遺体からみた奄美・沖縄の自 然環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生 業と交易-奄美・沖縄の発掘調査から-, pp. 67-86. 熊本大学.

黒住耐二. 2006. 貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活. In 木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易Ⅱ一奄美・沖縄の発掘調査から一, pp. 115-134, 285. 熊本大学.

黒住耐二.2007a. 貝類遺体からみた伊礼原遺跡. 伊 礼原遺跡, 北谷町文化財調査報告書, (26): 535-555.

黒住耐二. 2007b. 広田遺跡出土の貝類遺体. 広田遺跡, 南種子町文化財調査報告書,

(15): 210-217.

黒住耐二. 2009. ココマ遺跡の貝類学的研究. 東京都三宅島ココマ遺跡発掘報告書,島の考古学研究会調査報告書,(1):73-86,pl. 20.

黒住耐二・大須賀 健. 2009. 種子島の陸産および陸 水産貝類の現況調査. In 安村茂樹(編),

WWF ジャパン南西諸島生物多様性評価プロジェクト.フィールド調査報告書, pp. 80-102. (財)世界自然保護基金ジャパン.

黒住耐二・山崎京美. 1997. 相子島貝塚出土の微小 貝類遺存体(予報). 相子島貝塚, いわき市埋蔵 文化財調査報告, (47): 93-100.

島袋春美. 2004. 貝種別にみる奄美・沖縄諸島の貝製品. In 高宮広衛・知念 勇(編),考古資料大観,第12巻,貝塚後期文化,pp.223-230. 小学館.

土屋光太郎. 2000. アッキガイ科. In 奥谷喬司 (編),日本近海産貝類図鑑,pp. 181-209.東 海大学出版会,東京.

鵜飼一伸・羽生文彦(編).1999. 柊原貝塚,垂水市 埋蔵文化財発掘調査報告書,(4),141 pp.

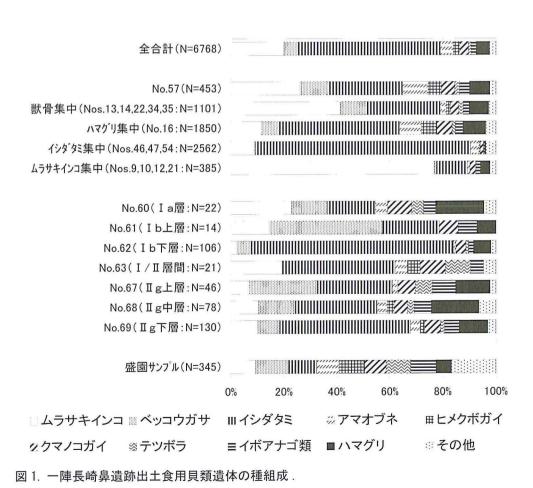


表1 一陣長崎鼻遺跡の貝類遺体の詳細.

表 1 一陣長崎鼻遺跡	小の貝類退体の計	叫.								-m					
U > = 0 . 17 . 17				N 10			打 教		会 処	理サンプ	ル	N 10		N 01	
サンプル番号		No. 9	_	No. 10		No. 12		No. 13	_	No. 14_		No. 16		No. 21	
調査区		f • g − 1 ∑	ζ	f · g − 1区		g — 1 区		g-1区I		g — 1区		g − 1 区		h — 1 🛭	
層名/特徴等		ムラサキインコ集中	2	ムラサキインコ /		ムラサキインコ集中	3	ハマグリ・獣		ハマグリ・兽				ムラサキイ	ンコ
				トコブシ集中				集中区1下部	部	集中区1下	部			集中	
			MNI		MNI		MNI		MNI		MNI		MNI		MNI
土壌量等		十壺袋 1/2(6 リッ	F.IL.)	十壺袋 2/3(8 リッ	h 11.)	土嚢袋 1/2(6 リット	11.)		_ DATAMOSO	土嚢袋 2/3(8 リ・	y 1-11()			袋 14 号 1	1/2
食用遺体			1 /- /		,,,,		,,,				1 /10/			22 11 3	/-
ムラサキインコ型	ムラサキインコ	ca. 50	25	41, 116u/41, 99u	157	ca. 50	25	1cv, 18, 45u/		59. 44u/	103	27, 26u/24, 28u	212	181	91
	ムラサキインコ	04.00		11, 1100/ 11, 000	107	04.00		16, 53u		37, 51u	100	21, 200, 21, 200			
	シロアオリ			0/1	1			10,000		07,010					-
	カメノテ			10	-					58	58			14	14
	タイワンクロフジツボ		1	10						- 00	- 00	3, 2f	5		
1	ミナミクロフジツボ		-				_	1	-			0, 21			_
	クロフジツボ類		-	3f			_	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		2f					_
	オオアカフジツボ	1 j	-	1	-										+
	ベッコウガサ	- ',	-					3. 1b. 1u	4	1, 1b, 2u	3	85, 28b, 19u	113	4	4
	ヨメガカサ		1					0, 1b, 1u	7	1, 10, 20		8	8	7	-
	カモガイ		1										U		+
	ヒザラガイ類		-	1ivf	1	-			-	1iv	1		-		+
磯物型	イシダタミ		-	22, 2b, 1u	24			39, 1u, 4f	40	28, 2f	28	841, 9b, 2u, 1fB	850	21	21
19又1971主	クビレクロズケ		-	ZZ, ZD, TU	24			00, 10, 41	70	20, 21	20	1	1	21	1
	ヒメイシタ゛タミアマオフ゛ネ		-		_										
1	アマオブネ		-	3	3			9	9	2	2	138, 16 j. 4b. 1u	158	1	1
	アマオブネ(フタ)		+	0	-			1			-	1	1		
	オオアマガイ		1		1		_					· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-		+-
	ヒメクボガイ		1					2	2			90, 1b, 15u, 8f	105		
	クマノコガイ		1	2, 3b	5	77.20		3, 1b, 1u	4	3, 3b, 1u	6	61, 7 j, 23b, 38u	106	3	3
	ヘソアキクボガイ		1	1b	1			4. 1b. 1u	5	3, 3b, 4u	7	8, 5u	13	- 0	-
レイシ型	テツボラ		-	1	1		_	1b, 1u	1	1, 2b	3	6, 14b, 17u, 52f	23		_
V1 7 ±	イボニシ		-	·				10, 10		1, 20		7. 3 j. 1u	11		-
1	レイシ		-		1							1	1		-
1	レイシダマシ		+		-							2	2		
	イソニナ		+		-			1	1			12	12		_
ながらめ型	イボアナゴ類		+	2, 2u	4			1 j, 1 jb	2	1u, 2f	1	1, 8 j. 44u, 101f	53	2	2
なからめ至	トコブシ		-	1, 1b	2			13,130		14, 21		1, 1 j, 9u	11		
潮下帯型	ウズイチモンジ		-	1, 10	-							1, 15, 3u	4		
柳下市主	ハクシャウズ		-		_							1, 10, 00			
	ニシキウズ		_		+						(VX				
	ギンタカハマ		-		_							5f	1		
	ツタノハ		_		_							1	1		_
干潟型	ハマグリ	8	4	5/7.1u	8	3	2	6/10, 4u	14	5. 2u/5	7	132, 27u/128, 30u	159		
1 加土	オキシジミ	0	7	0/ 1, Tu	+ -	0		1/3	3	0, 24/ 0	- '	4/3	4		+
淡水型	カワニナ		_					1/0	-			2a	2		_
非食用遺体	73 7 — 7								1						_
	ムラサキインコ (幼貝)		T	1 jcv, 8 j/9 j	9			1 jcv. 3 j/2 j	4	1j/6j	6	8j/11j	44		
	ヒバリモドキ		_	1,3 i/1,2 i	4			1cv, 1, 1 j/1 j	3	1,5j/1,5j	6	0)/ 11)		6	3
	コガモガイ類			1,0)/1,2)	-			1	1	1	1	1	1	1	1
	キクコザラ		1		-				<u> </u>		<u> </u>				
	アラレタマキビ		1												
	トリデニナ				1							1	1		
	トサレイシ				1							·			
1	マガキ		_	?2. 1ue/0	3					74e/2(1e)	4	1 j/0	1		
	オハグロガキ		1							,	· ·	J			
	ケガキ			1/2	2			2cv, 4/1	6			1cv, 6 i/0	7		
	トマヤガイ			1/-	_			257, 7, 7	T -	1/1 j	2				
	チリハギ									1/0	1				
	イワフジツボ類	17	_	43				11	_	41	· ·	5			
	カンザシゴカイ類		1	12			_		1	14					
	アカフジツボ?		1	14	_				<b>†</b>						
ナガラメ型	キクスズメ			3	3				1			2	2		
		A 4 11 15T 4	rate 'e-ti			hv·頭板 iv·中間板	: 45 E	1 + F2+C ±n	TE -	++ PI+ + /+ NA	11.94				

A:製品,B:焼け,b:体層,CO:殻軸,cv:合弁,dl:背面欠,e:磨滅,f:破片,H:孔(捕食痕),hv:頭板,iv:中間板,j:幼貝,tv:尾板,u:殻頂,二枚貝は,左/右.MNI:最少個体数.

表 1 一陣長崎鼻遺跡の貝類遺体の詳細(つづき1).

サングル器件 10-12	201 年及明昇度			7計画(フラビー	, .				南	<b>軍 子 町</b>	勃 音 委	日 仝	処理サン・	7° 11,						$\overline{}$
接着性 h - 1 医 1 - 2 医 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 3 E 1 - 5 E 1 - 5 E 1 - 3 E 1 - 5 E 1 - 3 E 1 - 5 E 1 - 3 E 1 - 5 E 1 - 5 E 1 - 3 E 1 - 5 E	サンプル番号	No. 23	2	No. 34		No. 35	5	No. 4		No. 47			No. 54	, ,,	No. 57		No. 6	0	No. 6	1
横角   一部   一部   一部   一部   一部   一部   一部   一					ğ															
接換機器学   接換器   下級下級   下級下級   下級下級   下級下級   下級下級   上級   上																				
上版学	1	Dr. 17 215											177738		273			71.1		.713
注稿報告   29   14 号 17   2	1		MNI	IX ** BX F3 XX							イシダタミ集中2	MNI		MNI		MNT		MNI		MNI
1	土壌量等	袋 14 号						177 7426 7 1		177 738 1 =							土葦袋 1/1		土蚕袋	
上子サキインコ															t-			. ( ==,		.,
上子サキインコ	ムラサキインコ			30, 63u/32, 47u	93	374	187	18	9		345	178	23, 22u/19, 26u	45	57, 61u/50, 66u	118	3u/2u	5	2u/0	2
カメノテ 115 175 16 16 2 2 2 27 27 11 464(28) 22(18) 9 2 47つ20コジッポ 1 1 1 464(28) 12(18) 9 2 47つ20コジッポ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																				
### 1	シロアオリ																			
************************************	カメノテ			175	175	16	16	2	2		27	27	11		464 (2B)		22 (1B)		9	
1																				
### 17 27 29 3 5 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																				
マッコウサ	クロフジツボ類			1							1f	1			1f					
3 月 方 分	オオアカフジツボ														2					
当月的中   大学方が鏡				73, 10b, 23u	96	2	2				2	2	4, 2b	6	27, 20u, 3b, 49f	47	1, 2u, 2f	3	5, 1u	6
世子方子 照													1	1	1	1				
インダマミ																1				
インダマミ															6(1B) hv, 15iv, 3(1B) tv	6		1		
### 15		10	10		169	65	65	124	124	20	260	280	1718 (1B), 29b, 16u	1747	106, 10 (2B) b, 3u, 46f	116	3, 1b, 3f	4	2, 3f	3
ママオブネ				1b	1															
ママナガイ は、10、10、11 は、10、10 は は 1 は、10、10 は は 2 は 2 は 1 は 1 は、10、10 は は 2 は 2 は 1 は、10、10 は は 2 は 2 は 1 は、10、10、10 は 2 は 2 は 1 は、10、10、10 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は 1 は																				
### 1				14, 1b, 1u	15						2	2	84 (1 j)	84	41, 3 (1B) u	44	1	1		
上 夕 方 方																				
タマノコガイ				***									1	1						
Ay7キャボガイ											1	1								
デツボラ (7.2b,8u.25f 15 1 1 1 1 1 1 2.1b,2u.8f 4 8b,4u,73f 8 1b 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	クマノコガイ					6	6	2	2		16	16		16			2u, 1f	2	3f	1
イボニシ	ヘソアキクボガイ													1						
レイシタマシ 1 1 1 5 5 5 9 9 3.1u 4 7 1 6(1B) f 1 1 1 3.3 j. 10 f 6 5.7u. 1j. 4ju. 95 f 17 4 f 1 6(1B) f 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				7, 2b, 8u, 25f				1	1		1	1	2, 1b, 2u, 8f	4			1b	11		
レイングマン				1	1										3, 1b, 2u, 10f					
イソニナ															11	_1_				
イボアゴ類			1								-	-		_						
トコブシ				5 0 0:0: 576													1.5		0 (40) 5	
ウズイチモンジ ハクシャウズ ニシキウズ リカハマ ツタノハ ハマグリ カフニナ         1, 1b, 2f         2         1f         1         1b, 1u, 2f         1         1         1         1         1b, 1u, 2f         1 <t< td=""><td></td><td></td><td>-</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>3, 31, 101</td><td>6</td><td></td><td></td><td>41</td><td>1</td><td>6(1B)†</td><td>1</td></t<>			-									1	3, 31, 101	6			41	1	6(1B)†	1
1, 1b, 2f   2			-	1, 1 Ju, 3T	- 2															$\vdash$
エシキウズ     1f     1       ギンタカハマ ソタノハ ハマグリ     15     8     37, 10u/46,5u     51     0/1     1     1/0     1     3/6,2u     8     17/27,8(1B)u     35     3, 1u/2     4     1/1       カワニナ     1			-	1 11 05	0				-				1.5	- 1		1				
デンタカハマ ツタノハ ハマグリ 15 8 37,10u/46,5u 51 0/1 1 1/0 1 3/6,2u 8 17/27.8(1B)u 35 3,1u/2 4 1/1 オキシジミ カワニナ	ハクシャリス		-					ļ	-	-			11	- 1	1D, 1U, 21	1				$\vdash$
ツタノハ ハマグリ         15         8         37,10u/46,5u         51         0/1         1         1/0         1         3/6,2u         8         17/27,8(1B)u         35         3,1u/2         4         1/1           カワニナ         ムラサキインコ (幼貝)         6j/12j         12         1         6         3         2/2         2         1f         1         1/0           エカモガチ類         1         1         1         6         3         2/2         2         1f         1         1/0           キクコザラ         2         2         2         2         2         7ラレタマキビ         1	ーンキリ <b>ム</b>			II II	_1_															-
ハマグリ   15 8 37, 10u/46, 5u 51	ヤンメガバマ ツタ / ハ		-																	
オキシジミ   1/1		15	Ω	37 10u/46 5u	51			0/1	1	-	1/0	1	2/6 20	0	17/27 0/18)	25	2 111/2	1	1 /1	1
カワニナ		10	- 0	37, 100/40, 30	31			0/1	-		1/0	- 1			17/27, 8 (1b) u	33	3, TU/Z	4	1/1	
ムラサキインコ (幼貝)     6j/12j     12       ヒパリモドキ     5.8j/6(1H).7j     13     1     1     6     3     2/2     2     1f     1     1/0       コガモガイ類     1     1     5     5     5     1     1     1/0       キクコザラ     2     2     2     2     2     1			+					-					1/1			-				_
ヒバリモドキ     5.8j/6(1H).7j     13     1     1     6     3     2/2     2     1f     1     1/0       コガモガイ類     2 <td>73 7 — 7</td> <td></td> <td>_</td> <td></td> <td>_</td>	73 7 — 7		_																	_
ヒバリモドキ     5.8j/6(1H).7j     13     1     1     6     3     2/2     2     1f     1     1/0       コガモガイ類     2 <td>ムラサキインコ (幼目)</td> <td></td> <td></td> <td>6 i / 12 i</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5 i/7 i</td> <td>7</td> <td>6 i/2 i</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	ムラサキインコ (幼目)			6 i / 12 i	12								5 i/7 i	7	6 i/2 i	6				
コガモガイ類 2 2 7 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9 9								1	1		6	3		2	7,72	-	1f	1	1/0	1
キクコザラ     2     2       アラレタマキビ     1     1       トリデニナ     1     1       トサレイシ     2     23/0     3       マガキ     73/0     3     75/0     5       オハグロガキ     7ガキ     1/3     3     0/3     3     1/0     1       トマヤガイ     7リハギ     1     3     0/3     3     1/0     1       チリハギ     4     3     3     1/3     3     1/3     3     1/3     3     1/3     3     1/3     1/3     3     1/3     3     1/3     1/3     3     1/3     1						1	1	<u> </u>					-/-				T ''	<u> </u>	.,,	<u> </u>
アラレタマキビ     1     1       トリデニナ     1       トサレイシ     73/0     3       マガキ     73/0     3       オハグロガキ     73/0     3       ケガキ     1/3     3       トマヤガイ     1/3     3       チリハギ     3/1     4       イワフジツボ類     4     8       アカフジツボ?     1     6				2	2						-									
トリデニナ トサレイシ マガキ オハグロガキ ケガキ 3/1 3 1/3 3 0/3 3 1/0 1 トマヤガイ チリハギ 4 8 8 カンザシゴカイ類 4 カンザシゴカイ類 4 6 6 アカブジツボ? 1 6 6																				
トサレイシ マガキ オハグロガキ ケガキ 3/1 3 1/3 3 0/3 3 1/0 1 トマヤガイ テリハギ 4 8 8 カンザシゴカイ類 4 6 6 7カフジツボ? 1 6 6																				
マガキ オハグロガキ ケガキ トマヤガイ テリハギ イワフジツボ類 カンザシゴカイ類 アカフジツボ?																				
オハグロガキ													?3/0	3	?5/0	5				
ケガキ     3/1     3     1/3     3     1/0     1       トマヤガイ     1 <td></td>																				
トマヤガイ チリハギ イワラジッボ類 カンザシゴカイ類 アカフジッボ?				3/1	3								1/3	3	0/3	3	1/0	1		
チリハギ     4       イワフジツボ類     4       カンザシゴカイ類     6       アカフジツボ?     1																				
イワフジツボ類     4       カンザシゴカイ類     4       アカフジツボ?     1																				
カンザシゴカイ類 4 6 7カフジツボ? 1 6				4											8					
アカフジツボ? 1				4																
	アカフジツボ?																			
	キクスズメ			1, 2 j	3								1	1	2 ј	2	1j	1		

表1 一陣長崎鼻遺跡の貝類遺体の詳細(つづき2).

表 1 一陣長崎鼻遺跡	の貝類遺体	の詳細																				
11 x = 2 11 11 12	N 00		南 種	子	町 教育委	員		サ :			I		T= /= -		盛	租 先	生サ		プル			
サンプル番号	No. 62		No. 63		No. 67		No. 68		No. 69		撹乱 / 一括	G 区	I/II tr					その他				
調査区 展名 / 性微生	j - 1 [		j-12		j — 1区		j − 1 ⊠		j — 1区		興味深い	2層	揚げ									
層名/特徴等	Ib下原	曾	I層/I層	門	II g上層	г -	IIg中原	1	Ig下層		種のみ		土中	ア	1	ゥ	I	オ	カ	+	ク	i
		MNI		MNI		MNI		MNI		MNI	-										1	MNI
土壌量等	土嚢袋 1			IMIN 1		MIMI		MIA I		MIAT											( )	IMIN I
工板里寸	工表表「	/ /																		1		-
ムラサキインコ	1, 1u/1u	2	1u/2(1d), 3u	1	1, 2u/1, 2u	3	1cv, 1, 5u/	8	3, 5u, /	13		3		15			15	10	8	5	8	32
ムラサキインコ	11 14/ 14		14, 2 (14), 04	1	1, 24/ 1, 24		3. 4u	- 0	4. 9u. fB	-10				10			10	10	-	J	- 0	02
シロアオリ				1			0, 10		4, 00, 10	-										-		
カメノテ	242 (1B)	242	26	26	28	28	97	97	120	120								2				2
タイワンクロフジツボ	212(10)						- 0,	- 07	120	120								1				1
ミナミクロフジツボ																		<u> </u>				
クロフジツボ類												1							-			1
オオアカフジツボ												-							<del>                                     </del>			<u> </u>
ベッコウガサ	5, 1b, 3u	6			7, 2b, 5u, 12f	12	5, 6u, 11f	11	7. 4u. 25f	11		1	6		1		3	3	5	2	20	41
ヨメガカサ			VII.														-					
カモガイ																						
ヒザラガイ類			1iv. 2tv	1	1iv, 1tv	1	2iv	1	7iv	1												
イシダタミ	78, 3b, 9f	81	8, 1b, 2f	9	12, 1b, 5f	13	23, 1b, 1u, 14f	24	55, 1 j. 8b. 4u. 15f	64		2	3	8	4		8	10 (1B)	1	1	2	39
クビレクロズケ							1	1							3				1			4
ヒメイシタ゛タミアマオフ゛ネ													2									2
アマオブネ	1	1	1	1	1	1	3	3	5	5			7	3	3		2	8	3	2	11	29
アマオブネ (フタ)																						
オオアマガイ																						
ヒメクボガイ	0.41.4		1 1	1	0.41.4.05		2	2	2	2				2	15		5	8	2	1		33
クマノコガイ	3, 1b, 1u	4	1, 1b	2	2, 1b, 1u, 3f	3	3, 1b, 7f	4	5(1j), 3b, 2u, 5f	8		2	3	2	5		2	10	2	2		28
ヘソアキクボガイ	1, 1b, 1f	2	1.11	0	1.0/10) 1.1.00	0	1b, 2u	2	3f	1				-	1		2			-		3
テツボラ	1b, 2f	1	1, 1b	2	1, 2 (1B) b, 1u, 6f	3	2b, 7 (1B) f	2	2b, 1u, 8f	2		3	2	5	8		2	6	1	3	2	32
イボニシ レイシ		-		-					1	_ 1				4	10 (1B)		1	3	1_	1		20
レイシダマシ												-			-			-	-	-		
イソニナ		1		-		1							-		2	-	2	5	2	2		13
イボアナゴ類	2b. 9f	2	1u. 2f	1	1b. 3u. 1 iu	1	3, 1b, 1 ju, 18f	5	4, 3b, 1u, 13f	7		2	3	1	1	12	3	3	2	1	7. 2f	33
トコブシ	20,01	-	14, 21	-	15, 04, 134	1	1	1	4, 0b, 1u, 101	- 1		2	2			5		0		-	1	10
ウズイチモンジ							<u> </u>		1f	1		-	1	1	1							3
ハクシャウズ						1									1							1
ニシキウズ																						
ギンタカハマ																						
ツタノハ																						
ハマグリ	5. 2u/4	7			4, 2u/4, 1u	6	5, 1u/12, 2u	14	9, 3u/12, 2u	14		4	1u	6			15 (1B)	6 (3B)	2(1B)	3. 1fB	3	20
オキシジミ														1			1	1f				2
カワニナ																						
1 = 11 = 11 = 12 = 12	4 1 /4 1						1 1 10 1	1 0	1:/0:								_					
ムラサキインコ(幼貝)	1j/1j	1	0.74	-		-	1j/3j	3	1j/2j	2			-									
ヒバリモドキ		1	0/1	1		-	0/1,5j	6	1/0, 2f	1		-	-			-						-
コガモガイ類		1		-		+-	1	1	1	1		-	-		-	-	-	-		-	-	
キクコザラ		-	-	-		+-	-						-		-	-		-	-	-		_
アラレタマキビ トリデニナ		-	-	-		+	+	-	-			-	-		-	-	-	-	-	+	-	-
トサレイシ		-	1	1		+		-			-	-			-	-		-	+	-		-
マガキ	-	-		+ '		+		-			-	_	-		-			_	-	-		
オハグロガキ		+	-	+		+	-	-	-	-		-	1		1		2	_	+			1
ケガキ		1	1	+	<del> </del>	+	1 jcv	1			1	+	-	-	-			<del>                                     </del>	+	1		1
トマヤガイ		_		+-		+	1 100												+	<u> </u>		
チリハギ		_		_		+			1/1	1			_					1	_			
イワフジツボ類		+	3	3	1f	1	+		1/1	-			_		1			_		+		
カンザシゴカイ類		1	-	1	1.	+							_							1		
アカフジツボ?												1										
キクスズメ									1i	1			1		1			1				3

プル番号		No. 9	No. 10		No. 12		No. 13	- 1	No. 14		No. 16		No. 21	
貝製品関係	オオツタノハ ノシガイ													$\neg$
	ノシガイ													$\neg$
	サケツノガイ?										1740			$\neg$
意図的持ち込み	ヒメツメタ (沖縄型)													_
	ウミウサギ					_				-				_
	小形タカラガイ					-								-
	ホシキヌタ					-		-		-				_
	<b>ルンイスタ</b>					-								_
	ヤクシマダカラ				*****									_
	タイコガイ					_								
	オハグロオキニシ													
	ホラガイ													
	オニニシ													-
	ヒメイトマキボラ										1f	1		_
	ツノキガイ							~			1u	1		-
	ヤナギシボリイモ							-			10	-		-
	大形イモガイ					-								-
	トドロキガイ(成貝)					_								-
	ヒオウギ										1.6			_
	<u>にオリヤ</u>					-					1fe	1		_
	ダンドクメンガイ? ウミギク類													_
	ワミキク類													
	シャコガキ										1fe	1.		
	ナガザル													
	シラナミ類					i								
	アラヌノメ													
非意図打上	シマワスレ		4, 1 j/1	5			1ue, 1 je/2e, 1ue, 1 je	4	1 jHe/2 (1H) e	2	11 (1H) e, 2 (1H) je/4e	13		_
(二枚貝等)	シマワスレ		1,				, ., .,		13110/ 2 (111)	-	11 (11) 0, 2 (11) 307 10	-10		-
\— IX25 \\ 17	ベニワスレ		0/1	1										-
	ワカカガミ		1,1j/3(1H),2j	5				_		-	0/1e	1		-
	ワカカガミ		1, 13/3 (11), 23	-		-				_	0/16			-
	フォフゲフサリ		0- 1:-/1- 6:-	7					0/1-	-	1:-/0-	0		_
	フキアゲアサリ		2e, 1 je/1e, 6 je	7				_	0/1e	1	1 je/2e	2		_
	トドロキガイ		2je			_	1e/2je	2	3 je, 2 jue	3				_
	トドロキガイ													
	キヌスジコタマキ						3 je	2						
	エガイ										1f	1		
	コシロガイ													Ī
	エガイ													
	トマヤエガイ													-
	ハナエガイ						0/1 j	1		-				-
	ナデシコ						0/11			1				-
	イタヤガイ科			$\vdash$		-				1				-
	1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 / 1 /		4e	2						-	-			_
	ネズミノテミノガイ			1						+				_
	ミノルイ		1 je/0	1			0: /0	- 0		-				_
	ヒトエギク						2je/0	2						_
	バカガイ属													
	マツカゼ													_
	エボシガイ													-
非意図打上	アサテンガイ		1e	1						1				-
	コシダカサザエ													-
	コシダカサザエ(フタ)					_				1				-
	カニモリガイ?								1 jwe	1				-
	アワブネ		-	_		-			1 JWC	+-	2e	2		-
	1 7 7 7									+	Ze			_
	ヒメミクリ?					_				-				_
	ムシボタル													_
	ミヨリオトメフデ?		1	1 1	İ	- 1				1	1	1		

表 1 一陣長崎鼻遺跡の貝類遺体の詳細(つづき4).

表 1 一陣長崎鼻遺跡	No. 22	No. 34		No. 35	No. 46	No. 47	No. 48	No. 54	No. 57		No. 60	No. 61	
オオツタノハ													
ノシガイ													
サケツノガイ?													
ヒメツメタ (沖縄型)		1	1							1			
ウミウサギ		· ·	-										
小形タカラガイ									1fe	1			
ホシキヌタ			_						116	+ ' +		_	_
ヤクシマダカラ			-			_				-		+	_
タイコガイ												+	_
<u> </u>													_
オハグロオキニシ												-	_
ホラガイ													
オニニシ													_
ヒメイトマキボラ													_
ツノキガイ													
ヤナギシボリイモ													
大形イモガイ													
トドロキガイ(成貝)		1He	1						2 (1 スレ穴 ) e	1			
ヒオウギ									1 je	1			
ダンドクメンガイ?													
ウミギク類		0/1e	1										
シャコガキ													
ナガザル		1 je/0	1										
シラナミ類		1,50,0	-										
アラヌノメ			-		7-7-							_	
シマワスレ		3 je/0	3			_			19 (3H), 4 (1H) u, 6 j/	38			
シマワスレ		3)6/0	3			_			26 (5H), 9 (3H) u, 3 (1H) j, 251			_	_
ベニワスレ									1e/0	1			
		1:-/1-	1									+	$\vdash$
ワカカガミ		1 je/1e	1						1ue, 5 je/11 (1H) e,	19			-
ワカカガミ		1: /0 1:	0						1ue, 6je. 1jue, 6fe	01			<u> </u>
フキアゲアサリ		1 je/2ue, 1 je	3						8 (1H) e, 5ue, 8 je/	21			-
トドロキガイ		4(1H) je, 2 jue	3						30 (1 スレ穴 , 3H) je	16			-
トドロキガイ									, 4 (1H) jue, 2fe				_
キヌスジコタマキ									8e				
エガイ													
コシロガイ									0/1	1			
エガイ									1/0	1			
トマヤエガイ												1f	1
ハナエガイ													
ナデシコ									1 j. 1 fe	1			
イタヤガイ科		1fe	1						7				
ネズミノテ		1 je	i i						6e	6		1	
ミノガイ		1,10	- +							1			
ヒトエギク									0/1 je	1		+	
バカガイ属	<del>                                     </del>		<del></del>						0/1je	+ i +		+	_
		1e/0	1						0/136	+-'-		+	-
マツカゼ		16/0							1			+	_
エボシガイ			-							-			-
アサテンガイ									1- 15-	-			-
コシダカサザエ									1e, 1fe	2			-
コシダカサザエ(フタ)		?1e	1						1	1		-	_
カニモリガイ?												-	_
アワブネ									3e	3			
ヒメミクリ?									2fe	1			
ムシボタル		1He	1										
ミヨリオトメフデ?									1fe	1			

表 1 一陣長崎鼻遺跡の	No. 62		No. 63	<del>).</del>	No. 6	7	No. 6	R	No. 69	9	撹乱 / 一括	GIX	I / Π tr					その他				_
オオツタノハ	110. 02	_	110. 00	-	110. 0	Í	140. 0	Ī	140. 0.	Ī	1fA	u <u>K</u>	1 / 11 (1			1fA		(0)				1
ノシガイ	-	_									3					IIA		-				+
サケツノガイ?		_								_	3											+-
																						_
ヒメツメタ(沖縄型)																						
ウミウサギ											1dLe											
小形タカラガイ																						
ホシキヌタ													1e									1
ヤクシマダカラ											1dLe										?1(背面)fe	1
タイコガイ											1fe											
オハグロオキニシ														1								1
ホラガイ													1f									1
オニニシ									,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,				7.	1C0e				?1f				1
ヒメイトマキボラ						_							1d	1000			_	- 111				1
ツノキガイ				-		1					-	_	1e	200	3u			1, 1CO				5
ヤナギシボリイモ												1ue	16	200	Ju			1, 100				1
大形イモガイ				-	***	-						Tue			15		_					
						-								4/111\ -	1b							1
トドロキガイ(成貝)														4 (1H) e								2
ヒオウギ														1fe								1
ダンドクメンガイ?														2e							3e, 1fe	3
ウミギク類																						
シャコガキ														2f							2e, 1fe	1
ナガザル									1u/0	1				1j, 2u (1d), 1f								2
シラナミ類													1f (11cm)									1
アラヌノメ																				1u		1
シマワスレ					0/1e	1	0/1 je	2														
シマワスレ																						
ベニワスレ																						
ワカカガミ					-9/1/2		0/1, 1fe	2													1H	1
ワカカガミ							0, 1, 110										-	-		-		+-
フキアゲアサリ							1 je/0	1											-			+
トドロキガイ		_				1-	1e	i						5 (3H, 1B) je			1 io	1 je				4
トドロキガイ						-	16			-				3 (3H, 1b) je	-		116	116		_		+ 4
キヌスジコタマキ				-		-				-					_		-					+
		-				-				_				1: 15								-
エガイ						_		-						1 j, 1 f								1
コシロガイ																						
エガイ																						$\perp$
トマヤエガイ																						$\perp$
ハナエガイ																						
ナデシコ																						
イタヤガイ科																						
ネズミノテ		- 1													7.7							
ミノガイ																			1e(殻頂スレ孔)			1
ヒトエギク																						
バカガイ属																						1
マツカゼ								1		1												+
エボシガイ				_						_		_										+
アサテンガイ		_				+	1	-		+		<del>                                     </del>			_		<u> </u>	-		_		+
コシダカサザエ						_	-	_		<del> </del>	1e						-			-		+
		-				-	-	-	-	-	i e	-					_	-		-		+-
コシダカサザエ(フタ)						-						-										_
カニモリガイ?						-				-		-										
アワブネ												-										
ヒメミクリ?																						
ムシボタル																						
ミヨリオトメフデ?																						T

表2. 一陣長崎鼻遺跡から得られたフジツボ類遺体.

			4	1	11-1-12-12	11 1-12 112 / 11 1-8
番号	調査区	層名等	イワフジツボ類	クロフシーツホー類	オオアカフシ゛ツホ゛	カメフシ゛ツホ゛ / サイス゛ mm
	2-3 ⊠ c	貝集中			1	
8	f-1	Ⅱ層	3	4f	2(1j)	
11	f/g-1	ムラサキインコ	1		?1	
26	h−1	Ⅱ層	4	2, 20f	7, 7 (4e) f/ カメノテ上	
28	h−1	ベル土	22	7f	1f	3f
29	i−1	Ⅱ層(白砂下)		2f		1f/12
30	i−1	Ⅱ-2層(白砂下)	1		1 j	1f/28
31	i-1	Ⅱ層	1f	19f	5 (3 j)	3f/28, 27
33	i-2	ハマク゛リ	5	1, 3f		
37	i –2	Ⅱ層	92	2, 8f	4(3j), 2f/2f は食用?	1f/18
38	i-2	Ⅱ層	3	2f	1 j	
39	i-2·3	Ⅱ層	3	2f		
40	i-2·3	サブ・トレ	7	2f	1f	
55	i-4	Ⅱ層	15	1, 1f	1j	
65	j-1	Ⅱ g 層最下層	59	2f		
70	j-1	Ⅱ f 層最下層	13	2f		
71	j-1	Ⅱ層	18	12f	1jj, 4(2e)f	8f/16, 15, 58
90	j-2	II f 層	2	1f	1f/ 大	1f/23
92	j-2	Ⅱ f 層下面	4	1f		
93	j-2	Ⅱ f 層最下層		1f		
94	j-2	II層	9	1f		
95	j-2-g	Ⅱ層	2	5f		
99	j-2	サブ・トレ				1f/19
103	j-3	サブ・トレ	3	1f	1, 1f	1f/19
104	j−3	Ⅱ層		1f	1f	
105	k-1	Ⅱ層		1f	1.j	
108		先行トレンチ H	42	5 (1B) f	2j, 3(B)f	3f/32, 21
111		サブ・トレ 2	4	2	1	1f
112	e ~ i	土層清掃	2	1f	1f,3j	

表3. 一陣長崎鼻遺跡のハマグリ殻長組成

		奇鼻遺跡	のハマグリ	競長組用										
調査区	f, g-1	g-1	g-1	g-1	i-2	i-3-a	i-6	j-1	j-1	j−1	j−1	j-1	j-1	j-1
層名等	ムラサキインコ	Ⅱ層	ハマグリ獣骨	Ⅱ層	獣骨	イシタ タミ	Ⅱ層	Ia層	I b上層	I b 下層	Ⅰ,Ⅱ間白砂	II g上層	II g 中層	Ⅱg下層
番号	10	13	14	16	34	54	57	60	61	62	63	67	68	69
右殼														
30 mm							1							
31 mm				1										
32 mm							1							
35 mm				1			1							
36 mm				1										
37 mm				2										
38 mm				1			3						1	
39 mm				2										
40 mm				2			1			1				
41 mm				1		1	1							
42 mm				2										
43 mm				4	1									
44 mm				3		1								
45 mm	1			2	3	11_	1							
46 mm		1	2	1	1		1	1				1		
47 mm		1		2	2		2						1	1
48 mm	1	1		5	2			1		1				
49 mm	2	1		9	4		3						1	1
50 mm				8	3								1	1
51 mm				9	1		1							
52 mm	1			12	2	1								
53 mm				4	1		1							
54 mm			1	7	4		1							2
55 mm		1		4	2		1						1	
56 mm		1		6	2		1						2	4
57 mm				5	3	1	1					2	2	
58 mm	1	1		3	11				1			1		
59 mm				6	3	1	2						1	1
60 mm		2	1	1	1								1	
61 mm				1	3		2							1
62 mm		1		5	1									1
63 mm			1	3	2		1			1			1	
64 mm				1	1					11				
65 mm				4										
66 mm				2										
67 mm				4										
68 mm				1	2		1							
69 mm	1			1	1									
70 mm				2										

# 

#### はじめに

一陣長崎鼻遺跡(鹿児島県南種子町)は種子島南部の海岸砂丘上に位置する縄文時代晩期の遺跡である。本遺跡では昭和31(1956)年および平成21(2009)年に実施された発掘調査において多数の脊椎動物遺体(骨類)が採集された。ここではその同定結果を報告する。

#### 1. 分析資料と分析方法

分析資料 昭和 31 年調査の資料はすべてピック アップ法 (発掘現場での手による拾い上げ) による 採集資料と思われる。

平成21年調査の資料は、その採集方法によって ①乾フルイ資料と②水洗選別資料に分かれる。資料 の大部分は前者である。

乾フルイ資料は、掘り上げられたすべての堆積物を現場で2mmメッシュを用いた乾フルイにかけて回収された資料である。これらの中からまず貝と骨全体の組成を求めるための共通資料として、表4に示した資料を抽出した(以下「貝骨共通資料」とする)。その他については資料数が膨大であり、時間内にすべての資料を同定することが難しかったため、今回は分析対象を最も出土数の多い」グリッドの資料に限定した。

水洗選別資料は,j-2 グリッドから採取された堆積物のコラムサンプルを水洗選別して回収された資料である。サンプルの採取作業は黒住耐二氏と筆者が共同で行い,水洗作業は黒住氏によって行われた。採取方法は,25×20cmのコラムを上位から4単位(サンプル番号は上位からア〜エ)に区分して採集した。水洗に用いられたメッシュは9.5mm,4mm,2mm,1mmの4種である。

出土した骨類の年代については、遺物包含層から 出土した土器が昭和31年・平成21年調査ともに黒 川式のみであることから(石堂和博氏のご教示によ る)、骨類も主にこの時期の所産と推定される。

分析方法 分析対象とした骨類のうち, 魚類では主 上顎骨, 前上顎骨, 歯骨, 角骨, 方骨, 椎骨の全資 料を抽出して必須同定部位とした。また分類群ごと の骨格的特徴に応じて他の同定可能な部位も適宜同 定用資料に加えた。魚類以外では部位を特定できる 資料を同定用資料としたが, 四肢骨については骨端 を残す資料および骨幹部の全周を残す資料に限定し た。

同定方法は、原則として現生標本との比較によったが、サメ類の歯の同定には糸魚川ほか(1985)も 参照した。比較に使用した現生標本は、筆者の所蔵標本に加え、国立歴史民俗博物館西本豊弘氏の所蔵 標本も参照させていただいた。

# 2. 昭和31年資料・平成21年乾フルイ資料の分析結果

昭和31年資料の同定結果を表1~表3に、平成21年乾フルイ資料の同定結果を表4~表8に示した。また、同定標本数(NISP)および最少個体数(MNI)による組成を表10に示した。なお、先述のとおり、本遺跡の骨類には時期差がみられないことから、MNIは昭和31年資料・平成21年資料のそれぞれについて、全資料の合計値に基づいて算出した。

#### (1) 脊椎動物遺体群の概要

昭和31年資料・平成21年資料乾フルイ資料ともに魚類(詳細は後述)が過半を占め、シカ、イノシシがこれに次ぐ点で共通する(図1)。他に、ウミガメ類、鳥類、ニホンザル、イルカ・クジラ類などが確認された。

昭和31年資料では平成21年資料に比べて魚類が少ないが、これは昭和31年資料がピックアップ法による採集資料であるため、比較的小型の魚骨が採集漏れとなっているためではないかと推測される。いっぽう、魚類を除外した組成をみると、昭和31年資料ではイノシシやウミガメ類が多い。これらはいずれも大型骨であることから、資料採集方法の違いというよりも、遺跡内部の空間的な差異を示している可能性もある。なお、昭和31年資料からはウマも若干検出されているが、出土層準が不明であり、後世資料の混入と思われる。

平成 21 年資料について,グリッド別・層別の分布傾向を NISP でみると(図 2),資料のほとんどが  $\Pi$  層から出土している。平面的には,分析したグリッドの中では,g-1,j-1,j-2 グリッドからの出土数が多い。また,g グリッドではシカ・イノシシの比率がやや高く,とくに g-1 グリッド  $\Pi$  層「獣骨集中」ではこれらが出土資料の大半を占める点で特異的である。

#### (2) 魚類

組成 魚類遺体の組成の詳細をMNI比(図3)でみると、平成21年乾フルイ資料ではブダイ科を筆頭に、ハタ科、クロダイ属、ボラ科、ハリセンボン科が優占しており、サメ類、ウナギ属、ウツボ科、フエダイ科、ニザダイ科、カワハギ類もやや多い。これに対して昭和31年資料ではブダイ科が圧倒的に多い点で傾向が異なるが、これは本来的な組成の違いというよりも、昭和31年資料がピックアップ法による採集資料であるため、大型で目立ちやすいブダイ科の咽頭骨や顎骨が発掘現場で選択的に取り上げられたことが原因ではないかと推測される。

いっぽう NISP による組成 (図 4) では, 平成 21 年・昭和 31 年資料ともにサメ類がブダイ科と並んで圧倒的多数を占めており, MNI とは傾向が明らかに異

なるが、これはサメ類の出土部位が MNI の算出に適 さない歯と椎骨のみであり、 MNI に出土量が反映さ れにくいためで、実際にはサメ類も本遺跡での主要 漁獲対象魚のひとつであったとみてよい。

平成 21 年資料の層別・グリッド別の分布傾向 (NISP) をみると (図 5), 上記のような組成の基本 傾向は全体に共通しているが, g グリッド・i グリッドではサメ類とブダイ科の占める比率が高いのに対し, j グリッドでは他種がやや多く, 組成のばらつきが大きい傾向がある。

主要種の記載 以下,主要種の同定所見について簡単に記載する。

サメ類:歯はメジロザメ科のものが大半を占めており,他にミズワニ科(加工品。詳細は後述)が1点確認された。椎骨の多くもメジロザメ科に類するタイプだが形態に変異がみられ、複数種が混在している可能性が強い。昭和31年資料からはネズミザメ科の椎骨も確認されている。メジロザメ科の歯の歯根近遠幅は8~10mm前後で、やや小型~中型の個体が主体である。メジロザメ型の椎骨の径は約5~30mmで、10~25mm前後のものが多い。昭和31年資料のネズミザメ科椎骨は径45mm前後ときわめて大型である。

なお、サメ歯加工品として穿孔品が5点、研磨製品が1点確認されている。研磨製品(図6)は j-2 グリッドII層から検出されたもので、歯冠は歯根から垂直に長く伸び、切縁に鋸歯はみられないこと、一対の小さな副咬頭があることからミズワニ科と推定される。歯根の近遠幅15.3mm、高さ18.0mm+。歯根舌側面の隆起部を研磨して平坦面を作出しており、研磨面には微細な条痕が密に認められる(図6b)。副咬頭は摩耗しており、人為的に除去された可能性もある。類例は五島列島など西北九州の縄文後期~弥生時代にみられることから(金子・忍沢1986)、この地域に展開した外洋漁労民との関連が示唆される。

ウナギ属:前鋤骨板,角骨,椎骨が検出された。前鋤骨板はきわめて大型であり,オオウナギ Anguilla marmorata の可能性が強い。

ボラ科:主鰓蓋骨と椎骨が検出された。小型~中型の個体である。

ハタ科:前上顎骨・歯骨はマハタに類するタイプが主体だが、スジアラに類するタイプも混じる。大小各サイズの個体が混在するが、中型の個体が多い。

クロダイ属:中型~大型の個体が大半だが,幼魚 もわずかにみられた。

ブダイ科: 咽頭骨と前上顎骨・歯骨でブダイ属と アオブダイ属が同定された。後者が多いが前者も普 通である。アオブダイ属は大型の個体が主体で,下 咽頭骨歯列面幅が20mm以上に達するごく大型の個 体も多くみられた。 カワハギ類:椎骨はすべてモンガラカワハギ科の ものと思われる。中型~大型の個体が大半を占める。 ハリセンボン科:やや小型~中型の個体が主体だ が、大型の個体も混じる。

### (3) ウミガメ類・鳥類

ウミガメ類:アカウミガメに類する資料が多いが、 アオウミガメに類する資料も混じる。大小各サイズ の個体が混在するが、比較的大型の個体が多く、き わめて大型の個体もみられた。

鳥類:アホウドリ科5点,カモメ科4点,キジ科3点が同定されたほか,未同定標本が4点ある。

#### (4) 陸生哺乳類

シカ:鳥獣類の中では最も多い。九州本土のものよりやや小型である。歯の萌出交換に基づく年齢構成をみると、乳臼歯を残す個体(約2歳まで。大泰司1980)と永久歯への交換を完了した個体の数(MNI)は、平成21年資料が4(下顎m2):7(上顎P4)、昭和31年資料が2(上顎m1):6(下顎P2)で、成獣が主体だが、幼獣もある程度の比率で含まれている。

部位組成をみると (図7)、平成21年資料では基 本的には全身骨格が揃っているが、頭蓋(とくに上 下顎骨)が多く,四肢骨が相対的に少ない。一般に 縄文遺跡では、シカは頭骨・四肢骨ともに比較的バ ランスよく出土する傾向があるが、本遺跡では頭骨 への偏りが強い点が特徴といえるかもしれない(さ らに検討を要する)。ただし、四肢骨のみに限って みると、とくに欠落する部位はなく、上腕骨遠位端、 橈骨,尺骨,脛骨遠位端,踵骨などが高頻度を示す 点で,一般的な縄文遺跡と類似傾向を示している。 なお、角が破片を含めても6点と、頭骨に比べて 著しく少ない点も特徴である。昭和31年資料では、 頭蓋が多く四肢骨が少ない点では平成21年資料と 同様だが, 四肢骨のうち, 橈骨, 尺骨, 脛骨, 中足 骨, 踵骨といった主要部位が欠落する点で特異な様 相を呈する。

解体痕・加工痕については、主要四肢骨にしばしば人為的な折損の痕跡(スパイラル・フラクチャー)がみられ、解体・食用とされたと推定される。平成21年資料の中手・中足骨は縦に半裁されているものが多く、近位端資料では中手骨で3点中1点、中足骨で8点中4点が半裁されている。すべて前後(背側/掌側)の分割である。骨器製作に関連する加工の可能性がある。角には加工痕が確認されなかった。

イノシシ:シカに次いで多くみられた。歯の萌出交換による年齢グループ (林ほか1977) ごとに MNI を求めると、平成21年資料では $0 \sim I$  (M2 未萌出 = 0.5 歳以下) が2個体、 $I \sim II$  (M2 萌出中= 0.5 ~1.5 歳) が1個体、II 以上 (M2 萌出= 1.5 歳以上) が3個体となった。後臼歯の数をみても、M1 が3点(うち2点が萌出中)、M2 が2点(うち1点が未萌出)、M3 は1点のみと少ないことから、未成獣が主体で

成獣は少ないと推定される。昭和 31 年資料でも年齢グループごとの MNI は  $0 \sim I$  が 3 個体, $I \sim II$  が 1 個体,II 以上が 4 個体と平成 21 年資料とほぼ同じだが,M3(萌出中~完出)が 6 点(MNI = 2)とやや多くみられることから,未成獣を主体としつつ,成獣もある程度の比率で含まれると推定される。

大歯による性比は、平成21年資料が雄2:雌0、昭和31年資料が雄4:雌2で、雄がやや多いが、資料数が少ないため意味のある差といえるかは微妙である。

本遺跡のイノシシの部位組成は特異な様相を呈している。まず平成21年資料をみると、頭蓋(とくに上下顎骨)が多いのに対して、四肢骨は少なく、とくに上腕骨、橈骨、大腿骨、脛骨、中手・中足骨といった主要部位がほぼ欠落している。このパターンは一般的な縄文遺跡のパターンとは大きく異なっており、昭和31年資料のシカの部位組成に類似する。昭和31年出土のイノシシの部位組成はさらに極端なもので、出土部位が頭蓋~頸椎(環椎、軸椎)にほぼ限られており、その他では中手骨が1点みられたのみである。これが実際に埋蔵されていたイノシシ遺体の実態を示しているとすれば、通常の廃棄行為によるものとは考えられず、頭部のみを選んで安置/埋納したか、解体後に頭部以外の部位が他所に運び出されている可能性が強い。

その他の陸生哺乳類:シカ・イノシシ以外は少ないが,その中ではニホンザルがやや多い。遊離歯が多く,上腕骨・橈骨・大腿骨などの四肢骨がみられた。イヌは上顎切歯が1点得られたのみである。

#### (5) 海生哺乳類

イルカ類の下顎骨・歯・椎骨・肋骨,大型のイルカまたは小型クジラ程度のサイズの上腕骨,クジラ類の椎骨や肋骨の破片が得られた。いずれも出土数は多くはないが、昭和31年資料ではクジラ類の破片がやや目立った。

#### 3. 平成 21 年水洗選別資料の分析結果

コラムサンプルからの骨の検出量はごく少ない(表 9)。検出されたのはすべて魚骨で、ハタ科方骨、ブダイ属前上顎骨、カワハギ類の鱗(かなり大型の個体のもの)、ハコフグ科?の鱗板が確認されたほか、分類群の特定未了の椎骨が得られている。2mm以下のメッシュからの検出数が少ないことから、本遺跡ではこうした小型魚類の利用は低調であったと推定される。

### まとめ

以上をまとめると、本遺跡における脊椎動物資源 利用は魚類の漁とシカ・イノシシ猟を主力とし、こ れにウミガメ、鳥類、ニホンザル、イルカなどの猟 が加わって構成されていたと推定される。 無類の漁は沿岸の岩礁/サンゴ礁域におけるブダイやハタなどの漁,外海域でのサメ漁,遺跡近隣の汽水域を中心としたクロダイ,ボラなどの漁が主体である。とくにサメ漁の活発さは本遺跡最大の特徴で,サメ歯研磨製品の出土から本遺跡のサメ漁に西北九州方面の外洋漁労民が関与していた可能性が強く示される。

シカ・イノシシについては、頭蓋が多く四肢骨主要部位が欠落するなど特異な様相を呈しており、本遺跡が単純な日常生活の場ではなかった可能性を示している。また、シカ角の出土が少ない点や中手・中足骨の半裁資料が多いことから、本遺跡が骨角器生産の一次的な作業場であった可能性も考えられる。

本遺跡の北東約 6.5kmには弥生時代中期~古墳時代前期の埋葬遺跡として著名な広田遺跡が存在する(石堂・徳田編 2007)。広田遺跡は本遺跡と同様に河口付近の海岸砂丘上に立地し、ブダイなどの魚骨とシカを主体とする多数の骨類が出土するなど(樋泉 2007)、本遺跡と類似する部分もみられるが、サメがまったく出土していない点など、明確な違いも認められる。このように本遺跡の資料は広田遺跡の系譜を考えるうえでも重要と思われるが、今回は時間の制約から十分に検討することができなかった。この問題については機会を改めて論じたい。

謝辞 南種子町教育委員会石堂和博氏・小脇有希乃 氏には調査分析の全般にわたってさまざまなご教 示・ご助力を賜った。千葉県立中央博物館黒住耐二 氏には多くの有意義なご教示を賜り、また水洗選別 資料を提供していただいた。国立歴史民俗博物館西 本豊弘氏には現生標本を参照させていただき、また 分析に際してご助力を賜った。記して厚く御礼申し 上げる。

#### 参考文献

石堂和博・徳田有希乃(編)(2007)『広田遺跡-平成 16 年度~18 年度町内遺跡等発掘調査事業-』南種 子町教育委員会

糸魚川淳二・西本博行・柄沢宏明・奥村好次(1985)「瑞 浪層群の化石 3, サメ・エイ類(板鰓類)」瑞浪市 化石博物館専報 5:1-89, pl.1-38

大泰司紀之(1980)「遺跡出土ニホンジカの下顎骨による性別,年齢・死亡季節査定法」考古学と自然科学 13:51-74

金子浩昌・忍沢成視 (1986) 『骨角器の研究 縄文篇 Ⅰ・ Ⅱ』 慶友社

極泉岳二 (2007)「広田遺跡から採集された脊椎動物遺体」『広田遺跡-平成 16 年度~18 年度町内遺跡等発掘調査事業-』(石堂和博・徳田有希乃編) 南種子町教育委員会, pp. 218-229

林良博・西田隆雄・望月公子・瀬田季茂 (1977)「日本産イノシシの歯牙による年齢との査定」日本獣歯学雑誌 39:165-174

表 1. 一陣長崎鼻遺跡昭和 31 年調査で出土した脊椎動物遺体の同定結果
\* 接存位置の凡例: w 完存. p 近位端. m 骨幹. d 遠位端. fr 破片. (p)・(d) は未愈合の骨端のみ. (p-)・(d-) は骨端未愈合脱落. <p->・<d-> は骨端のみ欠損

### 2000년 전 변경	* 残存位置の	の凡例: w 完存. p i	左位端,m 背幹,d 通	位端、fr 级片		未抱合の背端の B区/G区		d-) は骨端末担区	F区		区	I · II Tr		
### ### ### ### #####################	分垣群	部位	残存位置	3−4 /⊡					7	-	1		3	4
2	よごロザメ刑	F催-智·		上端 -53		- 11		- 11 - 11		0 (21) 11	~ 117	1077		
### ### ### ### #### ################		-										9		
小夕日   中部   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日														
19		249/07/17												
大学型   現在   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日													/ 1	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##	ハタ型	H复相的												
2 日	イスズミ科	前上颚骨												
9 夕代報         所格         人           7 夕代橋         日曜報報         人           7 大大夕代橋         日曜報報         日           7 大大夕代橋         日曜報報         日           7 大大夕代橋         日曜報報         日           7 大大夕代春         日曜報報         日           7 夕代春         日日報報         日           7 夕代春         日本記録         日           7 夕日記録         日         日           7 夕日記録         日         日           7 夕日記録         日<	イスズミ科	街省:												
夕子信         括極	クロダイ属	前上领骨											1 /	
大学 # 1	クロダイ属	(H·H·								2 /			1	
	タイ型	尾椎												
1	ブダイ底	上咽頭骨	-										/ 1	
プタイ目         前空         1/ <t< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>														
'' '' '' '' '' '' '' '' '' '' '' '' ''		_				1								
文ダイ告         当時         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1         2         3         1<								1 /						
ブダイ朴         由上記費           ブダイ朴         規能           ブダイ朴         規能           ブダイ朴         規能           ブダイ朴         規能           ブダイ朴         規能           ブダイ朴         規能           プダイ朴         規能           プダイ朴         規能           プグイト         日本           プグイト         日本           プグランボルド         自上等で合作           受け場所に         日本           受け場所に         日本           受け場所に         日本           受け場所に         日本           受け場所に         日本           プラクスダメ         施の部分           プラクスダメ         施の部分           アククスダメ         施の部分           フラクスダメ         施の部分           フラクスダメ         施の部分           フラクスダメ         施の部分           フラクスダメ         施の部分           フラクスダメ         施の部分           クスダメ (日本)         カロー 日中           クスダメ (日本)         カロー 日中           クスダメ (日本)         カロー 日中           クスダメ (日本)         カロー 日本           クスダメ (日本)         カロー 日本           クスダメ (日本)         カロー 日本           クスダメ (日本)         カロ		10.000										1 /		
ブダイト         原理         1         9         9           ブダイト         原理         1         2         3           ブダイト         原理         1         2         3           ブダイト         原理         1         1         2         3           ブラセンボライト         高力         1         1         1         1           ブラウェボライト         経         1         1         1         1         1           野門の間隔         大能         1         1         2         2         1         1         2         2         1											1			
プタイ件         販能         1         2         9           二字부족점         取能         2         3         3           二字부족점         取能         1														-
大学 大学   佐座													g:	
三字サイド   近世						1								
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		7000										2	3	
中央とと対と行 他記録が 命称				-										
中学と対す行 後														
か与とボンド 様         1         2         2         7												1		
佐行電線														
整合部部部			+									-		
			-										1	
接管師院下の「住命」		1000000							-				1	
アカウミガメ         後島昭令         n         1 / 1         1			-										9	
アカウミガメ         商島自舎         m         1 /         1         1         7カウミガメ         資金         1         1         1         1         7カウミガメ         資金         1 <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>/ 1</td> <td></td> <td></td>			1									/ 1		
アカウミガメ         前島自育         m         1         1           アカウミガメ         鈴原町板         0         1         1           アカウミガメ         鈴原町板         0         1         1           ウミガメ類         島口 - 何甲作         助け 骨甲作         1         1           ウミガメ類         島口 - 何甲作         かた カメ類         1         1           ウミガメ類         上総管         n         1         1           ウミガメ類         上総管         n         1         1           ウミガメ類         大総管         4         / 1         1           ウミガメ類         大総管         4         / 1         1           ウミガメ類         大総管         4         / 1         1           ウミガメ類         新管板         5         1         1           ウミガメ類         新管板         6         1         1         1           ウミガメ類         野性板         6         1			m		1 /									
アカウミガメ         賞賞         1			1											
アカウミガメ         郵送販板         p         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /1         /2												1		
アオウミガメ国         島口・肩甲骨         関節部         / 1 <td>アカウミガメ</td> <td></td> <td>р</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>/1</td> <td></td> <td></td> <td></td>	アカウミガメ		р								/1			
ウミガメ項     島口 - 肩甲骨     fr       ウミガメ項     上腕骨     fr       ウミガメ項     上腕骨     m       ウミガメ項     上腕骨     m       ウミガメ項     上腕骨     d       ウミガメ項     長骨     (p-)-d       ウミガメ項     長骨     (p-)-d       ウミガメ項     指骨     1       ウミガメ項     野骨板     1       ウミガメ項     野骨板     p       ウミガメ項     野骨板     fr       ウミガメ項     音甲板     fr       ウミガメ項     音甲板     fr       ウミガメ項     野甲板     fr       ウミガメ項     音甲板     fr       ウミガメ項     野甲板     fr       ウミガメ項     野甲板     fr       オンジー     大総骨     p       エルンザル     上部大衛舎     p       エルンザル     上部大衛舎     p       エルンザル     上部大衛舎     p       イノシシ     前衛骨・頭角骨     m       イノシシ     上頭骨     m       オノシシ     上頭骨     m       オノシシ     大頭魔帽     m       オノシシ     大野産庫     m       オノシシ     大野	アオウミガメ						**	/ 1						
ウミガメ垣     島口 月甲骨     fr       ウミガメ垣     上殿骨     カーシーd       ウミガメ垣     上殿骨     d     /1       ウミガメ垣     上殿骨     d     /1       ウミガメ垣     長骨     分トシーd     1       ウミガメ垣     長骨     分トシーd     1       ウミガメ頃     野骨板     1     1       ウミガメ頃     野骨板     P     5       ウミガメ項     野骨板     Fr     1       ウミガメ項     野甲板     Fr     1     1       ウミガメ項     野甲板     Fr     1     1     1       ウミガメ項     野甲板     Fr     1     1     1       ウミガメ項     野中板     Fr     1     1     1       マシガメ項     野甲板     Fr     5     1     1       マンガメ項     大殿骨     P     5     5     1       マンガス項     野中板     Fr     1     1     1       マンガス項     大殿骨     B     1     1     1       マンガス 原     大阪骨     P     アールンサル     大阪骨     P       ニホンザル     大阪骨     P     アールンサル     アールン・アル     アルール・アル     アルール・アル <td>ウミガメ頃</td> <td>島口-肩甲骨</td> <td>関節部</td> <td></td>	ウミガメ頃	島口-肩甲骨	関節部											
ウミガメ垣     上腕骨     n     1 / クラン・d       ウミガメ垣     上腕骨     n     1 / クラン・d       ウミガメ垣     松骨     クラン・d     1       ウミガメ垣     尺骨     イアン・d     1       ウミガメ垣     尺骨     イアン・d     1       ウミガメ垣     大骨板     1     1       ウミガメ垣     助骨板     p     5       ウミガメ垣     助骨板     p     1       ウミガメ垣     野中板     fr     1       ウミガメ垣     管甲板     fr     1       ウミガメ垣     管甲板     fr     1       ウミガメ垣     育屋町板     fr     5       ウミガメ垣     青澤 原町板     5     1       ウミガメ垣     ボー     5     1       オンシザル     大腿骨     p     5       エホンザル     大腿骨     p       エルンザル     下頭 自動     7       イノシシ     麻癬骨・頬原骨     7       イノシシ     上頭を衛子     1       イノシシ     上頭を衛子     1       イノシシ     下頭を衛子     1       イノシシ     大野遊館市     1       イノシシ     乗機性     1       イノシシ     機性       イノシシ     機性       イノシシ     機能	ウミガメ頃	島口三肩甲骨	鳥口骨 fr				1 /							
ウミガメ項     上腕骨     m     1 / 1       ウミガメ項     長骨     くp>-d     1       ウミガメ項     長骨     くp>-d     1       ウミガメ項     指骨     1     1       ウミガメ項     筋骨板     1     1       ウミガメ項     動骨板     p     5       ウミガメ項     音甲収     p     1       ウミガメ項     音甲収     p     1       ウミガメ項     音収取     fr     1       ウミガメ項     背限即板     fr     1       ウミガメ項     背限即板     fr     5       アホウドリ科     端     1     1       キンジョ     長骨     w     1       エルンザル     上流光電砂     p     1       エルンザル     上流光電砂     p     1       イノシシ     前衛骨・頭骨     関節結婚     /1       イノシシ     上頭でりの骨骨     評価は大2 李照     1       イノシシ     下頭で 評価は大2 李照     1     3       イノシシ     下頭で 評価は大2 李原     1     3     1       イノシシ     下頭で 評価は大2 李原     1     1     1       イノシシ     大原板     計画は大2 李原     1     1     1       イノシシ     大原板     計画は大2 李原     1     1     1       イノシシ     大原板     大原板     1     1     1	ウミガメ頃	烏口 - 肩甲骨	fr									1		
ウミガメ項     上腕管     d     / 1       ウミガメ項     接管     ターラーd       ウミガメ項     接管     1       ウミガメ項     指管     1       ウミガメ項     助管板     p       ウミガメ項     動管板     p       ウミガメ項     管甲板     p       ウミガメ項     管甲板     fr       ウミガメ項     変性板     p       ウミガメ項     で甲板     p       ウミガメ項     変性板     p       ウミガメ項     でアルウル     す       キシ切     1     p       エホンザル     大陽音     p       エホンザル     下流日     p       イノシシ     前所管     所管       イノシシ     原介管     関節結節       イノシシ     上頭管/切合管     関節結節       イノシシ     下頭管     評細は表2参照       イノシシ     下頭管     評細は表2参照       イノシシ     電機       イノシシ     機権       イノシシ     機権	ウミガメ頃	上海省	<p->-d</p->									1 /		
ウミガメ垣     接管     (p→d       ウミガメ垣     長管     (p→d       ウミガメ垣     指管       ウミガメ垣     頂骨板       ウミガメ垣     助骨板     p       ウミガメ垣     助骨板     p       ウミガメ垣     動骨板     p       ウミガメ垣     音甲板     p       ウミガメ垣     音甲板     p       ウミガメ垣     電甲板     p       ウミガメ垣     電中板     p       ウミガメ垣     青/取甲板     p       キション     事     p       ニホンザル     大腸骨     p       ニホンザル     下頭 p     p       エルンザル     下頭 p     p       イノシシ     歯頭骨     p       イノシシ     上頭骨・切面骨     皮障結       イノシシ     上頭骨     p       イノシシ     下頭産産     お細は表2参照       イノシシ     両離       イノシシ     極機       イノシシ     極様       イノシシ     極様       イノシシ     機様       イノシシ     機様       イノシシ     機様       イノシシ     機様       イノシシ     機様       イノシシ     機様       イノシシ     機能       イノシシ     機能       イノシシ     機能       イノシシ     機能       イノシシ     機能 <t< td=""><td>ウミガメ頃</td><td>上腕骨</td><td>m</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1 /</td><td></td><td></td></t<>	ウミガメ頃	上腕骨	m									1 /		
ウミガメ類     長骨     (p > ) - d     1       ウミガメ類     指骨     1     1       ウミガメ類     助骨板     p     5       ウミガメ類     静骨板     fr     1       ウミガメ類     音甲板     fr     1       ウミガメ類     電甲板     fr     1       ウミガメ類     音/限甲板     fr     5       オ・シ類     無骨     w       ニホンザル     大観骨     p       ニホンザル     上部大電で     1       エホンザル     上部大電で     1       エホンザル     上部大電で     1       イノシシ     前頭骨     関節骨       イノシシ     「無間・無限は大き参照     1       イノシシ     下頭管     詳細は大き参照       イノシシ     「環遊離音     1       イノシシ     「環遊離音     1       イノシシ     「環遊離音     1       イノシシ     「最佳       本細は大き参照     1       イノシシ     「無価       機構     1       イノシシ     「無価       本細は大き参照     1       イノシシ      機様       株住     1       イノシシ      機様       株住     1       イノシシ      機様       大田大り     1       イノシシ      機様       大田大り     1       イノシシ     <	ウミガメ類	上院市	d			/ 1								
ウミガメ垣     指管       ウミガメ垣     頂骨板       ウミガメ垣     助骨板       ウミガメ垣     助骨板       ウミガメ垣     砂磨板       ウミガメ垣     青甲板       ウミガメ垣     青甲板       ウミガメ垣     野甲板       ウミガメ垣     野甲板       ウミガメ垣     青戸駅中板       ウェガメ垣     青戸駅中板       ウェガメ垣     青戸駅中板       ウェガメ垣     青戸駅中板       ウェカメ垣     野田       ニホンザル     大配骨       ニホンザル     上頭大歯ご       ニホンザル     下頭 目       イノシシ     前頭骨・頭面骨       イノシシ     両頭骨       イノシシ     上頭が健康       評細は夫2参照     1       イノシシ     下頭音       評細は夫2参照     1       イノシシ     下頭貨       が細は夫2参照     1       イノシシ     下頭貨       本細は夫2参照     1       イノシシ     小原健       本細は夫2参照     1       イノシシ     機能       イノシシ     機能       本細は大2参照     1       イノシシ     機能       ・ ロース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カース・カ	ウミガメ類	校告(1)*	<p->-d</p->	_								1		
ウミガメ頭     助骨板     p       ウミガメ頭     助骨板     fr       ウミガメ頭     熱骨板     fr       ウミガメ頭     管甲板     fr       ウミガメ頭     管甲板     fr       ウミガメ頭     費甲板     fr       ウミガメ頭     費甲板     fr       ウミガメ頭     費「腹甲板     fr       ウミガメ頭     費「腹甲板     fr       カンジリス     大腿骨     p       ニホンザル     上頭大歯ぞ     上頭大歯で       エホンザル     上頭大歯で     p       イノシシ     前頭骨     内面骨       イノシシ     原面骨     内面骨       イノシシ     下頭骨     詳細は表2参照       イノシシ     下頭骨     詳細は表2参照       イノシシ     下頭管     詳細は表2参照       イノシシ     原理管     詳細は表2参照       イノシシ     原理管     詳細は表2参照       イノシシ     原理管     詳細は表2参照       イノシシ     原理管     評細は表2参照       イノシシ     原理管     評細は表2参照       イノシシ     原理管     評細は表2参照       イノシシ     標準     1       オノシシ     機能       大腿性			<p->-d</p->									1		
ウミガメ垣     助骨板     p       ウミガメ垣     財骨板     fr       ウミガメ垣     青甲板     fr       ウミガメ垣     青甲板     fr       ウミガメ垣     世甲板     fr       ウミガメ垣     世甲板     fr       ウミガメ垣     世甲板     fr       ウミガメ垣     青月腹甲板     fr       フェウドリ科     場       キシ垣     上頭犬伯弓       ニホンザル     大腸骨     p       ニホンザル     下頭 1       イノシシ     前頭骨     ()       イノシシ     両頭骨     ()       イノシシ     上頭産離音     ()       イノシシ     下頭骨     詳細は表2 参照       イノシシ     下頭砂離音     ()       イノシシ     下頭砂離音     ()       イノシシ     環婚性     ()       イノシシ     場所       イノシシ     場所       ()     ()       ()														
ウミガメ項     静骨板     fr     1     1       ウミガメ項     音甲板     fr     1     1       ウミガメ項     霞甲板     fr     1     1       ウミガメ項     霞中板     fr     1     1       ウミガメ項     霞中板     fr     1     1       ウミガメ項     青/ 原甲板     fr     5     1       アホウドリ科     電     5     1     1       キャン項     歴費     本     1     1     1       エホンザル     下第11     大限骨     1     1     1       イノシシ     南頭骨     関節結節     7     7     1     1     1       イノシシ     上頸骨/ 切磨骨     詳細は表2 参照     1     3     1       イノシシ     下頭管     詳細は表2 参照     1     3     1       イノシシ     原産館     詳細は表2 参照     1     3     1       イノシシ     小砂遊館店     詳細は表2 参照     1     3     1       イノシシ     小砂遊館店     詳細は表2 参照     1     1     1       イノシシ     本種     1     1     1     1       イノシシ     本価     本価     1     1     1     1       イノシシ     本価     本価     1     1     1     1     1       イノシシ														
ウミガメ類     禁骨板     1     1       ウミガメ類     費甲板     fr     1     1       ウミガメ類     取甲板     fr     1     1       ウミガメ類     費/取甲板     fr     5     1       アホウドリ科     場     5     1     1       キジ類     歴告     W     1     1       ニホンザル     大陽台     p     1     1       ニホンザル     上頭犬母の     下頭目     1     1       イノシシ     前頭骨     (月)     1     1       イノシシ     上頭骨・関連音     (月)     1     1       イノシシ     上頭脊側     (月)     1     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照     1     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照     1     1       イノシシ     環権     1     3     1       イノシシ     転離性     1     1     1       イノシシ     転権     1     1     1	17 0 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17 17											_		
ウミガメ類     晋甲板     fr     1     1       ウミガメ類     費/股甲板     fr     5     1       アホウドリ科     鳴     5     1       キジ類     歴代     w     1       ニホンザル     大陽骨     p     1       ニホンザル     上頭犬歯子     1     1       ニホンザル     下頭目     1     1       イノシシ     南頭骨     関節者・頭頂骨     1     1       イノシシ     上頭骨/切自骨     評細は表2参照     1     3     1       イノシシ     下頭骨     詳細は表2参照     1     3     1       イノシシ     京衛権     詳細は表2参照     1     3     1       イノシシ     環権     1     1     1       イノシシ     標権     1     1     1       イノシシ     標権     1     1     1		7000 000 00	fr											
ウミガメ項     腹甲板     fr     1     1       ウミガメ項     背/腹甲板     fr     5     1       アホウドリ科     端     ***     ***     ***       キジ類     歴官     w     ***     ***       ニホンザル     大殿官     p     ***     ***       ニホンザル     下頭 II     ***     ***     ***       イノシシ     前頭官     ***     ***     ***       イノシシ     側頭骨     関節結節     ***     ***     ***       イノシシ     上頭音離音     ***     ***     ***     ***       イノシシ     下頭音     ***     ***     ***     ***     ***       イノシシ     環椎     ***     ***     ***     ***     ***       イノシシ     機框     ***     ***     ***     ***     ***       イノシシ     機框     *** <td></td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td>											1	1		
ウミガメ類     背/腹甲板     fr     5     1       アホウドリ科     幣     **     **       キジ類     庭骨     **     **       ニホンザル     大腿骨     p     **       ニホンザル     下顎 I1     **     **       イノシシ     前頭骨     **     **     **       イノシシ     側頭骨     関節骨     **     **     **       イノシシ     上顎産離骨     詳細は表2参照     1     **     **       イノシシ     下頭産離青     詳細は表2参照     1     **     **       イノシシ     環推     **     **     **     **       イノシシ     壊推     **     **     **     **       イノシシ     **     **     **     **     **       イノシシ     **     **     **     **     **     **       イノシシ     ** </td <td></td> <td></td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>			-					1						
アホウドリ科     階       キジ類     展骨       エホンザル     大腿骨       エホンザル     上頭犬歯♂       エホンザル     下頭 I1       イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨       イノシシ     側頭骨       スノシシ     上頭骨 / 切歯骨       チャック     1       イノシシ     上頭産離青       チャック     1       イノシシ     下頭管       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭産離青       詳細は表2参照     1       イノシシ     環性       イノシシ     極性       1     1       1     1       1     1       1     2       1     3       1     1       イノシシ     環性       イノシシ     物性       1     1							1							
キジ類     脏骨     w       ニホンザル     大腿骨     p       ニホンザル     下顎 II       イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨       イノシシ     側頭骨       スノシシ     側頭骨       スノシシ     上顎骨/切歯骨       詳細は表2 参照     1       イノシシ     上顎遊離者       詳細は表2 参照     1       イノシシ     下頭骨       詳細は表2 参照     1       イノシシ     下頭遊離者       詳細は表2 参照     1       イノシシ     環権       イノシシ     極椎       イノシシ     極椎       イノシシ     極椎       1     1			tr			ð					Б	11		
ニホンザル     大陽骨     p       ニホンザル     下顎 II       イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨       イノシシ     側頭骨       イノシシ     上頭骨 B 詳細は表2 参照       イノシシ     上頭遊離音       イノシシ     上頭遊離音       洋細は表2 参照     1       イノシシ     下頭音       詳細は表2 参照     1       イノシシ     下頭産離音       詳細は表2 参照     1       イノシシ     下頭産離音       詳細は表2 参照     1       イノシシ     環性       イノシシ     物性       イノシシ     物性       イノシシ     物性       1     1							-			-				
ニホンザル     上頭大笛で       ニホンザル     下頭 II       イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨       イノシシ     側頭骨       イノシシ     上頭骨 B 詳細は表2参照       イノシシ     上頭遊離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭遊離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭遊離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     環権       イノシシ     専権       イノシシ     申権       1														
エホンザル     下顎 II       イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨・頭頂骨       イノシシ     側頭骨       イノシシ     上顎骨/切歯骨       詳細は表2参照     1       イノシシ     上顎旋離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下顎管       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭遊離音       洋細は表2参照     1       イノシシ     環権       イノシシ     歯椎       イノシシ     軸椎			p											
イノシシ     前頭骨       イノシシ     前頭骨・頭頂骨       イノシシ     側頭骨       イノシシ     上頭骨/切歯骨       詳細は表2参照     1       イノシシ     上頭遊離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音       詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭遊離音       詳細は表2参照     1       イノシシ     環権       イノシシ     軸椎       1     1	-						-				-			
イノシシ     前頭骨・頭頂骨       イノシシ     側頭骨     関節結節     / 1       イノシシ     上頭産離音     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照       イノシン     下頭産離音     詳細は表2参照       イノシン     環権       イノシシ     壊権       イノシシ     歯椎       イノシシ     歯様       イノシシ     歯様       イノシシ     歯様       イノシシ     もおおいままままままままままままままままままままままままままままままままままま							-							
イノシシ     側頭骨     関節結節     /1       イノシシ     上頭脊(財)由骨     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭遊離由     詳細は表2参照     3     1       イノシシ     環椎     3     1       イノシシ     軸椎     1     1														
イノシシ     上頭佐剛告     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭音     詳細は表2参照     1       イノシシ     下頭佐剛由     詳細は表2参照     1       イノシシ     環推     3     1       イノシシ     環推     1     1			関節結節	-				/ 1						
イノシシ     上頭遊離音     詳細は表2参照     1     3     1       イノシシ     下頭遊離音     詳細は表2参照     1     3     1       イノシシ     環推     3     1       イノシシ     転推     1     1		VANA				ī		7 16						
イノシシ     下須音     詳細は表2参照     1       イノシシ     下須遊離市     詳細は表2参照     3     1       イノシシ     環推     1     1	5 11 172 117											3	1	
イノシシ     下別遊館店     詳細は表2参照       イノシシ     環惟       イノシン     helt       1								1						
イノシシ     環惟       イノシン     hatt       1			-					-				3	1	
イノシシ <sup>輸租</sup> 1													-	
A STATE OF THE STA												1		
	イノシシ	第4中手骨	p										1 /	

							-								
5	6	8	9	12	13	14	15	16	18	19	20	29	31	-	合計
									2					145	147
		3	5											1	11
														1	1
	-													1 /	1 /
	+					-		-		-		-	1 /	1	1 / 1
								.7.1		-				1	/ 1
														1 / 1	1/1
								/ 2						1 / 1	2 / 3
								/ 2							2 / 2
	-		-	-			-					-		1	1
			-	-	1 /		-	-						15 / 14	1 / 1 ·
														14	17
						1 /									3 /
				/ 3		1.7								7 / 4	9 / 7
_	-		-												1
	-			-							-	-		7 1 3	7 1
	-	1					-							39	49
-														51	56
														1	1
							1								1
	-														1
	-						1			6					(6)
-									1						1
														13	14
-											2				2
	-													2	4
										-					1 /
-														1 /	1 /
															1
															/ 1
	-														/ 1
														1 /	1 /
															1
															1 /
														/ 1	1 / 1
															/ 1
												-			1
-														3	3
															1
												2		3	10
														3	< 4 >
														5 1	7 < 2 >
-														Ī	⟨ 3 ⟩
					-							3		-1	< 18 >
														1	1
														/ 1	/ 1
														1 /	1 / 1
														/ 1	/ 1
														1/1	1 / 1
														1	1
0															/ 1
2														11 5	14
														10	12
	4													5	13
														1	I
														1	2
															1 /

表1(つづき)

			B⊠	B ⋈ /C ⋈	B区/G区	С	区	F区	G	X	I · II Tr	-	
分類群	部位	残存位置	3-4 層 上端 -53	3 屆 / 二屆	3 暦	3 層 -49	3 周 -4 局	2 層	3層, 11	3周, 30	揚げ土	3	4
シカ	前頭骨	脳函 - 角座部								1 /			
シカ	前頭骨	眼窩上部											
シカ	前頭骨一角	角座部 - 角座									1 /		
シカ	角	角座											
シカ	角	破片					1	2			1		
シカ	側頭骨	関節結節											
シカ	後頭骨+側頭骨 R	後頭顆·岩様部					1						
シカ	上颚雷	詳細は表3参照									3		
シカ	上颚遊離街	詳細は表3参照									10		
シカ	下颚骨	詳細は表3参照									4		2
シカ	下颚遊離街	詳細は表3参照									21		
シカ	環椎										1		
シカ	軸椎										1		
シカ	頭椎												
シカ	肩甲骨·	関節部											
シカ	上腕骨	(p-)-d											
シカ	上腕们	<p->-<d-></d-></p->											
シカ	桡骨	р									1 /		
シカ	中手骨	w											
シカ	中手骨	p- <d-></d->									/ 1		
シカ	中手骨	p-(d-)									1 /		
シカ	中手骨	(d-)									1		
シカ	中手们	d									1		
シカ	寛骨(腸骨+坐骨)	寛骨臼									/ 1		
シカ	大腿骨	<p->-<d-></d-></p->									1 /		
シカ	大腿骨	d									1 /		
シカ	距價:									1 / 1			
シカ	末節骨												
イノシシ/シカ	侧頭骨	岩様部							Ï			5	
イノシシ/シカ	胸椎												
イノシシ/シカ	腰椎									2			
イノシシ/シカ	仙柑鱼						1						
イノシシ/シカ	尾椎											1	
イノシシ/シカ	椎骨	椎体											
イノシシ/シカ	手根 / 足根骨												
イノシシ/シカ	<del>መተ</del> በተ	р											
イルカ	椎骨·												
クジラ類	椎骨	fr									3		
クジラ類	月力·行:	fr	1								1		
クジラ類	不明	fr									3		
ウマ	上弧筒	[M3]									1 /		
ウマ	上腕骨	m-d									1 /		
	合計		1	1	10	2	8	2	3	14	92	27	2

5	6	8	9	12	13	14	15	16	18	19	20	29	31	-	合計
															1 /
_														1 /	1 /
														1 / 1	2 / 1
														1 / 1	1/1
														2	<6>
														2 /	2 /
															1
														9	12
														3	13
														10	16
														5	26
														2	3
														3	4
														1	1
						-								1 / 2	1 / 2
														/ 1	/ 1
														/ 1	1 /
														2 /	2 /
														1 /	1 / 1
														1.7	1 /
															1
															1
															/ 1
-															1 /
														1 / 1	2 / 1
															1 / 1
														2	2
														10	16
														1	I
														3	5
															1
														1	2
														1	1
														2	2
														1	1
														1	1
														1	4
											-				2
														1	4
										-				/ 1	1 / 1
2	4	3	5	3	1	2	2	5	3	6	2	5	I	458	664
2	-1	J	J	U	1	4	4	J	J	υ	4	J	1	.190	004

表 2. 一陣長崎鼻遺跡昭和 31 年調査で出土したイノシシ顎骨・遊離歯の詳細 [ ]: 顎骨の残存範囲. ( ) 前出中. < >: 未前出

種 煩	出土位置	層準 / 番号	部位	残存位置*	左右	妆	備考
イノシシ	B 区 /G 区	3 層	上顎骨	[C-P4]	L	1	全歯脱落. ♂
イノシシ	B 区 /G 区	3 層	上類 11		R	1	
イノシシ	I · II Tr	揚げ土	上類C		R	1	8
イノシシ	I • II Tr	揚げ土	上顎P		?	1	
イノシシ	I • ∐ Tr	揚げ土	上颚(M2		I.	1	
イノシシ	-	3	上颚 C		L	1	70
イノシシ	-	5	切销骨	[11-13]	L	1	日 残. 同一個体
イノシシ	-	5	切歯骨	[11-13]	R	1	I1 残. 同一個体
イノシシ	_	-	切齿骨	[11-13]	L	1	13 脱落
イノシシ	-	-	上顎骨	[C-P3]	L	1	P2 脱落. ♂
イノシシ	-	-	上顎骨	[P3-M2]	L	1	全歯残
イノシシ	-	-	上顎骨	[C-M1]	L	1	P2-M1 残. ♂
イノシシ	-	-	上顎骨	[ <c>-M1]</c>	R	1	<c>・P2・m1・m2・m3・M1 残</c>
イノシシ	-	-	上顎骨	[ <c>-m3]</c>	R	1	⟨C⟩・P2・m1・m2 残
イノシシ	=	-	上颚骨	[P3-M1]	R	I	全苗残
イノシシ	_	_	上顎骨	[P4-M3]	R	1	全崮残
イノシシ	=	i.e.	上顎骨	[C-P2]	R	1	全齿残. ♀
イノシシ		-	上顎骨	[C-P3]	R	1	全街残. ♀
イノシシ	-	-	上顎骨	[P3-M2]	R	1	全苗残
イノシシ	-	ş1	上颚C		L.	1	9
イノシシ	-	-	上顎 M2		R	1	
イノシシ		-	上颚 M3		L	1	
イノシシ	-	-	上顎 M3		L	1	
イノシシ	-	-	上顎 M3		R	1	
イノシシ	C⊠	3 層 -4 層	下颚骨	関節突起	L	1	
イノシシ	G 🗵	3層, 30	下颚骨	L[i2-i2]R	L+R	1	〈I1〉L,〈I1〉R 残
イノシシ	I · II Tr	揚げ土	下顎 12		L	1	
イノシシ	I · II Tr	揚げ土	下頭 m3		L	1	
イノシシ	I · II Tr	揚げ土	下顎 m3		R	1	
イノシシ	(H)	3	下顎 11		R	1	
イノシシ	-	6	下頭 11		R	1	
イノシシ	-	6	下顎 12		R	3	
イノシシ	-	-	下顎骨	[m1- <m2>]</m2>	L	1	全歯残. M2 未萌出
イノシシ	941	-	下颚骨	[m2- <m2>- 角]</m2>	I.	1	全苗残. M2 未萌出
イノシシ	(4)	-	下顎骨	[M1- <m2>- 角]</m2>	L	1	全歯残、M2 未萌出
イノシシ	****	-	下顎骨	L[m3-i2]R	L+R	1	L: <ii>, <c>, m1, m2 残</c></ii>
イノシシ	;—·	-	下顎骨	L[M1-P4]R	L+R	1	L: P3-M1 残, R: P3-P4 残. P1 欠歯. ♂
イノシシ	-	-	下顎骨	L[i3-i3]R	L+R	1	ilL, ilR, i2R 残
イノシシ	-		下顎骨	[P4- <m3>- 角]</m3>	R	1	全苗残. M3 未萌出
イノシシ	-	-	下顎骨	[(P4)-(M2)]	R	1	全苗残. P4·M2 萌出中
イノシシ		-	下顎骨	[M3-角]	R	1	全齿残
イノシシ	-	-	下颚骨	[M2-角]	R	1	全崮残. 老獣
イノシシ	-	-	下顎 11	-	I.	1	
イノシシ	-		下顎 i1	70	L	_1	
		-	下顎 12		R	1	
イノシシ	-						
イノシシ イノシシ イノシシ		=	下顎 i2 下顎 C		L L	1	未萌出. ♂

表 3. 一陣長崎鼻遺跡昭和 31 年調査で出土したシカ顎骨・遊離歯の詳細

シカ         1・日下         寄げ生         上頭管         (P2-M)         R         1         金商機           シカ         1・日下         粉げ生         上頭目         R         1         金商機           シカ         1・日下         粉げ生         上頭目         R         1         金商機           シカ         1・日下         粉げ生         上頭目         L         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         1         2         2         1         1         2         2         1         1         2         1         1         2         2         1         1         2         2         2         1         1         2<	種 類	出土位置	層準/番号	部位	残存位置	左右	数		fiii	考	
シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上部官         PS-P4         R         1         全産           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第12         L         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第12         R         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第12         R         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第12         R         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第10         R         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第10         R         1           シカ         1 - 11 Tr         掲げ土         上第10         R         1           シカ         上部管         PC-M3         L         1         全産           シカ         - 上部管         PC-M3         R	シカ	I • П Тг		上顎骨	[P2-M1]	R	1				
シカ         1 - H Tr         指行士         上頭目と         R         1           シカ         1 - H Tr         指行士         上頭目2         R         1           シカ         1 - H Tr         指行士         上頭目2         R         1           シカ         1 - H Tr         指行士         上頭目2         R         1           シカ         1 - H Tr         指行士         上頭目2         R         1           シカ         1 - H Tr         指行士         上頭田3         R         1           シカ         1 - H Tr         持行士         上頭田3         R         1           シカ         1 - H Tr         持行士         上頭田3         R         1           シカ         - L 上頭骨1         L 全前後         上金前後           シカ         - L 上頭骨1         L 全前後         上金前後           シカ         - L 上頭骨1         L 全前後         上金前後           シカ         - L 上頭骨1         L 金前後         上金前後           シカ         - L 上頭骨1         L 金前後         上金前後           シカ         - L 三間骨1         L 金前後         上金前後           シカ         - L 三間十         PL 三間1         L 金前後           シカ         - L 三間十         PL 三間2         R L 金前後		I · II Tr		上顎骨	[P2-P3]	R	1	全苗残			
2-9	シカ		揚げ土	上颚骨	[P3-P4]	R	1	全齿残			
2カ         1・日下         掲子士         上頭で         L         L         1           2カ         1・日下         掲子士         上頭で         R         1           2カ         1・日下         掲子士         上頭で         R         1           2カ         1・日下         掲子士         上頭面         L         2           2カ         1・日下         掲子士         上頭面         L         2           2カ         1・日下         掲子士         上頭面         L         2           2カ         -         上頭骨         [P2-83]         L         1 全市投           2カ         -         上頭骨         [P2-83]         L         1 全市投           2カ         -         上頭骨         [P2-83]         L         1 全市投           2カ         -         上頭骨         [P2-83]         R         1 全市投           2カ         -         上前骨         [P2-83]         R         1 全市投           2カ         -         上前骨         [P2-83]         R         1 全市投           2カ         -         上面骨         [P2-83]         R         1 全市投           2カ         -         上面骨         [P2-83]         R         1 全市投	シカ	I · II Tr				R	1				
と勿         1 · H Tr 切 · H Tr 切 · H Tr シカ         場子上 切 · H Tr 切 · H Tr 切 · H Tr 切 · H Tr シカ         上 田 Tr 切 · H Tr 切 · H Tr 切 · H Tr シカ         上 田 Tr 切 · H Tr 切 · H Tr υ · D		I · II Tr				L	1				
之力         1 · H Tr         紹子上         上部中         R         1           シカ         1 · H Tr         揚子上         上記回         L         2           シカ         1 · H Tr         揚子上         上記回         L         2           シカ         1 · H Tr         揚子上         上記回         R         1           シカ         -         上記附         [P2-48]         L         1         全市級           シカ         -         上記附         [P2-48]         L         1         全市級           シカ         -         上記附         [P2-48]         L         1         全市級           シカ         -         上記附         [M-22]         L         1         全市級           シカ         -         上部骨         [M-22]         R         1         全市級           シカ         -         上部骨         [M-22]         R         1         全市級           シカ         -         上部骨         [M-22]         R         1         全市級           シカ         -         上部骨         [P4-22]         R         1         全市級           シカ         -         上部骨         [P4-23]         R         1         全市級	シカ	I · II Tr				R	1				
シカ         1 · II Tr         福子士         上頭田         1 · 2           シカ         1 · II Tr         福子士         上頭M         R         1           シカ         1 · II Tr         福子士         上頭僧         [P2-MS]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         L         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         R         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         R         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         R         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧         [IV-M2]         R         1 · 全商政           シカ         -         -         上頭僧 <td>シカ</td> <td>I · II Tr</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>L</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>	シカ	I · II Tr				L	1				
シカ         1・H Tr         掲げ土         上頭面         L         2           シカ         1・H Tr         掲げ土         上頭附         R         1           シカ         -         -         上頭骨         [P2-48]         L         1         全商表           シカ         -         -         上頭骨         [P2-48]         L         1         全商表           シカ         -         -         上頭骨         [P2-48]         L         1         企商表           シカ         -         -         上頭骨         [M1-42]         L         1         全商表           シカ         -         -         上頭骨         [P3-48]         R         1         全面表           シカ         -         上頭骨         [P3-48]         R	シカ					R	1				
シカ         1・H Tr         投行士         上別財         R         1           シカ         -         -         上別財         (P2-M3)         I.         1 全前政         同人財           シカ         -         -         上別財         (M-W2)         I.         1 全前政         一人財           シカ         -         -         上別財         [m1]         I.         1 金前政         日本市政         <						R	1				
シカ         I · IT Tr         掲げ上         上部所 (P2-M3]         R         I           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         I. I 全商政           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         I. I 全商政           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         I. I 金商政           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         I. I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部件 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部 (N1-M2)         R I 全商政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部 (N1-M2)         R I との政 (N1-M2)           シカ         -         -         上部 (N1-M2)         R I との政 (N1-M2)           シカ         -         日 (N1-M2)         R I をの政 (N1-M2) <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>L</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>						L	2				
シカ         -         上別會         [P2-M3]         L         1         全海           シカ         -         -         上別會         [P2-M1]         L         1         全線           シカ         -         -         上別會         [P2-M3]         L         1         全線           シカ         -         -         上別會         [P2-M3]         R         1         全線           シカ         -         上別報         R         1         全線           シカ         -         上別 M3         R         1         全線           シカ         -         上別 M3         R         1         全線           シカ         -         上別 M3         R         1         全線           シカ         1 - II Tr         揚げ上         下別 M3         L         1 <td></td>											
シカ         -         上頭骨         [P2-MI]         L         1         全商政           シカ         -         -         上頭骨         [m1]         L         1         企商政           シカ         -         -         上頭骨         [M1-M2]         L         1         全商政           シカ         -         -         上頭骨         [P2-M3]         R         1         全商政           シカ         -         -         上頭骨         [P2-M3]         R         1         全商政           シカ         -         -         上頭骨         [M2-M3]         R         1         全商政           シカ         -         -         上頭羽         R         1         1         1         2         2         1         1         1         1         1         1         1         <	-										
シカ     -     上頭骨 [12-MI] L 1 金商模       シカ     -     -     上頭骨 [MI-92] L 1 全商模       シカ     -     -     上頭骨 [PI-M2] R 1 全商模       シカ     -     -     上頭骨 [PI-M2] R 1 全商模       シカ     -     -     上頭骨 [PI-M2] R 1 全商模       シカ     -     -     上頭骨 [MI-M2] R 1 全商模       シカ     -     -     上頭部 R 1 全商模       シカ     -     -     -     -       シカ     -     -     -     -     -       シカ     1・日下 揚げ上 下頭目 R 1 全商模     -     -     -     -       シカ     1・日下 揚げ上 下頭目 R 1 全商模 </td <td></td> <td>-</td> <td>-</td> <td></td> <td></td> <td>L</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>		-	-			L	1				
シカ     -     上部骨     [m1]     L     1     市政       シカ     -     -     上部骨     [P2-u3]     R     1     全市及       シカ     -     -     上部骨     [P1-u3]     R     1     全市及       シカ     -     -     上部骨     [P1-u3]     R     1     全市及       シカ     -     -     上部骨     [W2-u3]     R     1     全市及       シカ     -     -     上部骨     [W2-u3]     R     1     全市及       シカ     1・旧下     揚げ土     下部骨     [P2-u3]     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部骨     [P2-u3]     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部門     [P2-u3]     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     [P2-u1]     L     2       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     R     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     L     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部目     L     1     1       シカ     1・旧下     揚げ土     下部日		-	-				1				
シカ     -     上部管 [M-M2] R 1 全商残。同一個体       シカ     -     -     上部管 [P4-M3] R 1 全商残。同一個体       シカ     -     -     上部管 [P4-M3] R 1 全商残       シカ     -     -     上部管 [P4-M3] R 1 全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     -     上部 3 R 1     全商残       シカ     -     1 田 7 揚げ上 下頭 11     L 5     上 1       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 11     R 1     L 5       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 11     R 1     L 1       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 11     R 3     L 1       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 12/13/C R R 4     L 1     L 1       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 11/12/c R R 1     L 1     L 1       シカ     1 ・田 7 揚げ上 下頭 11/12/c R R 1     L 1     L 1       シカ     -     - <td< td=""><td></td><td></td><td>(44)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>			(44)								
シカ       -       上部管 [P2-M3] R 1 全商政   一個校         シカ       -       -       上部管 [P1-M3] R 1 全商政         シカ       -       -       上部管 [P1-M3] R 1 全商政         シカ       -       -       上部							_				
シカ       -       上部件 [PI-W2] R 1 全商契         シカ       -       -       上部件 [VI-W3] R 1 全商契         シカ       -       -       上部W3 R 1 全商契         シカ       -       -       上部W3 R 1         シカ       -       -       上部W3 R 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛骨 筋・関節突起 L 1       L 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛門 [P2-W1] L 2       シカ 1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 3         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 3       R 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 3       R 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 3       R 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 3       R 4         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 5       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 6       R 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 7       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 1       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 1       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 1       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 1       I 1         シカ       1・II Tr 揚げ土 F衛口 R 1       I 1         シカ       -       -       F衛付 R 1       P2-W1 R 2         シカ       -       -       F衛付 R 1       全商							_				
シカ       -       上部管 [Pt-M3] R 1 全商表         シカ       -       -       上額 M3       R 1 全商表         シカ       -       -       上額 M3       R 1         シカ       -       -       上額 M3       R 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸骨 fb [P2-M3] L 1       L 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸骨 [P2-M3] L 2       L 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸 II R R 1       L 5         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸 II R R 3       R 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸 II R R 3       R 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頸 II I R R 3       R 4         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/3 C R R 4       I 3         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 I/3 C R R 4       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 I/2 C R R 1       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 C R R 1       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 C R R 1       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 C R R 1       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 C R R 1       I 1         シカ       1 · II Tr 揚げ土 F頭 II I/2 C R R 1       I 1         シカ       - 下頭骨 II I I P2 長       I 2 自 2 長         シカ       - 下頭付 II I P2 長       I 2 自 2 長							_				
シカ     -     上領報       シカ     -     上領報       シカ     -     上領報       シカ     -     上領報       シカ     1・日下     揚げ土     下領管       シカ     1・日下     揚げ土     下領管       シカ     1・日下     揚げ土     下領性       シカ     1・日下     揚げ土     下領性       シカ     1・日下     揚げ土     下領日       シカ     1・日下     揚げ土     下領日       シカ     1・日下     揚げ土     下第日       シカ     1・日     1・日     1・日       シカ     1・日     1・日     1・日       シカ     1・日     1・日     1・日       シカ     -     4・下頭管     「場一       シカ     -     - <td></td> <td></td> <td>.=.</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td>			.=.								
シカ       -       上頭塚       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭骨       1       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭骨       [P2-W]       L       2         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭目       L       5         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭目       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭目       R       3         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭目2/I3/C       R       4         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭目2/I3/C       R       4         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭1/I2/c       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭1/I2/c       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭1/I2/c       R       I         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭1/I2/c       R       I       P2機											
シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭骨       筋・関節会起       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭骨       [P2-M3]       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭骨       [P2-M1]       L       2         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭12/13/C       L       3         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11/12/c       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11/12/c       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11/12/c       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭11/12/c       R       1         シカ       -       4       下頭骨       [m-m2]       L       1         シカ       -       4       下頭骨       [m-m3]       L       1       全商         シカ					[M2-M3]			全苗残			
シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭骨       筋・関節突起       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭骨       [P2-M3]       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭目       L       5         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭目       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭目       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭目2/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭12/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭12/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭1/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭1/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭間       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭間       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭間       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭間       I											
シカ       1・II Tr       掲げ上       下顎骨       [P2-M3]       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下顎11       L       2         シカ       1・II Tr       掲げ土       下顎11       R       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下顎11       R       3         シカ       1・II Tr       掲げ土       下顎11       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下顎12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭12/13/C       R       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭11/12/c       L       1       P2・乗         シカ       -       4       下頭件					tate or total to to						
シカ       I・II Tr       揚げ土       F顎性       [P2-MI]       L       2         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II       L       5         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II Z/I3/C       L       3         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭II Z/I3/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭II/I2/c       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭II/I2/c       R       1       P2-MI 残         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭II/I2/c       R       1       P2-MI 残         シカ       I・II Tr       揚げ土       下頭II/I2/c       R       1       P2-MI 残         シ											
シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎II II       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 12/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 12/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 12/13/C       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 12/13/C       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 12/13/C       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       L       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       R       1       P2-MI 委         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       R       1       P2-MI 委         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 11/12/c       R       1       全商表         シカ <th< td=""><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>_</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></th<>						_					
シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11       R       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11/12/c       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11/12/c       R       1         シカ       -       4       下頭 1       L       1       P 2 MI 現         シカ       -       -       下頭 1       L       1       P 2 MI 現         シカ       -       -       下頭 1<					[1 <sup>2</sup> 2-M1]						
シカ       1・II Tr       揚げ土       F顎 11       R       3         シカ       1・II Tr       揚げ土       F顎 12/13/C       L       3         シカ       1・II Tr       揚げ土       F顎 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       揚げ土       F頭 12/13/C       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       F頭 11/12/c       L       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       F頭 11/12/c       R       1       全音銭         シカ       -       -       F頭骨 [m/m]       L       1       全音銭         シカ       -       -											
シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 12/13/C       L       3         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11/12/c       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11/12/c       R       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       下頭 11/12/c       I       1       1       2       2         シカ       -       -       下頭骨 11/12/c       III II Tr       1       2       2											
シカ       1・II Tr       掲げ上       F顎 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ上       F顎 12/13/C       R       4         シカ       1・II Tr       掲げ土       F顎 11/12/c       L       1         シカ       1・II Tr       掲げ土       F顎 11/12/c       R       1         シカ       -       4       F顎骨 11/12/c       R       1       P2-MI 3       E       1       P2-MI 3       E       I       A       P3       E       B       B       A       P2-MI 3       E       B       B       A       P3       B       A       P3       B       B       B											
シカ       I・II Tr       掲げ上       下顎 12/13/C       R       4         シカ       I・II Tr       掲げ上       下顎 11/12/c       L       1         シカ       I・II Tr       掲げ上       下顎 11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       掲げ上       下顎 11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       掲げ上       下顎 11/12/c       R       1         シカ       I・II Tr       掲げ上       下頭 11/12/c       R       1       全債残         シカ       I・II Tr       掲げ上       下頭 11/12/c       R       1       全債残       シカ       カー       下頭 11/12/c       I       1       2       2       2       カー       アラ 2       I       1       2       2       2       2       1       2       2       2       2       2       2       2       2       2       2					-						
シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭 12/13/C       R       1         シカ       1・II Tr       揚げ土       下頭 11/12/C       R       1         シカ       -       4       下頭骨 [m-M1]       L       1       P2-MI 發         シカ       -       -       下頭骨 [M2-角]       L       1       全直發         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       全直發         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       か高         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       か高         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       か高         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       幼童         シカ       -       -       下頭骨 [m-P2]       L       1       幼童							_				
シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 i1/i2/c       R       I         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 i1/i2/c       R       I         シカ       I・II Tr       揚げ土       下顎 m1/m2       L       I         シカ       -       4       下顎 m1/m2       L       I       P2-M1 發         シカ       -       4       下顎 m1/m2       L       I       P2-M1 發         シカ       -       4       下顎 m1/m2       L       I       P2-M1 發         シカ       -       4       下顎 m1/m2       L       I       P2 發         シカ       -       -       下頭 m1/m2       L       I       全債我         シカ       -       -       下頭 m1/m2       L       I       Ammand       Ammand       Ammand       Ammand       Ammand       Ammand       Ammand											
シカ       I・II Tr       掲げ土       F頭 i1/i2/c       R       I         シカ       I・II Tr       掲げ土       F頭骨       [ 吻 -M1]       L       I       P2-M1 残         シカ       -       4       F頭骨       [ 吻 -P2]       I.       I       P2 残         シカ       -       -       F頭骨       [M1-角・関]       L       1       全債残         シカ       -       -       F頭骨       [M2-角]       L       1       全債残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-P2]       I.       1       P2 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-P2]       I.       1       P2 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-P2]       I.       1       P2 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-P2]       I.       1       P2 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-M1]       I.       1       m3-M1 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-M1]       I.       1       m3-M1 残         シカ       -       -       F頭骨       [ m-M1]       I.       1       全債残         シカ											
シカ     I・II Tr     揚げ土     F顎m I/m2     L     1       シカ     -     4     F顎骨 [吻-P2] L     1     P2-M1 残       シカ     -     4     下顎骨 [吻-P2] L     1     P2 残       シカ     -     -     下顎骨 [M1-角・関] L     1     全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M2-検] L     1     全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [m2-角] L     1     P2 残       シカ     -     -     下顎骨 [m1-M1] L     1     m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨 [m1-M1] L     1     m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨 [m1-M1] L     1     会歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M1-角] R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M2-角] R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [P2-M1] R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎目 L     1       シカ     -     -     下顎目 L     1       シカ     -     -     下顎目 R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎目 R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎目 R     1     全歯残       シカ     -     -     下顎目 R											
シカ     -     4     下顎骨 [吻-P2] L 1 P2-M1 残       シカ     -     4     下顎骨 [吻-P2] L 1 P2 残       シカ     -     -     下顎骨 [M1-角・関] L 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M2-枝] L 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M2-角] L 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [m1-M1] L 1 m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨 [m1-M1] L 1 m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨 下顎枝 L 1 幼獣       シカ     -     -     下顎骨 [M1-角] R 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M2-角] R 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [M3-角] R 1 全歯残       シカ     -     -     下顎骨 [P2-M1] R 1 全歯残       シカ     -     -     下顎目 [P2-M1] R 1 全歯残       シカ     -     -     -     -       シカ     -     -     -     -       シカ     -     -     -											
シカ     -     4     下預費 [吻-P2] L 1 P2 残       シカ     -     -     下預費 [M1-角・関] L 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [M2-枝] L 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [M2-角] L 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [m1-M1] L 1 m3-M1 残       シカ     -     -     下預費 下預校 L 1 幼融       シカ     -     -     下預費 [M1-角] R 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [M2-角] R 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [M3-角] R 1 全市残       シカ     -     -     下預費 [P2-M1] R 1 全市残       シカ     -     -     下預計 L 1       シカ     -     -     下預計 R 1					िएम - जा			P2-M1 #U			
シカ     -     -     下頭骨 [MI-角・関] L     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [M2-枝] L     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [M2-角] L     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [m1-M1] L     1 m3-M1 残       シカ     -     -     下頭骨 [M1-角] R     1 金歯残       シカ     -     -     下頭骨 [M1-角] R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [M2-角] R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [M3-角] R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭骨 [P2-M1] R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭目 L     1       シカ     -     -     下頭目 R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭目 R     1 全歯残       シカ     -     -     下頭目 R     1       シカ		_									
シカ     -     -     下預費     [M2-枝]     L     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [M2-角]     L     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [m1-M1]     L     1 m3-M1 残       シカ     -     -     下預費     [M1-角]     R     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [M1-角]     R     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [M2-角]     R     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [M3-角]     R     1 全市残       シカ     -     -     下預費     [P2-M1]     R     1 全市残       シカ     -     -     下預打     L     1       シカ     -     -     下預打     L     1       シカ     -     -     下預打     R     1		_									
シカ     -     -     下顎骨     [M2-角]     L     1     全市投       シカ     -     -     下顎骨     [m1-M1]     L     1     P2 残       シカ     -     -     下顎骨     [m1-M1]     L     1     m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨     下顎骨     L     1     幼獣       シカ     -     -     下顎骨     [M1-角]     R     1     全市残       シカ     -     -     下顎骨     [M3-角]     R     1     全市残       シカ     -     -     下顎骨     [P2-M1]     R     1     全市残       シカ     -     -     下顎目     L     1       シカ     -     -     下顎目     L     1       シカ     -     -     下顎目     R     1       シカ     -     -     下顎目     L     1       シカ     -     -     下顎目     R     1		_	_								
シカ     -     -     下頭骨     [m1-M1]     L     1     P2 残       シカ     -     -     下頭骨     [m1-M1]     L     1     m3-M1 残       シカ     -     -     下頭骨     [M1-角]     R     1     全亩残       シカ     -     -     下頭骨     [M2-角]     R     1     全亩残       シカ     -     -     下頭骨     [M3-角]     R     1     全亩残       シカ     -     -     下頭骨     [P2-M1]     R     1     全亩残       シカ     -     -     下頭目     L     1       シカ     -     -     下頭目     L     1       シカ     -     -     下頭目     R     1       ト     -     下頭目     L     1       ト     -     -     下頭目     R     1		-	_							0.5	
シカ     -     -     下顎骨     [m1-M1]     L     1     m3-M1 残       シカ     -     -     下顎骨     F顎骨     L     1     幼蝕       シカ     -     -     下顎骨     [M1-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [M2-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [M3-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [P2-M1]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     R     1       シカ     -     -     下顎11     R     1	-	-	_								
シカ     -     -     下顎骨     下顎枝     L     1     幼獣       シカ     -     -     下顎骨     [M1-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [M2-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [M3-角]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎骨     [P2-M1]     R     1     全債長       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     R     1       シカ     -     -     下顎11     R     1	シカ	-	-		[m1-M1]	L	1				
シカ     -     -     下頭骨     [M1-角]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭骨     [M2-角]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭骨     [M3-角]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭骨     [P2-M1]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭11     L     1       シカ     -     -     下頭11     R     1       シカ     -     -     下頭11     R     1		-	-			_	_				
シカ     -     -     下頭骨     [M2-角]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭骨     [M3-角]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭骨     [P2-M1]     R     1     全歯段       シカ     -     -     下頭11     L     1       シカ     -     -     下頭11     R     1       シカ     -     -     下頭11     R     1	シカ		-				-				
シカ     -     -     下顎骨     [M3-角]     R     1     全苗段       シカ     -     -     下顎骨     [P2-M1]     R     1     全市段       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     R     1	シカ	-	-		[M2- 角]	R	1	全齿残			
シカ     -     -     下顎臂     [P2-M1]     R     1     全盲段       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     L     1       シカ     -     -     下顎11     R     1	シカ	-	mar)			R	1				
シカ     -     -     下顎 I1     L     I       シカ     -     -     下顎 I1     R     I	シカ	E	229			R	1				
シカ - F顎11 R 1	シカ	=	-	下顎 11		L	1				
	シカ		_	下顎 11		L	1				
シカ - 下顎M2 L 1	シカ	_	-			R	1				
	シカ	-	-	下顎 M2		L	1				
シカ 下顎 M2 R 1	シカ	-	-	下颚 M2		R	1				

表 4. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査で出土した脊椎動物遺体の同定結果(貝骨共通資料)

種類	部位	(佐部	f/g-1 ムラサキノンコ・ ナガラノ集中	11.52	-1 Ⅱ 層獣骨 集中 1	i-2 II 層默骨 集中面i	i-3-a インサチミ 集中	i-6 II 層	Ia層	IЬ層	j. 1 / II 層	-1 II g 上層	II g 中層	II g 下層
メジロザメ科	上弧電					1				1			1	
メジロザメ科 サメ頭 A	下领的		-	1			I	6		1	1		1	-
サメリA メジロザメ型	(B) 相信管			33	1	3	3	i			-			1
ネズミザメ型	他们			1	1		3	7			1			1
サメ類	惟骨			16	1	1		4				1		
板鳃類	椎骨			1										
ウナギ属?	角骨?						I							
ウツボ科 ウツボ科	前鋤骨板 主上顎骨			1 /										-
ウツボ科	五. F. 频刊			1 /						1				
ウツボ科	椎骨			3	1			1					1	1
ボラ科	舌顎骨													/ 1
ボラ科	主鳃蓋骨					/ 1	1 /							
ボラ科	腹椎			1						4				
ハタ科 (マハタ型)	前上领骨			1 /		/ 1		1 /		/ 1	/ 1	/		
ハタ科 (マハタ型) ハタ科 (スジアラ型?)	街省: 街省	fr						1				1 /		
ハタ科	遊骨	1.1					1 /	,						
ハタ科	前鳃蓋骨					1 /								
ハタ科	第1椎骨				1									
クロダイ属	主上颚骨			1 /										
クロダイ属	前上颚骨					1 /								
クロダイ属	指骨	-	1 /	1 /				1 /	, ,		1 2			1 /
クロダイ属	角骨 口蓋骨	-	1 /						/ 1	1 / 1	1 /			
イシダイ属	pm/d									1 / 1		1		
ブダイ属	上咽頭骨			2 / 1										
ブダイ属	下喇頭骨		I	1										
ブダイ属	(17·17:			1 /										
ブダイ属	pm/d	fr					1	1						
アオブダイ属 アオブダイ属	上明所骨			2 /										1 /
アオブダイ属	下咽頭骨 前上颚骨	-		1 / 1		-	1	/ 1						1 /
アオブダイ属	位省	-		1 / 1				7 1						1 7
プダイ科	方骨·			/ 1										
ブダイ科	腹椎			9	1	1	2	3						
ブダイ科	尾椎		1	12		3	2	1						
ニザダイ科	前上領骨											1 /		
ニザダイ科 コチ科	提鎖骨 苗骨							7.1						1
モンガラカワハギ科	尾椎							/ 1					1	
カワハギ類	储					1								
カワハギ類	背结棘					1								
ハリセンボン科	前上颚/苗骨			1										
ハリセンボン科	桝			2				1			1			
真骨頃未同定	方骨			/ 1										
真骨類未同定 真骨類保留	腹椎 前上顎骨					1 /		1						
真骨類保留	主總蓋骨			1		1 /	1							
真骨填保留	主總蓋骨?			-										
真骨填保留	第1推骨			1										
真骨類保留	推行			1		14	I			2		2	3	
真骨類同定不可	方骨 ###			10		1 /					-		0	
真骨類同定不可 アカウミガメ	推骨 前鳥口骨	m	/ 1	12	3	10		1			1		2	
ウミガメ順	頭蓋骨	111	/ 1		1							-		
ウミガメ類	下颌骨	先端 fr		I										
ウミガメ類	島口 - 肩甲骨	分岐部 fr												/ I
ウミガメ類	徒骨	m		/ 1										
ウミガメ頃	中手骨		1	1 /										
ウミガメ類 ウミガメ類	不明長骨 指骨	m		-,		2	1	1		,		I	2	
ウミガメ類	相信。			1		- 4	4	1				1	- 2	
ウミガメ類	肋骨板	fr		1					I					
ウミガメ頃	背甲板	fr		2	1	1		1						
ウミガメ類	甲板	fr		1		1								
ヘビ切	推行							1						
アホウドリ科	尺骨	d											1 /	
カモメ類	鳥口骨	W		1 /										
カモメ類	機骨 機骨	p d		/ 1										
カモメ類	尺骨	d w		/ 1										
キジ頃	校省·	p		7 1		/ 1								
鳥類同定不可	ET.	d		1										
鳥類同定不可	指们			1										1
鳥類同定不可	不明長骨	m		3										

# 表 4 (つづき)

FICTO	部位	位置	f/g-l ムラサキインコ・ ナサラメ4度中		;-1 Ⅱ 層融滑 集中 1	i-2 Ⅱ層獣骨 集中面	i-3-a 小が 集中	i-6 II №	I a 🕅	Ib層	1/11層	-1 用 g 上版	II g 中居	II g 下層
ニホンザル	下领 12		1477%		※平1	345,1-101	71.3K				1 /	1.77	11-43	11/43
ニホンザル	桡骨	p		/ 1										
ニホンザル	中手/中足骨			2										
小型食肉目	Mc/Mt	р		1										
イノシシ	前頭帽	眼窩上部		/ 1										
イノシシ	知谓:		1	1 /										
イノシシ	侧頭骨	関節結節										_ / 1		
イノシシ	上领骨	詳細は表 6		3										
イノシシ	上颚遊離苗	詳細は表6				1								
イノシシ	下颚遊離苗	詳細は表 6		3		1								
イノシシ	環椎	fr		1				1						
イノシシ	<b>  中市村に</b>			1										
イノシシ	肩甲骨	関節部		2 /		1 /								
イノシシ	尺骨	滑車切痕												1 /
イノシシ	Мс5	p-(d-)			1 /									
イノシシ	Mc/Mt	(d-)+(d)		1										
イノシシ	Mc/Mt	(d)		2	2									
イノシシ	Mc/Mt	d			2									
イノシシ	基節骨			2	2									1
イノシシ	中節帶				1									
イノシシ	末節骨				1									
シカ	ff	尖端						1						
シカ	侧頭骨	関節結節						1 /						
シカ	切借骨				/ 1					/ 1				
シカ	上颚骨	詳細は表7		2										
シカ	上颚遊離街	詳細は表7		9	2	1		4						
シカ	下领行	詳細は表8		6	1	4	4	2				1		
シカ	下弧遊離苗	詳細は表8	1	12	1	3	1	2				-	-	
シカ	環椎	fr						1						1
シカ	軸椎	fr		1	1									
シカ	<b>須推</b>			2	1	1						1		-
シカ	万甲骨·	関節部	1 /	2 /								/ 1		/ 1
シカ	肩甲骨	関節部欠	. /	- /			/ 1					/ .		/ .
シカ	上腕骨	d	/ 1		1 /		7 1							
シカ	提骨·	(d-)	/ 1		1 /				-					/ 1
シカ	校骨	d	_				/ 1						-	7 1
シカ	尺骨	滑車切痕				1 /	/ 1	1 2						1 /
			_	. /		1 /	7 1	1 /						1 /
シカ	中手骨	W		1 /										-
シカ	中手骨	(d-)		1										-
シカ	中手骨	d		_		1								
シカ	寛骨 (腸骨・坐骨)	寛骨白			1 /									
シカ	寛骨 (腸骨)	寛骨臼		1 / 1	/ 1	/ 1	_ / 1							-
シカ	大腿骨	(d-)					1 /							
シカ	大腿骨	(d)				/ 1		1 /						
シカ	<b>膝蓋骨</b>	W		/ 1										
シカ	脛骨	(p-)		/ 1										
シカ	胆骨·	(d-)	1 /		1 /									
シカ	<b>雇们</b>	d		-	1 /			1 /						
シカ	<b>婚骨</b>			1 / 1	2 /	/ 1								
シカ	中心第4足根骨	W			1 / 1	1								
シカ	中足骨	p	1 /	/ 1	1 / 2									
シカ	中足骨	<d-></d->					/ 1							
シカ	中足骨	d			1									
シカ	中手 / 中足骨	d		1				1						
シカ	中間手根骨			/ 1										
シカ	基節骨			6		1								
シカ	中節骨			3	1		1							
シカ	末節骨			3			1							
イノシシ/シカ	侧頭背	岩様部		1	2		1							
イノシシ/シカ	SY(HE			1										
イノシシ/シカ	形有样的			1										
イノシシ/シカ	腰椎			3		1				1		1		
イノシシ/シカ	机竹	椎体		5		1	1							
イノシシ/シカ	大腿骨	大腿骨頭		1										
	手根 / 足根骨					1	1		1			1		
イノシシ/シカ	肋骨	р		3		2	1							1
イノシシ/シカ	CARROLL SE	fr			1									
	下弧件			/ 1										
イノシシ/シカ	上腕骨	w									_			
イノシシ / シカ イルカ質		w fr			1									
イノシシ / シカ イルカ質 (ルカ / 小型ウジラ質	上腕骨			1	1									
イノシシ/シカ イルカ質 (ルカ/小型がう類 クジラ質 イルカ/クジラ類	上腕骨 不明 不明	fr			I	-	1							
イノシシ/シカ イルカ質 (ルカ/小型クジラ類 クジラ類 イルカ/クジラ類 哺乳類同定不可	上腕骨 不明	fr			1 I		1							
イノシシ/シカ イルカ領 (46) / 小型が75頃 クジラ頃 イルカ/クジラ類 哺乳類同定不可 哺乳類同定不可	上腕骨 不明 不明 胸椎 尾椎	fr fr				1	1							
イノシシ/シカ イルカ質 (ルカ/小型クジラ類 クジラ類 イルカ/クジラ類 哺乳類同定不可	上腕骨 不明 不明	fr				1								

表 5. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査 j グリッドから出土した脊椎動物遺体の同定結果(貝骨共通資料を除く)

			j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	i-1	j-1/2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j=2	j-2	j-2	i-2	i-2	i-2	j-2	j-2-g	i 2	j-2	j-2	j-3	j-3	j-3	j-3	j-3	j-3
Fili tri	806%	GEW).	II f	II f	j-1 Hrkk Fwi / Fwii	II 自始	II g	II kij	i 区侧	-1/5	#7" HJ	II a	II a	II a Ekij	II b Hiki	II b Flyi	II e  -: 1  e	II d Eki	H e kii		II f	II f lik Floi	II f	II lyi	HM	#7"  V	サブトレ	#7" N II -2 kg	IE EM		#7"  Q	H Mi Militar	47"  1	·抓
メジロザメ科	1570/8		11.07	1:67	1	3	3	2011 (1)	1	1	140	15/89	11-3/4	PAY	1	1:57	EART	15 764		2	1.101	ng Par	1	2		1	1	11 -2 1/4				mil tr	3	-
メジロザメ科	FSOR				1	7	7	1	4	2		1		1						3			1	4	4					2			6	
ミズワニ什	(li)															_								1										
メジロザメ型	HEAT			1		3	3		1	19						1	1			3	1	1	2	8	3		2	1	1	2	5	2		
サメ!(i	(H)																																-1	
サメロ	推行							1	1	2										1				7	3					1	2		2	
エイリ	相合:		1																	1					1									
エイロ	尾棘																			1														
极触红	相信行																													1			2	
ウナギ属	前细骨板		1	1																			1											
ウナギ属	<b>预</b> 骨							1																										
ウナギ属	HETT		1																															
ウツボ科	前部計載					1																		1										
ウツボ什	wer			/ 1		1 /														1 /			1 /											
ウツボ科	角竹																							1 /										
ウツボ科	推治		1		1	8	3	1	4		1	1			1								1	2	4	1				2			1	
ボラ科	上經去骨							/ 1	/ 1			7.1								/ 1				1 /	1 /									/ 1
ボラ付	AV HC									1		2												1								1		
ボラ科	尾椎					2																												
スジアラ型	#HT							1 /																/ 1										
マハタ型	iir Egich		1 / 1																	7.1					/ 1		1 / 1				1 /			
マハタ型	derr																				1 /													
マハタ型	的無法計																			/ 1							1 /							
ハタ科	E Exit				7.1																1 /				7.1						1 /			
八夕科	of Establ																						-1											
ハタ科	角针																														/ 1			
ハタ科	力骨		7.1																															
八夕科	主创版計		/ 1			7.1						1 /																						
ハタ什	杨雄位件		7.1																		1 /													
八夕科	36 1 HETE							1			_									2														
ハタ型	用复村()。																		1							1								
アジ付	<b>ル</b> 反相。																			1														
フエダイ科	1: 1:30Ti		7.1														7.1			50														
フエダイ科	iff Ester						/ 1	1 /	2 /															$-\neq 2$	1 / 1									
フェダイ目	(8:11											1.7									7.1				/ 1									
クロダイ属	4:1:5017				1	1 / 1																	1. /											
クロダイ属	of Estat								1/	1 / 2													1 /	/ 1										1/
クロダイ属	(4cH)				/ 1					/ 1										1 /														
クロダイ属	何骨		1 /	7.1																														
クロダイ属	口茶骨					/ 1	_																											
タイ件	的無差計					1 / 1																												
タイ科?	第 1 推行					1															1													
タイ科?	现机		_				1																							1				
タイ科?	尾椎					1					1			-1											1									
イシダイ属	66 E3044																										/ 1							
ベラ科	下明頭骨																						-			_					1			_
ベラ科	(frif:								_																	1		-	_	1.7				
ベラ科	pm/d		_			_		1																										
ベラ科	角骨																							7.1										-
ブダイ属	上型的行					1 /				7.1	/ 1													1 /									2	
ブダイ属	F中的行行																										1							
ブダイ属	ifú Estett					1 /																		1 /										
ブダイ属	West					1 / 1	1.7	1 /				/ 1												/ 1										1

表5 (つづき)

MET.	300	35.79			三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三	1 100		i-1 i-1		j-1	/2 i 2	2 =	7 =	1	21	1-2 1 -2 1 -2	1-2 1 d	6-1	1-2 1 II I	2-1	= 2	j-2	9-2-1		47.14	1-2 14 74		-	1-3	1-3 13 1-3 1 M + 14 14 1.	7
200	+		-	Flei	Y Fiffi	N.W.	F& 75	Tr #7	_	# 4.							No. II 6/8	A2 II 1 A2		R Fig.		18 P.	11.77	2	-	-2 kg fig	महाराज्य ॥ ५४	ie .	W: FT 1	华	ş
7745	p/md	ż		+	+	+	+	+	0	+					+	+	+	-	+			-	-		1		+	51			
アオブダイ底	上海山中	=			/ 1		1 / 6	1/	4	-	-					-		-	-	-		6 5		1	-		+	+	-		L
アオブダイ協	Fathalish				-				0.1							-	-	-	-						-						
アオプダイ城	of Exert				0.1	1					1 /											/ 1									
アオブダイ協	##								7 1	-				-	1/							1 /			1					/ 1	
7774	E LSAP				1	11	/ 1	7.1	-									· .	-									1	-		
777411	价件					/ 1		7.1	( )																		/	-			
79481	Ji II														1				1												
77944	比例為骨				-	1 /				7	1																	1	1		
7.974	30.1 MTF						-											-			-	-						1			
777411	現相						-		57	-								01				3	-		-		-01	7			
177414	1646.					1	_	_	13	0.1							1 21	x	1		-	22	1		65			-			
ニザダイ科	mili Steff										1 /									7 1											
ニザダイ科	据缺		-			1																I									
オニオコゼ目?	H-H-										-										7 1										
ラボカサガザラ	Hrit-										7 1																				
カワハキ印	iii Esieri		1.7												1	1												7.1	-		
カワハギ印	WW.														-	1 /															
カラハギが	至			_		-	-							-																	
カワハギ的	75.47																	1	_												
カワハキ印	Fault																	7.1													
カワハギボ	胶框		-			-												51	-			21			_			-		-	
カワハギモ	124億																					71									
カワハギ垣	小行為探										-														_						
ハコフが任う	65472						-	_						-		-		-													
ハリセンボン目	ill Earth								5	-								1				-						-			
ハリセンボン住	HE:									_								-				-									
ハリセンボン臼	p/md						+										+	_	-			-									
ハリセンボン杆	95-09					+		+	-						1		-	-		-		-					-	-			
クリセンボン件	±									-	-					1	+	-	-	-										-	
<b>埃雷斯利斯</b>	E L Suffr						+			-		7				-	-	-	-		1				7 1			-			
近年低 松山连	WESTER				1	1			-	-							+	-	-				1 /			-		+		-	
近年10米回近	Will							+			4						+	-	-							1		+	-		
凭骨机表面能	第章							+	+	-						1	+	+		1							1	2	-	_	
With the block	<b>万</b> 章						1	+	+		-				-		+	-	-							1 2	-	~	-		
<b>经价值利益</b>	民机				1					+							-	-	-		_					1			+	_	-
项骨和保留	W.T.							-	-							-	_	-	-						1					_	4
(2) (4) (4) (4)	角電				1 /		1	+	-	-	-				+		-	+	-		_						1		-		
25年18年18	力事					-		+	-	+	-				+		1	7 -	-	-						1		7	-	4	1
政計和條相	Aster.						+	+		+	-				+		+	+		+						1	1	-	+	+	1
12/11/10/R/III	ESTATE				+	21	+	+	+	+	+				+	+	+	+	+	-	01				-	1		+	+	1	
CONTRACTOR			ıc		x	= -	in			6		-				23	21	=		-	2	8	-1	-	-	23		5	m	x.	51
UNI MIGHT AND	17.0°			+	+	- 7	+	+	+	+	-	1		T	+	+	+	+	+	-	1	-	1			t	1	+	+	+	1
गुल्लानिक् रूप					+	23	+	2.1	_	21	-	-	-	1	+	20	_	+	-	0.1	_	-	-		2-1	$\dagger$		C2 .	+	1	$\downarrow$
ウミガメ印						+	+		+	-		-		1	+	+		+		+					1	1	1	1	+		1
D ≥ H × UII	推合板				1	_			+	+	-				+	+	+	1	+	+	1			I		+	+	1	+		-
ψ ≥ W × Ei	2			-		+		1	+	1	-		1		1	+	+		+	+	_			I			+	+	+		-
0 5 W A 10	PHIST				1		_ :		+	- :	-	_			+			+		-		t			1				- -		
9 < 77 × 10		1	-		1	ic.	m	1	21	***	+			1	1	1		27 .	51 -	-	-	-	8		-			_	+	1	1
9 € W A M	111.00	Li.			1	+			+	+	+	_				+	+		_	+	1	-			Ī				+	1	+
V#OFUR		9	Ţ	1	$\dagger$	+	+		+	+	+	_			+	1	+	+	+	+	_	1				1		+	+	+	+
アホウドリ件	444	a			-	-	-	1	+	+	-	-				-	-	-	-	-	-		7.1			-	-	-	-	_	-

## 表 5 (つづき)

			j-1 II f	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1/2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	_j-2-g	j-2	j-2	j-2	j-3	j-3	j-3	j~3	j-3	j-3
FRICE	部径	位的	II f	II f	川 (城下屋) / 下面	II f Jei	II g	Ⅱ層 先行 tr	i 区侧	-1/5	サブトル -括	IIa E∭i	II a utki	II a Fkji	II b their	II b Flyi	II e 上中國	II d Fki	П е №		II f 下層	II r Ik FM	II f Filii	II kvi	Ⅱ層		#7" FU	サブトレ II -2 暦	最比層	II Æ	47" }	II 層 先行 tr	サブトレ ・括	-45
アホウドリ科	HETT	d				1/																												
キジ科	上施計	р													_					1	1													
馬斯米同定	尺骨	d																													/ 1			
馬斯米同定	中手骨	p																			4			1 /										
島和末同電	REST	р																														/ 1		
馬斯同定不可	f:#iiff	⟨p~>		_						1																								
鳥類同定不可	4577					2					1																							
ニホンザル	131/li		1				1		1															2										
ニホンザル	上類PI						/ 1			/ 1										_				/-1										
ニホンザル	下頭PI																							1 /										
ニホンザル	Lifett	<p=>-<d-></d-></p=>								/ 1																								
ニホンザル	上統計	<d-></d->								/ 1							_																	
ニホンザル	上院計	d								1 /			_															-						
ニホンザル	校竹	p		-						-1	_		-							7		-						-			7.1			
イス	E50 11	_	-				_				_						-	_		/ 1								-		-				
1100	類骨	V+40,00000		-	-					_																	/ 1	-						-
イノシシ	後頭骨	左後頭類			-					- 1		-						_							_		_	-		_				
イノシシ	Exit:	詳細は表6 詳細は表6					_				_	1						_	_		_			1		-	-		-	_	1		$\rightarrow$	-
イノシシ	上新遊離街	計和は表6		-		2		_			_							_	3			-					_			1				_
1100	下別件	許細は長6		-	_		_	_		1									9					1		-	_			-	1		-	_
1100	下颚遊離街	詳細は長6	1	-	1	1	_			1				-		_										-		-	-	-	4		-	-
1100	5001 Factor	BF4(0) & 3 C O	<u> </u>	-		1		_				_			-											-		-		_	-1		-	_
1/22	比較計	d		-		- 1								_						/ 1				_						-	_	-		_
イノシシ	尺竹	(d)				-				1					-					7. 1.				_		_						$\overline{}$	-	_
イノシシ	尺竹	d	_	-	-				-				-		-							-	_	/ 1				-		-	_	$\overline{}$	$\overline{}$	_
イノシシ	第2中下骨	p-(d-)	_	_				-		7.1	_				-				_				-	/ 4	-	-		-		_	_	$\overline{}$	$\rightarrow$	_
イノシシ	党計 (生計)	WATE!	<u> </u>			_	-			7 1					-	-			-	-	-	-			-	-		1		7.1	-	$\overline{}$		-
イノシシ	展情·	d	/ 1			-	_								_													+	_					_
イノシシ	排行	d						_							_					/ 1														_
イノシシ	YLift'									/ 1										1 /		7.1				_		_						1 /
イノシシ	<b>2</b> 指令计						-													151.76								-	-	_	1 /			-
1122	手根/足根骨		1												_										-	-			_					
イノシシ	中手/中尼什	d			1					2															1									_
イノシシ	基節骨			1											_							1		1				1	_					1
イノシシ	中的竹			1						1							-														1			
イノシシ	本節性									1					1													1						_
シカ	ii)	分岐部						7.00		1			1																					
シカ	fq	尖端																1						1										
シカ	ffj	m																						1										
シカ	ftj	fr								1								- 30																_
シカ	3tiff											/ 1													1 /									
シカ	(019)(41	PHARAM									1 /										7.1			1 /			1 /			/ 1				
シカ	後頭骨	左後頭鞘																							1									
シカ	後頭骨	有後頭啊								1																	1							
シカ	後頭骨	上部																						1										
シカ	切排骨									1 /													7.1							/ 1				
シカ	Espirit	詳細は長7								2														1			2					1		
シカ	上领链路維化	詳細は表7	1							2														6	2						3			
シカ	Fürir	詳細は長8		1		4				2										1	1		2	6							2			
シカ	下颚链路槽的	詳細は長8				1				1	1		-	1					1	2			1	4	3					1		1	6	
シカ	環推	fr								1																								
シカ	抽推	fr	1								1			1	1							_			1		1		_		1			_

	(つつき)							
-1 j=1 j g II M i j FM 先行 tr #:	新位	j-1 j-1 j-1 j-1/2 II 層 i 区側 先行 tr サブトレ -括 サブトレ	j-2 j-2 j-2 II a II a II a 上於 中於 F於		j=2 j=2 j=2 j=2 j=2 e kij II f kij II f II f II f F kij ki F kij F iff	j-2 j-2-g j-2 i II kii II kii #7' k		j-3   j-3   j-3   j-3   j-3     II
	シカ 頚椎	1		1	1	1	1	1
	シカ 肩甲骨 関節部					1 /		
	シカ 月甲骨 関節部欠	/ 1						
	シカ 上腕骨 p	/ 1						
-	シカ 上版計 d		1 /					1 /
/ 1	シカ 機骨 p					1 /		
-	シカ 検针 (d-)	1 /				1.7		
-	シカ 検背 d	- 1 - 1 - 1				1 /		
		1 /				/ 1		
						7 1		
$\rightarrow$	シカ 中手官 p	1 /						
	シカ 中手性 pfr 1							
$\rightarrow$	シカ 中手骨 d	2						
	シカ 寛計 (賜計) 寛計日				7.1	7.1		
	シカ 寛計 (船計) 寛計日							1 /
	シカ 寛計(生計) 寛計日							/ 2
	シカ 大腿骨 p			1 /		/ 1		
	シカ 大腿骨 (d-)	/ 1						
	シカ 膝蓋骨		1					
	シカ 駐骨 p							
	シカ 駐骨 (p)							/ 1
	シカ 脛骨 d	/ 1	1 /				/ 1	/ 1
$\rightarrow$	シカ 顕音		1 /			1 /		/ 1
	シカ 随骨				7	1 1 / 1 /		1 /
-						11.7		
								<del>                                     </del>
	シカ 中足骨 pfr							
$\rightarrow$	シカ 中足骨 ⟨d→⟩	1						
	シカ 中足骨 (d-)							
	シカ 手根 / 足根骨 1	1						1
. 1	シカ 中手/中足骨 (d)					1		1 1
	シカ 中手/中足骨 dfr	1 2						2
	シカ 基節骨 1	1				3	1	1
	シカー中節骨					2		1
	シカ 未節骨		1		1	1		
1	シシノシカ 側頭骨 岩様部						1	
	シシ/シカ 胸椎	1						
1	シシ/シカ 胸推 棘突起				i i	2 1		
1	シシ/シカ 腰椎	1 2	1	1				1
	シシ / シカ 腰椎 <b>林</b> 突起					1		
	シシ/シカー価権			1				1
-	シシ/シカ 尾椎							<del>+ + + + + + - + + + + + + + + + + + + +</del>
1 1		1 1				3	1	1 1
1		1 1				1	<u>'</u>	+ + ' + ' + -
$\rightarrow$	シシノシカート的骨					1		+++++
$\rightarrow$	シシノシカ 手根/足根骨			1	1			<del>                                      </del>
	シシ/シカ 助骨 p 2	2	1.	1		1 1		1 4
	シシ/シカ 助性 m					1		2
	(ルカ領 俳							
	(ルカ質 助骨 fr						2	
	L50(未同定 上50(m3/M1						1	
	L類末同定 切出?					I		
1		1						
							1	
44 27		27 31 113 10	28 2 5	4 8 17 7	10 74 18 6 26	i 154 52 0	43 6 9	36 70 15 38 10
44 27	27   11   12   12   13   14   15   15   15   15   15   15   15							

表 6. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査で出土したイノシシ顎骨・遊離歯の詳細

種類	出土依置	層。進	部位	线存位置	4541	拔	備る	貝骨 共通資料	台帳 No.
イノシシ	g-1	11.图	F.50(f)	[m2]	R	1		0	16(1)
イノシシ	g-1	II /ri	上领守	[m2 m3 (M1)]	R	1	MI 前出中		16(4)
イノシシ	g-1	II層	下颌骨	[C-P3]	I.	1	€残. ♂	•	16(4)
イノシシ	g-1	пМ	下頭 12		R	1			16(1)
イノシシ	g-1	пы	F頭 C		R	1	9		16(4)
イノシシ	g-1	П⊠	下號 P4		I.	1		•	16(4)
イノシシ	i−2 🗷	Ⅱ層(ハマゲリ取上げ後の獣骨集中面)	.1:56 P			1		•	34(2)
イノシシ	i-2 [≰	Ⅱ唇 (ペケリ取上げ後の獣骨集中面)	下頭 [1		L.	1		0	34(1)
イノシシ	j-1	H ரித் <b>F</b> மி	上班 M3		R	1		-	65(1)
イノシシ	_j-1	Ⅱ 丘枝下面	下頭 口		L	1		(e)	65(1)
イノシシ	j-1	Ⅱ 丘層景 下面	E50 II		L.	1		(=	65
イノシシ	j-1	II f 中層	下領11		L	1		-	64
イノシシ	j-1	7ルイ一括	下领销	[(M1)]	L	1	贵线 (前出中)	-	71(1)
イノシシ	j-2	Па上層	切饼谓:	[11-13]	R	1	13 脱落	-	97
イノシシ	j-2	Пе№	EM II		I.	1		7-	88
イノシシ	j-2	II e ₩	上领 12		I.	1	101	-	88
イノシシ	j-2	II e ki	上質 M2		L	1		-	88
イノシシ	j-2	田樹	切出骨	[(11)<12>13]	R	1	13 抜け	=	94
イノシシ	j-2	1143	下弧骨	関節突起	R	1		- max	94
イノシシ	j-3	II/Ø	F3( i2		R	1		-	102
イノシシ	j−3 サフ′ }レ		切削滑	[11-13]	R	1	I1・⟨I2⟩ 残. I2 未前出	-	103
イノシシ	j-3 サブトレ	-	下颌骨	[m2- <m2>]</m2>	L.	I	全苗残、M2 未萌出	-	103
イノシシ	j−3 サブ トレ	=	· 下頭 12		L	1		-	103
イノシシ	j−3 サフ′ }レ	=	下颚(13		L.	1			103
イノシシ	j−3 サブ トレ		F50 P			2	AMB CO.	-	103

表 7. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査で出土したシカ上顎骨・遊離歯の詳細

桶瓶	出土位置。	Fi 199	部位	线存位置	左右	114	備考	貝骨 共通資料	台東 No.
シカ	g-1	π /⊠	1:500	[P3-P4]	L	1	全街残	0	16(1)
シカ	g-1	II /65	ESCH:	[P2]	I.	1		•	16(2)
シカ	g-1	II Fri	上颚( P2		t.	I		•	16 (4)
シカ	g-1	II lei	上:領 P2		R	1		•	16(4)
シカ	g-1	II //d	上:近 P3		L	I			16(4)
シカ	g-1	ИЫ	F.50 P4		1.	1			16(4)
シカ	g-1	II ///i	F.5ft P4		R	1			16(4)
シカ	g-1	II //d	上5ñ m3		R	1		•	16(4)
シカ	g-1	Π /Ω	上:5页 M2		L	1			16(4)
シカ	g-1	H Æ	上頭 M2		R	I		•	16(4)
シカ	g-1	II /ri	E-56 M3		L	I			16(1)
シカ	g-1	Ⅱ 層ペケリ・軟骨集中区 1 下部	上弧 m1/m2		R	1			1.4
シカ	g-1	Ⅱ 図/マグリ・畝骨集中区 1 下部	上50 M3		R	1		•	14
シカ	i−2 🗵	Ⅱ層 (ペゲリ取上げ後の獣骨集中面)	F:50 m1/m2		R	1			34(1)
シカ	i-6	11.荷	F:50 m3		R	1			57
シカ	i-6	II /di	上領 33		L	2			57
シカ	i-6	II 🕅	上頭 M3		R	1		•	57
シカ	.j=1	旧丘中局	E20 P4		1.	1			64
シカ	j-1	7ルイ一括	上领骨	[P2-P4]	1.	1	全情残	-	71(2)
シカ	j-1	764 :括	上领销	[P2-P4]	R	1	全苗残	-	71(1)
シカ	j-1	767一括	上頭 P4		L	1			71(1)
シカ	j-1	787一括	ESH MI		R	1		-	71(1)
シカ	j−2	田屋	上锁骨	[m1m2m3]	R	1	全苗残	_	94
シカ	j-2	Ⅱ層	1:50 ml		R	1	ガ出中	=	94
シカ	j−2	旧居	上领( P2		L	2		=	94
シカ	j−2	11 177	F:59( P4		l.	1		-	94
シカ	j−2	田庵	上領MI		L	1		-	94
シカ	j-2	II /63	上詞[ M2		L	1			94
シカ	j-2 サブトレ 1 人骨側先行トレ		上领销	[P4-M1]	L	1	全苗残		99
シカ	j-2 サプトレ 1 人骨側先行トレ		上级销	[P2-P4]	R	1		-	99
シカ	j-2-g	田原	1:50 m3		L.	1		=	95
シカ	j-2-g	Ⅱ層	上領 P2		L	1		-	95
シカ	j−3 #7* }↓	H	F:7/1 P2		1.	1		=	103
シカ	j-3 サプ トレ	H	J:50 M1		R	1		9	103
シカ	j-3 サプ トレ	No.	上質( M3		I.	1		-	103
シカ	j−3 先行トレンチ	11 7/2	上领價	[P2-M3]	R	1	全齿残		104

表 8. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査で出土したシカ下顎骨・遊離歯の詳細

	1+20-1712201	122 122 122 122 12						ga sa	2, 112
Milli	出土位置	F4 49	部{立	残存位置	左右	级	備・考	貝骨 共通資料	台帳 No.
シカ	f-g-1	ムラサキインコ・ナカブラメ集中	下领 12/13/C		L	1		● Million 14	10
シカ	g-1	II M	下领僧	助流	R	1		0	16(1)
シカ	g-1	田層	下颚骨	的加州	R	2		0	16(2)
シカ	g-1	II 🔯	下领骨	筋・関節突起	R	1		0	16(2)
シカ	g-1	II №	下锁钳	[M2 M3]	I.		<b>位残</b>	0	16(4)
シカ	g-1	II 🗟	下领情	[M2]	1.		当线	0	16(4)
シカ	g-1	11 層	下頭11		I.	1		0	16(1)
シカシカ	g-1 g-1	Ⅱ 樹 田 楢	下頭 I1 下頭 I1		I. R	1		0	16 (4) 16 (4)
シカ	g-1 g-1	П №4	下頭 12/13/0		R	1		•	16(1)
シカ	g-1	II 🖟	下領 12/13/C		R	1		•	16(4)
シカ	g-1	II RO	下頭 P3		R	1		0	16(4)
シカ	g-1	II Æ	F50 m1/m2			2		0	16(1)
シカ	g-1	II /G	下弧 m1/m2		L	1		0	16(4)
シカ	g-1	II 🕅	下質MI		R	1		•	16(1)
シカ	g-1	II 🗟	下弧 1/12		L	1		0	16(4)
シカ	g-1	II M	下弧 3		R	1		0	16(4)
シカ	g-1	II 届パゲリ・獣骨集中区 1	下頭 12/13/C	Euro un da 7	L	1		0	13 14
シカ シカ	g-1 i-2 ⊠	Ⅱ 層 ハマグリ・獣骨集中区 1 下部 Ⅲ 層 (ハマグリ取上げ後の獣骨集中面)	下颚骨 下颚骨	[M2-M3 ffj] [P3-M3]	R L	1	全齿线	-	31(2)
シカ	i-2 ⊠	II 图 (ハマグリ取上げ後の獣骨集中面)	下领情	[M1-M2]	I.		全街线	•	34(2)
シカ	i-2 ⊠		下頭官	関節突起	L	1	star G GN	•	34(2)
シカ	i-2 ⊠	Ⅱ層 (ハマグリ取上げ後の獣骨集中面)	下颚价	関節突起	R	î		0	34(2)
シカ	i−2 🗷	II 層 (ハマグリ取上げ後の蝕骨集中面)	下弧[11		L	1		0	34(1)
シカ	i-2 ⊠	Ⅱ 圏 (ハマグリ取上げ後の獣骨集中面)	下頭 12/13/0		L	1		0	34(1)
シカ	i−2 🗵	Ⅱ層(ハマゲリ取上げ後の獣骨集中面)	FM 12/13/C		R	I		0	34(1)
シカ	i-3-a	<b>砂</b> が 好集中	下頭骨	[P4-M1]	Ĺ		全齿残	0	54(2)
シカ	i-3-a	わがり集中	下頭骨	[M2-M3]	L		全苗残	0	54(2)
シカシカ	i-3-a i-3-a	イシダー矢集中 イシダー矢集中	下頭骨 下頭骨	[M1] 関節突起	R L	1 1	苗残	0	54(2) 54(2)
シカ	i-3-a	イング・大乗中 イング・大集中	下頭 12/13/0	周即大起	L	1		•	54(2)
シカ	i-6	山層	下頭骨	[(M3)]	L		M3 残 (萌出中)	-	57
シカ	i-6	11 76	下颚骨	関節突起	R	1	NO 72 (191141 ( )	0	57
シカ	i-6	日辰	下領[1]		R	1		•	57
シカ	i-6	п 🖾	下弧 m1/m2		R	1		•	57
シカ	j-l	II f 下層	下领省	[M3]	L	1		-	66
シカ	j-1	II f 最下~下面	F31 m3		L	1			66
シカ	j-1	用 f 最下面	下领情	[ 吻 -P2]	L		<sup>22</sup> のみ残	~	65(2)
シカ シカ	j−1 j−1	用了最下面 用了最下面	下颚骨 下颚骨	[P2-P3] [P2-P4]	R R		全苗残 全苗残	-	65(1) 65(1)
シカ	j-1	11 斤及下面	下领借	関節突起	R	1	平.田 7人		65(1)
シカ	j-1	田 f 層最下面	下领 M1	(MRIDO)	R	1		_	65
シカ	j-1	II g 上層	下锁骨	関節突起	R	ī		•	67
シカ	j-1	7ルイー括	下颚钳	[M1]	I.	1 1	<b></b>	_	71(1)
シカ	j-1	76年 括	下现价	[M2]	R	1 4	全街残		71(2)
シカ	j-1	7ルイー括	下贺(11		1.	1			71(2)
シカ	j−1 • j−2 †7′ }↓	一括	下領 12/13/C		l.	1			75
シカ	j1-3	サブトレー括	下號 i/c		L	1			103
シカ	j1-3	サブルー括サブルー括	下號 i/c		R	3			103
<u>シカ</u> シカ	j1-3 j1-3	サブルー括 サブルー括	下號 1/C 下號 1/C		L R	1			103
シカ	j-2	日本下層	下颚 m2		I.	1			78
シカ	j-2	ПеВ	下領 i1/i2/c		R	1		-	88
シカ	j-2	ПГ	F領 i1/i2/c		Ĭ.	2		-	90
シカ	j-2	II f 下層	FWA:	[ 吻 - <p2><p3>]</p3></p2>	L	1			91
シカ	j-2	H f Fifii	下顎骨	[113]	L	1			92
シカ	j-2	II f Fiúi	F 须谓*	閉節突起	R	1		-1	92
シカ	j-2	II f Fini	FM ml	Tuan to the	L		<b></b>	- 4	92
シカ	j-2	田丘園	F领骨	物端	R	1	△ Usas	( <del>-</del> )	96
シカ	j-2	II 層 II 層	下领骨	[P4] [P4M1]	L L		全苗残 全苗残	(H)	94
<u>シカ</u> シカ	j−2 j−2	田房	下顎骨	関節突起	L.	1	上田7天	1-	94
シカ	j-2	II //3	下颚骨	防閉天起	R		TN	=	94
シカ	j-2	II 層	下领 11		L	1	7.03	100	94
シカ	j-2	旧層	下領 1/0		L	2		-	94
シカ	j-2	11 層	下質[ m3		L		抗出中	-	94
シカ	j-2-g	田屋	下弧[11		L	1		-	95
シカ	j-2-g	田層	下%ii m2		L	2		(H)	95
シカ	j-3	II /@	下领 1/C	PALS GOVE	L	1	A the arc		102
シカ	j-3 #7   \\		下领情	[P2-P3]	L		全角残る。	H	103
シカシカ	j-3 サブトレ j-3 先行トレンチ	11/26	下頭骨	[P2-P3]	R L		全齿折扒	-	103
271	. 1一3 プロイエトングブ	41 //2	下弧 m2	-14/6	Li	11			104

表 9. 一陣長崎鼻遺跡平成 21 年調査の水洗選別資料から検出された脊椎動物遺体の同定結果

サンプル番号	検出メッシュ (mm)	極 類	部位	左右	数	備考
ア	4	ハタ科	方骨		1	
ア	4	カワハギ煩	自岸		6	
ア	4	真骨類未同定	尾椎		1	
ア	2	真骨類保留 A	尾椎		1	ニザダイ科 ??
ア	2	カワハギ類	排		+	
ア	1	真骨類保留 B	尾椎		1	おそらく保留 A と同一種
1	9. 5	ブダイ属	前上顎骨	R	1	
1	2	ハコフグ科?	負岸		1	
1	1	真骨類保留 B	尾椎		1	
ウ	-	同定対象資料なし			-	
II.	-	同定対象資料なし			-	

表 10. 一陣長崎鼻遺跡から出土した脊椎動物遺体の組成 NISP:同定標本数, MNI:最少個体数, SB:貝骨共通資料

							本 (7) 社				平成	21年 ISP			Д, 5Б							
	f/g-1	g	-1	i-2	i-3-a	i-6					N.	IOI.	j	-1							j-1/2	
極類	ムラサキイン		II M	旧層	15 493		Ιa	Іь	1 / п	Пб	II f	II f	H e 133	1	II g	Иg	II g 版下	旧層	i 区側	一括	サプトレ	II a
	集中	II M	無骨 集中1	烘骨 集中	集中	II FF	₩ en	M on	IN CO.	中層	下個	最下層 /下面	Fúli -	上層	中層	下層	/ / /	先行 tr	サブトレ	- 10	一括	上層
サメ類	SB	SB 51	SB 2	SB 5	SB -1	SB 18	SB	SB 2	SB 2	_	I	2	13	SB	SB 2	SB 1	13	2	7	24		1
エイ目		31	-	-	-13	10		-	- 4	1		-	10	-	-	-	10	Δ.	L.	41		-
板鯉類		1				-				1						-	-					
ウナギ属	_				I					2	1							1				
ウツボ科		5	Ĭ		·	Ī		1		1	1	1	10		1	1	3	1	4		1	1
ボラ科		1		1	1					-		-	2			1		1	1	1		3
ハタ科 (マハタ型)		1		1		1		1	1					i				1				
ハタ科 (スジアラ型)						1				2												
ハタ科			1	1	1					3		1	1					1				1
ハタ型																						
アジ科																						
フエダイ科										1							I	1	2			I
イスズミ科																						
クロダイ属	1	2		1		1	1	2	1	1	ı	2	3			1			1	4		
タイ科													4				Ī				1	
イシダイ属														1								
ベラ科																		1				
ブダイ属	1	5	2										4				1	1		1	1	1
アオブダイ属		7			1	1							3			2	5	l		4		1
ブダイ科	1	22	1	-1	4	4					1		4				-1	1	2	14		1
ニザダイ科										1			1	1		1						1
フサカサゴ科?																						1
オニオコゼ科?																						
コチ科						Í																1
カワハギ類				1						2			1		1							1
ハコフグ科?																						
ハリセンボン科		1																		2		
真骨類未同定		1				1																
真骨類保留		3		15	2			2		5		9	16	2	3		5	7	7	9	1	-4
真骨類同定不可		12	3	11		1			1				3		2			2	I	2		1
ヘビ類						1																
ウミガメ頃	2	5	1	2	5	1				1	1		6	1	2	I	4	V25	3	4		
アホウドリ科													1		1			1				
カモメ類		-1		9																		
キジ類 鳥類未同定				1									-									
鳥類末同定 鳥類同定不可		5											2			1				1	1	
鳥類同定不可 ニホンザル		3			-				1	1			2			1	2		1	5		
イヌ		3							1	1							Δ)		1	J		
小型食肉目		1				-																
イノシシ	I	17	9	3		I				3		I	4	I		2				9		1
シカ	5	57	21	16	13	1-1		1		3	3		20	3		3	ı	1	2	23	-4	5
S/C		15	2	5	4	***	1	ı			2		12	2		1	3	2	-	6	-	2
イルカ類		2	2		-		-	-			-		2	-				-		~		-
クジラ類		-	-		-+								-									
ウマ								-														
哺乳類表同定																						
哺乳類保留					-													1				
哺乳類同定不可			1	1	3																	
合計	11	221	44	68	39	47	2	10	6	27	11	16	112	13	12	15	43	26	31	109	9	26

											ξ21年 ISP		-										MNI	昭和 NISP	31年 MNI
II a 中層	II a 下層	用 b 中層	II b 下層	II c 上中局	II d 下層	Пе⊠	II 6	-2 II f 下層	II f 最下 層	II f 下面	II kā	j-2-g II 周	サプトレ	サプトレ	#ブトレ II -2 層	最上 層	田層	j サプトレ	-3 II 層 先行 tr	サブトレ 一括	一括	合計	合計	合計	合計
+	Θ.	-8	-	-	=	-	(=	-	-	19	-	-	-	-	-	-	=	=	-	-	-				
_	1	1	1	1			9	1	1	-1	22	10	1	2	I	1	5	7	2	15		236	3	158	2
							2					1		-			1			2		4	1	0	0
										1							1					6	3	0	0
		1	_				1			2	4	4	1				2			1		49	3	0	0
							1			_	2	1	<u> </u>						1		1	18	6	1	1
											1											8	7	0	0
							2	1				1		3				1				11	1	2	1
							2	2		1		1						2				18	=	1	-
						1							I									2	=	1	.=
							1															1	1	0	0
				1				1			2	3										13	3	0	0
																						0	0	3	1
							1			2	1										1	27	7	9	3
	I							1				1					1					10	-	1	-
														1			1	1				2	1	0	0
-											4			Ī			1	2		2		24	5	2	1
			2	1	1						4	1	2	3				- 2		1		-10	9	65	17
			1		1	2	12	2		2	9	2	-	4			3	4				105	-	110	-
$\dashv$						-		-	1	-	1			-								7	2	1	1
																						1	1	0	0
										1												1	1	0	0
													-									1	1	0	0
				3			4	1			4			2				3		1		24	3	0	0
																						+	1	0	0
							2				-1						1					10	5	3	2
1			1				1			1		1		2	1	1	1	1			2	15	-	1	=
1				4	3	1	12	6		15	33	2	4	8	2		7	11	3	8	2	212	-	16	100
	1			3	1	1	4		2		I	4		2			3	2				63	-	4	121
											-											1 00	1	0	0
-						1	2		1	1	7	3		1	1		1	2	3			62	2	35 1	3
		-				-						1										4	1	0	0
+							1															2	1	1	1
-								1			1							1	1			4	-	0	
																						10	-	0	-
											4							1				18	3	3	1
							1															1	1	0	0
																						1		0	-
						3	3		1		4	1		1			2	8			2	77	3	57	5
	2		1	1		1	6	2		5	34	10		8			5	15	4	7	2	298	8	104	7
			2	2			1			1	8	2		2			1	7	1			85		29	799
														2								8	1	1	1
_	_			_										_								+	1	6	1
-		_																				0	0	3	1
$\dashv$	-	-	_	-				-	-			1			1							2	_	0	-
-	-	-	-	-				+						1								6	-	0	-
2	5	2	8	16	6	10	68	18	6	36	151	50	9	43	6	2	34	68	15	37	10	1500	88	618	50

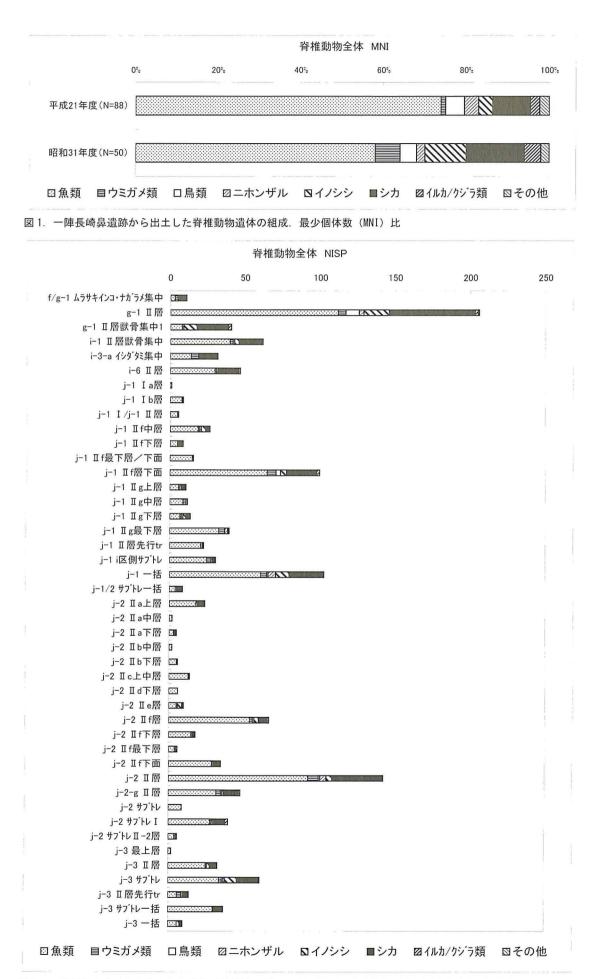


図 2. 一陣長崎鼻遺跡から出土した脊椎動物遺体のグリッド・層別の出土数と組成. 同定標本数 (NISP)



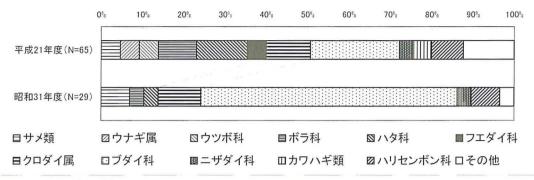


図3. 一陣長崎鼻遺跡から出土した魚類遺体の組成. 最少個体数 (MNI) 比

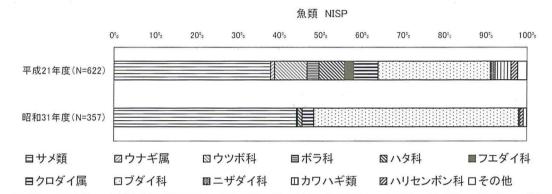


図 4. 一陣長崎鼻遺跡から出土した魚類遺体の組成. 同定標本数 (NISP) 比

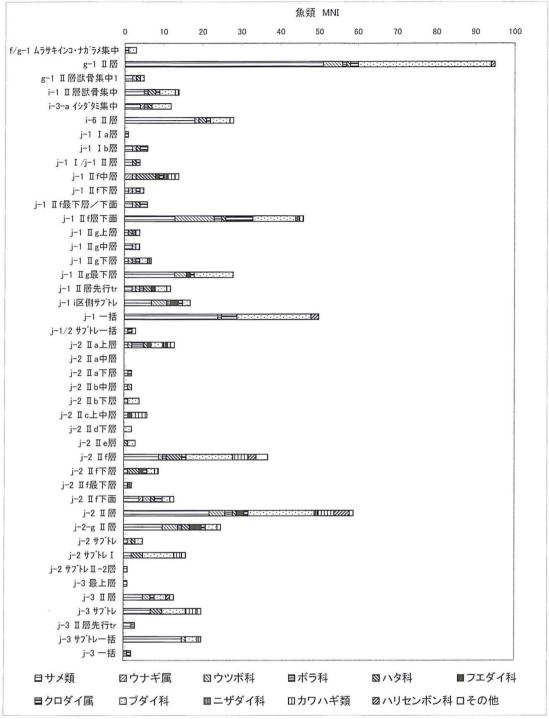


図 5. 一陣長崎鼻遺跡から出土した魚類遺体のグリッド・層別の出土数と組成. 同定標本数 (NISP)

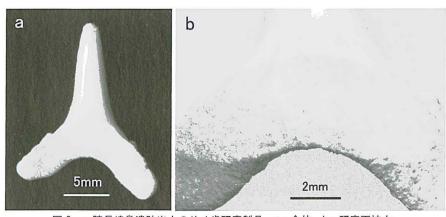


図 6. 一陣長崎鼻遺跡出土のサメ歯研磨製品. a:全体, b:研磨面拡大

# 第8節 一陣長崎鼻遺跡出土の十脚甲殻類遺体 加藤久佳(千葉県立中央博物館)

これまでに400点以上のカニ類の断片が得られて いるが、そのほとんどが"ノコギリガザミ"および モクズガニで、わずかにイワオウギガニ類などを伴 う。残存部位の多くがハサミ脚可動指および不動指 であり, 少数の掌節片および長節片が認められた。 背甲その他の部位が特定できる甲殼片は見られな かった。日本周辺海域のノコギリガザミは従来単一 の種とされていたが、現在ではアミメノコギリガザ ミ,アカテノコギリガザミ,トゲノコギリガザミの 3種が認識されている。しかしながらこれら3種は 背甲額域の棘の形,ハサミ脚腕節の棘の発達の程度, ハサミ脚や歩脚の網目模様の有無などで区別されて おり (伏屋・渡邊,1995), ほとんどすべてがハサ ミ脚指節のみで, また生時の模様もとどめない今回 の資料でこれらの形質は識別不可能であることか ら,広義の"ノコギリガザミ"とした。ノコギリガ ザミとモクズガニは多くの遺跡から産出しており, 南西諸島では主要な漁獲物だったと見られる(金子、 1991, 2002 など)。ともに現在でも島内で食用に採集 されており、今日の大浦川に見られるようなマング

ローブ干潟は、当時もノコギリガザミの絶好の漁場 であっただろうし、近隣の川ではモクズガニが得ら れたのであろう。

本地点の十脚甲殻類遺体群は、ごく限られた種のカニだけが卓越し、その他のカニ類をほとんど含まないという点で、黒住(2006)のいう"集団の嗜好が明確な動物遺体"といえるのかもしれない。

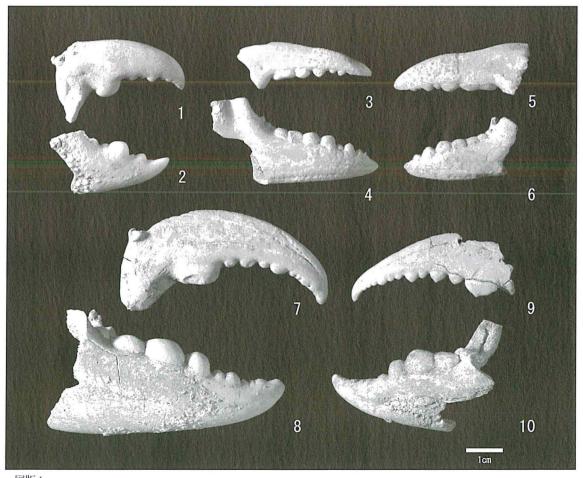
#### 文献

金子浩昌, 1991. 嘉門貝塚A区出土の動物遺体. 嘉門貝塚A, 浦添市文化財調査報告書 18, pp. 94-110, 151-158. 浦添市教育委員会,沖縄.

金子浩昌,2002. 第5節.知念村熱田原貝塚出土の動物遺体.知念村教育委員会(編),熱田原貝塚発掘調査報告書10,pp.78-102.知念村教育委員会,沖縄.

黒住耐二,2006. 貝類遺体からみた遺跡の立地環境と生活.木下尚子(編), 先史琉球の生業と交易 - 奄美・沖縄の発掘調査から-,2:115-134,文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書,熊本大学.

伏屋玲子・渡邊精一, 1995. ノコギリガザミの分類に関する問題点. Cancer, 4:5-8



図版 1 1-2. イボイワオウギガニ. 1. 右可動指, 2. 右不動指. 3-6. モクズガニ. 3. 右可動指, 4. 右不動指, 5. 左可動指, 6. 左不動指. 7-10. "ノコギリガザミ". 7. 右可動指, 8. 右不動指, 9. 左可動指, 10. 左不動指

表 1 一陣長崎鼻遺跡出土の十脚甲殻類 種・部位別集計表

	Sample no.	11 21 周代	- 5	6	8	13	1-1	15	16	26	28	29	30	31	33.	3.1	37	38	39	40	-11	-12	45	52	.54	55	56	57	62 65
	an talk		2-3 [×] (	e-I	f=1	g-1	g-1	g-1	g 1	h-1	h-1	i-1	i-1	i-1	i-2	i-2	i 2	i-2	i-2-	i 2·3 サプトレ	i=2-3 [≪ e	i 2 3 1≤ c	i-2	i -3	i-3-a	i-1	i-5	i 6	j-1 j-1
	-		-	-						-		II ký			ハマグリ				3	ンチ		2 30 30 3 5		3 42				3 90	3 3 3 3
	層位等	カクラン		11 ½4	11 /63	11/6/	H Jei	II 層 自色砂	11 Jy	II kri	ベルト上	h-i 間の自 砂下の層	11 -2  /ri	H M		Шжі	II kri Jik FAB	H lei	H 363		II -2 \hij	II -2 [6]	II kë	II kri		II kii	II ki	ПЖі	Ib III F層 展下
	備考		貝集中			ハマグリ・						25 0 000				ハマグリ 屋下鉄骨							ハマグリ層 取り上げ後		イシダ				
砸名等	SIDEAK.		[K]			飲計集中 区	跌骨集中 1 下部									集中層面					具集中区		の無骨集中		タミ集 中				
與尼下日?未定種				-	_					-													ild		412				-
ノコギリガザミ"	ハサミ脚指節片																						1						
ノコギリガザミ	右可動指	1			1		100	1	2	2 1	3	I		3	1		1	- 5	1	1	3			3			?1		i
	有不動指	3			1		3	1	2	2 4	11	Ţ		-4	1			3	1		1	1		.3		- 1	1		1
	左可動指	3							1	4			1	2		2	?1			1				-1	1	1		?1	
	左不動指	2						1	1			1		-1				1	- 1		1			.5	1			1	
	ハサミ脚葉節片											1		1										1					
	ハサミ脚指節片		1							3	5		1	1 8				2	1										
ガザミ科不明種	ハサミ脚長節片			ļ										1				[			?1								
77 -0, 2 4 + 4 × 10 14 m	有可動指										1	1																	
	右不動指																											- 1	
	左可動指																												
	左不動指									8	I																		
イボイワオウギガニ	ハサミ脚指節片 右可動指			-						-			_																
1 1 1 2 1 2 1 2 1 2 1		1																				1							
イワオウギガニに比較される種	右不動指	- 1	-	-									_																
イワオウギガニ属未定種				-	_					-				-															
イワイワギガニ病木足伽	有可動指 有不動指																												
	4.1小则扫 左可動指																												
オウギガニ科の未定価										_																			
オウギガニ上科不明種	左不動指			-	_																								
4 ウギガー L性不明性 スナガニ科未定種	右可動指				- 1					_			_	?1															
ペラガニ 仕木正恒	右可動指 右不動指																												
モクズガニ	ハサミ脚掌節片 右可動指			-						-			_	1															
E9 X 11 =	有可動指 有不動指	2								-1	2			2			i	2		1				7		2			
		5	1		2				- 1	1		1		6				1				1	1	5		2		Ĺ	
	左可動指 左不動指	3			1			1	1		2	1		4	1	2	2	- 1		1	- 1			-3		- 1	2	1	
		1				1			J	2	1	3	1	3			2	3	1		1			- 6	1.		1	1	
高種不明ハサミ脚指節片	ハサミ脚指節片									-	100		_	4				- 1	- 1			Victor		2				2	
36位・属種不明所片				-1	1			1		7	6			13				-1	ł.	2	-4		7		1		1	1	
910 1921#12.0010171		25		- 1	1		-	-		1			-	-			1				1							Ĭ	
表中で「未定種」としたものに						1	1	5		33				1 52	3	-1	6	24	5	6	12	3	9	39		7	- 5	7	2

表中で「未定種」としたものは今回同定できなかった種。「不明種」としたものは保存状態によりこれ以上の同定が不可能な種である。

	Sample no.	66	67	68	70	71	72	73	78	82	85	88	74/100	89	90	91	92	94	95	102	103	104	105	108	111	112
	調養区	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1	j-1 サブトレンチ	j-1 先行トレンチ	j-2	j-2	j-2	j-2	J	j-2	j-2	j-2	j-2	j-2	.j-2-g	j-3	j−3 サブトレンチ	j-3 先行トレンチ		先行ト レンチョ	サブトレンチタ	e-i
	層便等	II f 下層版	II o Elii	11 0 111/6	H g 版下層	11 100	iトレンチ側		II a Elei	II e kë	II a EM	II e kë	壁面土層	II f Elek	II f lei	II ( Fiel	II f Fifti	H a loi	II loi			11/6	H k/i	7271		±Miñ##
		下面より下	8 1.41	2 8 1 411	W 8 /K 1 // 1		(人骨側)			11 0 111		M S AL	精性					n digi	11.7(1			11/11			mane at 1	3430 (1114)
	備考																									
種名等	部位																									
異尾下目?未定種	ハサミ脚指節片																									
" ノコギリガザミ "	右可動指					1											1	2			2		3			
	右不動指					2							1				?1	2						1	2	
	左可動指				1	3		1				1			1			1		1	2	1	-4	4		
	左不動指					- 1	1			1	1					1	2		1		1		1	1		
	ハサミ脚室節片																				1			1		ľ
	ハサミ脚指節片									1																
	ハサミ脚長節片																			_						
ガザミ科不明種	右可動指																		1							
	右不動指																									
	左可動指																					'				
	左不動指 ハサミ脚指節片																									
イボイワオウギガニ	右可動指			-		-													-	-			$\vdash$			
イルインイソヤガー	右不動指																									
イワオウギガニに比較される種						_												-								
イワオウギガニ属未定種	右可動指						-			-								1								
The state of the s	右不動指			1																						
	左可動指											1						1							1	
オウギガニ科の未定種	左不動指					$\vdash$															1			1		
オウギガニ上科不明種	右可動指			1																	1					
スナガニ科未定種	右可動指																	1								
	右不動指																	1								
	ハサミ脚常節片																	1	ı							
モクズガニ	右可動指					3		1			1							1	1 2	2 2	5		2	2		
	右不動指					1	-							1	1		2	2 3	3	1			1	2		
	左可動指					2												1	1	1	2		2	2		
	左不動指			1		1				1							1	1 2	2		2		1			
	ハサミ脚指節片					2	1																			
属種不明ハサミ脚指節片		1		l.		7			1	1					4			1	5	1			-4	3		1
部位・属種不明斯片																			1	2				2		
at-		1		1	1	23	1	2	1	2	2	1	1	1	6		6	5 20	) 8	8 6	17		18	19	3	0

# 第V章 総括

#### 第1節 出土土器について

本遺跡出土の土器は、盛園によって黒川式に比定され、その後多くの研究者がそれを追認している(例えば、旭 1988)。今回、平成 19,21 年度で追加された資料を含めて昭和 31 年出土資料の再整理を行った。本遺跡出土の黒川式とされる粗製の深鉢形土器は、肩部が「く」字状に屈曲し、口縁が内湾して立ち上がり、屈曲部に稜を有するなど中種子町阿嶽洞窟遺跡出土の黒川式の特に I 類に類似する。盛園は阿嶽洞窟遺跡資料の I 類を、堂込による編年(堂込 1998)における黒川式中段階に比定している(国分、盛園 2001)。筆者も、阿嶽洞窟遺跡の黒川式と本遺跡の出土資料を、それらの特徴により堂込編年の中で位置付けるとするならば、盛園と同意見である。

しかし、問題点が大きく2点あるので、それを 整理してみたい。

1つ目は、壺形土器 (図面番号68) が出土して いる点である。 壺形土器は、 昭和 31 年の調査の際 に、G区の2層より出土している。口唇部が厚く なり、小さく外反し、頚部を縦研磨で仕上げてい る点で, 上水流遺跡や下原遺跡の出土例に類似す る。一方で、黒色である点では、計志加里遺跡出 土例に類似する。計志加里遺跡出土の壺は, 東に より、「干河原段階」に伴うものとされている(東 2002)。一方で、下原遺跡出土例は、刻目突帯文土 器に伴うものとされる。上水流遺跡出土例は、干 河原段階の資料と,刻目突帯文の両者が出土して いることから,調査者はいずれに属するものか慎 重に判断すべきとし結論をだしていない (野間口 2007)。これらの事例から、本遺跡出土の壺形土器 もそのいずれかの時期に属する可能性が高く,本 遺跡における粗製の深鉢形土器との関係をどのよ うに捉えるかという問題がある。

2つ目は、本遺跡出土の黒川式とされる深鉢形土器には細沈線文が施文される一群があることである。細沈線文が施された土器は、図面番号でいうと5、19、41、52、58の5点で、いずれも屈曲部から口縁部にかけて施文されている。5、52のように、黒川式とされる深鉢形土器であることが明らかなものと、19、41のように判別が難しいものがある。南九州では、黒川式の時期は無文化が顕著で、奄美諸島でも無文化の傾向となる。特に、本

遺跡資料のように粗製の深鉢型土器に細沈線文が施される類例は、南九州では管見の限りない。一方で、大隅諸島では、十島村宝島の浜坂貝塚において、実物は未見だが、細沈線文を有する黒川式や、刻目突帯文土器、有文の壺形土器が出土しているとされる(三友・河口1962、河口2005)。また、中種子町阿嶽洞窟遺跡でも、刻目突帯文を有する甕形土器に同様の細沈線文が施される例がある(国分,盛園2001)。この細沈線文の起源・系譜は、今後の課題としたいが、少なくとも黒川様式の中には求められそうになく、三叉文(黒川2007)とも無関係に見える。南島を視野にいれるのは勿論であるが、まずは大隅諸島の地域性の中での検討を今後行っていく必要があろう。

なお、本遺跡資料と阿嶽洞窟遺跡資料は、ともに鰭状突起や、リボン状貼付文を伴わず、精製の 浅鉢形土器が極端に少ない点、底部形態にいくつ かのバリエーションが存在する点も気になる。精 製の浅鉢形土器にリボン状貼付文が確認されてい る南種子町松原遺跡例から、これらの要素が大隅 諸島において欠落するわけでもない。

参考までに,本遺跡出土の黒川式とされる深鉢 形土器(図面番号 13)の土器付着炭化物の "C 年 代(第IV章第1節)は、2450 ± 30yrBPで、包含 層から出土した2点の炭化物の℃年代は、2470 ± 30yrBP と 2520 ± 30yrBP である。藤尾によれ ば、藤尾の言う黒川式新段階の "C 年代は、2800BP 台であるとされ (藤尾 2009), その年代値と比べ るなら,本遺跡資料の年代値は,随分新しい。ま た, 藤尾によると, 2500BP~ 2400BP台の年代値 は、夜臼Ⅱ b 式や板付 I 式の年代値として理解が 可能であるという。さらに、藤尾の表によれば、 九州南部の突帯文系土器, 擬孔列文土器も 2500BP ~ 2400BP 台の年代値におさまっている。なお、そ の表には未掲載だが, 鹿児島県上水流遺跡出土の 刻目突帯文土器の付着炭化物も、"C年代が2549 ± 24BP である。本遺跡資料の "C 年代は、それら に近い。もっとも、"C 年代の測定結果は単純には 取り扱うことはできず、多くの注意を要するうえ, 水ノ江が指摘するように(水ノ江2009), 黒川式 それ自体や, 種子島の当該期の土器群の型式学的 な検討のもとに議論を続けることが肝要であるが, 今回の "C 年代測定の結果は、ひとつの目安にはな ろう。

これらのことから,深鉢形土器の一部に細沈線

文が施され、 壺形土器を含むという本遺跡の土器 群の時期は、この壺形土器が干河原段階ないしは 刻目突帯文の時期のものである可能性が高い点や, 浜坂貝塚の細沈線文の一部が, 少なくとも刻目突 帯の時期まで下がる可能性があること, 阿嶽洞窟 遺跡において, 刻目突帯のある甕形土器に同様の 細沈線文が認められることを考慮すると, □C 年代 の年代値も参考として, その頃までを含めた年代 幅の中で所属時期について検討する必要があり、 型式学的な再検討も行う必要がある。細沈線文が 施されない深鉢形土器についても、 "C 年代の年代 値が, 2450 ± 30yrBP である点, 鰭状突起や, リ ボン状貼付文を伴わない点, 精製の浅鉢形土器が 極端に少ないという器種構成の特徴、種子島・屋 久島では今のところ無刻目突帯文が確認されてい ない点や南島との関係も含め、その編年や型式学 的検討について今後の課題としたい。 (石堂)

#### 引用文献

盛園尚孝 1987 「南種子町の遺跡 中之下一陣貝塚」 『南種子町郷土誌』南種子町郷土誌編纂委員会

旭慶男 1988 「中之下一陣貝塚」『鹿児島県考古学会秋 季大会資料集 鹿児島県下の縄文時代晩期遺跡』 鹿児 島県考古学会

堂込秀人 1997「南九州縄文晩期土器の再検討-入佐式と 黒川式の細分-」『鹿児島考古』31 鹿児島県考古学会 国分直一・盛園尚孝 2001「阿嶽洞窟遺跡の調査」『環東 中国海沿岸地域の先史文化』第 4 編

三友国五郎・河口貞徳 1962「宝島浜坂貝塚の調査概要」『埼 玉大学紀要』第11号

河口貞徳 2005「浜坂貝塚」『先史・古代の鹿児島資料編』 黒川忠広 2007「鹿児島県下における三叉文施文土器の位 置付けについて」『南九州縄文通信』N018

藤尾慎一郎 2009「弥生時代の実年代」『新弥生時代の はじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』

東和幸 2002 「第IX 章 発掘調査のまとめ 2 縄文時代晩期 土器について」 『計志加里遺跡』 鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (38)

野間口勇 2007 「本県における干河原段階の現状について」『上水流遺跡 1』鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書 (113)

水ノ江和同 2009「黒川式土器の再検討」『新弥生時代 のはじまり第4巻 弥生農耕のはじまりとその年代』

#### 第2節 総括

一陣長崎鼻遺跡は,種子島の南部,太平洋に面 した砂丘上に所在する縄文時代晩期の貝塚で,黒 川式の単純遺跡として著名である。

調査は、昭和31年度に盛園尚孝が行い、平成19~21年度に南種子町教育委員会が行った。遺物としては、土器、石器、貝骨角牙製品が出土した。

土器については本章第1節を参照されたい。

石器は、磨石・敲石・凹石類を主体とし、石鏃、 石斧、石錐、使用痕のある剥片などが出土した。

貝骨角牙製品としては、オオツタノハ貝輪、イモガイ珠、ノシガイ珠、ツノガイ珠、ハマグリ製打製石鏃、トドロキガイ製垂飾品、サメ歯垂飾品、サメ歯研磨製品、骨製のかんざし、骨製刺突具、クジラ肋骨製の骨刀などが出土した。

ハマグリ製貝鏃は, 少なくとも南九州及び南島 に類例はなく, 南島では貝鏃の素材として夜光貝 やクロチョウガイなどが選択される。ノシガイ珠 は、螺背を入念に研磨することで、穿孔を施して いる。螺背にのみ穿孔を有するノシガイ珠の類例 は知らないが, 沖縄県具志川グスク遺跡で螺頭部 と殼口部を磨ることで両者に穿孔する例がある。 また, 広田遺跡出土のノシガイ珠では, 穿孔は施 されず, 殻口部を研磨により面取りするが, その 結果, 殻口部に孔が穿たれる例がある。類例とし ては、沖縄県高知口原遺跡例が知られる。 広田遺 跡出土のノシガイ珠は、広田遺跡北区3号墓など において、人骨に密着するように出土したその出 土状況や加工のあり方から衣服などに縫いとめら れて使用されたと想定されているが、本遺跡のノ シガイ珠は, 垂飾品などとしての使用が想定され よう。

漁労具については、刺突具は確認されたものの、 釣針などは確認されなかった。樋泉による分析に よれば、本遺跡における魚漁は、沿岸の岩礁/サ ンゴ礁域におけるブダイやハタなどの漁、外海域 でのサメ漁、遺跡近隣の汽水域を中心としたクロ ダイ、ボラなどの漁を主体とするとされる。漁労 具の組成は、こうした漁のあり方と関連するのか もしれない。なお、樋泉は本遺跡における魚類の 漁の最大の特徴として、サメ漁の活発さをあげ、 特に出土したミズワニ科のサメ歯研磨製品に着目 している。樋泉が指摘するように、本製品のように、 穿孔がされず、研磨による平坦面を有する製品は、 長崎県宮下遺跡、志多留貝塚、熊本県沖の原貝塚

など, 西北九州の外海性の貝塚に類例がある (三 島 1980)。一方で、南九州や南島には類例はない (注1)。 樋泉は、こうしたサメ歯研磨製品の出土 は、本遺跡のサメ漁に西北九州方面の外洋漁労民 が関与していた可能性を強く示唆するものだとし ている。また、本遺跡の特徴の一つとして、黒住は、 集落に隣接した海浜部のサメ類・ウミガメ類の捕 獲/解体場所的な性格が強い点をあげている。海 産貝類遺体の検討からは、貝塚形成のある時期に 大波で貝塚が洗われた可能性があることや、採集 され食用された貝の種類が限定的で、厳密に選択 がされている事実から,この遺跡を営んだ集団の 食の嗜好が明確であったことを指摘している。こ のことについて, 加藤も本遺跡出土の十脚甲殻類 遺体において、ノコギリガザミ、モクズガニとい うごく限られた種のカニだけが卓越し、その他の カニ類を含まないことを指摘している。

さらに、樋泉は、シカ・イノシシにおいて、頭蓋が多く四肢骨主要部位が欠落するなどの特異性が見いだせることから、本遺跡が単純な日常生活の場ではなかった可能性と、シカ角の出土が少ない点、中手・中足骨の半裁資料が多いことから、本遺跡が骨角器生産の一次的な作業場であった可能性を指摘している。

出土人骨としては、昭和31年に地元の方が採集 したものと、平成21年の調査で、出土した頭蓋骨 片がある。昭和31年採集人骨については中橋によ る詳細な分析がなされている。まず,本人骨に認 められる上顎の中切歯を対象とした片側抜歯につ いては、種子島では一陣長崎鼻遺跡例が唯一の縄 文期の人骨であることや,大隅諸島やその周辺に 抜歯パターンの類例がないことから, 今後の事例 の増加を待って評価をする必要があるとした。ま た,金関の指摘した下顎中切歯の水平研磨(金関 1958) については認定に至っていない。当該人骨 と広田集団(弥生~古墳)との比較については, 両者に共通する部分(短頭性、低頭性、低顔・低 眼窩傾向, 彫りの深い顔貌など) がある一方, 大 きな隔たりを示す部分(大きな顔面サイズ,高鼻, 高身長,細い上肢,太い腓骨など)があることから, この人骨を後世の広田集団を生み出す母胎、先祖 集団の一員として位置づけるにはまだ無理がある, としている。

HC 年代測定は、深鉢形土器の口縁部に付着していた土器付着炭化物と、包含層内の炭化物及び包

含層内出土の貝類について実施している。土器付着炭化物の 中C 年代が、2450 ± 30yrBP, 包含層から出土した炭化物の 中C 年代は、2470 ± 30yrBP と 2520 ± 30yrBP と近接することは、測定結果に一定の信頼がおけることを伺わせる。また、測定を行った包含層出土の炭化物は、遺物を含まない白砂層を間層として挟み、Ⅱ層上部とⅡ層下部に細分された地点のⅡ層上部からサンプリングした炭化物(2470 ± 30yrBP)とⅡ層下部からサンプリングした炭化物(2520 ± 30yrBP)である。Ⅲ層は無遺物層だから、この2つの炭化物の中C 年代が近接することは、一陣長崎鼻遺跡の発掘調査において、包含層とされたⅡ層を複数の文化層に細分しえなかった事実と調和的で、貝塚の形成期間が長期間に及ぶものではない可能性を示す。

ただし、これらの暦年較正年代( $1 \sigma$ )は、上限が紀元前8世紀中葉頃、下限が紀元前6~5世紀頃の範囲で示され、較正曲線が平坦に推移する部分に当たっているので、その点で注意を要する。

貝塚形成初期の本遺跡周辺の景観は、黒住による陸産貝類遺体の組成分析によって、現在のような砂丘の疎らな草本群落ではなく、海岸林の中か、そのすぐ前面といった景観であり、遺跡地における人間活動の活発化とともに開けた環境となっていったと予想されている。なお、貝塚内の出土炭化物はマツ科に同定されていて、海岸林は、マツ科を中心とするものであったのかもしれない。

以上のように,一陣長崎鼻遺跡は,本格的な稲 作の開始以前の種子島の様相を知る上で学術的価 値が大変高い遺跡であるといえよう。

最後に、発掘調査から報告書作成まで、資料のご提供や聞き取り調査など様々な面でご協力をいただき、励ましてくださった盛園尚孝先生、調査に協力してくださった「一陣会(注2)」の皆様と学生諸君に心より感謝申し上げます。(石堂・松原)注・引用文献

(注1)シロワニ属のサメ歯製品は、垂水市柊原貝塚、草野貝塚等に事例があるが、研磨により面取りされている例はない。

三島格 1980「九州及び南島出土の鮫歯製垂飾について」 『日本民族とその周辺』 新日本教育図書

金関丈夫 1958「種子島長崎鼻遺跡出土人骨に見られる下 顎中切歯の水平研磨例」『九州考古学』第3・4号

(注2)一陣会は,遺跡の所在する松原集落の青壮年によって結成されている地域おこし団体。

## 図 版



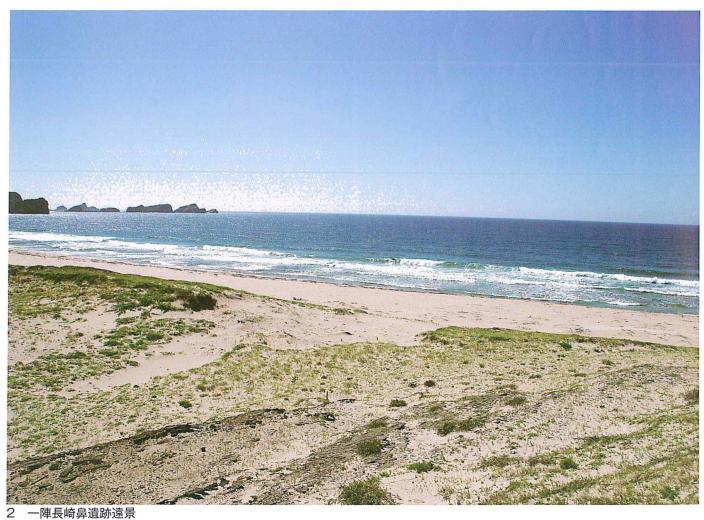


一陣長崎鼻遺跡出土貝骨角牙製品



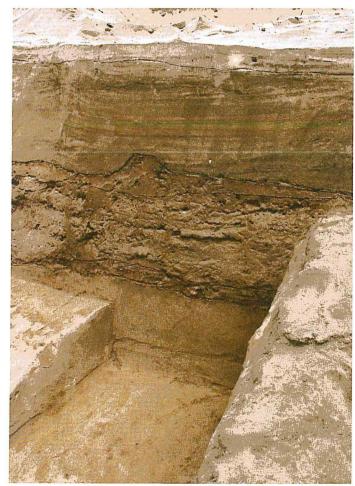


1 一陣長崎鼻遺跡出土装身具





1 平成 21 年度調査風景



2 平成 19 年度調査 6 トレンチ土層断面



3 平成 21 年度調査 j 区土層断面

昭和31年度調査



1 一陣長崎鼻遺跡遠景



2 発掘風景

PL.6



1 発掘調査風景 (海側より撮影)



2 発掘調査風景(北東より撮影)



3 獣骨・魚骨出土状況



4 露出した人骨(広田遺跡か)







平成 19 年度調査



6トレンチ土層断面及び遺物出土状況



2 7トレンチ土層断面

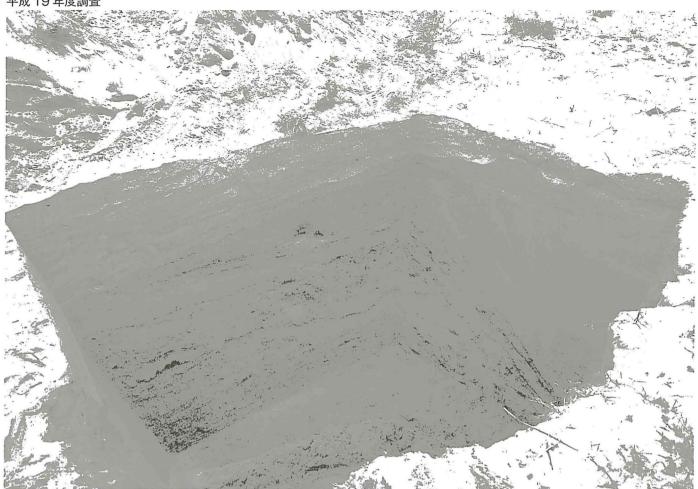


3 6トレンチ調査風景

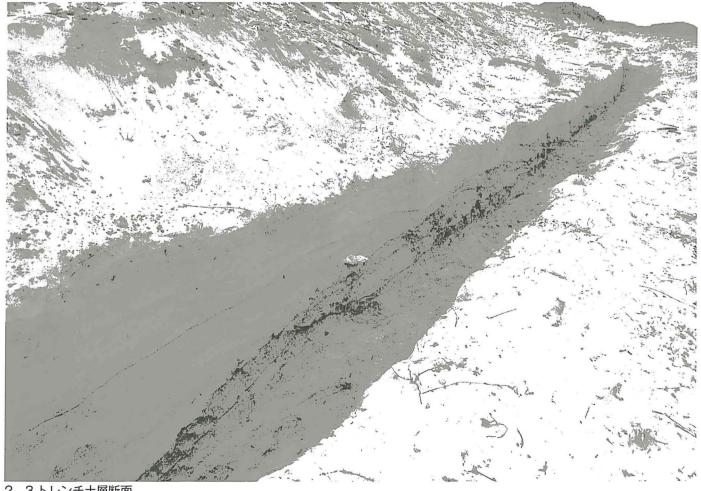


4 6トレンチ獣骨・貝類出土状況

平成 19 年度調査



5トレンチ土層断面



3トレンチ土層断面

PL.10 平成 20 年度調査



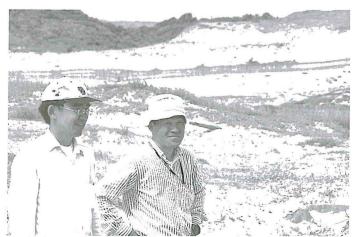
1 A 地点遠景



2 A 地点包含層検出状況

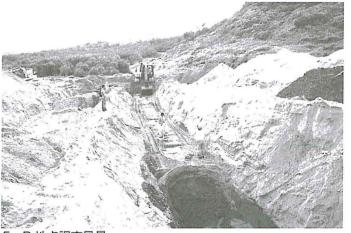


4 B 地点遠景



6 竹中正巳教授と鐘ヶ江賢二氏





5 B 地点調査風景



7 B 地点のデューンロック

平成 21 年度調査



調査区全景(南西より撮影)



イノシシ下顎骨出土状況

PL.12

平成 21 年度調査



1 調査区近景



2 i-2 区自然遺物の出土状況

平成 21 年度調査





2 h-1 区黒川式(図番 11)出土状況

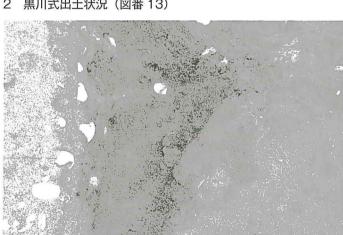
PL.14 平成 21 年度調査



j 区オオツタノハ貝輪出土状況







5

3 調査風景



6 北側壁面土層断面



盛園尚孝先生(昭和31年)



2 調査参加者(1)(昭和31年)



3 調査参加者(2)(昭和31年)

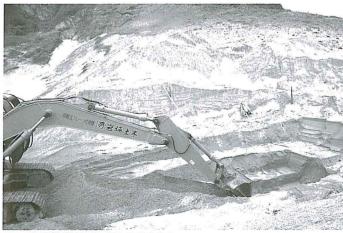


4 調査参加者(3)(昭和31年)





6 調査風景(2)(平成19年)



重機使用状況 (平成21年)



8 遺跡を訪れた寺内昭徳氏(平成21年)

## PL.16 普及啓発活動(講演等)





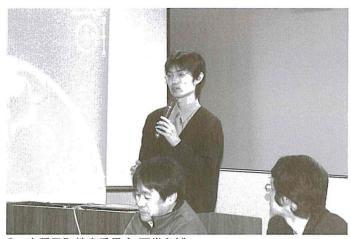
3 講演であいさつをする名越修町長



5 九州大学教授 中橋孝博氏



7 東京大学准教授 米田穣氏



2 南種子町教育委員会 石堂和博



4 鹿児島女子短期大学教授 竹中正巳氏



6 琉球大学教授 土肥直美氏

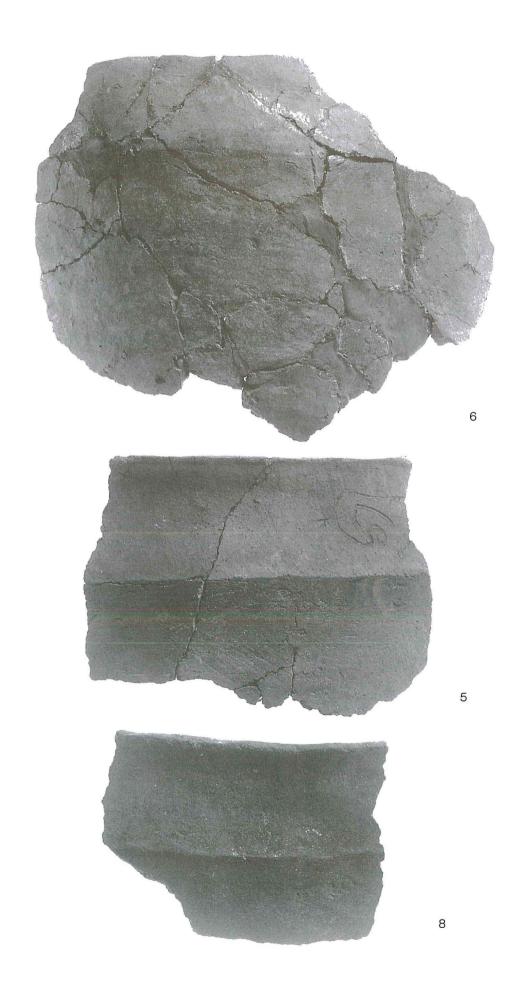


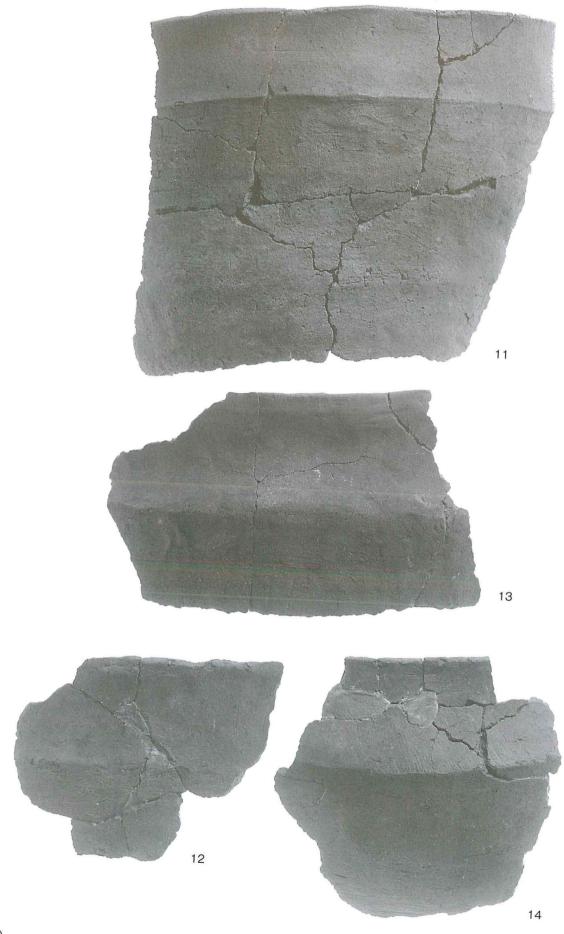
8 出土資料見学会の様子

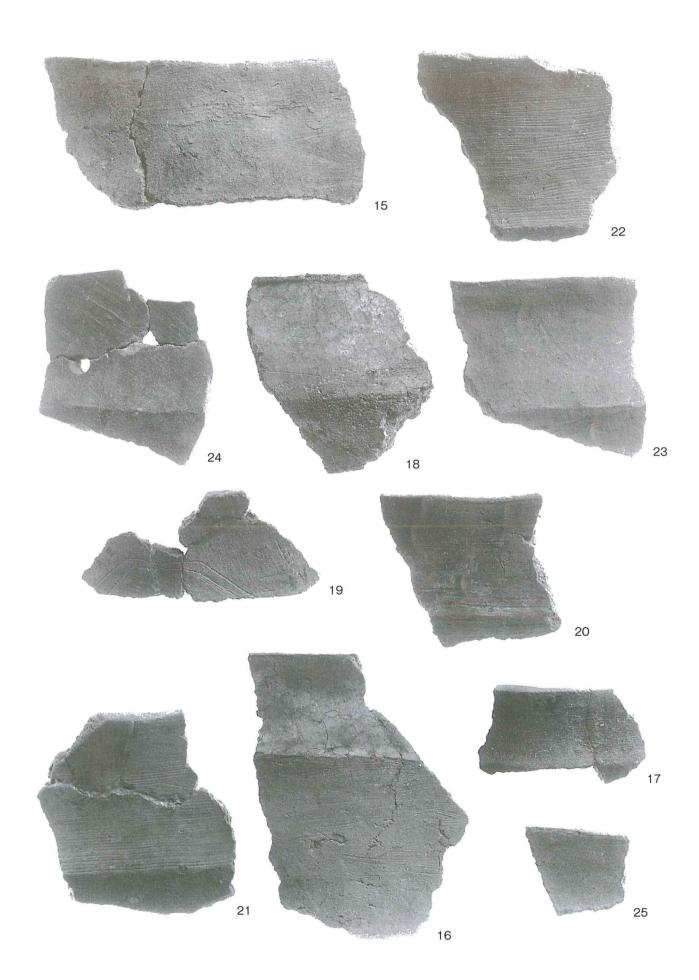




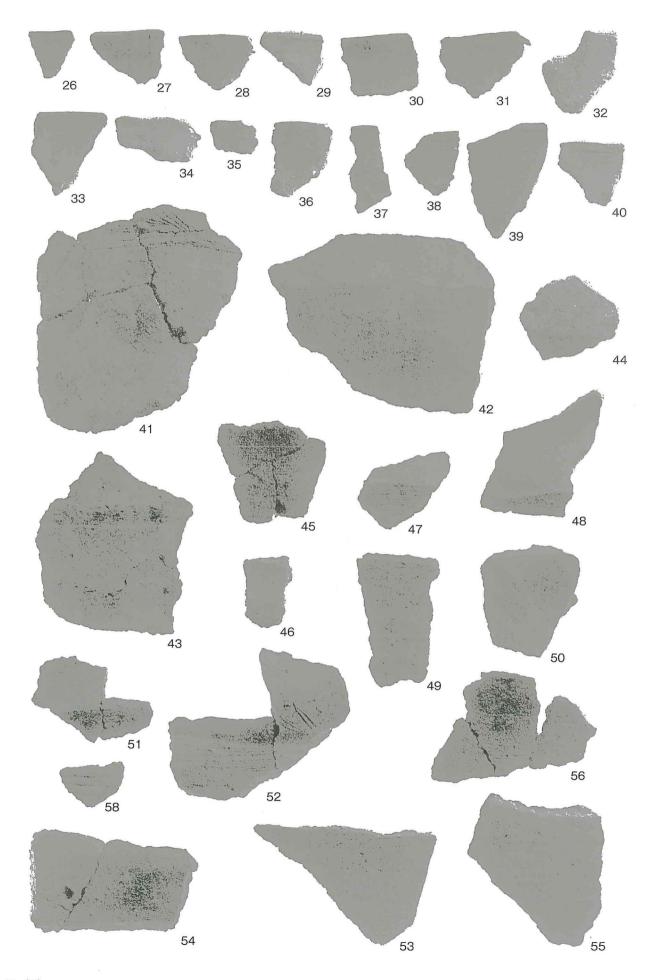


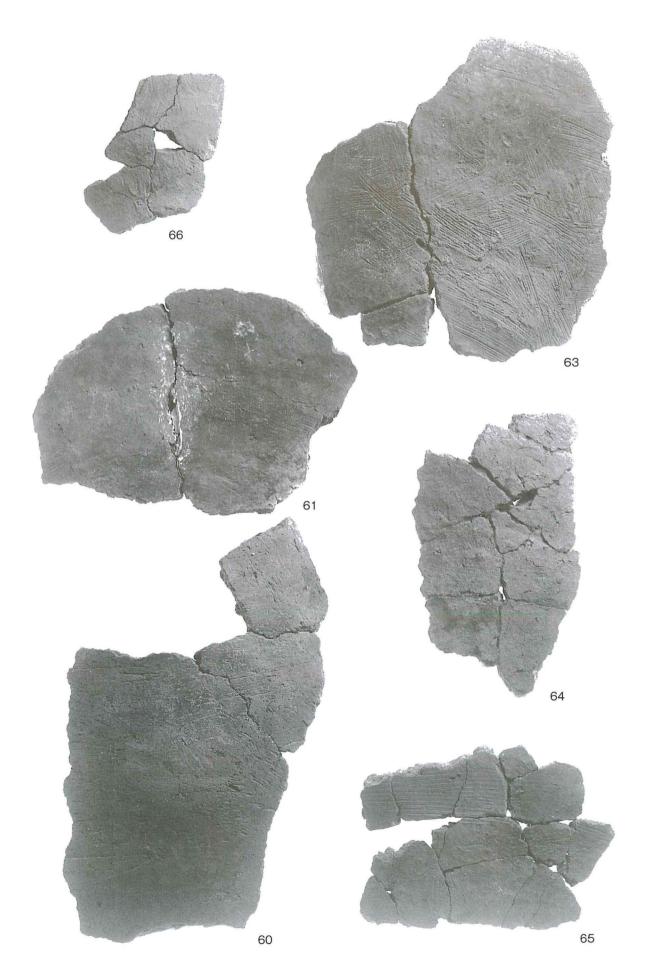


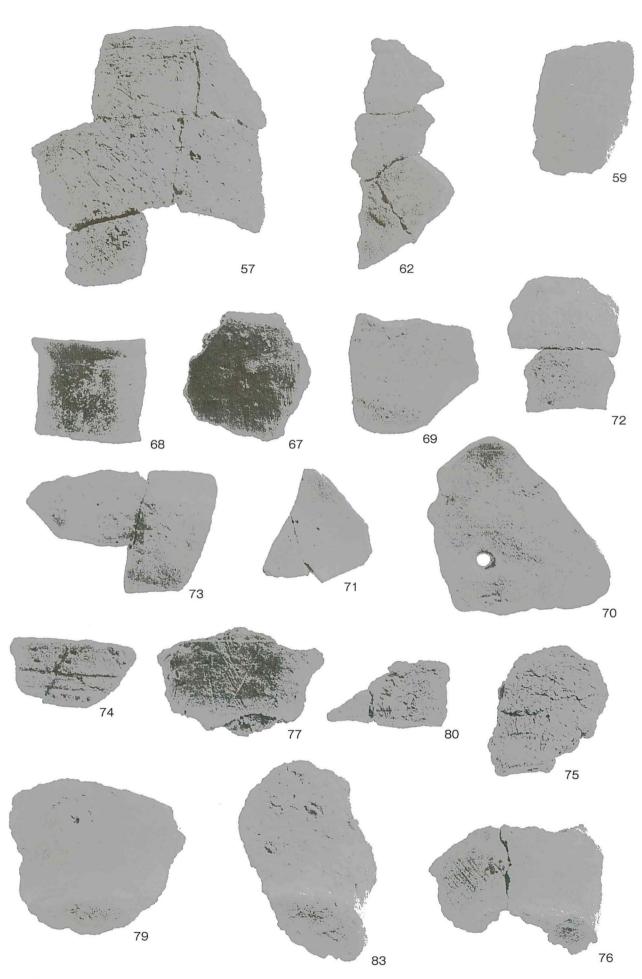




出土土器 (5)







出土土器 (8)



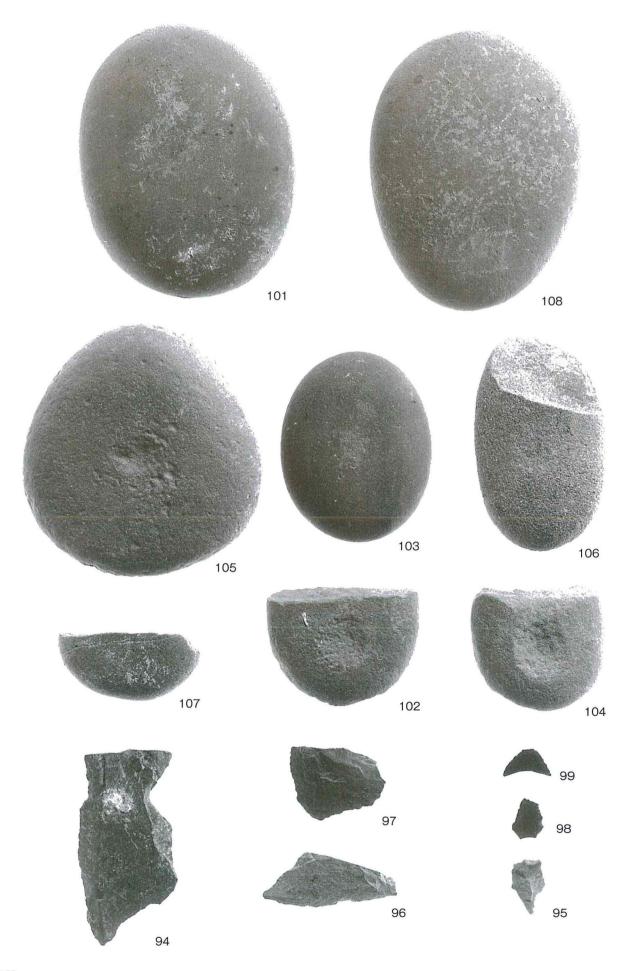
出土土器(9)



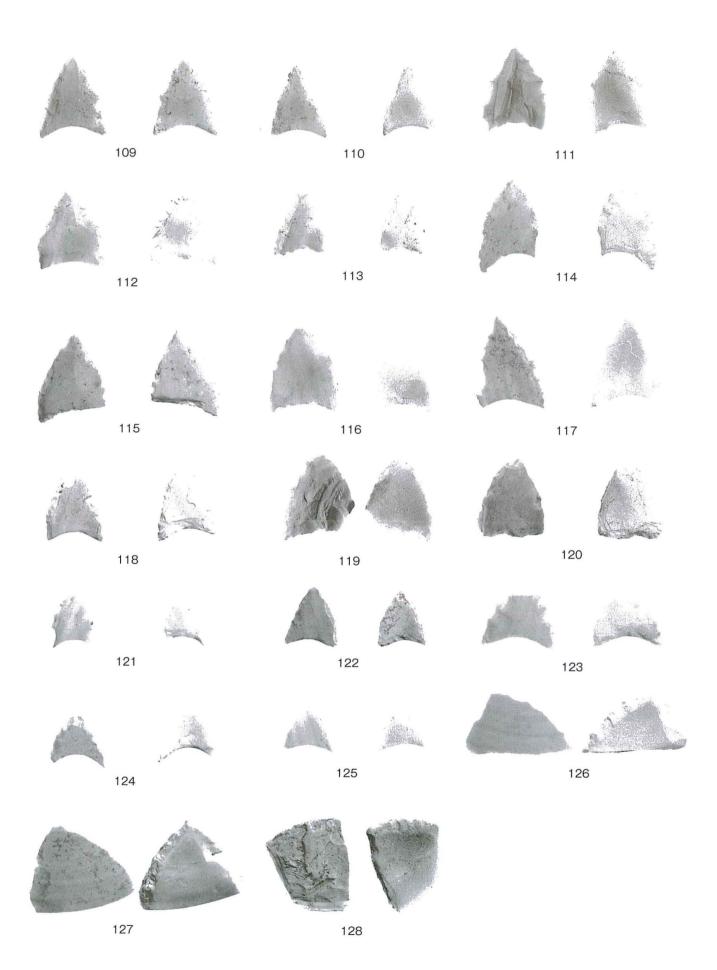
骨刀



出土土器(10)

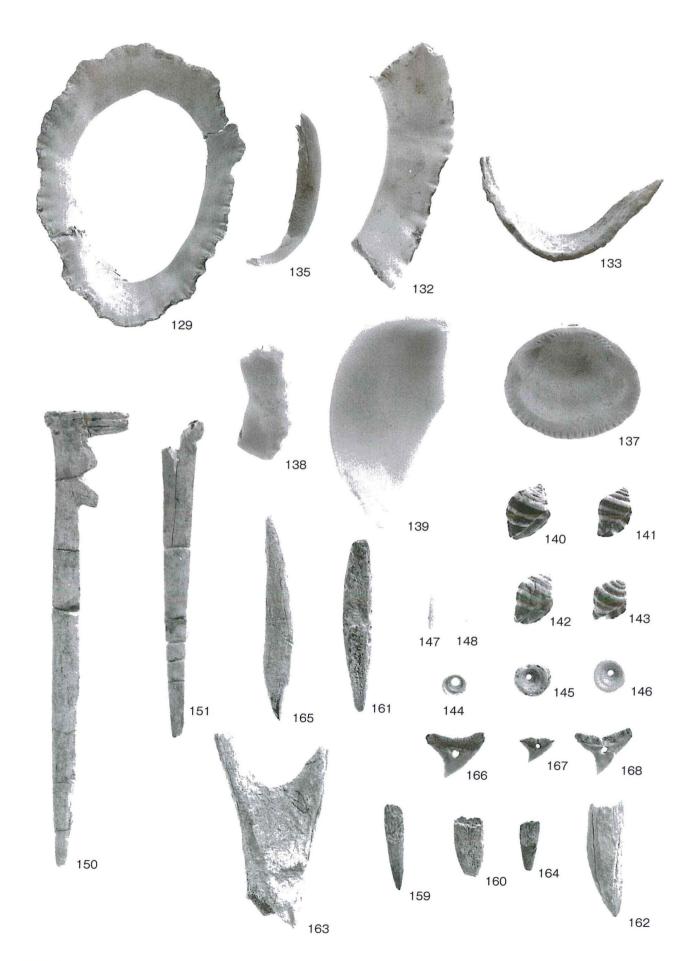


出土石器



出土貝製品





## 南種子町埋蔵文化財発掘調査報告書(17)

## 一陣長崎鼻遺跡

- 平成 19, 21 年度町内遺跡発掘調査等事業に伴う発掘調査報告書-

発行日 2011年3月

発行者 南種子町教育委員会

₹ 891-3792

鹿児島県熊毛郡南種子町中之上 2793-1

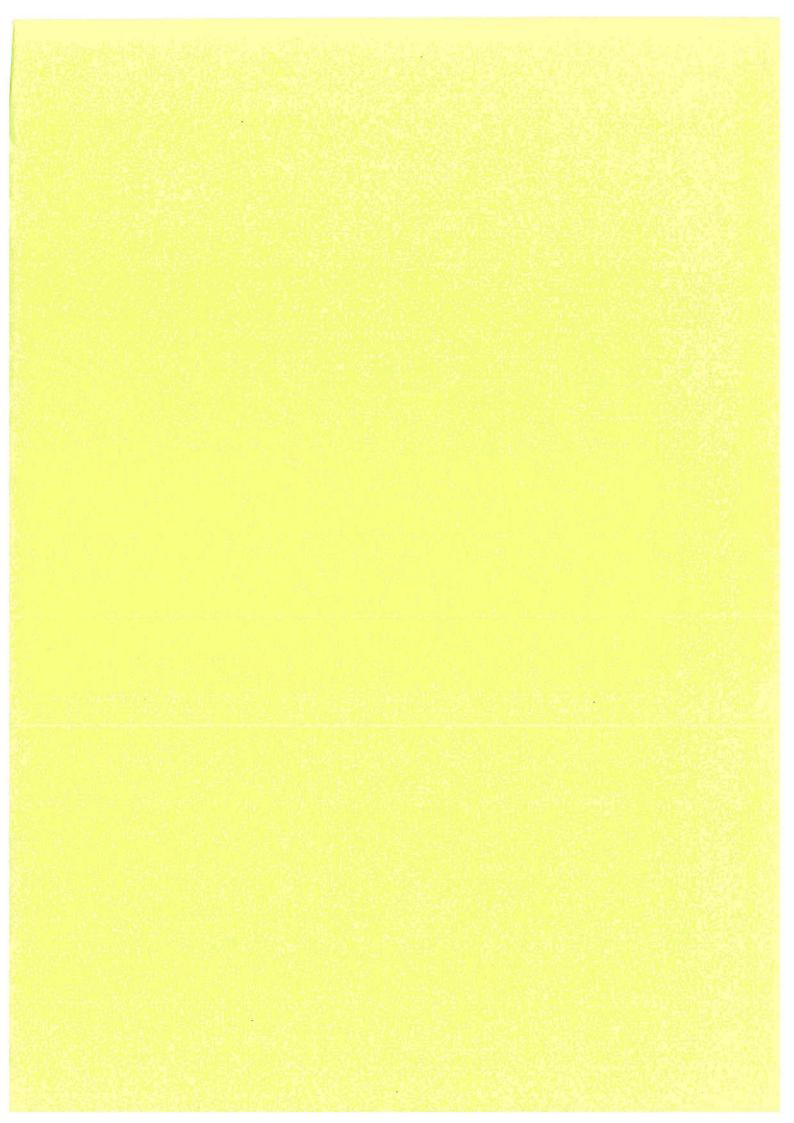
Tel 0997-26-1111

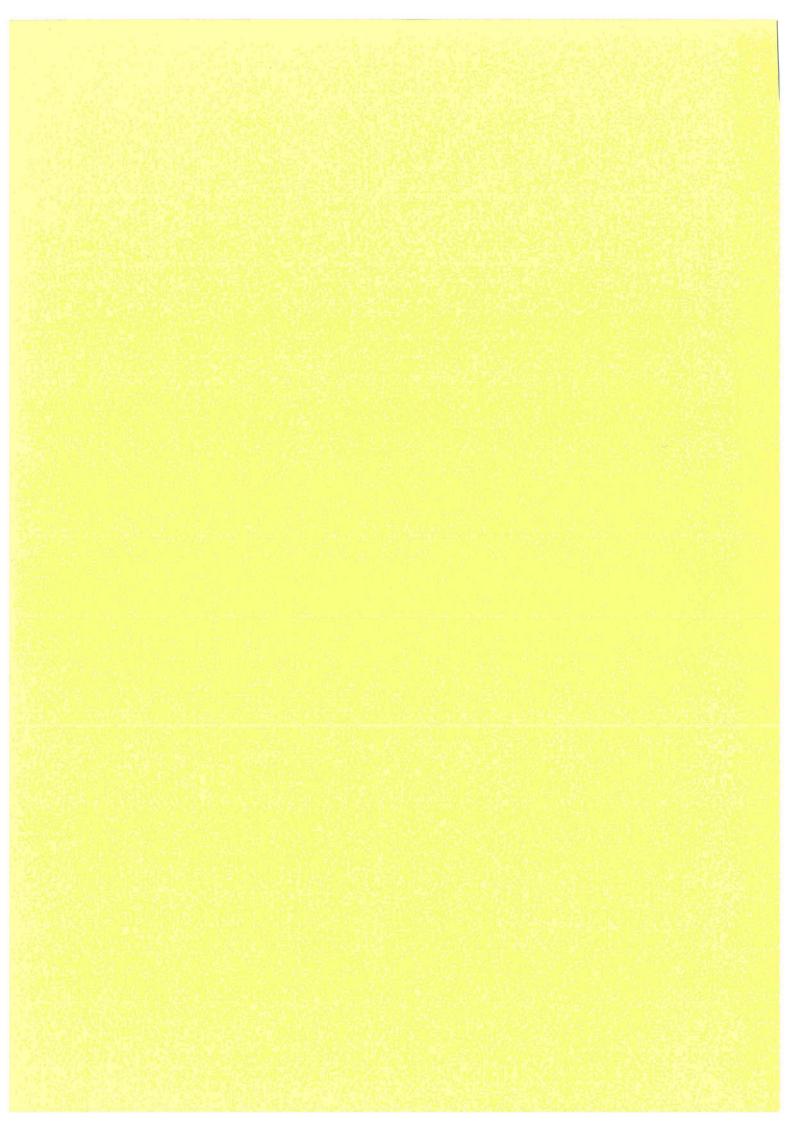
印刷所 (有) 種子島新生社印刷

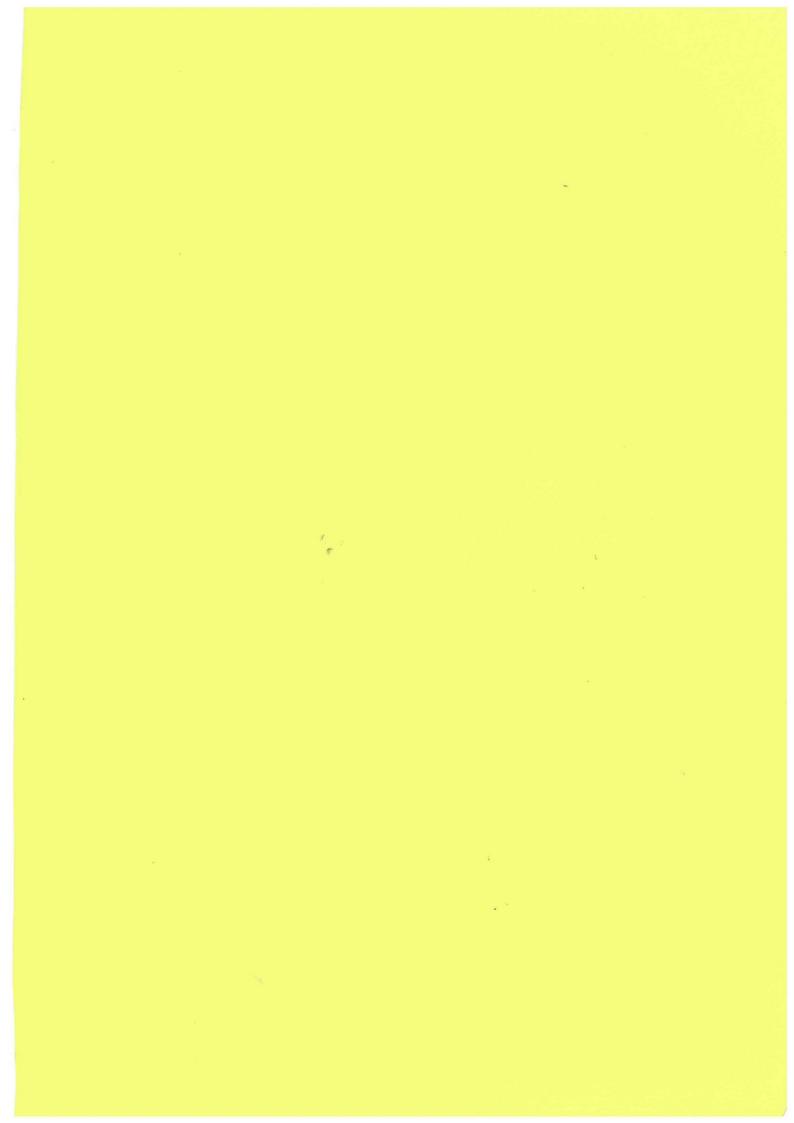
₹ 891-3101

鹿児島県西之表市西之表 16736-1

Tel 0997-22-0476







\*